

東名厚木病院 年報

第29号(2023)



Heart
Happiness
Health
Humanity
Hospitality



2024年6月

社会医療法人社団 **三思会**

年報発刊にあたって



年報29号をお届けします。当法人の2023年及び2024年の事業報告です。

来年は2025年問題と称される年であり、いよいよ本邦は本格的な超高齢社会へと突入します。地域包括ケア社会づくりの必要性が叫ばれ久しいですが、満足できるような社会的サービスシステムが見えてきていないのが実状です。そういう中で診療、介護報酬改定が同時に行われました。言葉だけではない医療と介護の実質的な目に見える連携、質の高い効率的な医療と介護の提供を計画的に目指し、実現させない限り不要な組織として評価される時代になると思っています。東名厚木病院は、がん治療を中心とした急性期医療を提供するとともに、介護との連携の必要性を再認識し、我々の目指すべき責任ある継続する“地域医療”をしっかりと進めていきたいと思っています。

病院の理念である①地域に信頼される病院、②患者に愛される病院、③誇りと責任を持てる病院。

また法人の理念である①社会に貢献する法人、②信頼される法人、③誇りと責任を持てる法人。

我々は組織の礎であるこれらの理念のもとにこれらの改革を継続してまいります。

この年報を通してこの1年の当法人の活動を知っていただきたいと思っています。

今後とも皆様よりのご指導ご鞭撻を賜りますことをお願いし、挨拶とさせていただきます。

2024年6月1日

三思会

理事長 野村 直樹

年報第29号発刊によせて



2023年は、ようやく新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、世間一般的には日常が取り戻せてきたのではないかと思います。その影響は医療情勢においても認められ、徐々に変化が起こり始めてきています。新型コロナ感染症であること自体は大きな問題にならなくなり、感染対策は必要ではあるものの、通常医療の需要や必要性が再確認されるようになりました。ニューノーマルな診療体制の確立までにはまだ時間がかかりそうですが、徐々に明らかになってくるものと思われれます。

そして、今年2024年は震災で始まるという異例な状況の上、4月からの大規模な診療報酬改定など波乱が待っており、医療界には大きな変革が訪れることが予想されます。しかし、どのような状況においても、当院は地域医療支援病院、神奈川県がん診療連携指定病院という立場を守り、今後も急性期医療とがん治療を両輪に、さらに精進していきたいと考えています。

この年報は、1年間の具体的な各部署の活動した実績、結果等を紙面でまとめ、毎年報告させていただいているものです。当院の各部署の現状等がよくわかる内容になっていますので、時間のある時に是非ご一読していただき、御評価や御批判をいただければ幸いです。

2024年6月1日
東名厚木病院 病院長
北野 義和



東名厚木病院・透析センター



介護老人保健施設さつきの里あつぎ



サービス付き高齢者向け住宅マザーホーム戸室 看護小規模多機能型居宅介護事業「いわしぐも」
多機能型事務所「にじいろ」 訪問看護ステーション もみじ



訪問看護ステーションさつき
東名厚木病院居宅介護支援センター



介護老人保健施設なでしこの里リハビリひらつか



厚木市南毛利地域包括支援センター



新横浜メディカルサテライト



東名厚木メディカルサテライトクリニック



愛川クリニック



Yangon Japan Medical Centre



とうめい厚木クリニック



とうめい綾瀬腎クリニック



とうめい宮の里クリニック

目 次

年報発刊にあたって		栄養科	105
理事長 野村 直樹		臨床工学科	107
年報第 29 号発行によせて		VII 事務・管理部門	
東名厚木病院 病院長 北野 義和		総務課	109
		医事課	110
I 三思会の現況		地域連携室	111
社会医療法人社団三思会の沿革	3	患者総合支援センター	113
三思会概要及び組織・施設	7	医師事務支援室	115
法人組織執行体制・法人本部機構	10	診療情報管理室	116
三思会グループ職員数報告	11	医療安全管理室	117
病院の位置と案内	16	院内感染対策室	119
II 病院の現況		VIII 各種委員会	
東名厚木病院の概要	18	院内定例会議及び委員会・医療チーム	121
東名厚木病院 職制組織図	24	IX 外部発表（学会・研修会等）	
委託業務及び保守契約	25	医務部	143
主要機器	26	看護部	153
年間行事	27	その他	155
III 統計		X 福利厚生	
部門別月間医療活動データ	29	サークル活動	157
その他（各部署・委員会）データ	34	XI 関連施設	
IV 診療部門		介護老人保健施設さつきの里あつぎ	162
医務部 各科医師紹介	44	厚木市南毛利地域包括支援センター	165
各科診療現況	59	東名厚木病院居宅介護支援センター	166
臨床研修部	80	訪問看護ステーションさつき	169
救急部	81	サービス付き高齢者向け住宅 マザーホーム戸室	171
ICU	82	看護小規模多機能型居宅介護事業 いわしぐも	172
内視鏡センター	83	多機能型事業所にじいろ	174
化学療法センター	84	訪問看護ステーションもみじ	176
放射線治療センター	85	介護老人保健施設なでしこの里リハビリりひらつか	178
手術室・中央材料室	87	東名厚木メディカルサテライトクリニック	182
V 看護部門		新横浜メディカルサテライト	185
看護部	88	Yangon Japan Medical Centre	186
摂食嚥下療法科	96	透析センター	188
VI 診療協力・技術部門		愛川クリニック	189
臨床検査科	97	とうめい綾瀬腎クリニック	190
薬剤科	99	とうめい厚木クリニック	191
リハビリテーション科	101	とうめい宮の里クリニック	196
放射線技術科	103	編集後記	197

社会医療法人社団 三思会の沿革

病院の開設趣旨

社会医療法人社団三思会は、1981年に東名厚木病院を母体として設立されました。東名厚木病院の開設趣旨は、①地域住民のだれにでもいつでも一定レベルの医療を提供すること ②24時間・365日の救急医療体制を整備すること ③医療を通して「地域住民の健康を創り、守ること」を、病院内はもとより地域に出て自ら実践し、また関連他施設等とも連携するというものです。その理念としては、①社会に貢献する法人 ②信頼される法人 ③誇りと責任を持てる法人 を掲げています。現在は地域医療支援病院としての地域救急医療と神奈川県がん診療連携指定病院としてのがん治療に力を注いでいます。

医療法人化

東名厚木病院は、開院から3年後の1984年に医療法人格を取得し、1999年特定医療法人となり、さらに救急医療等公益性の高い医療実績と事業運営の公的条件を満たす社会医療法人制度が開始され、2009年4月1日付で社会医療法人社団三思会と認定され、神奈川県知事認可第1号となりました。

東名厚木病院の歩み

1981年、東名厚木病院は1号館60床で開院し、1982年には100床に増床、さらに1987年、2号館を開設し202床と大幅に増床しました。2001年、3号館を建設し、併設している透析センターを30床から60床に増やしました。2002年、とうめい厚木クリニックを開設し外来部門を分離し、さらに同年電子カルテシステムを導入しました。2003年、ICUが施設認定され、209床に増床しました。2009年、58床増床し、許可病床を267床としました。2017年、東名厚木病院4号館を新設し、救急部門、放射線部門、手術・ICU部門を強化しました。さらに内視鏡センターと化学療法センターを開設し、外来部門の機能を集約しました。また同年、新電子カルテシステムを導入しました。2017年から2号館を改装し、緩和ケア病床と地域包括ケア病床を開設しました。2018年6月、地域包括ケア病床を60床に増床し、現在許可病床数は282床となっています。がん治療を進めるうえで、今後緩和ケア病床の増床も検討しています。皆様に食事を提供する厨房を刷新するため、2023年春より移転工事を開始し、2024年3月に完成しました。職員食堂も新しく併設し、利便性が高まると思われます。また、2023年12月ダビンチXiを導入しました。2024年4月よりロボット手術センターを開設し、ロボ

ット支援下手術を開始致します。

地域と共に進化する東名厚木病院

地域医療を活性化するためには、近隣の医療機関の皆様との連携が最も重要と考え、登録医制度を推進しています。地域連携部を中心とし、登録医療機関の皆様との相互紹介や高度医療機器の共同利用をすすめ、開放病床の制度を設けています。2024年3月現在235施設(253名)の医療機関にご協力を頂いています。登録医療機関の皆様の協力を得て、症例・事例発表会等を開催し、これらの活動が実り、2011年、地域医療支援病院として認定されました。その後は登録医の皆様との交流の場として、年1回の地域連携フォーラムを継続開催しており2023年度まで5回を数えました。(2020年以降はコロナ禍にて休止としていましたが、2023年度は11月2日に開催いたしました。)今後も地域医療推進のため開催を予定しています。

1998年、日本医療機能評価機構の病院機能評価において県下で初めて外部評価の認定を受けました。5年毎の更新を重ね、2018年5回目の認定を頂いています。2015年には卒後臨床研修評価機構(JCEP)より認定され、研修医教育にも力を入れています。2023年度末に更新も認定されました。2020年、これまでのがん治療への取り組みと実績が評価され、神奈川県県央地区における医療法人病院として初めての神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受けました。

人材の育成・教育

人材の育成・教育は非常に重要です。2004年、医師臨床研修制度が始まると同時に、臨床研修病院の指定を受け、臨床研修医の受け入れを積極的に行ってきました。現在1学年6名の前期臨床研修医が在籍しています。また後期研修医の受入れも行い、新専門医制度のもと内科、総合診療科の後期専攻医の受入れを行っています。また、看護師、薬剤師、理学療法士等の実習指定病院となっており、学生の教育にも貢献しています。地域の介護人材の育成にも力を入れており、介護職員初任者研修を法人で実施しています。救急医療においては、湘南地区メディカルコントロール協議会の主メンバーとして、湘南地区救急隊員の病院実習の場となっており、医療従事者の養成に協力しています。

介護・福祉事業と地域包括ケアシステム推進

1993年、厚木市委託事業である東名厚木病院在宅介護支援センターを開設(病院併設は県内初)し、2006年、厚木市南毛利地域包括支援センターに継承しました。1995年、訪問看護ステーションさつきが厚木市第1号として開設されました。1997年、介護老人保健施設さつきの里あつぎは、厚木市第1号施設として開設し、入所サービスおよびデイケアを開設しました。介護保険制度の開始に伴い、1999年には訪問看護ステーションもみじ(法人2施設目)と東名厚木病院居宅介護支援センターを開設しました。同センターは2007年神奈川県第1号の特定事業所を取得しています。関連施設として、2012年、厚木市戸室に社会福祉法人康仁会・特別養護老人ホーム・はなの家とむろを設立。106床の入所施設と20名の通所介護事業を開始しました。2016年、サービス付

き高齢者向け住宅・マザーホーム戸室を開設しました。同施設内には訪問看護ステーションもみじ、多機能型事業所にじいろ、看護小規模多機能型居宅介護事業いわしぐもを併設しています。にじいろでは2022年1月から居宅訪問型児童発達支援の事業を開始致しました（県央地区第1号施設）。2019年、法人2施設目となる介護老人保健施設なでしこの里リハビリひらつか（入所定員100名）を開設しました。

健診事業

1984年から開始した病院での健診事業は、1992年に東名厚木メディカルサテライト（TAMS）を新設し移行致しました。2005年、人間ドック学会の機能評価で認定されました。2008年全面改装を実施し、サービス向上を図り、さらに2013年、MRIを導入しました。利用して頂いた方からも好評で、リピーターも多数いらっしゃいます。また、2015年新横浜に新横浜メディカルサテライト（SYMS）を開設し、都市部での健診事業も好調で、2024年5月には検診センターを拡張し、床面積を倍増して稼働する予定です。

透析事業

1986年、病院内に人工透析部門を設置し、施設を拡充しつつ、透析センターとして現在に至っています。2013年、愛川町初の透析及び内科診療を行う愛川クリニックを開設し、2015年、小児科を併設しました。2017年、とうめい綾瀬腎クリニックとして綾瀬市で初めて透析医療を中心としたクリニックを開設し、地元の支援を頂いています。2022年度より病院透析センターを透析事業に編成しました。現在、医療提供を行えるマンションの建設に伴い、透析事業の拡大、外来、リハビリが可能な透析クリニックの開設を厚木市中心部栄町で準備しており、2025年度より稼働予定となっています。

外来事業

2002年、病院から外来部門を独立させ、総合外来クリニックとしてとうめい厚木クリニックを開設しました。2007年、病院隣接地に移転し、東名厚木病院の外来担当として多くの地域の医療機関よりご紹介を頂いています。また地域のがん検診などの検診業務も力を入れています。2020年には自動受付機、自動精算機を導入し、スムーズな会計で利便性にも配慮し、またコロナ禍における非接触活動にも貢献しています。またICTを駆使し、WEBでの診療予約も開始しました。

また厚木市北部の皆様の御要望にお応えして、とうめい宮の里クリニックを2022年11月1日に開院致しました。

海外事業 ミャンマーへの地域貢献

2013年、法人中期方針によるアジアへの医療貢献として、JICA採択案件の「人間ドック等予防医療普及促進事業」が承認され、2014年より同事業にて東南アジアのミャンマーにて現地及び国内活動を実施しました。2016年、ミャンマーにて健診クリニックの開設を申請し、2017年、日本の医療法人として初となるミャンマー投資委員会（MIC）からの開設認可を取得しました。それを

受けて 2019 年、ヤンゴン市に Yangon Japan Medical Centre (YJMC) を開設し、健康診断、外来診療サービスを開始しました。2021 年 2 月にクーデターにより一時業務を休止していましたが、安全に配慮して 2022 年 7 月に再開しております。ミャンマー進出企業からの信頼も厚く、健診業務も順調です。

新型コロナウイルス感染症対策

日本では 2020 年 2 月より、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、緊急事態宣言が発令される事態となりました。法人内でも感染症対策を強化する機運が高まり、集合会議や研修会は、WEB 開催も取り入れました。今後の新ウイルスにも対応できるよう、東名厚木病院では、陰圧室の拡充を図っております。

法人各施設でも高齢者を多く抱えるところも多く、患者・利用者の皆さまに感染者を出さないよう、職員の意識を高め、感染対策を行っています。

2023 年 5 月、新型コロナウイルス感染症も 2 類から 5 類へ変更されましたが、医療、介護に携わる法人としての、感染症対策は継続しています。

法人体制

2017 年、三思会社員総会・理事会・評議委員会承認の下、初代理事長中佳一が会長就任となり、野村直樹が理事長職に就きました。

現在、野村直樹理事長のもと創設以来の理念・方針を継承し、地域貢献に推進する所存です。

(文責 三思会本部長 日野 浩司)

三思会概要及び組織・施設

三思会の概要

(1) 社会医療法人社団 三思会の目的及び業務

本社は、病院、診療所及び介護老人保健施設を経営し、科学的でかつ適正な医療及び要介護者に対する看護、医学的管理下の介護及び必要な医療等を普及することを目的とする。

(2) 役員等 [2023 年 12 月現在]

理 事 長	野村 直樹	理 事	田村 博之	非常勤理事	半沢 浩
理 事	日野 浩司	〃	河野 昌史	〃	小島 正寿
〃	山下 巖	〃	北野 義和	監 事	安村 寛
〃	桐山 誠一	〃	中野 敦史	〃	井上 信雄
〃	中 正剛	〃	江原 正恭		
〃	中川 望	〃	川崎 智隆		

評 価 委 員	遠藤 成一	中馬 統一郎	山本 忠則
	笹生 正人	福原 隆裕	見上 知司
	高橋 徹也	森田 静江	山口 正男

(3) 成 立

(医療法人認可)

1984 年 (昭和 59) 年 9 月 1 日

(特定医療法人認可)

2000 年 (平成 12 年) 3 月 28 日

(社会医療法人認可)

2009 年 (平成 21 年) 4 月 1 日

(4) 事業施設 [2023 年 12 月現在]

- 1) 東名厚木病院（開設 1981 年（昭和 56 年）6 月 1 日）
所在地 神奈川県厚木市船子 232 番地
院 長 北野 義和
- 2) 訪問看護ステーションさつき（開設 1995 年（平成 7 年）4 月 7 日）
所在地 神奈川県厚木市船子 131 の 1 番地
所 長 田中 和子
- 3) 介護老人保健施設さつきの里あつぎ（開設 1997 年（平成 9 年）9 月 1 日）
所在地 神奈川県厚木市船子 322 の 1 番地
施設長 入澤 彰仁
- 4) 訪問看護ステーションもみじ（開設 1999 年（平成 11 年）3 月 16 日）
所在地 厚木市戸室 1 丁目 29 番 1 号
所 長 今堀 亜紀
- 5) 東名厚木病院居宅介護支援センター（指定 1999 年（平成 11 年）8 月 2 日）
所在地 神奈川県厚木市船子 131 の 1 番地
センター長 三橋 悟
- 6) とうめい厚木クリニック（開設 2002 年（平成 14 年）2 月 25 日）
所在地 神奈川県厚木市船子 237 番地
院 長 河野 昌史
- 7) 厚木市南毛利地域包括支援センター（開設 2006 年（平成 18 年）4 月 1 日）
所在地 神奈川県厚木市温水西 2 丁目 1405 番地の 1
カーネーションパーク 1 階
センター長 石綿 祐樹
- 8) 東名厚木メディカルサテライトクリニック（開設 2008 年（平成 20 年）9 月 1 日）
所在地 神奈川県厚木市船子 224 番地
院 長 田中 浩史
- 9) 愛川クリニック（開設 2013 年（平成 25 年）1 月 7 日）
所在地 神奈川県愛甲郡愛川町中津 2035 番 1
院 長 村本 将俊
- 10) 新横浜メディカルサテライト（開設 2015 年（平成 27 年）12 月 11 日）
所在地 神奈川県横浜市港北区新横浜 2 丁目 5 番 11 金子第一ビル 4 階
院 長 藏本 博行

11) サービス付き高齢者向け住宅マザーホーム戸室（開設 2016 年（平成 28 年）4 月 1 日）

所在地 厚木市戸室 1 丁目 29 番 1 号

管理者 石綿 祐樹

12) 看護小規模多機能型居宅介護事業いわしぐも（開設 2016 年（平成 28 年）4 月 1 日）

所在地 厚木市戸室 1 丁目 29 番 1 号

管理者 徳原 春香

13) 多機能型事業所にじいろ（開設 2016 年（平成 28 年）4 月 1 日）

所在地 厚木市戸室 1 丁目 29 番 1 号

管理者 兼子 健

14) とうめい綾瀬腎クリニック（開設 2017 年（平成 29 年）3 月 1 日）

所在地 神奈川県綾瀬市深谷中 1 丁目 8 番 20 号

院 長 田村 博之

15) 介護老人保健施設なでしこの里リハビリひらつか（開設 2019 年（平成 31 年）1 月 4 日）

所在地 神奈川県平塚市東八幡 4 丁目 19 番 3 号

施設長 桐山 誠一

16) Yangon Japan Medical Centre（開設 2019 年（平成 31 年）2 月 1 日）

(Nippon Sanshikai Medical Services Center Co., Ltd.)

所在地 No.168/A, Dhama Zedi road, Shwegonedaing ward, Bahan township,
Yangon, Myanmar

社 長 廣瀬 さやか

施設長 U Aung Kyaw Myint

17) とうめい宮の里クリニック（開設 2022 年（令和 4 年）11 月 1 日）

所在地 厚木市宮の里 1 丁目 2 番地 9 号

院 長 中野 敦史

(5) 関連施設

1) 社会福祉法人康仁会 特別養護老人ホーム はなの家とむろ

（開設 2012 年（平成 24 年）1 月 4 日）

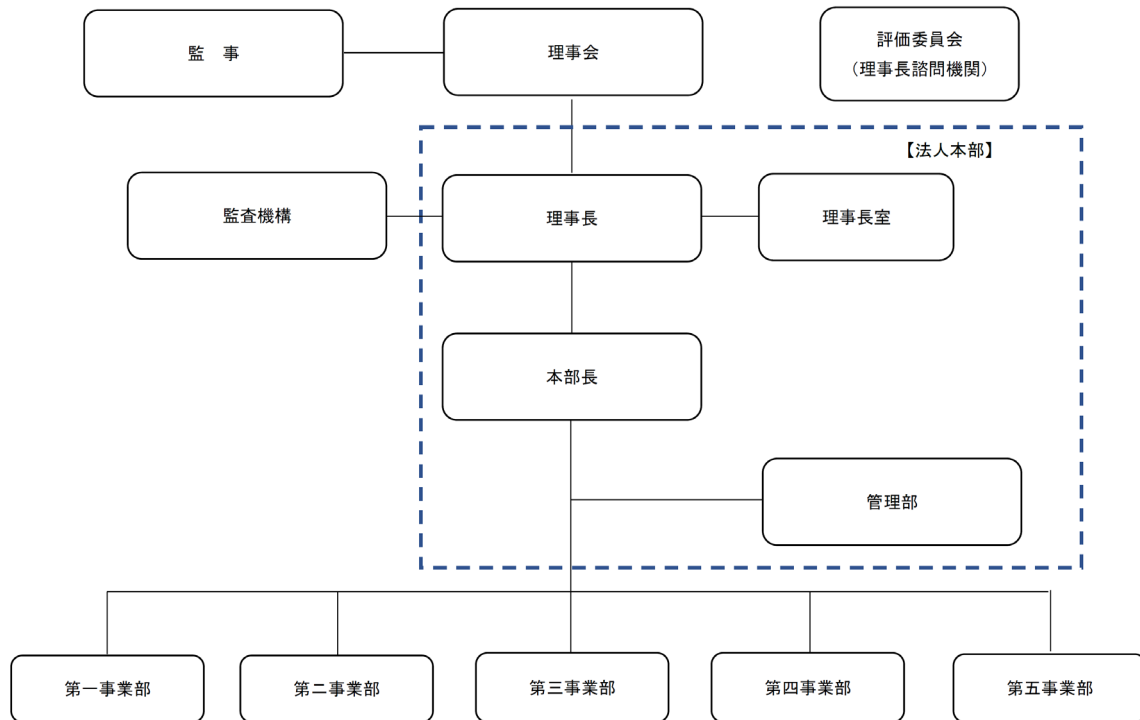
所在地 神奈川県厚木市戸室 5 丁目 9 番 15 号

理事長 立石 せい子

施設長 北島 揚子

法人組織執行体制

< 2023年度 法人組織執行体制 >



法人本部機構

1. 理事長室

法人の経営責任者である理事長を直接補佐する業務と、法人の経営状況を分析しつつ将来方向を考え提言する業務を担当しています。

2. 監査機構

理事長直轄組織として、法人各施設が質の高い保健・医療・介護・福祉サービスを維持する上で阻害する要因をとらえ、対処策を講ずるセクションであります。通称ケアセクションと呼んでいます。各施設にケアセクション委員を委嘱するとともに、直接ないしはケアセクション意見箱、メール等を通し、職員の意見、クレームを徴収し、機構責任者が理事長に報告しています。

3. 法人本部

法人各事業の円滑な運営を期し、理事長のもとに法人本部を設置し、医療・診療・保健、看護、地域包括ケア推進及び管理に関する各業務を分掌しています。

三思会グループ職員数報告

2023 年 12 月 1 日現在

事業所	部署	職種別		常勤	非常勤		
					非常勤数	常勤換算	
東名厚木病院	診療部		医師（後期研修医含む）	53	48	24.0	77.0
		研修医内 訳	* 研修医 前期1年目	7	0	0.0	7.0
			* 研修医 前期2年目	5	0	0.0	5.0
		合計		53	48	24.0	77.0
	看護部		看護部長	1	0	0.0	1.0
			副看護部長	2	0	0.0	2.0
			看護師	274	6	3.6	277.6
			准看護師	6	1	0.3	6.3
			看護助手(ケアワーカー)	50	8	5.6	55.6
			歯科衛生士	3	0	0.0	3.0
			事務	2	0	0.0	2.0
		合計		338	15	9.5	347.5
	診療技術部・診療協力部	薬 剤	薬剤師	17	3	1.8	18.8
			メディカルクラーク	4	0	0.0	4.0
		臨床検査	臨床検査技師	14	1	0.1	14.1
			放射線 技術	診療放射線技師	16	0	0.0
		医学物理士		1	0	0.0	1.0
		事務		0	1	1.0	1.0
		リ ハ	理学療法士	18	0	0.0	18.0
			作業療法士	5	0	0.0	5.0
			言語聴覚士	3	0	0.0	3.0
			助手	0	0	0.0	0.0
		栄養	管理栄養士	5	1	0.6	5.6
		臨床工学	臨床工学技士	9	0	0.0	9.0
		合計		92	6	3.5	95.5
	事務部		事務長	1	0	0.0	1.0
		総務	事務（うち医師事務1名）	10	2	0.8	10.8
		医事	事務	19	4	2.7	21.7
	診療支援部	診療 情報	診療情報管理士	2	0	0.0	2.0
			事務（うち事務長補佐1名）	2	1	0.6	2.6
		医師事務	医師事務作業補助	6	1	0.8	6.8
		合計		40	8	4.9	44.9
	医療福祉相談室		社会福祉士(MSW)	8	0	0.0	8.0
	医療安全管理室		課長(看護師)	看護部に含む			
	院内感染対策室		課長(看護師)	看護部に含む			
第一事業部合計				531	77	41.9	572.9

事業所	職種別	常勤	非常勤		合計
			非常勤数	常勤換算	
介護老人保健施設 さつきの里あつぎ	医師	1	0	0.0	1.0
	保健師	0	0	0.0	0.0
	看護師(看護顧問含む)	12	7	3.5	15.5
	准看護師	3	0	0.0	3.0
	歯科衛生士	0	1	0.1	0.1
	社会福祉士(MSW)	3	1	0.1	3.1
	介護福祉士	41	0	0.0	41.0
	介護職	5	2	1.2	6.2
	管理栄養士	1	0	0.0	1.0
	介護支援専門員	4	0	0.0	4.0
	理学療法士	8	1	0.5	8.5
	作業療法士	3	0	0.0	3.0
	言語聴覚士	0	0	0.0	0.0
	リハビリテーション科補助	0	1	0.7	0.7
	薬剤師	0	0	0.0	0.0
	事務	4	5	3.1	7.1
	合計	85	18	9.2	94.2
介護老人保健施設 なでしこの里リハビリ ひらつか	医師	1	0	0.0	1.0
	社会福祉士(MSW)	2	0	0.0	2.0
	看護師	10	3	1.9	11.9
	准看護師	1	2	1.6	2.6
	介護福祉士	34	4	3.4	37.4
	介護職	6	1	1.0	7.0
	管理栄養士	1	0	0.0	1.0
	介護支援専門員	3	0	0.0	3.0
	理学療法士	6	0	0.0	6.0
	作業療法士	4	0	0.0	4.0
	事務	4	5	3.9	7.9
	合計	72	15	11.8	83.8
東名厚木病院 居宅介護支援 センター	社会福祉士(MSW)	1	0	0.0	1.0
	看護師	0	0	0.0	0.0
	准看護師	0	0	0.0	0.0
	介護福祉士	0	0	0.0	0.0
	介護支援専門員	6	0	0.0	6.0
	事務	1	0	0.0	1.0
	合計	8	0	0.0	8.0

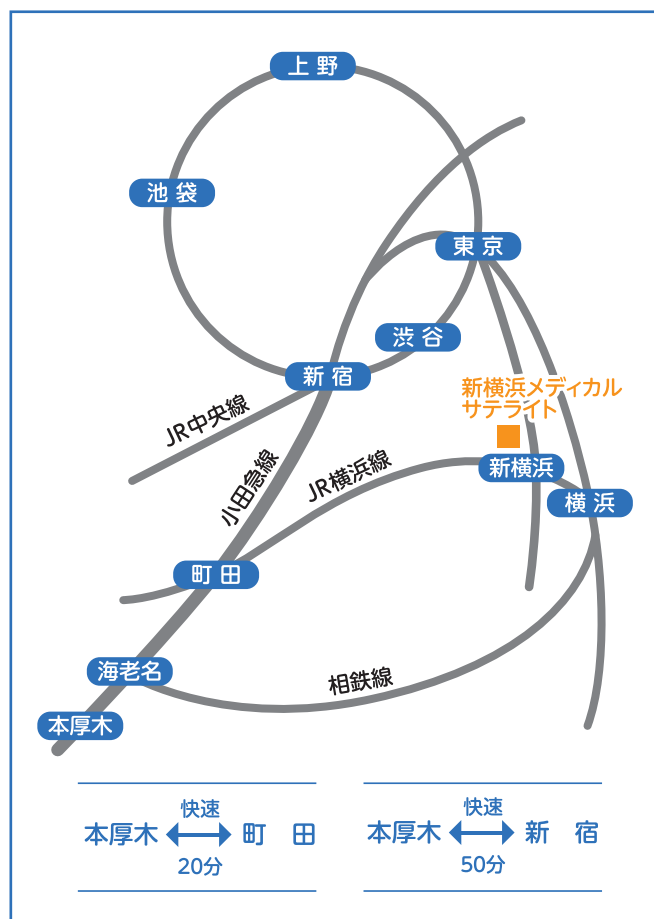
事業所	職種別	常勤	非常勤		合計
			非常勤数	常勤換算	
厚木市南毛利 地域包括支援 センター	社会福祉士(MSW)	1	1	0.4	1.4
	看護師	2	0	0.0	2.0
	介護支援専門員	3	0	0.0	3.0
	事務	0	1	0.8	0.8
	合計	6	2	1.2	7.2
訪問看護ステーション さつき	看護師	7	2	1.4	8.4
	准看護師	0	0	0.0	0.0
	事務	1	0	0.0	1.0
	理学療法士	2	0	0.0	2.0
	合計	10	2	1.4	11.4
訪問看護ステーション もみじ	看護師	7	2	1.4	8.4
	准看護師	0	0	0.0	0.0
	事務	0	0	0.0	0.0
	理学療法士	1	1	0.6	1.6
	作業療法士	0	1	0.6	0.6
	合計	8	4	2.6	10.6
多機能型事業所 にじいろ	看護師	1	0	0.0	1.0
	介護福祉士	0	0	0.0	0.0
	理学療法士	1	0	0.0	1.0
	保育士	1	3	1.9	2.9
	事務職	0	1	0.5	0.5
	合計	3	4	2.4	5.4
看護小規模多機能型 居宅介護事業 いわしぐも	看護師	3	0	0.0	3.0
	准看護師	0	0	0.0	0.0
	介護福祉士	9	1	0.8	9.8
	介護職	4	0	0.0	4.0
	事務(運転手、調理担当)	0	3	0.9	0.9
	合計	16	4	1.7	17.7
サービス付き高齢者 向け住宅 マザーホーム戸室	事務	4	1	1.0	5.0
	合計	4	1	1.0	5.0
	合計	55	17	10.3	65.3
第二事業部合計		212	50	31.3	243.3

事業所	職種別	常勤	非常勤		合計
			非常勤数	常勤換算	
東名厚木メディカル サテライトクリニック	医師	3	63	31.5	34.5
	臨床検査技師	7	3	1.2	8.2
	診療放射線技師	4	4	1.7	5.7
	保健師	1	2	1.5	2.5
	看護師	9	5	2.9	11.9
	准看護師	1	0	0.0	1.0
	助手(看護サポートグループ)	0	0	2.2	2.2
	事務	23	28	13.7	38.8
	合計	48	105	54.7	104.8
新横浜メディカル サテライト	医師	1	25	12.5	13.5
	臨床検査技師	3	2	0.6	3.6
	診療放射線技師	2	3	1.5	3.5
	保健師	1	0	0.0	1.0
	看護師	4	5	3.3	7.3
	准看護師	0	1	0.7	0.7
	事務	8	28	11.6	19.6
	合計	19	64	30.2	49.2
ヤンゴン ジャパン メディカル センター	医師	0	0	0.0	0.0
	看護師	0	0	0.0	0.0
	事務	1	0	0.0	1.0
	合計	1	0	0.0	1.0
第三事業部合計		68	169	84.9	155.0
東名厚木病院 透析センター	医師	1	5	2.5	3.5
	看護師	13	2	1.1	14.1
	准看護師	1	0	0.0	1.0
	ケアワーカー	5	0	0.0	5.0
	臨床工学技士	10	0	0.0	10.0
	管理栄養士	1	0	0.0	1.0
	事務	4	1	0.4	4.4
	合計	35	8	4.0	39.0
愛川クリニック	医師	2	13	6.5	8.5
	看護師	8	1	0.8	8.8
	准看護師	3	0	0.0	3.0
	ケアワーカー	5	0	0.0	5.0
	臨床工学技士	5	0	0.0	5.0
	管理栄養士	0	0	0.0	0.0
	事務	4	0	0.0	4.0
	合計	27	14	7.3	34.3
とうめい綾瀬腎クリニック	医師	1	8	4.0	5.0
	看護師	8	1	0.7	8.7
	准看護師	0	0	0.0	0.0
	臨床工学技士	6	1	0.8	6.8
	ケアワーカー	5	0	0.0	5.0
	管理栄養士	0	0	0.0	0.0
	事務	5	3	1.8	6.8
	合計	25	13	7.3	32.3
第四事業部合計		87	35	18.6	105.6

事業所	職種別	常勤	非常勤		合計
			非常勤数	常勤換算	
とうめい厚木クリニック	医師（院長を含む）	4	62	31.0	35.0
	事務（事務長を含む）	29	19	12.5	41.5
	保健師（山内課長）	1	0	0.0	1.0
	看護師	15	13	8.3	23.3
	准看護師	3	2	1.2	4.2
	ケアワーカー（看護部）	2	0	0.0	2.0
	社会福祉士(MSW)	0	0	0.0	0.0
	診療放射線技師	1	0	0.0	1.0
	理学療法士	2	0	0.0	2.0
	作業療法士	1	0	0.0	1.0
	ケアワーカー（リハビリテーション科）	2	1	0.4	2.4
	臨床検査技師	7	6	2.3	9.3
	合計	67	103	55.7	122.7
	第五事業部計	67	103	55.7	122.7

部署	職種別	常勤	非常勤		合計
			非常勤数	常勤換算	
法人本部・管理部	理事長	1	0	0.0	1.0
	会長	0	0	0.0	0.0
	本部長	1	0	0.0	1.0
	その他本部職員	3	0	0.0	3.0
	管理部職員	37	1	0.8	37.8
	とうめい宮の里クリニック（出向者除）	3	1	0.0	3.0
	臨床心理士	0	1	0.5	0.5
	売店	0	4	4.0	4.0
	はなの家とむろ（在籍出向者）	2	0	0.0	2.0
	合計	47	7	5.3	52.3
さがみ緑風園診療所	医師	1	5	2.5	3.5
	看護師	16	1	0.6	16.6
	准看護師	1	0	0.0	1.0
	ケアワーカー	1	1	0.4	1.4
	理学療法士	1	0	0.0	1.0
	作業療法士	2	0	0.0	2.0
	言語聴覚士	0	1	0.1	0.1
	事務	0	0	0.0	0.0
	合計	22	8	3.6	25.6
本部合計		69	15	8.9	78
三思会合計		1034	(0) 449	241.3	1277.4

病院の位置と案内



東名厚木病院 交通のご案内

小田急線

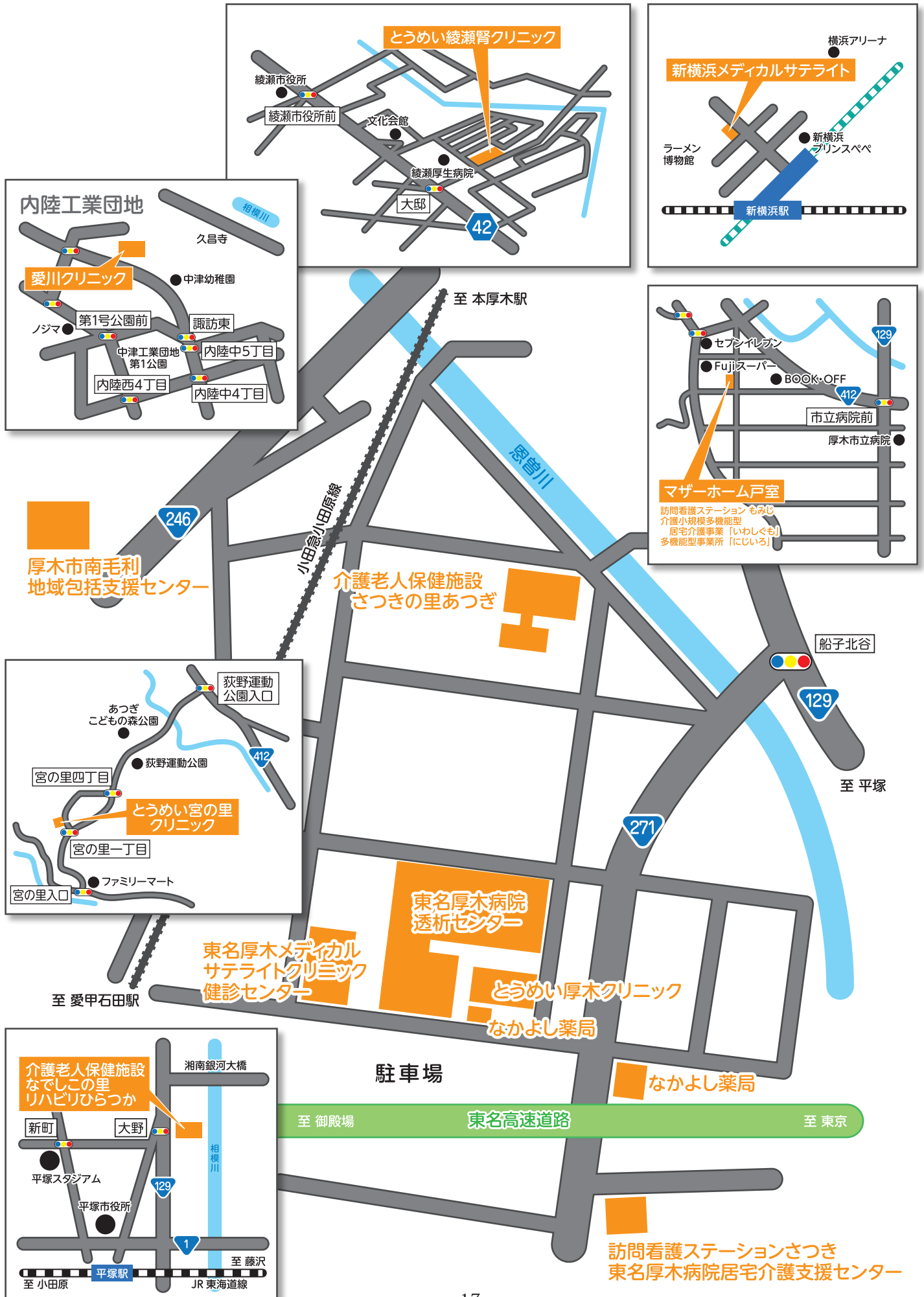
- 本厚木駅から徒歩 20 分
- 愛甲石田駅から徒歩 15 分

神奈川中央交通バス

- 本厚木駅／厚43系統「森の里」行き
- 愛甲石田駅／愛20系統「毛利台団地」行き
『船子バス停』下車徒歩5分

お車ご利用

- 東名厚木インターより5分





病院の現況

II

東名厚木病院の概要

- (1) 病院の理念
地域に信頼される病院
患者に愛される病院
誇りと責任をもてる病院

- (2) 所在地
神奈川県厚木市船子 2 3 2
TEL : 0 4 6 - 2 2 9 - 1 7 7 1 (代表)
FAX : 0 4 6 - 2 2 8 - 0 3 9 6

施設の面積

項 目		面 積
敷 地 の 面 積		1 4 , 8 4 4 m ²
敷 地 の 駐 車 場		9 2 7 m ²
建築延面積	病 棟 部 門	7 , 5 9 6 m ²
	救 急 部 門	4 3 2 m ²
	管理・共用部門	4 , 9 1 2 m ²
	透 析 部 門	1 , 1 7 1 m ²
	診 療 部 門	3 , 8 9 4 m ²
	計	1 8 , 0 0 5 m ²

- (3) 役員等 (2023 年 4 月 1 日現在)

院長	北野 義和	透析センター長	大山 聡子
副院長	鬼塚 圭一郎	内視鏡センター長	玉置 道生
副院長	中 正剛	化学療法センター長	神山 公希
副院長兼看護部長	伊藤 玲子	患者総合支援センター長	安齋 明雅
事務長	久木田 光司	地域連携室室長	安西 秀聡
医務部長	小島 淳夫	院内感染対策室室長	川井 貴美子
診療協力部長	鎌田 順道	名誉院長	富田 公夫
診療技術部長	高坂 佳宏	名誉院長	山下 巖

病院の使命

一つは医療の主体は病める人・・・住民であることを絶えず確認する医療の実践、もう一つは住民が健康である事によってコミュニティが活性化し得る手助けをすることである。

このためには、先ず、法人自ら地域に積極的に出て「地域住民とともに歩む医療」「健康をつくり守る医療」の実践を通して、法人を発展・継承する。

(4) 開設 昭和 56 年 6 月 1 日

(5) 病床数 282 床

(6) 診療科目及び診療時間

① 診療科目

内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、人工透析内科、神経内科、外科、消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、救急科、泌尿器科、婦人科、眼科、麻酔科、精神科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、緩和ケア内科、放射線診断科、放射線治療科 病理診断科

② 救急告示病院 24 時間救急体制

(7) 主な施設及び設備

	1号館	2号館	3号館	4号館
4階	●入院病棟（24床）	●入院病棟（36床）	●入院病棟（52床）	●入院病棟（48床）
3階	●化学療法センター	●入院病棟（14床）	●入院病棟（52床）	●入院病棟（48床）
2階	●リハビリテーション室 ●言語聴覚療法室 ●医療安全管理室 ●院内感染対策室 ●専任看護師室 ●看護事務室 ●職員食堂	●栄養科（厨房）	●透析センター	●手術室 ●I C U室（8床）
1階	●図書室 ●診療情報管理室	●医局 ●臨床研修医室 ●患者総合支援センター ・医療福祉相談室 ・地域連携室 ●総務課 ●売店（コンビニ） ●霊安室 ●解剖室	●検査室 ●情報システム ●研究室 ●結石破碎室 ●薬剤科 ●内視鏡センター ●入退院センター	●正面玄関（病院受付） ●医事課 ●放射線科 ・放射線治療室 ・X線撮影室 ・MRI室 ・CT室 ・血管造影室 ・心臓血管撮影室 ●救急処置室 ●霊安室

(8) 各種法令指定医療機関

健康保険法
生活保護法

結核予防法
労災保険法

国民健康保険法

(9) 各種認可・認定

保険医療機関	薬剤管理指導認定施設
地域医療支援病院	臨床研修指定病院
救急告示病院	日本病院会「人間ドック」認定施設
神奈川県がん診療連携指定病院	健康保険組合連合会「人間ドック」契約
労災保険指定医療機関	全日本病院協会「人間ドック」認定施設
DPC 対象病院	日本医療機能評価認定施設
災害時医療支援活動指定病院	難病指定医療機関
神奈川県災害協力病院	日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設認定
開放型病院認定施設	日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定
公益社団法人日本栄養士会 栄養サポートチーム担当者認定施設	
日本乳房オンコプラスチックサージャリー協会エキスパンダー実施施設	
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設	

(10) 施設基準認定

＜基本診療料の施設基準＞

一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 1）	後発医薬品使用体制加算 1
診療録管理体制加算 1	データ提出加算 2（イ）
救急医療管理加算	入退院支援加算 1
臨床研修病院入院診療加算 1	入院時支援加算
医療安全対策加算 1	認知症ケア加算 3
医療安全対策地域連携加算 1	精神疾患診療体制加算
感染対策向上加算 1	地域包括ケア病棟入院料 2
指導強化加算	看護職員配置加算
医師事務作業補助体制加算 2（50 対 1）	看護補助体制充実加算
患者サポート体制充実加算	緩和ケア病棟入院料 2
25 対 1 急性期看護補助体制加算 （看護補助者 5 割以上）	療養環境加算
夜間 50 対 1 急性期補助体制加算	ハイケアユニット入院医療管理料 1
夜間看護体制加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
看護補助体制充実加算	地域医療体制確保加算
看護職員処遇改善評価料	栄養サポートチーム加算
看護職員夜間 12 対 1 配置加算 1	病棟薬剤業務実施加算 1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算 2
	【入院時食事療養（Ⅰ）】

<特掲診療料の施設基準>

がん性疼痛緩和指導管理料

がん患者指導管理料ロ

がん患者指導管理料ニ

院内トリアージ実施料

開放型病院共同指導料

薬剤管理指導料

在宅療養後方支援病院

検体検査管理加算（Ⅰ・Ⅳ）

CT 撮影及び MRI 撮影

抗悪性腫瘍剤処方管理加算

運動器リハビリテーション料（Ⅰ）

呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）

下肢末梢動脈疾患指導管理加算

体外衝撃波腎・尿管結石破砕術

輸血管理料Ⅱ

胃瘻造設時嚥下機能評価加算

麻酔管理料（Ⅰ・Ⅱ）

導入期加算 1

がん患者リハビリテーション料

糖尿病合併症管理料

がん患者指導管理料イ

組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）

乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検

ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）

後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）

夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算 1

持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定

脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）

食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）

がん患者指導管理料ハ

BRCA1/2 遺伝子検査

外来放射線照射診療料

がん治療連携計画策定料

医療機器安全管理料 1

在宅血液透析指導管理料

画像診断管理加算 1・2

冠動脈 CT 撮影加算

無菌製剤処理料

脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）

人工腎臓

大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）

体外衝撃波膀胱石破砕術

輸血適正使用加算

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

高エネルギー放射線治療

椎間板内酵素注入療法

二次性骨折予防継続管理料 1

早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術

酸素の購入価格の届出

胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）

医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6

（歯科点数表第2章第9部・手術の通則4を含む。）に掲げる手術（K通則）

(11) 認定医制度の研修施設

日本整形外科学会	日本外科学会
日本形成外科学会	日本消化器内視鏡学会
日本超音波医学会	日本泌尿器科学会
日本胸部外科学会（関連施設）	日本脳卒中学会
日本呼吸器内視鏡学会	日本がん治療認定医機構
日本緩和医療学会	日本消化器外科学会
日本脳神経外科学会	日本呼吸器外科学会（関連施設）
日本麻酔科学会	日本内科学会（関連施設）
日本循環器学会	日本消化器病学会
日本乳癌学会（関連施設）	日本透析医学会
日本腎臓学会	日本糖尿病学会
日本肝臓学会	日本病院総合診療医学会
日本救急医学会	

(12) 各種認定研修施設

管理型医師臨床研修指定病院

救急救命士実習指定病院

看護学校実習指定病院

厚木看護専門学校	看護学科
湘南平塚看護専門学校	
神奈川工科大学	健康医療科学部 看護学科
松陰大学	看護学部
積善会看護専門学校	

薬剤科実習指定病院

昭和薬科大学	薬学部
横浜薬科大学	薬学部

栄養科実習指定病院

神奈川県立保健福祉大学	栄養学科
-------------	------

社会福祉士実習指定病院

東海大学

明治学院大学

桜美林大学

相模女子大学

健康学部健康マネジメント学科

社会学部社会福祉学科

健康福祉学群社会福祉専修

人間社会学部社会マネジメント学科

リハビリテーション科実習指定病院

東都リハビリテーション学院

横浜リハビリテーション専門学校

北里大学

理学療法学科

理学療法学科、作業療法学科

医療衛生学部リハビリテーション学科

理学療法学専攻、作業療法学専攻

国際医療福祉大学

保健医療学部 理学療法学科

東京医療学院大学

リハビリテーション学科 理学療法学専攻

2023. 4. 1



委託業務及び保守契約

◎ 委託業務

業務名	業者名
寝具類洗濯業務	(株)柴橋商会
患者給食労務業務	日清医療食品(株)
院内清掃業務	(株)パイオニア・サービス
医療用ガス供給設備の保守点検業務	(株)星医療酸器
特別管理産業廃棄物処理	(株)大相
産業廃棄物	中央カンセー(株)
廃液処理	相田化学工業(株)
一般ゴミ	(有)長澤商事
書類処理	(有)長澤商事
病理検査委託	東海大学医学部付属病院
臨床検査委託	(株)保健科学研究所

◎ 保守契約

業務名	業者名
電気設備	新日本空調(株)
自家発電機	新日本空調(株)
消防用設備	(株)神菱商事
非常放送設備	(株)神菱商事
ボイラー	新日本空調(株)
第一種圧力容器	新日本空調(株)
医療用ガス供給設備	(株)星医療酸器
電話交換設備	神田通信機(株)
エレベーター	(株)日立ビルシステム
放射線機器 一般撮影	(株)島津製作所
MRI	キャノンメディカルシステムズ(株)
CT撮影	キャノンメディカルシステムズ(株)
結石破碎装置	ドルニエメドテックジャパン(株)
マンモグラフィー・CR一式	コニカミノルタヘルスケア(株)
線量測定	アロカ(株)
心臓カテーテル装置	(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン
血管造影装置	キャノンメディカルシステムズ(株)
放射線治療装置	キャノンメディカルシステムズ(株)
消化器・呼吸器系内視鏡他装置	オリンパスマーケティング(株)
内視鏡洗浄消毒器	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
電気手術器	アムコ(株)
麻酔器	GEヘルスケア・ジャパン(株)
	ドレーゲル・メディカルジャパン(株)
透析機器	東レ・メディカル(株)
	ニプロ(株)

主要機器

◆手術室主要装置◆			◆透折◆			
装置		台数	装置		台数	
手術支援ロボット	Da Vinci Xi	1台	血液ガス分析	GASTAT1820	1台	
超音波診断装置	Arietta 65LE	1台	透析監視装置	NCV2	39台	
高速気腹装置	UHI-4	2台		NCV3	18台	
	エアシール	1台	◆軟性鏡他◆			
	VISU160	1台	装置		台数	
手術用顕微鏡	MM80/YOH4	2台	内視鏡ビデオスコープシステム	EVIS LUCERA ELITE	4台	
超音波白内臓手術装置	インフィニティビジョンシステムOZIL仕様	1台		EVIS X1	1台	
ビデオシステムセンター(プロセッサー)	QTV-S190	2台		EU-ME2 PREMIUM PLUS	1台	
関節鏡システム	S&Nエンドスコピー560P	1台	高周波焼灼電源装置	ESG-100	1台	
エンドウィーナススクロージャースystem	RFQ2	1台		ESG-150	2台	
ハーモニック	GEN11	1台	外科手術用エネルギーデバイス	THUNDERBEAT	3台	
エネルギープラットフォーム	FT10	2台		GIF-HQ290	1台	
超音波手術器	USG-400	3台		GIF-H290	1台	
	ESG-400	3台		GIF-XZ1200	1台	
高周波焼灼電源装置	UES-40S	1台	上部消化管ビデオスコープ	GIF-XP290N	1台	
高気圧蒸気滅菌器	RUJ-240HVW	2台		GIF-H260	4台	
酸化エチレンガスオートクレーン式滅菌器	Ec II-B2600	1台		GIF-Q260J	1台	
プラズマ滅菌器	ステラッド100NXダブルドア	1台		GF-UCT 260	1台	
超音波洗浄器	US-201SAN	1台		GF-UE290	1台	
自動ジェット式超音波洗浄装置	WUS-2100	1台		JF-240	1台	
	WUS II-3100DXW	1台	十二指腸ビデオスコープ	JF-260V	1台	
レーザー手術装置	ドルニエ・Solvo	1台		TJF-Q290V	1台	
電気手術器	VIO200Sスタンダードモデル	1台		CF-HQ290I	2台	
	アルゴンガス供給装置APG2FIAPC	1台	大腸ビデオスコープ	CF-Q260AI	1台	
				PCF-H290ZL	1台	
				CF-H260AI	2台	
			気管支ビデオスコープ	BF-H290	1台	
				BF-Q290	1台	
				MAF-TM2	1台	
			胆道ビデオスコープ	CHF-240	1台	
				硬性鏡	3台	
				LTF-S190-10	1台	
			腎盂尿管ビデオスコープ	URF-V2	1台	
				硬性鏡	6台	
◆X線装置◆			<クリニック>			
装置		台数	◆X線装置◆			
診断装置	一般撮影用X線装置	RAD Speed Pro	2台	マンモグラフィ	MGU-1000DNS	1台
	MRI	Vantage Galan 3T	1台	X線透視撮影装置	SONIAVISION G4	1台
	外科用イメージ	DHF-105CX	1台	CT	Aquilion PRIME/focusEdision	1台
	X線透視撮影装置	opescope acteno	2台	一般撮影用X線装置	MRAD-A50S	2台
	血管造影装置	EXAVISTA	1台	◆生理検査装置◆		
	CT	INFIX-8000V/NB	1台	装置		台数
	移動式X線装置	Aquilion PRIME/focusEdision	1台	デジタル心電計	FCP-8321	1台
		シリウス130HP	1台	ホルター心電計	FCP-8800	1台
	心カテ装置	Mobaile Art Evolution	2台	長時間心電図解析装置	RAC-3103	1台
	結石破砕装置	Allura Xper FD10/10	1台	血圧脈波検査装置	DSG-3300	1台
高精度放射線治療装置 線形加速器システム	デルタIII	1台	呼吸機能測定装置	VaSera	1台	
放射線治療	ELECTA / SYNEGY	1台		SP-390	1台	
シミュレーターCT	Aquilion/LB	1台	超音波診断装置	Aplio a / Verifia	2台	
				Aplio 500 Platinum	1台	
			鼻腔通気度測定装置	SP-390Rhino	1台	
			運動負荷試験システム	STS-2100	1台	
			オージオメータ	AA-78S	1台	
◆生理検査装置◆			◆検体測定装置◆			
装置		台数	装置		台数	
デジタル心電計	ECG-2450	3台	生化学自動分析機	JCA-ZS050	1台	
ホルター心電計	RAC-3103	1台	自動免疫測定装置	LUMIPULSE G1200	1台	
呼吸機能測定装置	DISCOM2 IFX II	1台	自動血球計算装置	XR-1000	1台	
	Aplio a CUS-AA000	1台	血液凝固測定装置	CA600	1台	
	Xario 200G	1台	HbA1c測定装置	HLC-723GR01	1台	
超音波診断装置	Xario	1台	尿自動分析装置	US-1200	1台	
	Nemio	4台	血液ガス分析	GASTAT_navi	1台	
	Famio	1台	安全キャビネット	BHC-T701 II A-2	1台	
	Xario-100	4台	◆軟性鏡他◆			
	キ-97/ルエコー Vscan Extend	1台	装置		台数	
皮膚灌流圧測定装置	PAD3000	1台	内視鏡統合ビデオシステム	VISERA Pro	2台	
筋電図・誘発電位検査装置	MEB-2306	1台		VISERA	1台	
血圧脈波検査装置	VS-2000	1台	コルボスコープ	CYF-VA2	1台	
睡眠ポリグラフィ装置	PSG-1100	1台	膀胱腎盂ビデオスコープ	OCS-500	1台	
体成分分析装置	InBody S10	1台	子宮ビデオスコープ	HYF-V	1台	
			耳鼻咽喉ビデオスコープ	ENF-VQ	1台	
◆検体測定装置◆			◆眼科◆			
装置		台数	装置		台数	
血液ガス分析装置	GASTAT1835	1台	YAGレーザー	ULTTAQ-TW	1台	
自動血球計算装置	XR-1000	1台	<健診センター>			
生化学自動分析機	JCA-ZS050	1台	◆X線装置◆			
血液凝固測定装置	CA650	1台	装置		台数	
システム顕微鏡	CX43LF	1台	マンモグラフィ	MGU-1000DNS	1台	
HbA1c測定装置	HLC-723GR01	1台	X線透視撮影装置	ESPACIO AVANT	2台	
アンモニア測定器	NX10N	1台		DIAVISTA	1台	
自動免疫測定装置	LUMIPULSE G1200	1台	一般撮影用X線装置	Evolution	2台	
尿自動分析装置	US-1200	1台	MRI	1.5T Vantage Titan	1台	
安全キャビネット	SG-303	1台	レントゲン撮影車	SREX-D32C/S1	1台	
			◆生理検査装置◆			
◆病理装置◆			装置		台数	
装置		台数	超音波診断装置	Aplio 300	1台	
凍結組織切片作製装置	CM1950	1台		Aplio a / Verifia	3台	
臓器撮影装置	DL-N-FA	1台		ECG9130	1台	
密閉式自動固定包埋装置	VIP-6 AI	1台		ECG1350	1台	
パラフィン包埋ブロック作製装置	ティッシュ・テック TEC6	1台	デジタル心電計	FCP8400	2台	
自動染色装置	DRS-Prisma-P-JD	1台		ECG2450	2台	
				ECG3350	1台	
◆薬剤◆			呼吸機能測定装置	SYSTEM7	2台	
装置		台数		AS407	1台	
無菌調製用陰圧アイソレーター	デュアルケモNDC-2400	1台	眼圧測定器	CT-1P	1台	
安全キャビネット	SG-303	1台		KT-800	1台	
クリーンベンチ	NCC-900D	1台	眼底カメラ	CR-2	3台	
全自動散薬分包機	Twin-R93IV	1台	血圧脈波検査装置	VaSera VS-2000	1台	
小型全自動錠剤分包機	Litrea II SE-t	1台	骨密度測定器	AOS-100es	1台	
全自動PTPシート払出装置	Robo-pick II	1台	◆硬性鏡他◆			
			装置		台数	
◆輸液ポンプ◆			内視鏡ビデオスコープシステム	EVIS LUCERA ELITE	2台	
装置		台数		GIF-XP290N	2台	
FP-970EX他		66台		GIF-PQ260	2台	
			上部消化管ビデオスコープ	GIF-XP260NS	1台	
◆シリンジポンプ◆				GIF-XQ260	2台	
装置		台数		GIF-H290	4台	
CSP-120他		48台				
◆除細動器◆						
装置		台数				
TEC-5631他		11台				
◆酸素吸入装置◆						
装置		台数				
二相式気道陽圧ユニット	NIPネーザルV	3台				
高気圧酸素治療装置	KS-202 O型	1台				
◆人工呼吸器◆						
装置		台数				
ニューポートe500		6台				
ニューポートe360		4台				
ハミルトンC1		2台				
ART-21EX		2台				
ペネット760		1台				
HT70		1台				
◆モニタ◆						
装置		台数				
PVM-2701他		52台				
◆麻酔器◆						
装置		台数				
7900SEPSVエスティバ		2台				
Apollo		2台				
Aespire View		1台				

年間行事

- 1 月 BLS 研修
- 2 月 2022 年度 第 2 回安全・感染・倫理に関する研修会（外部業者向け）
 イブニングセミナー
 「医療放射線 正しく知って正しく恐れる～東名厚木のラジハ～」
 講師：放射線技術科 小野沢 辰之 技師
 防災訓練/安否確認サービス（テスト送信）
 ICLS 研修
- 3 月 CPC 臨床病理検討会
 初期臨床研修修了式
 BLS 研修
- 4 月 新入職員オリエンテーション
 2022 年度総括・2023 年度目標発表会
 三思会杯 ミニバスケットボール大会
 BLS 研修
- 5 月 全館停電検査
 診療部(各科) 目標発表会
 職員献血
 BLS 研修
- 6 月 東名厚木病院 開院 42 周年
 ICLS 研修
 イブニングセミナー
 「夜間頻尿のお話」 / 講師：藤城 貴教 医師
- 7 月 納涼祭
 BLS 研修
- 8 月 保険診療に関する研修会
 BLS 研修
 防災訓練/安否確認サービス（テスト送信）

イブニングセミナー

「たかがヘルニア されどヘルニア」

講師：田澤 賢一 医師

9 月 BLS 研修

医療安全講演会

「患者・家族への十分な説明のあり方」 Web 開催

講師：山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 特任教授 荒神 裕之 先生

三思会杯 ソフトボール大会

10 月 イブニングセミナー

「心不全治療について」

講師：石川 沙羅 医師

院内感染対策講演会 17：30～

「病院で問題となる薬剤耐性菌」

講師：鶴巻温泉病院 感染管理室室長 近藤 成美 先生

がんサロン「ここが知りたい！医療講座 カラダの声を聞いてみよう」

ICLS 研修

11 月 地域連携フォーラム

三思会活動発表会

三思会杯 厚木市招待第4種サッカー大会

臨床病理検討会

BLS 研修

12 月 緩和ケア研修会

イブニングセミナー

「緩和ケアへの Shared Decision Making ～再発進行癌 抗癌剤する？しない？～」

講師：飯田 哲士 医師

医療安全講演会 Web 開催

「患者の視点に立って医療安全を考える」

講師：上尾中央総合病院 特任副院長 長谷川 剛 先生

JCEP 受審

糖尿病教室「糖尿病を正しく知って共に歩もう」

職員献血

BLS 研修

III

統計

部門別月間医療活動データ

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計	
救急外来（ER）	総 数		781.0	564.0	633.0	643.0	731.0	684.0	825.0	800.0	811.0	715.0	724.0	847.0	8,758.0	
	救 急 車		460.0	318.0	372.0	346.0	391.0	358.0	469.0	443.0	451.0	428.0	430.0	466.0	4,932.0	
	蘇生状況	CPA患者数	12.0	6.0	11.0	13.0	10.0	10.0	7.0	11.0	9.0	10.0	9.0	18.0	126.0	
		内蘇生者	6.0	2.0	4.0	5.0	4.0	3.0	3.0	3.0	1.0	0.0	1.0	3.0	35.0	
		ST処置	6.0	4.0	7.0	7.0	6.0	7.0	4.0	8.0	8.0	11.0	8.0	15.0	91.0	
	入院	救急車搬入入院	191.0	141.0	140.0	143.0	152.0	133.0	179.0	163.0	161.0	155.0	183.0	183.0	1,924.0	
		時間外来入院	60.0	47.0	46.0	60.0	65.0	71.0	72.0	44.0	82.0	61.0	43.0	70.0	721.0	
	科 別	内科	340.0	235.0	258.0	240.0	285.0	315.0	401.0	405.0	370.0	300.0	295.0	439.0	3,883.0	
		うち入院者数	109.0	80.0	70.0	77.0	79.0	95.0	119.0	96.0	110.0	100.0	91.0	122.0	1,148.0	
		循環器内科	28.0	24.0	18.0	21.0	28.0	25.0	21.0	15.0	22.0	27.0	22.0	27.0	278.0	
		うち入院者数	21.0	12.0	11.0	14.0	11.0	13.0	17.0	10.0	15.0	15.0	14.0	22.0	175.0	
		外科	19.0	16.0	11.0	15.0	11.0	8.0	22.0	21.0	12.0	9.0	13.0	13.0	170.0	
		うち入院者数	11.0	14.0	9.0	11.0	9.0	8.0	17.0	15.0	11.0	7.0	13.0	12.0	137.0	
		脳外科	74.0	74.0	76.0	80.0	73.0	67.0	64.0	74.0	76.0	80.0	75.0	75.0	888.0	
		うち入院者数	26.0	32.0	35.0	33.0	28.0	26.0	22.0	31.0	30.0	28.0	36.0	30.0	357.0	
		胸部外科	9.0	5.0	4.0	5.0	7.0	3.0	7.0	4.0	2.0	4.0	2.0	0.0	52.0	
		うち入院者数	7.0	5.0	4.0	3.0	5.0	2.0	3.0	3.0	1.0	2.0	1.0	0.0	36.0	
		整形外科	148.0	101.0	120.0	122.0	148.0	117.0	130.0	108.0	117.0	139.0	148.0	135.0	1,533.0	
		うち入院者数	31.0	21.0	24.0	26.0	26.0	25.0	26.0	15.0	30.0	28.0	39.0	36.0	327.0	
		形成外科	81.0	52.0	75.0	77.0	71.0	77.0	81.0	90.0	98.0	68.0	73.0	71.0	914.0	
		うち入院者数	2.0	1.0	3.0	2.0	4.0	3.0	2.0	3.0	0.0	4.0	4.0	2.0	30.0	
		泌尿器科	12.0	13.0	18.0	20.0	20.0	19.0	24.0	17.0	30.0	21.0	24.0	13.0	231.0	
		うち入院者数	1.0	1.0	1.0	3.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.0	1.0	21.0	
		救急	59.0	32.0	44.0	54.0	70.0	40.0	53.0	56.0	63.0	55.0	56.0	56.0	638.0	
		うち入院者数	41.0	23.0	31.0	34.0	50.0	30.0	43.0	35.0	44.0	29.0	31.0	28.0	419.0	
		その他	11.0	12.0	9.0	9.0	18.0	11.0	14.0	10.0	0.0	12.0	16.0	18.0	140.0	
	緊急検査	PCI	16.0	7.0	3.0	3.0	4.0	4.0	7.0	2.0	1.0	5.0	9.0	6.0	67.0	
		溶解 止血	1.0	0.0	3.0	1.0	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	10.0	
		内視鏡	13.0	7.0	6.0	1.0	2.0	3.0	5.0	6.0	2.0	6.0	12.0	19.0	82.0	
	重症度	手術	1.0	7.0	1.0	1.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	5.0	3.0	5.0	26.0	
		A	55.0	45.0	44.0	36.0	40.0	40.0	38.0	34.0	42.0	40.0	47.0	57.0	518.0	
		B	220.0	151.0	15.0	177.0	191.0	173.0	218.0	188.0	220.0	193.0	194.0	216.0	2,156.0	
	転帰	C	506.0	368.0	438.0	430.0	500.0	471.0	569.0	561.0	549.0	482.0	483.0	574.0	5,931.0	
		入院	251.0	188.0	186.0	163.0	214.0	204.0	251.0	207.0	243.0	216.0	231.0	253.0	2,607.0	
		帰宅	508.0	372.0	443.0	439.0	511.0	479.0	572.0	586.0	565.0	487.0	493.0	583.0	6,038.0	
	手術室	転院		14.0	4.0	4.0	0.0	0.0	1.0	2.0	6.0	3.0	12.0	0.0	11.0	57.0
科 別		外科	16.0	41.0	40.0	27.0	29.0	25.0	40.0	43.0	31.0	23.0	28.0	35.0	378.0	
		消化器科	5.0	10.0	8.0	10.0	12.0	9.0	7.0	8.0	6.0	8.0	6.0	8.0	97.0	
		乳腺外科	59.0	62.0	66.0	63.0	48.0	59.0	50.0	50.0	48.0	59.0	54.0	61.0	679.0	
		整形外科	21.0	23.0	28.0	24.0	17.0	23.0	20.0	18.0	18.0	26.0	25.0	28.0	271.0	
		形成外科	5.0	5.0	10.0	14.0	9.0	8.0	6.0	9.0	10.0	10.0	6.0	6.0	98.0	
		脳外科	4.0	8.0	6.0	4.0	3.0	6.0	5.0	2.0	2.0	8.0	4.0	5.0	57.0	
		胸部外科	8.0	6.0	11.0	3.0	3.0	0.0	1.0	3.0	2.0	5.0	5.0	7.0	54.0	
		内科	20.0	25.0	22.0	30.0	26.0	26.0	22.0	28.0	28.0	24.0	27.0	22.0	300.0	
		泌尿器科	7.0	3.0	3.0	5.0	2.0	11.0	8.0	7.0	4.0	3.0	4.0	8.0	65.0	
		血管外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
婦人科		13.0	9.0	6.0	6.0	8.0	12.0	11.0	5.0	6.0	8.0	9.0	4.0	97.0		
眼科		158.0	192.0	200.0	186.0	157.0	179.0	170.0	173.0	155.0	174.0	168.0	184.0	2,096.0		
OPE件数		計	158.0	192.0	200.0	186.0	157.0	179.0	170.0	173.0	155.0	174.0	168.0	184.0	2,096.0	
		全 麻	130.0	142.0	143.0	136.0	109.0	125.0	117.0	123.0	116.0	127.0	113.0	127.0	1,508.0	
		腰 麻	1.0	0.0	1.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.0	7.0	
		局 麻	52.0	42.0	44.0	35.0	30.0	39.0	41.0	35.0	25.0	34.0	41.0	45.0	463.0	
		そ の 他	5.0	8.0	12.0	15.0	16.0	15.0	12.0	15.0	14.0	12.0	14.0	10.0	148.0	
室		(オンコールOPE 内数)		3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	4.0	1.0	3.0	1.0	3.0	4.0	28.0

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計	
救急外来（検査）	内視鏡	GIF	431.0	317.0	234.0	220.0	243.0	269.0	446.0	349.0	376.0	477.0	433.0	382.0	4,177.0	
		止血	6.0	6.0	5.0	1.0	6.0	3.0	18.0	5.0	4.0	2.0	6.0	5.0	67.0	
		PEG	1.0	6.0	2.0	3.0	6.0	5.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	8.0	36.0	
		ESD	2.0	3.0	2.0	9.0	3.0	2.0	4.0	5.0	3.0	1.0	3.0	1.0	38.0	
		EUS	24.0	23.0	37.0	30.0	33.0	35.0	24.0	37.0	34.0	34.0	34.0	36.0	381.0	
		CF	199.0	229.0	227.0	265.0	224.0	236.0	241.0	222.0	225.0	231.0	262.0	255.0	2,816.0	
		EMR(ホリヘク含)	40.0	43.0	43.0	47.0	48.0	56.0	44.0	49.0	43.0	47.0	55.0	45.0	560.0	
		止血	2.0	4.0	3.0	1.0	7.0	2.0	1.0	3.0	2.0	2.0	2.0	7.0	36.0	
		ESD	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		その他	1.0	1.0	0.0	2.0	2.0	2.0	5.0	5.0	8.0	9.0	2.0	5.0	42.0	
		ERCP	28.0	17.0	23.0	13.0	27.0	20.0	23.0	18.0	19.0	22.0	17.0	39.0	266.0	
		EBS	15.0	10.0	8.0	8.0	18.0	13.0	17.0	13.0	11.0	14.0	16.0	35.0	178.0	
		ENBD	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	3.0	
		EPBD	2.0	3.0	5.0	4.0	5.0	4.0	4.0	3.0	0.0	3.0	1.0	2.0	36.0	
		EST	5.0	5.0	11.0	3.0	8.0	7.0	4.0	6.0	6.0	3.0	2.0	12.0	72.0	
		採石・砕石	3.0	5.0	8.0	6.0	8.0	7.0	7.0	7.0	8.0	6.0	3.0	13.0	81.0	
		その他	5.0	7.0	7.0	2.0	1.0	4.0	4.0	1.0	2.0	5.0	3.0	5.0	46.0	
		BF	4.0	2.0	3.0	3.0	2.0	1.0	1.0	5.0	5.0	2.0	1.0	2.0	31.0	
		合 計	662.0	565.0	487.0	501.0	496.0	526.0	711.0	594.0	625.0	732.0	713.0	678.0	7,290.0	
		救急外来（検査）	放射線	心カテ	予約	23.0	34.0	27.0	37.0	30.0	32.0	38.0	37.0	37.0	34.0	34.0
緊急	0.0				0.0	2.0	0.0	4.0	2.0	2.0	0.0	2.0	4.0	2.0	4.0	22.0
脳アンギオ	予約			1.0	3.0	2.0	1.0	4.0	2.0	1.0	1.0	0.0	0.0	2.0	0.0	17.0
	緊急			0.0	0.0	1.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
腹部アンギオ	予約			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	緊急			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
四肢アンギオ				2.0	2.0	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.0	1.0	2.0	12.0
シャント造影	予約			7.0	13.0	12.0	11.0	13.0	16.0	13.0	8.0	10.0	13.0	15.0	13.0	144.0
	緊急			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
テレビ室				36.0	24.0	23.0	19.0	30.0	37.0	45.0	31.0	29.0	27.0	32.0	39.0	372.0
CT・MRI・CBF				69.0	83.0	79.0	79.0	108.0	114.0	91.0	102.0	94.0	91.0	101.0	103.0	1,114.0
破 砕	予約			3.0	4.0	7.0	1.0	2.0	6.0	9.0	4.0	4.0	7.0	12.0	8.0	67.0
合 計				141.0	163.0	154.0	151.0	191.0	210.0	200.0	184.0	177.0	176.0	199.0	204.0	2,150.0
オンコール件数				0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
病棟	入院延数	2－3（～H29.5 1－3 ～H29.9 1－4）	383.0	385.0	373.0	326.0	365.0	332.0	363.0	394.0	398.0	408.0	384.0	358.0	4,469.0	
		2－4（～H29.4 1－4）	1681.0	1501.0	1504.0	1,272.0	1,602.0	1,408.0	1,610.0	1,679.0	1,586.0	1,503.0	1,519.0	1,522.0	18,387.0	
		3－3（～H28 2－3）	1424.0	1199.0	1073.0	1,207.0	1,274.0	1,199.0	1,337.0	1,334.0	1,346.0	1,265.0	1,236.0	1,391.0	15,285.0	
		3－4	1467.0	1210.0	1312.0	1,122.0	1,142.0	1,126.0	1,217.0	1,310.0	1,227.0	1,305.0	1,373.0	1,354.0	15,165.0	
		4－3（～H28 3－3）	1269.0	1087.0	1054.0	1,010.0	1,041.0	992.0	1,079.0	1,158.0	1,093.0	1,033.0	1,091.0	1,135.0	13,042.0	
		4－4（～H28 2－4）	986.0	825.0	872.0	871.0	977.0	893.0	1,059.0	954.0	913.0	978.0	1,085.0	1,090.0	11,503.0	
		ICU	216.0	182.0	192.0	183.0	156.0	141.0	168.0	143.0	164.0	148.0	167.0	170.0	2,030.0	
		計	7,426.0	6,389.0	6,380.0	5,991.0	6,557.0	6,091.0	6,833.0	6,972.0	6,727.0	6,640.0	6,855.0	7,020.0	79,881.0	
	在院日数	2－3（～H29.5 1－3 ～H29.9 1－4）	13.7	24.1	17.0	14.5	14.0	19.5	12.7	17.5	12.1	24.0	19.7	14.3	203.1	
		2－4（～H29.4 1－4）	14.4	10.7	11.6	9.7	11.6	10.5	11.9	12.8	12.0	12.9	12.3	12.0	142.4	
		3－3（～H28 2－3）	11.6	10.1	8.1	9.6	11.1	9.1	10.5	9.1	11.1	10.0	9.6	9.9	119.9	
		3－4	19.6	15.5	17.6	14.8	16.3	16.1	13.4	14.6	14.8	19.1	17.6	17.7	197.0	
		4－3（～H28 3－3）	8.5	8.7	9.6	8.2	8.4	8.3	8.6	8.5	8.0	8.1	8.3	7.6	100.8	
		4－4（～H28 2－4）	16.7	14.2	11.5	11.8	12.7	10.8	12.0	15.0	12.3	10.5	15.0	11.4	153.9	
		ICU	2.7	2.7	3.0	3.7	3.1	2.7	2.7	3.0	2.6	3.0	2.9	2.9	34.9	
		病院全体	11.8	10.6	10.5	10.0	10.9	10.0	10.4	11.0	10.5	11.1	11.2	10.4	128.3	
	M S W	件数	新規	127.0	122.0	124.0	123.0	123.0	101.0	115.0	125.0	115.0	131.0	146.0	117.0	1,469.0
			延べ件数	799.0	761.0	823.0	732.0	749.0	705.0	681.0	803.0	699.0	768.0	848.0	649.0	9,017.0
		ソーシャルワーク業務	心理・社会的問題	39.0	53.0	39.0	49.0	44.0	44.0	34.0	64.0	62.0	49.0	77.0	71.0	625.0
			経済的問題	122.0	112.0	96.0	98.0	83.0	110.0	126.0	126.0	95.0	115.0	104.0	104.0	1,291.0
退院支援			682.0	648.0	704.0	623.0	636.0	592.0	553.0	652.0	553.0	647.0	671.0	648.0	7,609.0	
受診・受療			56.0	50.0	55.0	55.0	65.0	53.0	38.0	69.0	72.0	63.0	83.0	69.0	728.0	
家族への支援			29.0	34.0	65.0	29.0	21.0	37.0	30.0	35.0	36.0	23.0	44.0	48.0	431.0	
社会復帰支援			3.0	4.0	4.0	2.0	3.0	1.0	3.0	4.0	1.0	1.0	8.0	2.0	36.0	
方法		面接	347.0	394.0	458.0	424.0	409.0	407.0	378.0	456.0	414.0	440.0	442.0	412.0	4,981.0	
		電話	783.0	719.0	710.0	632.0	644.0	566.0	581.0	704.0	615.0	673.0	735.0	701.0	8,063.0	
		訪問	0.0	2.0	1.0	0.0	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	0.0	1.0	1.0	12.0	
		記録文書	635.0	604.0	661.0	592.0	603.0	571.0	538.0	661.0	575.0	662.0	674.0	617.0	7,393.0	

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
放射線技術科	病院（内訳）	一般撮影	1808.0	1591.0	1718.0	1,704.0	1,714.0	1,558.0	1,811.0	1,653.0	1,599.0	1,737.0	1,804.0	1,913.0	20,610.0
		ポータブル件数	324.0	273.0	262.0	265.0	243.0	192.0	315.0	252.0	241.0	231.0	246.0	295.0	3,139.0
		造影・透視下撮影（イメージ含む）	80.0	60.0	66.0	48.0	105.0	75.0	84.0	64.0	56.0	62.0	68.0	111.0	879.0
		CT件数	987.0	819.0	847.0	857.0	941.0	852.0	975.0	933.0	991.0	923.0	922.0	1,020.0	11,067.0
		MRI件数	134.0	130.0	147.0	128.0	134.0	133.0	104.0	108.0	110.0	106.0	129.0	118.0	1,481.0
		心カテ件数	25.0	33.0	31.0	39.0	29.0	35.0	39.0	37.0	45.0	36.0	40.0	39.0	428.0
		DSA件数	11.0	20.0	21.0	17.0	19.0	22.0	18.0	11.0	11.0	17.0	26.0	15.0	208.0
		結石破碎	3.0	4.0	7.0	1.0	2.0	5.0	9.0	4.0	4.0	7.0	13.0	8.0	67.0
		件数計	3046.0	2653.0	2896.0	2,790.0	2,944.0	2,676.0	3,040.0	2,810.0	2,812.0	2,881.0	2,989.0	3,216.0	34,753.0
		患者数計	1956.0	1676.0	1712.0	1,815.0	1,806.0	1,807.0	1,789.0	1,741.0	1,749.0	1,715.0	1,944.0	2,058.0	21,768.0
	放射線治療	シミュレータCT（人）	17.0	20.0	11.0	16.0	19.0	24.0	17.0	20.0	27.0	16.0	21.0	25.0	233.0
		外部照射（人）	胸部腹部	18.0	17.0	14.0	13.0	19.0	21.0	19.0	12.0	11.0	11.0	16.0	179.0
			頭頸幹部	9.0	16.0	10.0	10.0	5.0	10.0	17.0	13.0	15.0	18.0	15.0	151.0
			四肢	2.0	5.0	2.0	3.0	3.0	5.0	2.0	6.0	7.0	2.0	3.0	49.0
			合計	29.0	38.0	26.0	26.0	27.0	36.0	38.0	31.0	33.0	31.0	34.0	379.0
		新患（人）	18.0	22.0	12.0	16.0	19.0	27.0	20.0	20.0	24.0	17.0	20.0	18.0	233.0
リハビリ科	理学療法		4573.0	4346.0	4332.0	3,813.0	4,239.0	4,178.0	4,269.0	4,387.0	3,900.0	4,228.0	4,622.0	4,465.0	51,352.0
	作業療法		1188.0	1044.0	1298.0	1,146.0	1,220.0	1,178.0	1,191.0	1,236.0	1,251.0	1,044.0	1,073.0	936.0	13,805.0
	言語療法		546.0	507.0	561.0	450.0	570.0	340.0	302.0	319.0	271.0	416.0	509.0	586.0	5,377.0
	嚥下		129.0	99.0	126.0	85.0	90.0	66.0	53.0	62.0	59.0	54.0	73.0	81.0	623.0
	計		6,436.0	5,996.0	6,317.0	5,494.0	6,119.0	5,762.0	5,815.0	6,004.0	5,481.0	5,742.0	6,277.0	6,068.0	71,511.0
臨床工学科	OHP		51.0	35.0	22.0	33.0	47.0	54.0	23.0	27.0	6.0	9.0	32.0	15.0	354.0
	心カテ		25.0	34.0	32.0	37.0	27.0	31.0	35.0	33.0	39.0	34.0	37.0	35.0	399.0
薬剤科	外来処方		365.0	256.0	289.0	284.0	354.0	353.0	379.0	415.0	424.0	322.0	523.0	432.0	4,396.0
	入院処方		3,887.0	3,585.0	3,269.0	3,216.0	3,310.0	3,345.0	3,411.0	3,560.0	3,483.0	3,657.0	3,303.0	3,568.0	41,594.0
	無菌製剤処理		197.0	273.0	264.0	233.0	268.0	311.0	283.0	299.0	230.0	256.0	251.0	231.0	3,096.0
	薬剤管理指導		375.0	404.0	448.0	444.0	494.0	439.0	418.0	435.0	412.0	465.0	478.0	452.0	5,264.0
栄養科	患者	一般	12238.0	10383.0	10993.0	10,159.0	11,011.0	10,307.0	10,518.0	11,917.0	11,712.0	11,793.0	11,542.0	12,098.0	134,671.0
		特食	5636.0	4890.0	4602.0	4,451.0	5,023.0	4,673.0	5,794.0	5,256.0	4,799.0	4,219.0	5,235.0	4,776.0	59,354.0
		計	17,874.0	15,273.0	15,595.0	14,610.0	16,034.0	14,980.0	16,312.0	17,173.0	16,511.0	16,012.0	16,777.0	16,874.0	194,025.0
	職員食数		2782.0	2649.0	2973.0	2,810.0	2,834.0	2,871.0	2,835.0	2,923.0	2,761.0	2,837.0	2,800.0	2,799.0	33,874.0
	個別対応 病棟(%)		50.6	42.7	42.1	46.5	42.7	45.7	36.5	50.9	48.9	53.0	45.1	57.2	561.9
	病棟訪問件数		285.0	298.0	458.0	587.0	673.0	631.0	580.0	490.0	483.0	717.0	767.0	560.0	6,529.0
	栄養状態の再評価件数		424.0	358.0	372.0	320.0	379.0	347.0	384.0	420.0	396.0	406.0	401.0	384.0	4,591.0
	栄養指導人数		104.0	98.0	125.0	123.0	130.0	136.0	135.0	153.0	153.0	156.0	142.0	185.0	1,640.0
	特食率(%)		31.5	32.0	29.5	30.5	31.3	31.2	35.5	30.6	29.1	26.3	31.2	28.3	367.0
施設・単位千円	単 位 千 円	コピー用紙	79.7	96.6	125.0	136.8	500.7	20.5	11.0	21.6	72.7	671.5	10.1	3.1	1,749.3
		トナー	287.5	497.0	616.8	199.8	281.0	374.2	188.2	174.9	402.4	239.4	145.3	300.1	3,706.5
		電気料	10798.0	8784.0	7686.0	5,966.0	6,319.0	7,045.0	8,442.0	8,197.0	7,318.0	5,418.0	5,897.0	71,231.0	153,101.0
		LPガス 使用金額	294.0	294.0	342.0	278.0	284.0	263.0	241.0	229.0	200.0	258.0	226.0	327.0	3,236.0
		都市ガス使用金額	1404.0	1235.0	691.0	619.0	601.0	851.0	1,029.0	887.0	875.0	520.0	672.0	909.0	10,293.0
		灯油	542.0	528.0	531.0	643.0	522.0	562.0	0.0	414.0	385.0	521.0	570.0	379.0	5,597.0
		水道料(2ヵ月毎)	1901.0	0.0	465.0	0.0	1,764.0	0.0	2,028.0	0.0	2,053.0	0.0	1,924.0	0.0	10,135.0
		ガソリン	131.0	137.0	146.0	145.0	143.0	158.0	194.0	204.0	176.0	150.0	143.0	158.0	1,885.0
		送迎バス延人員	9320.0	9173.0	10318.0	10,045.0	10,270.0	12,189.0	11,760.0	10,671.0	10,013.0	11,248.0	10,878.0	11,101.0	126,986.0
第三事業部	東名厚木	人間ドック延受検者	901.0	911.0	697.0	954.0	1,105.0	1,122.0	1,109.0	1,206.0	1,147.0	1,209.0	1,173.0	1,164.0	12,698.0
		出張健診延受検者	299.0	1141.0	1091.0	5,514.0	2,309.0	1,434.0	2,009.0	3,229.0	1,061.0	2,721.0	4,819.0	1,484.0	27,111.0
		院内健診延受検者	2208.0	2381.0	2088.0	2,274.0	2,038.0	2,883.0	2,736.0	2,083.0	2,510.0	3,822.0	3,277.0	2,654.0	30,954.0

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
診療情報管理室	退院時要約 14日以内提出率(%)		96.2	90.2	96.4	94.2	94.8	94.6	92.9	94.2	90.8	93.6	92.1	91.5	1,121.6
	入院診療録貸出件数(再入院)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	(書類)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(クリニック診察)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(その他)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0
	開示要求件数		11.0	5.0	18.0	13.0	9.0	8.0	17.0	9.0	8.0	13.0	13.0	8.0	132.0
	開示件数		11.0	7.0	10.0	14.0	9.0	11.0	15.0	9.0	7.0	12.0	14.0	11.0	130.0
療 育 評 価	退院患者数		504.0	519.0	532.0	548.0	520.0	540.0	552.0	573.0	557.0	532.0	521.0	612.0	6,510.0
	転 帰 率 ・ 入 院	治癒 (%)	6.8	6.9	7.9	6.9	7.1	8.7	7.1	8.0	6.5	7.1	9.4	7.5	89.9
		軽快 (%)	67.7	69.2	69.4	68.1	70.0	69.6	71.0	68.4	67.0	69.4	66.6	69.6	825.8
		不変 (%)	11.3	10.8	10.2	13.0	10.4	10.7	10.5	12.4	13.3	11.1	11.9	10.5	136.0
		転院 (%)	6.2	7.7	6.0	6.2	5.8	5.4	5.8	6.1	6.5	8.1	7.1	5.5	76.3
		死亡 (%)	8.1	5.4	6.6	5.8	6.7	5.6	5.6	5.1	6.8	4.3	5.0	6.9	71.9
	医 死 亡 数		41.0	28.0	35.0	32.0	35.0	30.0	31.0	29.0	38.0	23.0	26.0	42.0	390.0
	療 育 評 価	(男)	26.0	19.0	22.0	21.0	22.0	18.0	19.0	14.0	22.0	13.0	13.0	28.0	237.0
		(女)	15.0	9.0	13.0	11.0	13.0	12.0	12.0	15.0	16.0	10.0	13.0	14.0	153.0
		術後(血管内検査を含む) 10日以内の死亡数	2.0	2.0	1.0	4.0	1.0	0.0	2.0	1.0	2.0	2.0	4.0	4.0	25.0
	の 剖 検 数		1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0
	質 量 評 価	消化器内科	10.0	3.0	4.0	6.0	7.0	5.0	6.0	5.0	9.0	3.0	5.0	11.0	74.0
		循環器内科	7.0	4.0	5.0	2.0	1.0	4.0	4.0	5.0	5.0	2.0	2.0	9.0	50.0
		腎代謝内科	4.0	4.0	2.0	3.0	2.0	1.0	1.0	2.0	5.0	1.0	2.0	5.0	32.0
		外科	4.0	4.0	9.0	1.0	2.0	1.0	0.0	3.0	1.0	0.0	1.0	2.0	28.0
		呼吸器科	4.0	3.0	3.0	2.0	3.0	3.0	1.0	1.0	4.0	2.0	0.0	1.0	27.0
		整形外科	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	7.0
		形成外科	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	3.0
		脳外科	2.0	3.0	5.0	3.0	3.0	1.0	2.0	0.0	0.0	2.0	3.0	1.0	25.0
		乳腺外科	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	1.0	0.0	2.0	0.0	0.0	1.0	1.0	9.0
		泌尿器科	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	3.0
		救急総合科	8.0	6.0	5.0	5.0	6.0	5.0	6.0	3.0	1.0	5.0	3.0	2.0	55.0
		緩和ケア内科	0.0	0.0	1.0	5.0	10.0	8.0	9.0	7.0	10.0	8.0	8.0	9.0	75.0
		総合診療科	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.0
摂食嚥下ケア	褥瘡患者数(累計)		265.0	253.0	179.0	156.0	233.0	218.0	245.0	319.0	324.0	310.0	334.0	363.0	3,199.0
	褥瘡有病率(褥瘡患者数/病棟患者延べ数) 褥瘡患者の比率		3.6	4.0	2.8	2.6	3.6	3.6	3.6	4.6	4.8	4.7	4.9	5.2	47.8
	褥瘡発生数 (入院してから新しく出来た褥瘡)		8.0	3.0	11.0	11.0	7.0	4.0	8.0	3.0	5.0	6.0	7.0	7.0	80.0
	褥瘡発生率 (%) (褥瘡発生数/実入院患者数)		1.1	0.4	2.1	1.5	1.3	0.7	1.4	0.5	0.9	1.1	1.3	1.3	13.7
	延べ人数		663	526.0	506.0	454.0	503.0	509.0	470.0	657.0	497.0	636.0	594.0	573	6,588.0
	新規介入者		117	80.0	76.0	78.0	79.0	69.0	76.0	88.0	97.0	96.0	87.0	102	1,045.0
むくみケア	新 患 数	外来	5.0	2.0	5.0	1.0	6.0	4.0	1.0	6.0	3.0	6.0	5.0	2.0	46.0
		病棟	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	フットケア	外来	2.0	1.0	4.0	1.0	1.0	1.0	0.0	1.0	2.0	2.0	1.0	2.0	18.0
		病棟	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.0	43.0
	むくみケア	外来	39.0	39.0	52.0	38.0	43.0	40.0	45.0	40.0	42.0	40.0	53.0	45.0	516.0
		病棟	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	外来	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		病棟	0.0	2.0	17.0	1.0	4.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	30.0
	延べ人数	外来	41.0	40.0	56.0	39.0	44.0	41.0	45.0	41.0	44.0	42.0	54.0	45.0	532.0
		病棟	0.0	2.0	17.0	1.0	4.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	30.0

医事課医療活動データ

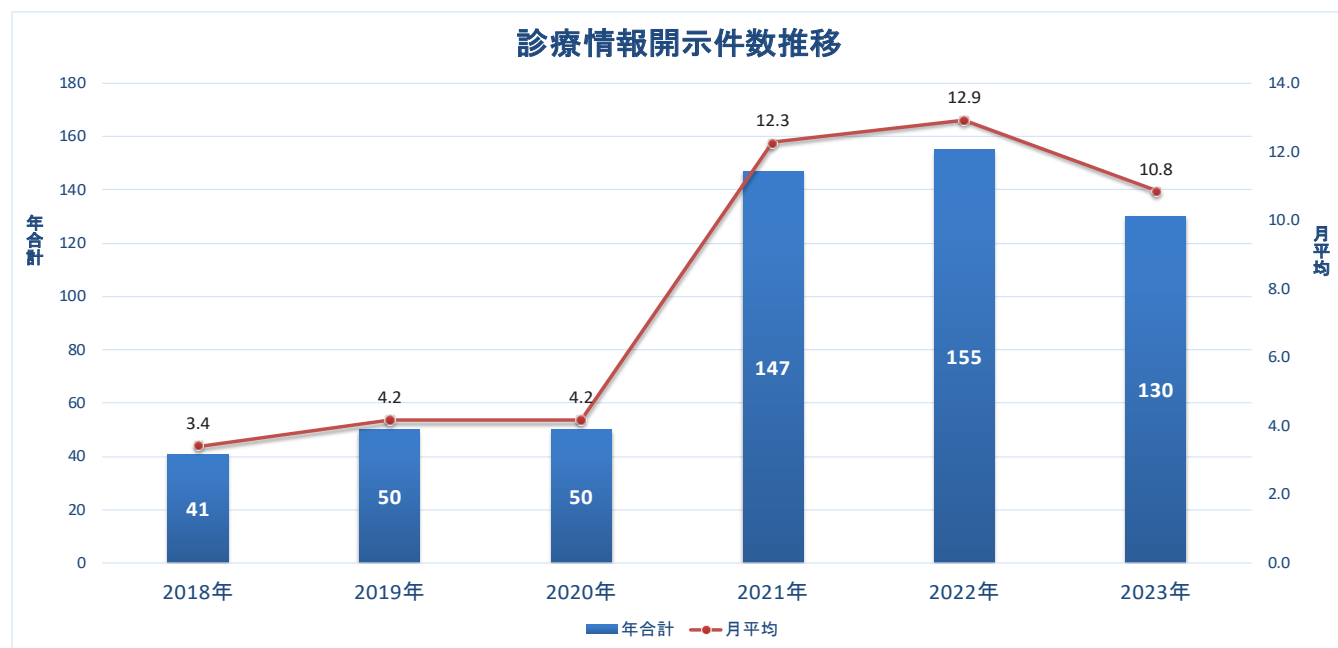
項 目		前年度 月平均	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	合計	平均
入 院	入院数	504	545	506	514	523	536	547	584	553	538	537	560	562	6,505	542
	クリニック入院	258	265	282	274	273	271	299	298	293	253	280	287	274	3,349	279
	対入院数比	51.3%	48.6%	55.7%	53.3%	52.2%	50.6%	54.7%	51.0%	53.0%	47.0%	52.1%	51.3%	48.8%	—	51.5%
	(内 C L 即入院)	65	54	75	64	56	55	65	68	58	64	57	56	75	747	62
	(内 C L 予約)	194	211	207	210	217	216	234	230	235	189	223	231	199	2,602	217
	病院入院	246	280	224	240	250	265	248	286	260	285	257	273	288	3,156	263
	対入院数比	48.7%	51.4%	44.3%	46.7%	47.8%	49.4%	45.3%	49.0%	47.0%	53.0%	47.9%	48.8%	51.2%	—	48.5%
	(内 H P 即入院)	209	256	202	203	226	233	223	261	227	250	228	245	261	2,815	235
	(内 H P 予約入院)	36	24	22	37	24	32	25	25	33	35	29	28	27	341	28
	時間内	385	382	378	406	403	397	425	430	415	391	407	420	389	4,843	404
	時間外	119	163	128	108	120	139	122	154	138	147	130	140	173	1,662	139
	救急車搬送入院数	144	187	146	141	146	157	131	176	167	166	160	184	184	1,945	162
	(時間内)	59	66	53	56	62	65	60	68	64	67	70	77	66	774	65
	(時間外)	85	121	93	85	84	92	71	108	103	99	90	107	118	1,171	98
	紹介患者入院数	61	79	56	36	83	62	59	80	67	82	64	89	76	833	69
	紹介患者入院数（C L 経由入院）	42	42	38	33	40	51	47	50	46	38	40	57	38	520	43
	初診入院	167	204	149	174	162	186	169	223	172	197	184	195	203	2,218	185
	退院数	507	504	519	532	548	520	540	552	573	557	532	521	612	6,510	543
	入院実日数	7,445	7,946	6,941	6,963	6,642	7,148	6,697	7,445	7,635	7,340	7,241	7,429	7,753	87,180	7,265
	1 日平均在院患者数（24時現在）	227.3	239.5	228.2	205.8	199.7	211.5	203.0	220.4	224.9	224.2	214.2	228.5	226.4	2,626	218.9
	占床率	80.6%	84.9%	80.9%	73.0%	70.8%	75.0%	72.0%	78.2%	79.8%	79.5%	76.0%	81.0%	80.3%	—	77.6%
項 目		前年度 月平均	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	合計	平均
外 来	延べ患者数	2,808	2,871	2,547	3,025	2,947	3,247	3,193	3,338	3,401	3,184	2,985	3,034	3,134	36,906	3,076
	(時間内)	2,446	2,443	2,263	2,719	2,618	2,863	2,831	2,893	2,962	2,744	2,611	2,673	2,690	32,310	2,693
	(時間外)	362	428	284	306	329	384	362	445	439	440	374	361	444	4,596	383
合 計	診療実日数（患者延べ人数）	3,080	3,192	2,829	3,273	2,947	3,247	3,193	3,338	3,401	3,184	2,985	3,034	3,134	37,757	3,146
	対象人数	1,254	1,306	1,158	1,368	1,265	1,290	1,305	1,355	1,415	1,330	1,297	1,314	1,411	15,814	1,318
	初診患者数（入院含む）	732	816	600	738	715	758	739	866	856	832	769	789	876	9,354	780
	初診率（入院含む）	20.4%	21.8%	18.0%	19.5%	20.6%	20.0%	19.8%	22.1%	21.6%	22.4%	21.8%	22.0%	23.7%	—	21.1%
	新患者数(内数)	339	374	280	290	335	344	344	380	392	354	323	313	401	4,130	344
計	新患者率	19.3%	20.2%	16.8%	15.4%	18.7%	18.8%	18.6%	19.6%	19.9%	19.0%	17.6%	16.7%	20.3%	—	18.5%

項 目		前年度 月平均	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	合計	平均
救 急 （内数） 外 来	延べ患者数（時間内）	180	184	148	215	113	173	184	160	204	167	168	180	205	2,101	175
	（内 救急車来院）	134	150	121	93	135	162	159	165	173	156	160	165	176	1,815	151
	延べ患者数（時間外）	362	427	284	306	329	384	362	445	439	440	374	361	444	4,595	383
	（内 救急車来院）	240	312	203	273	216	234	202	301	282	290	267	263	285	3,128	261
	延べ患者数 合計	542	611	432	521	442	557	546	605	643	607	542	541	649	6,696	558
	（内 救急車来院）	374	462	324	366	351	396	361	466	455	446	427	428	461	4,943	412
	診療実日数（患者延べ人数）	545	606	430	519	483	552	545	612	640	603	539	544	653	6,726	561
	対象人数	530	584	430	511	483	550	545	611	631	598	531	533	632	6,639	553
	患者数初診数（入院含む）	593	683	472	566	566	628	601	733	706	690	626	658	728	7,657	638
	新患数（内数）	219	245	166	217	189	217	223	271	272	239	207	213	274	2,733	228
	新患率	41.1%	42.0%	38.6%	42.5%	39.1%	39.5%	40.9%	44.4%	43.1%	40.0%	39.0%	40.0%	43.4%	—	41.0%
	救急車 搬送人数	374	462	324	366	351	396	361	466	455	446	427	428	461	4,943	412
	救急車 搬送台数	371	460	320	363	348	393	359	465	448	441	424	424	456	4,901	408
	稼働日数	30	31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	365	30
項 目		前年度 月平均	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	合計	平均
紹 介 （内数） 外 来	診療実日数（患者延べ人数）	174	159	151	203	165	145	165	136	169	154	166	194	158	1,965	164
	対象人数	152	141	137	181	152	135	150	130	158	146	159	166	153	1,808	151
	紹介患者数	7	4	4	6	16	11	6	7	12	5	8	10	6	95	8
放 射 線 治 療 （内数）	診療実日数（患者延べ人数）	298	360	316	308	209	295	260	358	222	212	325	207	248	3,320	277
	対象人数	38	45	44	42	33	38	38	42	42	33	31	39	43	470	39
内 視 鏡 外 （内数） 来	診療実日数（患者延べ人数）	272	279	284	352	320	282	294	295	293	272	306	303	302	3,582	299
	対象人数	262	271	276	343	312	279	282	282	279	264	298	286	291	3,463	289
化 学 療 法 外 （内数） 来	診療実日数（患者延べ人数）	194	191	193	224	193	224	242	187	231	205	207	223	224	2,544	212
	対象人数	115	114	122	128	121	127	120	120	123	125	123	127	122	1,472	123
緩 和 ケ ア 内 （内数） 科	診療実日数（患者延べ人数）	35	30	20	42	39	32	35	32	45	27	23	33	34	392	33
	対象人数	30	23	20	33	32	28	31	30	37	24	20	28	29	335	28
透 （内数） 折 外 来	診療実日数（患者延べ人数）	1,561	1,567	1,435	1,625	1,540	1,714	1,647	1,711	1,804	1,701	1,711	1,721	1,736	19,912	1,659
	対象人数	126	128	129	130	132	133	139	140	145	140	135	135	141	1,627	136

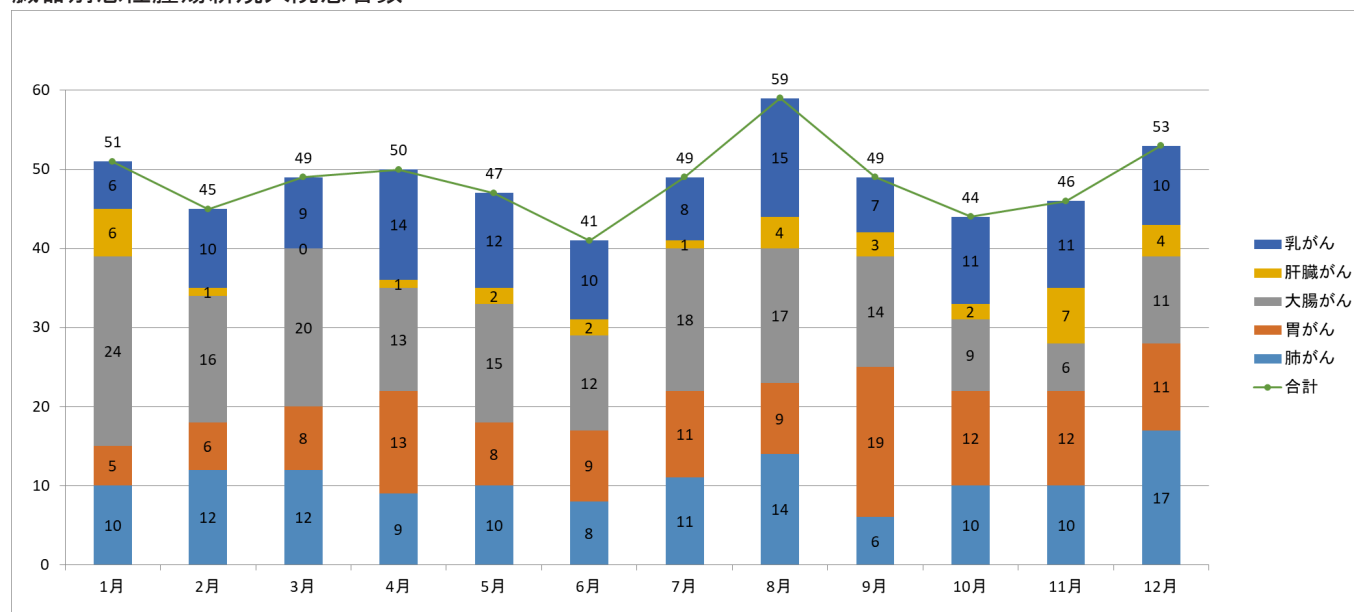
診療情報管理室統計データ

診療情報開示件数推移（2018年～2023年）

開示件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計	月平均
2018年	0	1	5	2	5	1	3	3	3	7	8	3	41	3.4
2019年	5	3	4	6	4	2	5	3	3	4	7	4	50	4.2
2020年	8	3	2	5	0	5	3	0	7	6	4	7	50	4.2
2021年	0	6	20	15	14	22	12	19	8	13	12	6	147	12.3
2022年	12	12	11	19	15	13	13	18	10	15	11	6	155	12.9
2023年	11	7	10	14	9	11	15	9	7	12	14	11	130	10.8

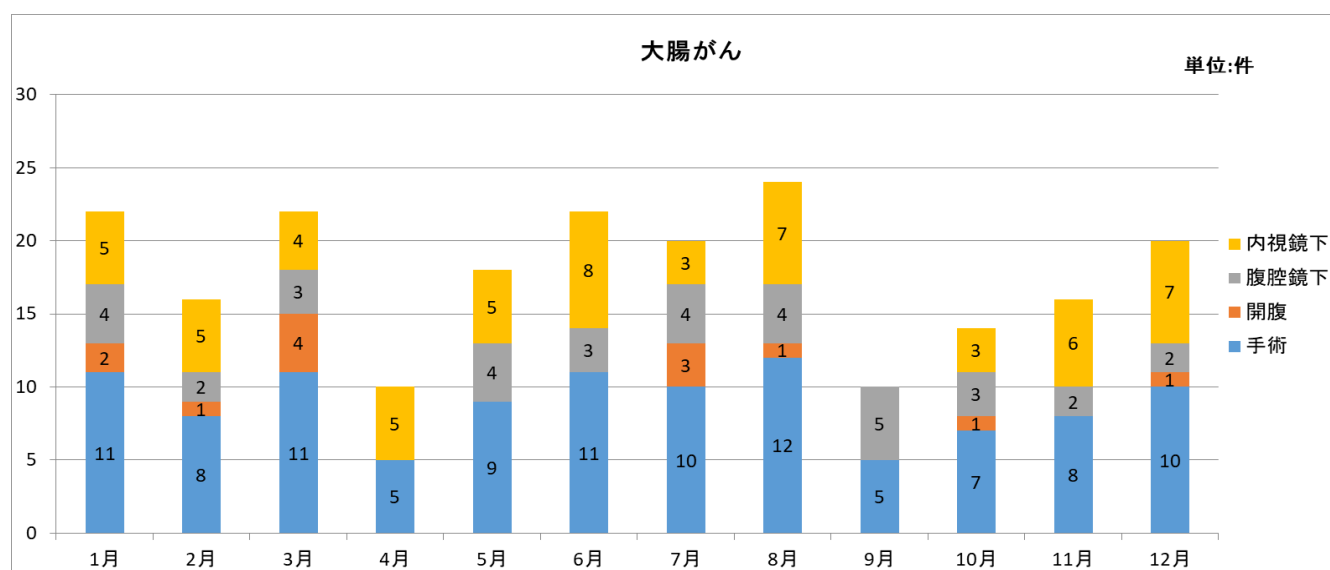
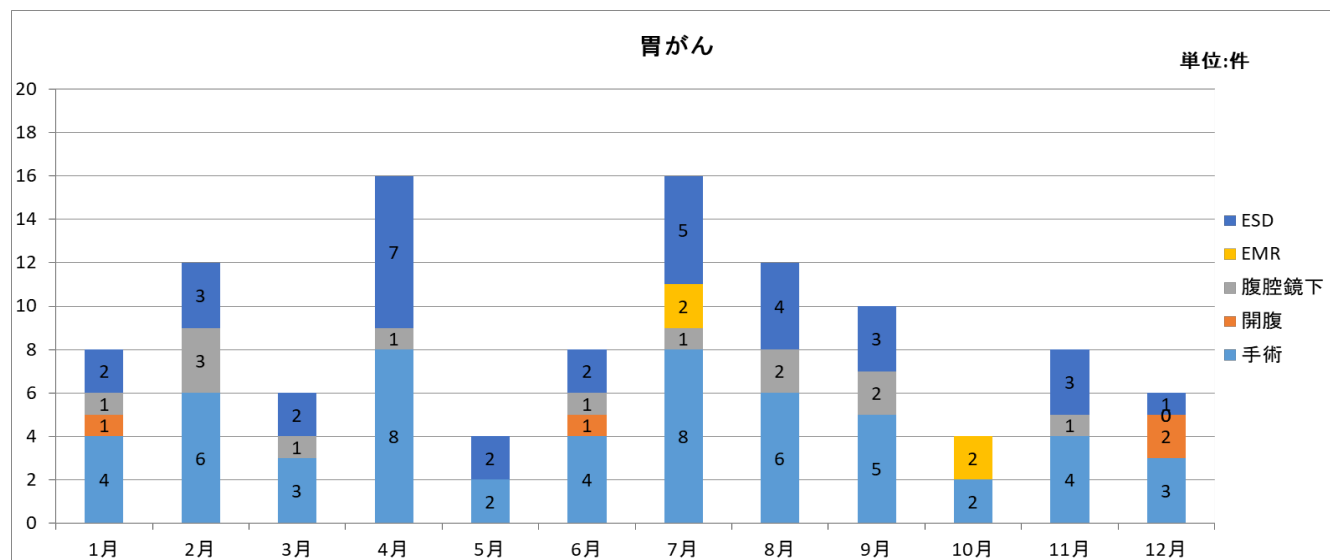
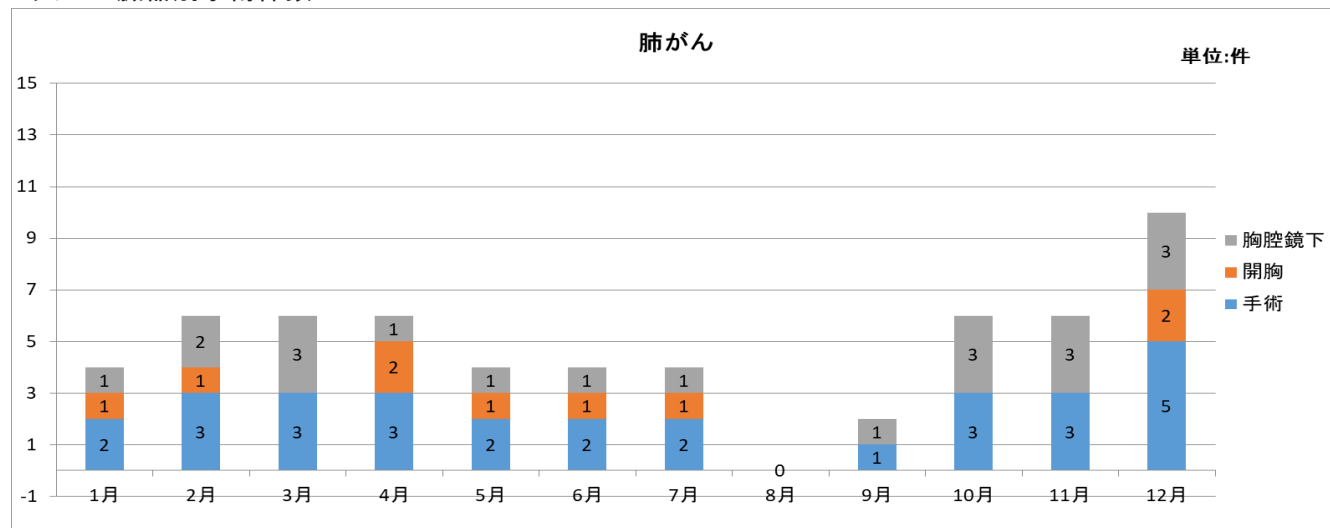


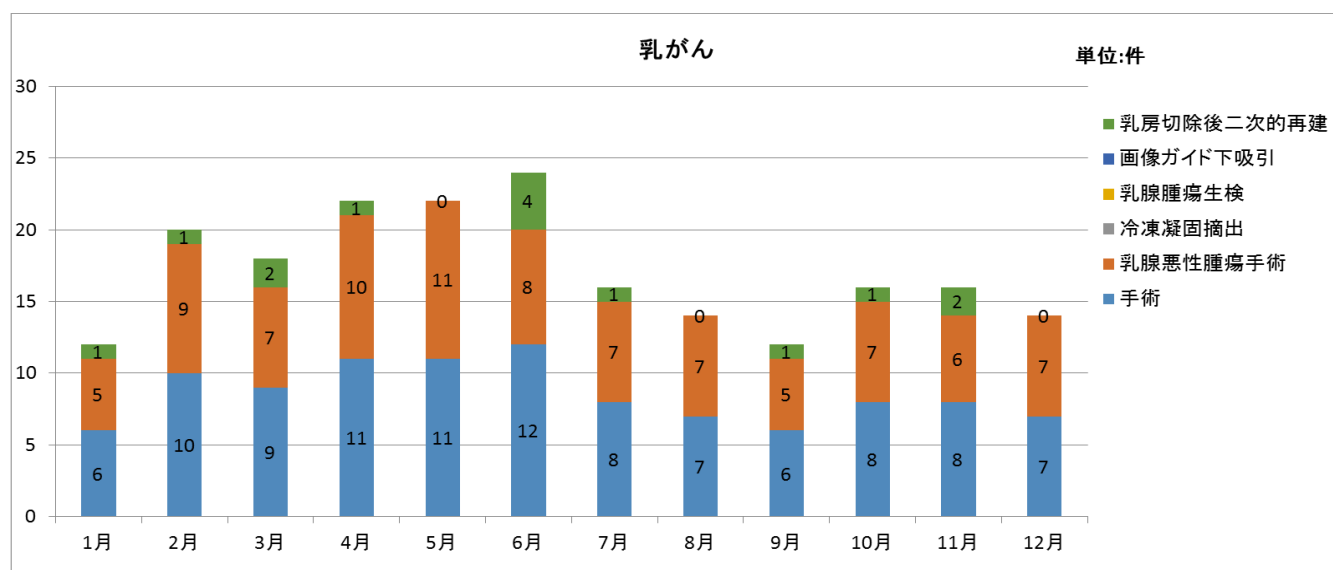
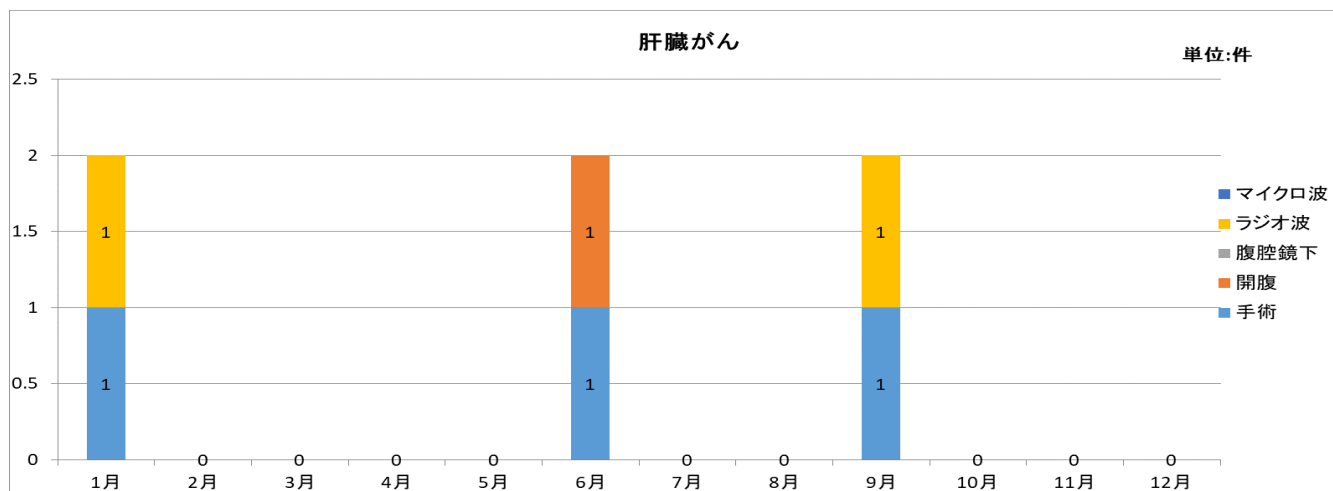
臓器別悪性腫瘍新規入院患者数



※新規患者のうち、原発巣が5大がんの患者数

5 大がん臓器別手術件数





院内がん登録 原発部位別登録数

(登録日集計)

ICD-O	原発部位	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
C00-14・30・31	頭頸部	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
C15	食道	8	0	0	1	0	2	1	1	1	0	1	0	1
C16	胃	96	9	6	11	7	5	13	9	5	5	8	8	10
C18	結腸	101	10	7	12	14	8	10	6	7	4	10	7	6
C19-20	直腸	40	1	5	3	5	0	3	1	3	6	4	5	4
C22	肝臓	20	1	1	3	1	0	2	3	1	2	1	3	2
C23-24	胆嚢 胆管	18	3	0	3	1	1	1	1	4	1	0	2	1
C25	膵臓	39	4	1	3	2	4	4	2	4	4	3	5	3
C32	喉頭	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
C33-34	肺 気管	97	6	13	8	7	7	7	9	5	13	10	7	5
C40-41・C47・C49	骨 軟部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C44	皮膚	8	1	0	1	0	0	2	0	1	2	1	0	0
C50	乳房	137	13	10	17	9	13	8	18	11	11	4	13	10
C53	子宮頸部	9	0	1	0	0	0	2	0	3	1	1	0	1
C54	子宮体部	12	0	0	0	0	3	1	0	0	2	2	2	2
C56	卵巣	7	1	0	1	0	0	3	0	0	2	0	0	0
C61	前立腺	100	9	8	4	13	5	8	5	16	11	6	6	9
C67	膀胱	25	1	1	1	4	1	4	4	2	0	1	3	3
C64-C66・C68	腎 尿路	10	1	0	1	0	3	2	0	0	0	1	1	1
C70・71・72・C751-753	脳 神経	8	0	2	0	0	0	0	1	2	0	1	0	2
C73	甲状腺	3	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0
C77	悪性リンパ腫	9	0	1	2	0	0	2	1	0	2	0	0	1
C80	原発不明癌	7	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	2
上記以外	その他	12	0	1	1	2	0	0	2	1	1	2	2	0
総数		770	61	58	72	66	52	74	65	68	68	58	65	63

疾病分類別入院患者数（2023 年退院患者傷病名）

感染症及び寄生虫症（A00－B99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
腸管感染症（A00－A09）	38	33	71
結核（A15－A19）	0	0	0
その他の細菌性疾患（A30－A49）	17	12	29
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症（B00－B09）	1	0	1
ウイルス性肝炎（B15－B19）	1	0	1
その他のウイルス性疾患（B25－B34）	0	3	3
真菌症（B35－B49）	2	0	2
ぜんく蠕＞虫症（B65－B83）	2	0	2
感染症及び寄生虫症 合計	61	48	109

新生物＜腫瘍＞（C00－D48）			
疾病中間分類名	男	女	合計
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞（C00－C14）	7	0	7
消化器の悪性新生物＜腫瘍＞（C15－C26）	299	147	446
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞（C30－C39）	128	43	171
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞（C43－C44）	1	1	2
中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞（C45－C49）	3	0	3
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞（C50）	0	122	122
女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞（C51－C58）	0	9	9
男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞（C60－C63）	159	0	159
腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞（C64－C68）	39	7	46
眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物＜腫瘍＞（C69－C72）	5	0	5
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞（C73－C75）	1	2	3
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞（C76－C80）	26	27	53
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞、 原発と記載された又は推定されたもの（C81－C96）	12	6	18
上皮内新生物＜腫瘍＞（D00－D09）	0	6	6
良性新生物＜腫瘍＞（D10－D36）	9	2	11
性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞（D37－D48）	39	42	81
新生物＜腫瘍＞ 合計	728	414	1,142

血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害（D50－D89）			
疾病中間分類名	男	女	合計
栄養性貧血（D50－D53）	12	13	25
溶血性貧血（D55－D59）	0	0	0
無形成性貧血及びその他の貧血（D60－D64）	2	4	6
凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態（D65－D69）	3	4	7
血液及び造血器のその他の疾患（D70－D77）	5	0	5
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 合計	22	21	43

内分泌、栄養及び代謝疾患（E00－E90）			
疾病中間分類名	男	女	合計
甲状腺障害（E00－E07）	1	5	6
糖尿病（E10－E14）	45	25	70
その他のグルコース調節及び膵内分泌障害（E15－E16）	2	4	6
その他の内分泌腺障害（E20－E35）	0	4	4
栄養失調（症）（E40－E46）	3	0	3
その他の栄養欠乏症（E50－E64）	2	0	2
代謝障害（E70－E90）	42	38	80
内分泌、栄養及び代謝疾患 合計	95	76	171

精神及び行動の障害（F00—F99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
症状性を含む器質性精神障害（F00—F09）	3	4	7
精神作用物質使用による精神及び行動の障害（F10—F19）	3	1	4
統合失調症，統合失調症性障害及び妄想性障害（F20—F29）	0	0	0
気分〔感情〕障害（F30—F39）	1	0	1
神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害（F40—F48）	1	0	1
精神及び行動の障害 合計	8	5	13

神経系の疾患（G00—G99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
中枢神経系の炎症性疾患（G00—G09）	2	4	6
錐体外路障害及び異常運動（G20—G26）	2	1	3
神経系のその他の変性疾患（G30—G32）	0	2	2
中枢神経系の脱髄疾患（G35—G37）	0	1	1
挿間性及び発作性障害（G40—G47）	88	37	125
神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害（G50—G59）	7	11	18
多発（性）ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害（G60—G64）	2	2	4
神経筋接合部及び筋の疾患（G70—G73）	1	0	1
脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群（G80—G83）	1	1	2
神経系のその他の障害（G90—G99）	4	3	7
神経系の疾患 合計	107	62	169

眼及び付属器の疾患（H00—H59）			
疾病中間分類名	男	女	合計
眼瞼，涙器及び眼窩の障害（H00—H06）	14	21	35
水晶体の障害（H25—H28）	59	39	98
脈絡膜及び網膜の傷害（H30—H36）	1	0	1
眼及び付属器の疾患 合計	74	60	134

耳及び乳様突起の疾患（H60—H95）			
疾病中間分類名	男	女	合計
中耳及び乳様突起の疾患（H65—H75）	0	0	0
内耳疾患（H80—H83）	5	19	24
耳のその他の障害（H90—H95）	0	1	1
耳及び乳様突起の疾患 合計	5	20	25

循環器系の疾患（I00—I99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
慢性リウマチ性心疾患（I05—I09）	0	0	0
高血圧性疾患（I10—I15）	7	2	9
虚血性心疾患（I20—I25）	194	42	236
肺性心疾患及び肺循環疾患（I26—I28）	3	5	8
その他の型の心疾患（I30—I52）	185	111	296
脳血管疾患（I60—I69）	218	137	355
動脈，細動脈及び毛細血管の疾患（I70—I79）	22	9	31
静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの（I80—I89）	16	12	28
循環器系のその他及び詳細不明の障害（I95—I99）	0	1	1
循環器系の疾患 合計	645	319	964

呼吸器系の疾患（J00—J99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
急性上気道感染症（J00—J06）	5	2	7
インフルエンザ及び肺炎（J09—J18）	93	73	166
その他の急性下気道感染症（J20—J22）	3	0	3
上気道のその他の疾患（J30—J39）	1	1	2
慢性下気道疾患（J40—J47）	30	16	46
外的因子による肺疾患（J60—J70）	52	18	70
主として間質を障害するその他の呼吸器疾患（J80—J84）	26	12	38
下気道の化膿性及びえ＜壊＞死性病態（J85—J86）	12	1	13
胸膜のその他の疾患（J90—J94）	50	13	63
呼吸器系のその他の疾患（J95—J99）	10	4	14
呼吸器系の疾患 合計	282	140	422

消化器系の疾患（K00—K93）			
疾病中間分類名	男	女	合計
口腔、唾液腺及び顎の疾患（K00—K14）	0	0	0
食道、胃及び十二指腸の疾患（K20—K31）	51	35	86
虫垂の疾患（K35—K38）	32	19	51
ヘルニア（K40—K46）	73	13	86
非感染性腸炎及び非感染性大腸炎（K50—K52）	3	6	9
腸のその他の疾患（K55—K64）	500	263	763
腹膜の疾患（K65—K67）	14	9	23
肝疾患（K70—K77）	37	22	59
胆のう＜嚢＞、胆管及び膵の障害（K80—K87）	190	130	320
消化器系のその他の疾患（K90—K93）	41	32	73
消化器系の疾患 合計	941	529	1,470

皮膚及び皮下組織の疾患（L00—L99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
皮膚及び皮下組織の感染症（L00—L08）	27	14	41
皮膚炎及び湿疹（L20—L30）	0	0	0
じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑（L50—L54）	1	3	4
皮膚及び皮下組織の放射線に関連する障害（L55—L59）	1	0	1
皮膚付属器の障害（L60—L75）	3	0	3
皮膚及び皮下組織のその他の障害（L80—L99）	7	10	17
皮膚及び皮下組織の疾患 合計	39	27	66

筋骨格系及び結合組織の疾患（M00—M99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
感染性関節障害（M00—M03）	0	1	1
炎症性多発性関節障害（M05—M14）	3	2	5
関節症（M15—M19）	11	31	42
その他の関節障害（M20—M25）	5	8	13
全身性結合組織障害（M30—M36）	8	0	8
変形性脊柱障害（M40—M43）	1	0	1
脊椎障害（M45—M49）	35	30	65
その他の脊柱障害（M50—M54）	22	14	36
筋障害（M60—M63）	3	3	6
滑膜及び腱の障害（M65—M68）	0	4	4
その他の軟部組織障害（M70—M79）	5	1	6
骨の密度及び構造の障害（M80—M85）	1	1	2
その他の骨障害（M86—M90）	2	4	6
筋骨格系及び結合組織のその他の障害（M95—M99）	1	2	3
筋骨格系及び結合組織の疾患 合計	97	101	198

腎尿路生殖器系の疾患（N00—N99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
糸球体疾患（N00—N08）	8	2	10
腎尿細管間質性疾患（N10—N16）	37	30	67
腎不全（N17—N19）	51	28	79
尿路結石症（N20—N23）	102	26	128
腎及び尿管のその他の障害（N25—N29）	5	1	6
尿路系のその他の疾患（N30—N39）	44	53	97
男性生殖器の疾患（N40—N51）	25	0	25
女性骨盤臓器の炎症性疾患（N70—N77）	0	2	2
女性生殖器の非炎症性障害（N80—N98）	0	3	3
腎尿路生殖器系その他の障害	0	0	0
腎尿路生殖器系の疾患 合計	272	145	417

先天奇形、変形及び染色体異常（Q00—Q99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
神経系の先天奇形（Q00—Q07）	0	1	1
目、耳、顔面及び頸部の先天奇形（Q10—Q18）	0	1	1
循環器系の先天奇形（Q00—Q07）	1	2	3
消化器系のその他の先天奇形（Q38—Q45）	0	1	1
腎尿路系の先天奇形（Q60—Q64）	3	2	5
その他の先天奇形（Q80—Q89）	0	1	1
先天奇形、変形及び染色体異常 合計	4	8	12

症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00－R99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候（R00－R09）	3	6	9
消化器系及び腹部に関する症状及び徴候（R10－R19）	21	12	33
神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候（R25－R29）	1	0	1
腎尿路系に関する症状及び徴候（R30－R39）	1	0	1
認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候（R40－R46）	12	8	20
全身症状及び徴候（R50－R69）	19	14	33
血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの（R70－R79）	2	0	2
尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの（R80－R89）	0	1	1
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 合計	59	41	100

損傷、中毒及びその他の外因の影響（S00－T98）			
疾病中間分類名	男	女	合計
頭部損傷（S00－S09）	90	55	145
頸部損傷（S10－S19）	11	4	15
胸部＜郭＞損傷（S20－S29）	19	13	32
腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷（S30－S39）	35	46	81
肩及び上腕の損傷（S40－S49）	61	39	100
肘及び前腕の損傷（S50－S59）	44	74	118
手首及び手の損傷（S60－S69）	20	4	24
股関節部及び大腿の損傷（S70－S79）	57	144	201
膝及び下腿の損傷（S80－S89）	60	38	98
足首及び足の損傷（S90－S99）	13	11	24
多部位の損傷（T00－T07）	3	4	7
部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷又は部位不明の損傷（T08－T14）	3	4	7
自然開口部からの異物侵入の作用（T15－T19）	1	1	2
熱傷及び腐食（T20－T32）	2	1	3
薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒（T36－T50）	2	6	8
薬用を主としない物質の毒作用（T51－T65）	2	2	4
外因のその他及び詳細不明の作用（T66－T78）	26	12	38
外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの（T80－T88）	46	26	72
損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症（T90－T98）	2	0	2
損傷，中毒及びその他の外因の影響 合計	497	484	981

特殊目的用コード（U00－U99）			
疾病中間分類名	男	女	合計
原因不明の新たな疾患又はエマージェンシーコードの暫定分類（U00－U49）	56	18	74
特殊目的用コード 合計	56	18	74

IV

1. 各科医師紹介（2023年1月1日～2023年12月31日）

【消化器科】

中野 敦史（なかの・あつし）

- （1）出身校 1986年3月 東海大学医学部卒
- （2）資格等 医学博士（東海大学），日本内科学会認定 認定内科医，日本消化器病学会認定 消化器病専門医・指導医，日本内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医・指導医，日本肝臓学会認定 肝臓専門医・指導医，日本ヘリコバクター学会認定 H.pylori（ピロリ菌）感染症認定医，ICD制度協議会認定 インフェクションコントロールドクター，日本化学療法学会認定 抗菌化学療法認定医，肝機能障害身体障害指定医，臨床研修指導医
- （3）専門領域 消化器（肝，胆）

玉置 道生（たまき・みちお）

- （1）出身校 2001年3月 徳島大学医学部卒
- （2）資格等 日本内科学会認定 総合内科専門医，日本消化器病認定 消化器病専門医，日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医，日本肝臓学会認定 肝臓専門医，日本医師会認定産業医，臨床研修指導医
- （3）専門領域 消化器疾患

川井 貴美子（かわい・きみこ）

- （1）出身校 2012年3月 浜松医科大学医学部卒
- （2）資格等 日本内科学会認定 認定内科医，日本消化器病学会認定 消化器病専門医，日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医，日本肝臓学会認定 肝臓専門医，ICD制度協議会認定 インフェクションコントロールドクター，日本化学療法学会認定 抗菌化学療法認定医，臨床研修指導医
- （3）専門領域 消化器内科

新井 圭一（あらい・けいいち）

- （1）出身校 2014年3月 近畿大学医学部卒
- （2）資格等 日本内科学会認定 認定内科医，日本消化器病学会認定 消化器病専門医，

日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医，日本肝臓学会認定 肝臓専門医，臨床研修指導医

(3) 専門領域 消化器内科

原 真太郎（はら・しんたろう）

(1) 出身校 2014 年 3 月 帝京大学医学部卒

(2) 資格等 日本内科学会認定 認定内科医，日本消化器病認定 消化器病専門医，日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医，日本肝臓学会認定 肝臓専門医

(3) 専門領域 消化器疾患

苗村 佑太（なむら・ゆうた）

(1) 出身校 2019 年 3 月 帝京大学医学部卒

(2) 専門領域 消化器内科

齋藤 剛（さいとう・こう）

(1) 出身校 2017 年 3 月 愛知医科大学医学部卒

(2) 専門領域 消化器内科

【循環器科】

北野 義和（きたの・よしかず）

(1) 出身校 1991 年 3 月 北里大学医学部卒

(2) 資格等 医学博士(北里大学)，日本内科学会認定 認定内科医，日本内科学会認定 総合内科専門医，日本循環器科学会認定 循環器専門医，心臓機能障害身体障害指定医，日本病院会認定 病院総合医，臨床研修指導医

(3) 専門領域 循環器内科

石川 征之（いしかわ・まさゆき）

(1) 出身校 2013 年 3 月 宮崎大学医学部卒

(2) 資格等 日本内科学会認定 認定内科医，日本心血管インターベンション治療学会認定 CVIT 認定医，日本循環器科学会認定 循環器専門医，心臓機能障害身体障害指定医，臨床研修指導医

(3) 専門領域 循環器内科一般，総合内科

石川 沙羅（いしかわ・さら）

- （１） 出身校 2013 年 3 月 宮崎大学医学部卒
- （２） 資格等 日本内科学会認定 認定内科医，日本心血管インターベンション治療学会認定 CVIT 認定医，日本循環器科学会認定 循環器専門医，心臓機能障害身体障害指定医，臨床研修指導医
- （３） 専門領域 循環器内科一般，総合内科

深井 翼（ふかい・つばさ）

- （１） 出身校 2015 年 3 月 センメルベイス大学医学部卒
- （２） 専門領域 循環器内科一般

神宮 裕太（しんぐう・ゆうた）

- （１） 出身校 2019 年 3 月 大分大学医学部卒
- （２） 専門領域 循環器内科一般

豊崎 礼（とよざき・れい）

- （１） 出身校 2021 年 3 月 北里大学医学部卒
- （２） 専門領域 循環器内科一般

【呼吸器科】

竹内 真吾（たけうち・しんご）

- （１） 出身校 2002 年 3 月 日本医科大学医学部卒
- （２） 資格等 医学博士（日本医科大学），日本外科学会認定 外科専門医，日本呼吸器外科学会認定 呼吸器外科専門医，日本がん治療認定医機構認定 がん治療認定医，肺がん CT 検診認定医，呼吸機能障害身体障害指定医，臨床研修指導医，緩和ケア講習会修了
- （３） 専門領域 呼吸器外科疾患全般，緩和ケア

【腎代謝内科】

富田 公夫（とみた・きみお）

- （１） 出身校 1973 年 3 月 東京医科歯科大学医学部卒
- （２） 資格等 医学博士（東京医科歯科大学），日本内科学会認定内科医，日本腎臓学会腎臓指導医・専門医，日本透析医学会透析指導医・専門医，じん臓機能障害身体障害指定医，臨床研修指導医，臨床検査管理医
- （３） 専門領域 腎臓内科，透析，高血圧

大山 聡子（おおやま・さとこ）

- （１） 出身校 2000 年 3 月 東京女子医科大学卒
- （２） 資格等 日本内科学会認定 認定内科医, 日本透析医学会認定 透析専門医・指導医、
日本腎臓学会認定 腎臓専門医・指導医, じん臓機能障害身体障害指定医,
日本医師会認定産業医, 臨床研修指導医
- （３） 専門領域 腎臓内科・透析

齋藤 快児（さいとう・かいじ）

- （１） 出身校 2010 年 3 月 福井大学医学部卒
- （２） 資格等 日本内科学会認定 認定内科医, 難病指定医, 臨床研修指導医
- （３） 専門領域 腎臓疾患・血液透析

堀 賢一郎（ほり・けんいちろう）

- （１） 出身校 2006 年 3 月 獨協医科大学医学部卒
- （２） 資格等 日本内科学会認定 総合内科専門医, 日本糖尿病学会認定 糖尿病専門医・
研修指導医, 日本内分泌学会認定 内分泌代謝専門医, じん臓機能障害身体
障害指定医, 臨床研修指導医
- （３） 専門領域 糖尿病・内分泌・腎臓

【外 科】

田澤 賢一（たざわ・けんいち）

- （１） 出身校 1993 年 3 月 富山医科薬科大学医学部卒
- （２） 資格等 医学博士（富山大学）, 日本外科学会認定 外科専門医, 日本消化器外科学
会認定 消化器外科専門医・指導医, 日本消化器内視鏡学会認定 消化器内
視鏡専門医・指導医, 日本消化器病学会認定 消化器病専門医・指導医,
日本乳癌学会認定 乳癌専門医・認定医, 日本内視鏡外科学技術認定医（一
般外科・ヘルニア領域）, 臨床研修指導医
- （３） 専門領域 消化器外科全般, 腹部救急, 腹腔鏡手術（胃・ヘルニア・胆嚢他）, 乳腺・
甲状腺, 肛門病変

高坂 佳宏（たかさか・よしひろ）

- （１） 出身校 1994 年 3 月 富山薬科医科大学医学部卒
- （２） 資格等 日本外科学会認定 外科専門医・指導医, 日本消化器外科学会認定 消化器
外科専門医・指導医, 肝機能障害身体障害指定医, 小腸肝機能障害身体障
害指定医, ぼうこう又は直腸機能障害身体障害指定医, 臨床研修指導医

- (3) 専門領域 消化器全般（特に消化管の腹腔鏡手術），総合的外科診療

神山 公希（かみやま・こうき）

- (1) 出身校 2001 年 3 月 富山医科薬科大学医学部卒
- (2) 資格等 医学博士（富山大学），日本外科学会認定 外科専門医，日本消化器外科学会認定 消化器外科専門医・消化器がん治療認定医，日本乳がん検診精度管理中央機構認定 検診マンモグラフィ読影認定医，日本腹部救急医学会認定 腹部救急認定医，日本がん治療認定医機構認定 がん治療認定医，日本病院会認定 病院総合医，肝機能障害身体障害指定医，小腸機能障害身体障害指定医，ぼうこう又は直腸機能障害身体障害指定医，臨床研修指導医
- (3) 専門領域 一般外科，消化器外科

山野 格寿（やまの・まさとし）

- (1) 出身校 2019 年 3 月 東京慈恵会医科大学医学部卒
- (2) 専門領域 一般外科

櫻井 太郎（さくらい・たろう）

- (1) 出身校 2019 年 3 月 富山大学医学部卒
- (2) 専門領域 一般外科

馬場 逸人（ばば・はやと）

- (1) 出身校 2015 年 3 月 富山大学医学部卒
- (2) 資格等 日本外科学会認定 外科専門医
- (3) 専門領域 一般外科

小檜山 亮介（こびやま・りょうすけ）

- (1) 出身校 2016 年 3 月 富山大学医学部卒
- (2) 資格等 日本外科学会認定 外科専門医
- (3) 専門領域 一般外科

【血管外科】

小島 淳夫（こじま・あつお）

- (1) 出身校 1990 年 3 月 山梨医科大学卒
- (2) 資格等 医学博士（山梨医科大学），日本外科学会認定 外科専門医・指導医、日本脈管学会認定 脈管専門医・研修指導医，日本血管外科学科認定 血管内治

療医、下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会認定 実施医・指導医，日本静脈学会認定 弾性ストッキング圧迫療法コンダクター，ICD 制度協議会認定 インфекションコントロールドクター，肢体不自由障害身体障害指定医，日本医師会認定 認定産業医，臨床研修指導医，血管外科症例検討会幹事，神奈川県臨床外科医学会評議員

(3) 専門領域 血管外科および一般外科

【乳腺外科】

日野 浩司（ひの・こうじ）

- (1) 出身校 1987 年 3 月 富山医科薬科大学医学部卒
- (2) 資格等 医学博士（富山医科薬科大学），日本外科学会認定 外科専門医・指導医，日本消化器外科学会認定 消化器外科認定医，日本乳癌学会認定 乳腺認定医，オンコプラスチックサージェリー学会認定 乳房再建実施医師，日本乳がん検診精度管理中央機構認定 検診マンモグラフィー読影認定医，日本病院総合診療医学会認定 認定医・指導医，日本病院会認定 病院総合医，日本専門医機構認定 総合診療専門研修特任指導医，日本医師会認定 認定産業医，臨床研修指導医
- (3) 専門領域 乳腺・甲状腺外科（内分泌外科），消化器外科，一般外科，緩和医療

鎌田 順道（かまた・ありみち）

- (1) 出身校 2009 年 3 月 山梨大学医学部卒
- (2) 資格等 日本外科学会認定 外科専門医，日本消化器外科学会認定 消化器外科専門医・指導医，日本乳癌学会認定 乳腺認定医・専門医，日本がん治療認定医機構認定 がん治療認定，日本消化器がん外科治療認定 消化器がん外科治療認定医，日本乳がん検診精度管理中央機構認定 検診マンモグラフィー読影認定医，日本乳がん検診精度管理中央機構認定 乳がん検診超音波実施・判定医師，オンコプラスチックサージェリー学会認定 乳房再建実施医師・責任医師，ぼうこう又は直腸機能障害・小腸機能障害身体障害指定医，臨床研修指導医
- (3) 専門領域 乳腺外科，一般消化器外科，化学療法

【緩和ケア内科】

飯田 哲士（いいだ・てつじ）

- (1) 出身校 2000 年 3 月 東海大学医学部卒
- (2) 資格等 日本産婦人科学会認定 産婦人科専門医・指導医, 日本婦人科腫瘍学会認定 婦人科腫瘍専門医・指導医, 日本臨床細胞学会認定 細胞診専門医, 日本がん治療認定医機構認定 がん治療認定医, 日本緩和医療学会認定 認定医, 臨床研修指導医
- (3) 専門領域 産婦人科腫瘍

【整形外科】

成尾 宗浩（なるお・むねひろ）

- (1) 出身校 2002 年 3 月 日本医科大学医学部卒
- (2) 資格等 医学博士（日本医科大学）, 日本整形外科学会認定 整形外科専門医, 肢体不自由障害身体障害指定医, 臨床研修指導医
- (3) 専門領域 肩関節, 膝関節, スポーツ整形外科, 四肢骨軟部外傷

中 正剛（なか・せいごう）

- (1) 出身校 2004 年 3 月 岐阜大学医学部卒
- (2) 資格等 日本整形外科学会認定 整形外科専門医, 肢体不自由障害身体障害指定医, 臨床研修指導医
- (3) 専門領域 整形外科一般

沼口 大輔（ぬまぐち・だいすけ）

- (1) 出身校 2006 年 3 月 東邦大学医学部卒
- (2) 資格等 日本整形外科学会認定 整形外科専門医, 日本整形外科学会認定 認定脊椎脊髄病医, 日本脊椎脊髄病学会認定 脊椎脊髄外科指導医
- (3) 専門領域 脊椎外科, 一般外傷

小田 虎賢（おだ・たけとし）

- (1) 出身校 2014 年 3 月 旭川医科大学医学部卒
- (2) 資格等 日本整形外科学会認定 整形外科専門医, 日本パラスポーツ協会公認 障がい者スポーツ医, 日本パラスポーツ協会公認 初級・中級障がい者スポーツ指導員, 日本医師会認定 認定産業医, 日本医師会認定 認定健康スポーツ医, 日本スポーツ協会公認 スポーツドクター, 日本陸上競技連盟公認 陸上競技コーチ 1
- (3) 専門領域 整形外科一般外傷, スポーツトレーニング

櫻井 太郎（さくらい・たろう）

- （１） 出身校 2018 年 3 月 山梨大学医学部卒
- （２） 専門領域 整形外科一般

山崎 和明（やまざき・かずあき）

- （１） 出身校 2017 年 3 月 日本大学医学部卒
- （２） 専門領域 整形外科一般

清水 岳大（しみず・たけひろ）

- （１） 出身校 2020 年 3 月 山梨大学医学部卒
- （２） 専門領域 整形外科一般

【脳神経外科】

鬼塚 圭一郎（おにつか・けいいちろう）

- （１） 出身校 1987 年 3 月 富山医科薬科大学医学部卒
- （２） 資格等 医学博士(富山医科薬科大学), 日本脳神経外科学会認定 脳神経外科専門医, 日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医・指導医, 日本脳卒中の外科学会認定 技術指導医, 日本脳神経血管内治療学会認定 脳血栓回収療法実施医, 肢体不自由障害身体障害指定医, 臨床研修指導医, 神奈川県救命情報システム救急指導医
- （３） 専門領域 脳卒中

西尾 陽一（にしお・よういち）

- （１） 出身校 1999 年 3 月 富山医科薬科大学医学部卒
- （２） 資格等 医学博士(富山医科薬科大学), 日本脳神経外科学会認定 脳神経外科専門医, 日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医, 肢体不自由障害身体障害指定医, 臨床研修指導医
- （３） 専門領域 脳血管障害, 頭部外傷

山崎 友也（やまざき・ともや）

- （１） 出身校 2001 年 3 月 北里大学医学部卒
- （２） 資格等 日本脳神経外科学会認定 脳神経外科専門医, 肢体不自由障害身体障害指定医, 臨床研修指導医
- （３） 専門領域 脳外科全般

【形成外科】

高梨 遼（たかなし・りょう）

- (1) 出身校 2013 年 3 月 杏林大学医学部卒
- (2) 資格 日本形成外科学会医認定 形成外科専門医，がん専門修練医（形成外科）修了，オンコプラスチックサージェリー学会認定 乳房再建責任医師，肢体不自由障害身体障害指定医，臨床研修指導医，杏林大学医学部臨床教育講師
- (3) 専門領域 形成外科一般，再建外科，マイクロサージェリー，顎顔面外科

竹江 雄貴（たけえ・ゆうき）

- (1) 出身校 2017 年 3 月 札幌医科大学医学部卒
- (2) 専門領域 形成外科一般

白水 夏実（しろうず・なつみ）

- (1) 出身校 2021 年 3 月 富山大学医学部卒
- (2) 専門領域 形成外科一般

比嘉 憲彦（ひが・のりひこ）

- (1) 出身校 2017 年 3 月 九州大学医学部卒
- (2) 専門領域 形成外科一般

草間 峻（くさま・しゅん）

- (1) 出身校 2018 年 3 月 杏林大学医学部卒
- (2) 専門領域 形成外科一般

【麻酔科】

岩倉 秀雅（いわくら・ひでまさ）

- (1) 出身校 1990 年 3 月 島根医科大学医学部卒
- (2) 資格等 厚生労働省麻酔科標榜医，日本専門医機構認定 麻酔科専門医，日本麻酔科学会認定 麻酔科指導医，臨床研修指導医
- (3) 専門領域 手術麻酔全般

福島 沙夜乃（ふくしま・さやの）

- (1) 出身校 2002 年 3 月 北里大学医学部卒
2011 年 9 月 北里大学大学院卒

- (2) 資格等 医学博士（北里大学），厚生労働省麻酔科標榜医，日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医
- (3) 専門領域 手術麻酔全般

樽本 義男（たるもと・よしお）

- (1) 出身校 2007 年 3 月 杏林大学医学部卒
- (2) 資格等 厚生労働省麻酔科標榜医，日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医
- (3) 専門領域 手術麻酔全般

岩岡 由紀子（いわおか・ゆきこ）

- (1) 出身校 2007 年 3 月 日本大学医学部卒
- (2) 資格等 日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医・指導医
- (3) 専門領域 手術麻酔

吉岡 征夫（よしおか・ゆきお）

- (1) 出身校 2009 年 3 月 東北大学医学部卒
- (2) 資格等 厚生労働省麻酔科標榜医，日本麻酔科学会認定 麻酔科指導医，日本専門医機構認定 麻酔科専門医，日本周術期経食道心エコー認定医，日本区域麻酔学会認定 指導医，臨床研修指導医
- (3) 専門領域 臨床麻酔，麻酔科学一般

中島 光（なかじま・ひかる）

- (1) 出身校 2011 年 3 月 山形大学医学部卒
- (2) 資格等 厚生労働省麻酔科標榜医，日本麻酔科学会認定 麻酔科認定医・専門医
- (3) 専門領域 手術麻酔，緩和ケア

金沢 幸雄（かなざわ・ゆきお）

- (1) 出身校 2013 年 3 月 北海道大学医学部卒
- (2) 資格等 厚生労働省麻酔科標榜医，日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医
- (3) 専門領域 手術麻酔全般

柴田 衛（しばた・まもる）

- (1) 出身校 2016 年 3 月 神戸大学医学部卒
- (2) 資格等 厚生労働省麻酔科標榜医，日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医
- (3) 専門領域 手術麻酔全般

鴨田 隆史（かもだ・たかし）

- （１） 出身校 2003 年 3 月 横浜市立大学医学部卒
- （２） 資格等 厚生労働省麻酔科標榜医，日本専門医機構認定 麻酔科専門医，
- （３） 専門領域 手術麻酔全般

【泌尿器科】

藤城 貴教（とうじょう・たかのり）

- （１） 出身校 1998 年 3 月 北里大学医学部卒
- （２） 資格等 日本泌尿器科学会認定 泌尿器科専門医・指導医，ぼうこう又は直腸機能障害身体障害指定医，臨床研修指導医
- （３） 専門領域 泌尿器科一般

羽田 理紗（はだ・りさ）

- （１） 出身校 2020 年 3 月 杏林大学医学部卒
- （２） 専門領域 泌尿器科一般

大森 朱和乃（おおもり・あやの）

- （１） 出身校 2018 年 3 月 弘前大学医学部卒
- （２） 専門領域 泌尿器科一般

【放射線科】

吉川 渉（よしかわ・わたる）

- （１） 出身校 1993 年 3 月 東京大学医学部卒
- （２） 資格 日本医学放射線学会認定 放射線診断専門医，臨床研修指導医
- （３） 専門領域 画像診断全般，腹部血管造影

阿部 敦（あべ・あつし）

- （１） 出身校 1996 年 3 月 千葉大学医学部卒
2002 年 3 月 東京大学大学院医学系研究科卒
- （２） 資格 医学博士（東京大学），日本医学放射線学会認定 放射線診断専門医・研修指導医，日本専門医機構認定 放射線科専門医，日本核医学会認定 核医学専門医・日本核医学会認定 PET 核医学認定医，臨床研修指導医、医療安全管理者
- （３） 専門領域 放射線診断学 特に神経放射線学，核医学 特に脳核医学

【救急総合診療科】

山下 巖（やました・いわお）

- (1) 出身校 1985 年 3 月 富山医科薬科大学医学部卒
1989 年 3 月 同上 大学院卒
- (2) 資格等 医学博士(富山医科薬科大学), 日本救急医学会認定 救急医学専門医, 日本外科学会認定 外科専門医・指導医, 日本消化器外科学会認定 消化器外科認定登録医・指導医, 日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医・指導医, 日本乳癌学会認定 乳腺認定医, 日本がん治療認定医機構認定 がん治療認定医, 日本病院総合診療医学会認定 指導医・病院総合診療医, ICD 制度境界認定 ICD インфекションコントロールドクター, 日本救急医学会認定 ICLS・BLS コースインストラクター・ディレクター, 肢体不自由障害身体障害指定医, 臨床研修指導医, 神奈川県病院協会理事, 厚木病院協会会長
- (3) 専門領域 消化器外科, 救急一般

安齋 明雅（あんざい・あきまさ）

- (1) 出身校 1998 年 3 月 杏林大学医学部卒
- (2) 資格等 厚生労働省麻酔科標榜医, 日本麻酔科学会認定 麻酔科認定医, 日本救急医学会認定 救急科専門医, 日本救急医学会認定 ICLS・BLS コースインストラクター, 肢体不自由障害身体障害指定医, 日本医師会認定産業医
- (3) 専門領域 臨床麻酔科一般

安西 秀聡（あんざい・ひであき）

- (1) 出身校 2000 年 3 月 弘前大学医学部卒
- (2) 資格等 日本内科学会認定 認定内科医, 日本消化器病学会認定 消化器病専門医・指導医, 日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医, 日本肝臓学会認定 肝臓専門医, 日本プライマリ・ケア連合学会認定 プライマリ・ケア指導医, 日本救急医学会認定 救急医学救急科専門医, 日本医師会認定産業医, 肢体不自由障害身体障害指定医, 臨床研修指導医, 日本病院会認定 病院総合医
- (3) 専門領域 消化器疾患全般

渡邊 奈月（わたなべ・なつき）

- (1) 出身校 2014 年 3 月 東海大学医学部卒
- (2) 資格等 日本外科学会認定 外科専門医, 厚生労働省麻酔科標榜医, 臨床研修指導医, 日本乳癌学会認定 乳腺認定医, 日本乳がん検診精度管理中央機構認

定 検診マンモグラフィー読影認定医

(3) 専門領域 救命救急全般

【病理】

加藤 優子（かとう・ゆうこ）

(1) 出身校 1988 年 3 月 東海大学医学部卒

1991 年 3 月 同上 大学院卒

(2) 資格 医学博士(東海大学), 死体解剖資格, 日本病理学会認定 病理専門医・
専門医研修指導医,

(3) 専門領域 病理診断学

【研修医】(2023 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日の期間)

青木 雄佑（あおき・ゆうすけ）

(1) 出身校 2022 年 3 月 帝京大学医学部卒

阿久津 壮（あくつ・そう）

(1) 出身校 2021 年 3 月 山梨大学医学部卒

渥美 優（あつみ・ゆう）

(1) 出身校 2023 年 3 月 東海大学医学部卒

安藤 武俊（あんどう・たけとし）

(1) 出身校 2022 年 3 月 東海大学医学部卒

上埜 秀治（うえの・しゅうじ）

(1) 出身校 2022 年 3 月 島根大学医学部卒

浦 綾仁（うら・あやと）

(1) 出身校 2023 年 3 月 富山大学医学部卒

浦田 雄太朗（うらだ・ゆうたろう）

(1) 出身校 2022 年 3 月 富山大学医学部卒

大久保 絵子（おおくぼ・えこ）

（１） 出身校 2022 年 3 月 東京医科大学医学部卒

小河内 康弘（おがわうち・やすひろ）

（１） 出身校 2023 年 3 月 山梨大学医学部卒

小沢 拓海（おざわ・たくみ）

（１） 出身校 2022 年 3 月 東邦大学医学部卒

小原 美奈（おばら・みな）

（１） 出身校 2021 年 3 月 岩手医科大学医学部卒

垣内 章江（かきうち・あきえ）

（１） 出身校 2021 年 3 月 弘前大学医学部卒

加藤 雄一郎（かとう・ゆういちろう）

（１） 出身校 2021 年 3 月 高知大学医学部卒

門松 沙織里（かどまつ・さおり）

（１） 出身校 2023 年 3 月 新潟大学医学部卒

関川 洋太郎（せきがわ・ようたろう）

（１） 出身校 2021 年 3 月 東海大学医学部卒

椿野 瑞希（つばきの・みずき）

（１） 出身校 2023 年 3 月 東京女子医科大学医学部卒

廣畑 愛（ひろはた・あい）

（１） 出身校 2021 年 3 月 九州大学医学部卒

松井 晶（まつい・あき）

（１） 出身校 2022 年 3 月 北里大学医学部卒

松岡 慶悟（まつおか・けいご）

（１） 出身校 2023 年 3 月 北里大学医学部卒

宮崎 紘慶（みやざき・ひろちか）

(1) 出身校 2022 年 3 月 東海大学医学部卒

三好 由（みよし・ゆう）

(1) 出身校 2021 年 3 月 東海大学医学部卒

森 健太郎（もり・けんたろう）

(1) 出身校 2022 年 3 月 山梨大学医学部卒

山本 優輝（やまもと・ゆうき）

(1) 出身校 2023 年 3 月 国際医療福祉大学医学部卒

2. 各科診療現況

消化器内科

1. 概 要

消化器内科では、上部消化管（食道、胃、十二指腸）から下部消化管（小腸、大腸）に至る管腔臓器と、肝臓、胆嚢、膵臓等の実質臓器の疾患を扱っています。

2. スタッフ構成

医師：玉置 道生
川井 貴美子
新井 圭一
原 真太郎
苗村 佑太

3. 活動内容

2023 年の内視鏡件数は、上部 4,182 件（前年+335）、ESD 43 件（前年+18）、下部 2,813 件（前年+439）、EMR 569 件（前年+83）、ERCP 265 件（前年+17）、EUS 379 件（前年+83）といずれも増加しました。

当院に常備していない処置具を要する症例に対しても、メーカーからの短期貸し出しで専用処置具（電気水圧結石破碎装置：EHL）や専用内視鏡（小腸鏡、胆道鏡）を取り寄せて、術後腸管症例のドレナージや膵石症例に対応しました。

全国的に増加傾向の膵臓癌に関しては、超音波内視鏡下穿刺吸引生検法（EUS-FNA）を積極的にを行い、早期発見早期治療を目指して取り組んでいます。また、経皮的に生検が困難な肝腫瘍やリンパ節腫瘍に対しても EUS-FNA は有用であり、診療科を越えた活用を行っています。

肝臓癌に対しても、外科的加療の適応がない症例に対しては、RFA による局所焼灼治療のほか、放射線科に TACE を依頼して対応しています。

（文責 玉置 道生）

循環器科

1. 概要

- (1) 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）に対するカテーテル検査・治療
：冠動脈造影検査・経皮的冠動脈インターベンション
- (2) 不整脈に対するカテーテル検査・治療
：心臓電気生理検査・カテーテルアブレーション（心房細動に対するカテーテルアブレーション含む）
- (3) 下肢閉塞性動脈硬化症などの末梢動脈疾患に対してのカテーテル治療
：経皮的末梢動脈インターベンション
- (4) 各種原因による心不全（弁膜症、高血圧疾患、拡張型心筋症などの心筋疾患）の検査・治療
- (5) そのほかの循環器疾患の検査・治療

2. スタッフ構成

常勤医師	北野 義和	
	石川 征之	
	石川 沙羅	
	深井 翼	
	豊崎 礼	：北里大学医学部循環器科より出向

非常勤医師	薄葉 文彦
	沖 淳義
	佐藤 陽
	高野 誠

3. 活動内容

昨年は、いよいよ新型コロナウイルス感染症が 5 類になり、世間一般が従来の生活を取り戻すようになったため、医療情勢にも変化が出てきました。新型コロナウイルス感染症であるかどうかということは問題ではなく、基礎疾患の病状や全身状態が重要であるため、もちろん病院としての感染対策は必要であるものの、救急医療体制にも大きな影響がありました。まだニューノーマルとしての体制が整ったとはいえませんが、徐々に形作られていくものと考えます。

さて、当院にもその影響はあり、循環器的には、すべての検査・治療実績が増加傾向となっています。待機的 PCI、緊急 PCI とともに増加し、PCI 総数にも大きく増加傾向が認められます。しかし、この結果は増加したというよりは、むしろコロナ渦前の状態に戻りつつある結果であると考えます。ただし、心房細動に対するカテーテルアブレーション（PVABL）だけは、治療枠をそれまでの週 1 から週 2 へと増やした結果の増数です。今後も地域の要望に応えられるよう維持していきたいと考えております。また、昨年度より北里大学医学部 循環器科より正式に出向してもらえるようになり、いよいよ、お互いに連携を取っていくよう

な体制となりました。今後もさらに充実した循環器チームとして飛躍し、地域における基幹病院として精進していきたいと思ひます。

昨年（2023 年）の検査・治療実績（2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

心臓エコー検査	3,435 件	(+8%)
内 経食道エコー	84 件	(+56%)
ホルター心電図検査	430 件	(+10%)
内 イベントレコーダー	52 件	(+15%)
トレッドミル運動負荷検査	12 件	
冠動脈 CT 検査による冠動脈造影検査 (MDCT-CAG)	318 件	(+14%)
カテーテル検査による冠動脈造影検査 (CAG)	305 件	(+13%)
カテーテル治療		
経皮的冠動脈インターベンション (PCI)	146 件	(+28%)
内 緊急 PCI	59 件	(+31%)
経皮的末梢動脈インターベンション (PPI)	10 件	
心臓電気生理検査 (EPS) /カテーテルアブレーション (ABL)	100 件	(+85%)
内 心房細動アブレーション (PVABL)	81 件	(+56%)
ペースメーカー植え込み術	26 件	(±0%)
内 ジェネレーター(電池)交換	7 件	

今後は “with コロナ” でのニューノーマル医療体制が整っていくものと思われまひます。本年度もこれまひで同様、質の高い循環器医療を提供できるように努力していきたいと思ひます。

(文責 北野 義和)

呼吸器科

1. 概 要

呼吸器科では肺癌を中心とした呼吸器疾患を内科・外科の区別なく診療しています。

外来は高橋医師、正津医師、杉山医師と竹内が診療に当たり、入院は竹内が担当しています。

対応疾患としては肺腫瘍、気胸、膿胸、縦隔腫瘍、胸膜疾患、間質性肺炎・COPDの急性増悪などです。治療内容としては、悪性疾患では手術・気管支鏡・抗がん薬治療・放射線治療・緩和ケアを行い、また、肺炎や膿胸などの良性疾患では薬物療法を主体として時に手術など幅広い治療選択を行っています。

肺癌の薬物療法では遺伝子変異検索を行い、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬を、従来の抗がん薬治療と組み合わせてエビデンスに則った治療を行っています。

2. 活動内容

2023年の手術症例数は、肺癌26例・気胸19例・その他13例で合計58件でした。また、2023年の日本呼吸器外科学会総会でポスター発表を行いました。

2024年は、がん診療連携指定病院の更新を目標に肺癌を中心に診療していきます。呼吸器外科専門医1名体制ですが、今後も安全を担保しながら徐々に診療患者数を増やしていこうと考えています。

(文責 竹内 真吾)

腎臓代謝内科

1. 概要

腎疾患（急性腎不全 慢性腎不全など）や血液浄化を必要とする疾患など、幅広い領域の治療を行いました。

2. スタッフ構成

医師 富田 公夫（名誉院長）
医師 田村 博之（とうめい綾瀬腎クリニック院長）
医師 平出 聡（東名厚木病院 外来透析室室長）
医師 大山 聡子（透析センター長 腎臓内科科長）

3. 活動内容

■腎臓内科

- ・腎臓内科新患者外来日を増やし、多くの紹介患者を受け入れられるようにしました。
- ・他院から尿蛋白・腎機能障害精査目的に紹介される症例が増えました。（腎生検件数後述）
- ・尿蛋白・腎機能障害の原因精査目的に腎生検を施行し治療を行いました
- ・他科に入院中の患者に、腎機能をふくめた全身管理でサポートを行いました。

【年間腎生検患者数】

2019 年 3 件 2020 年 8 件 2021 年 14 件 2022 年 10 件 2023 年 12 名

■透析科

- ・病床数：外来 52 床 入院 5 床
- ・稼働時間：月水金 8：30-22：00 火木土 8：30-19：00 ＊出張透析は別枠時間
- ・通院透析患者数：138 名

【実績】

	2021 年	2022 年	2023 年
●導入者数	19 名	16 名	26 名
●他院から転医した数	11 名	10 名	14 名
●転院者数	10 名	14 名	11 名
●外来通院患者総数（最大値）	135 名	131 名	140 名
●透析患者死亡者数	10 名	20 名	20 名
●腹膜透析患者	3 名	5 名	3 名

（文責 大山 聡子）

糖尿病・代謝内科

1. 概 要

糖尿病を中心とした代謝疾患、内分泌疾患の診断治療

2. スタッフ構成

堀 賢一郎

3. 活動内容

糖尿病・代謝内科は2016年8月、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、MSW、事務職とともに糖尿病チームを結成し、毎月のチーム会議を通じて、病院・クリニックの糖尿病診療・療養指導体制の構築・改善活動を行ってきました。

クリニックでは、2017年度から糖尿病療養指導士および専任看護師が糖尿病外来に常駐し、自己注射・血糖測定、フットケア、セルフケア指導、シックデイ時の相談等を行う体制ができました。2018年度からは、医療クラークも業務効率化に参画し、医師が本来の役割に注力できるようになりました。診療技術面では、持続皮下インスリン注入療法（CSII）や持続グルコース測定器（isCGM/rtCGM）を取り入れ、無自覚低血糖など血糖管理困難例のコントロールが向上しています。

病院では、クリニック、救急外来、地域から患者さんが入院され、眼科・透析センター・形成外科・循環器科・血管外科・脳外科・外科等の診療科と協力して、糖尿病コントロール、急性・慢性合併症の診断・治療、化学療法・免疫チェックポイント阻害薬使用時の併診を行っています。毎週病棟で多職種カンファレンスを行い、患者さん一人一人の課題共有・方針決定・役割分担を行うことで、きめ細かい治療・ケアが行えるようになってきています。他科からの依頼を受け周術期等の血糖管理を担当する際は、入院期間が許せば、低血糖回避など安全の観点で入院前処方を変更し治療を最適化しています。2022年4月より常勤医一人体制となりました。引き続き入院および外来診療の受け入れを行っています。治療方針が定まり病状が安定された患者さんは地域の先生方に治療の継続をお願いしています。ここ数年新型コロナウイルス感染症の流行で、外来糖尿病教室は開催できていませんでしたが、2023年11月16日世界糖尿病デーに合わせ、クリニックで糖尿病の啓発、知識の普及のため第5回外来糖尿病教室開催し、多数の参加がありました。

糖尿病の治療や療養指導の進歩・発展はすさまじく、教育資材の見直し、スタッフの教育を行い、病院全体のチーム医療を通して、より良い医療が提供できるように努めています。

（文責 堀 賢一郎）

慢性腎臓病研究所

1. 概 要

尿に血液や蛋白がでる慢性腎炎だけでなく、腎臓の血液を濾過する血管が詰まって機能が低下した状態を含めた広い腎障害をいいます。今までのよく使われていた病名の腎炎や、糖尿病、膠原病、高血圧などによる腎臓の障害だけでなく、加齢などによる動脈硬化などで腎機能が低下した場合も含まれるため、現在の日本人ではおよそ 1,300 万人いると推測されている国民的な病気です。推算糸球体濾過量（eGFR） $60\text{ml/ml/min/1.73m}^2$ 未満がこの範疇に入ります。活動性の腎炎では病態を正確に把握するために腎生検による評価が大切になります。eGFR が $10\text{ml/ml/min/1.73m}^2$ 以下になると、腹膜透析・血液透析や腎移植が必要になりますが、それ以上に怖いのは心血管病の発生率が指数関数的に増えていくことにあります。腎機能が悪くならないように早め早めに治療をしていくことが大切です。

腎機能が徐々に進行して、透析療法が必要になった場合でも、適切に治療することにより、心血管合併症を抑制できますし、骨病変の進行を阻止することも可能です。

腎機能の進行阻止、および骨・心血管合併症の予防・治療を研究する事を目的としています。

2. スタッフ構成

富田 公夫

田村 博之

大山 聡子

村本 将俊

堀 賢一郎

齋藤 快児

張 杰

3. 活動内容

進んでしまった腎障害を元に戻すことは簡単ではありませんが、薬により蛋白尿を減らし、腎機能を改善することが可能になってきています。また、腎炎の軽い時期に見つかれば治療により腎炎がほとんど治ってしまうこともあります。障害が進んでから治療するよりも、障害が軽度のうちに治療する方が治癒しやすいことは当然のことです。また、透析療法を受けている患者さんにおいては、よりよい生命予後のためにどのような治療をしていったら良いのかについての臨床研究をして、広く学会に報告しています。

（文責 富田 公夫）

消化器外科

1. 概 要

腹部疾患の外科的診療を中心に診療を行っています。消化器癌（特に食道、胃、脾臓、胆管、大腸）に対し、外科手術、とくに腹腔鏡下手術を中心に標準治療を基盤とした症例に応じた治療を行っております。消化器癌化学療法も積極的に行い、カンサーボード（月 1 回開催）、消化器内科、放射線治療科、緩和ケア内科との連携のもとに、緩和治療も含めた集学的治療を行っております。腹部救急疾患に対しては、救命第一として手術を含めた集中治療を行っております。

2. スタッフ構成

田澤 賢一

神山 公希

高坂 佳宏

櫻井 太郎

3. 手術 2023 年

手術件数 399 例（緊急手術 86 例）

全身麻酔 343 例

胃癌 15 例（10 例が鏡視下手術）

大腸癌 58 例（33 例が鏡視下手術）

胆嚢癌 2 例（全例開腹手術）

虫垂切除 35 例（35 例が鏡視下手術）

鼠径ヘルニア 65 例（36 例が鏡視下手術）

胆嚢結石症 67 例（59 例が鏡視下手術）

（文責 田澤 賢一）

整形外科

1. 概 要

東京女子医科大学整形外科より 4 名の派遣医師が常勤医として、病院での診療にあたっております。今年度は成尾、中、沼口、小田、櫻井の計 5 名の常勤医体制となりました。例年通り、救急搬送される外傷患者さんを中心に診療を行い、脊椎、人工関節、関節鏡手術症例は徐々に増加傾向にあります。

内視鏡手術（肩腱板断裂・脱臼、膝・足関節靱帯再建）、骨切り手術（膝・足）、人工関節手術（肩、膝）を成尾が行い、直視下脊椎手術を沼口医師、内視鏡を中心とした脊椎手術を非常勤和田医師、人工股関節手術を宗像医師、足の外科および外傷を非常勤竹内医師、整形外科全般の四肢外傷を中、小田、櫻井医師が行いました。

2. スタッフ構成

常勤医師	成尾 宗浩	（肩関節、膝関節、足関節）
	中 正剛	（重度四肢外傷）
	沼口 大輔	（脊椎外科）
	小田 虎賢	（四肢外傷、スポーツ外傷）
	櫻井 太郎	（四肢外傷）
非常勤医師	宗像 裕太郎	（火曜：関節外科とくに股関節外科）
	只野 功	（火曜、水曜）
	竹内 賢一、東京女子医科大学派遣医師	（水曜日）
	和田 啓義	（木曜：脊椎外科）
	山口 裕、東京女子医科大学派遣医師	（木曜）
	東京女子医科大学派遣医師	（金曜）
	夏山 元伸	（土曜：スポーツ整形）

3. 活動内容

当院整形外科手術の内訳は、骨軟部腫瘍を除いて大きく三つの分野に分かれます。

①外傷 ②関節外科 ③脊椎外科 の 2023 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日までの件数は、以下の通りです。

外傷	313 例
関節外科	65 例
脊椎外科	42 例
局麻手術	29 例

その他	49 例
合計	798 例

外傷については、ここ数年と同様、高齢者の大腿骨近位部骨折（頸部骨折、転子間骨折など）が多い傾向でした。関節、脊椎の手術においては、高齢の患者さんのみならず活動性の高い若年層の再建手術も増えてまいりました。頻度の高い疾患に対しより安全で侵襲の少ない治療を心がけています。

（文責 成尾 宗浩）

脳神経外科

1. 概 要

急性期脳卒中、頭部外傷を中心にてんかん重積、脳腫瘍、髄膜炎等の診療を行いました。

2. スタッフ構成

鬼塚 圭一郎、西尾 陽一、山崎 友也の脳神経外科専門医 3 名で診療を行いました。

とうめい厚木クリニックでの外来診察は火曜、金曜、土曜の第 1、3、5 週を鬼塚 圭一郎、金曜を西尾 陽一、木曜、土曜第 2、4 週を山崎 友也が担当しました。

救急症例では脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳卒中、および頭部外傷の急性期が主でした。頭部 CT、MRI、造影検査等を行い、超急性期脳梗塞に対し t-PA 投与、経皮的脳血栓回収術、脳出血、くも膜下出血に対しては開頭術を 24 時間できる体制をとってきました。

3. 活動内容

入院患者数	430 例
脳卒中入院患者数	244 例
脳梗塞 148 例（t-PA 使用 18 例）、脳出血 77 例、くも膜下出血 19 例	

手術症例 99 例

脳動脈瘤クリッピング術	13 例
脳動脈瘤トラッピング術	2 例
脳腫瘍	4 例
硬膜動静脈瘻塞栓術	3 例
頸動脈血栓内膜剥離術	2 例
頸動脈ステント留置術	4 例
頭蓋内外動脈バイパス術	1 例
脳内出血	6 例
急性硬膜外下血腫	2 例
慢性硬膜下血腫	34 例
水頭症手術	2 例
経皮的脳血栓回収術	4 例
その他	19 例

（文責 鬼塚 圭一郎）

血管外科

1. 概 要

血管疾患の外科治療だけでなく、院内の脈管疾患全般を診るよう心がけています。

2. スタッフ構成

小島 淳夫

3. 活動内容

大動脈疾患、閉塞性動脈硬化症などの末梢動脈疾患、下肢静脈瘤、静脈血栓塞栓症などの診療を行い、腎臓内科と共に血液透析のバスキュラーアクセスの評価や手術にも携わっています。検査診断から手術、血管内治療、保存治療まで一貫して行っていますが、大動脈疾患の外科的治療は人的、施設的な問題から経過観察や保存的治療のみとなっています。バスキュラーラボとして独立していないものの、血圧脈波、皮膚灌流圧、血管エコー、CTA、MRA、血管撮影など検査機器は十分に整っており、「弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター」や「血管診療技師：CVT」の有資格者と共に、脈管疾患全体を診ることができます。下肢静脈瘤手術は高周波による血管内焼灼術と stab avulsion 法による瘤切除術を主体に行っていますが、本年からシアノアクリレートによる塞栓術も開始しました。

その他外科系学会が運営しているデータベース NCD、重症虚血肢のデータベース JCLIMB、静脈血栓塞栓症に関する多施設共同研究への参加などを通じて、脈管疾患に関するエビデンス構築にも協力しています。

2023 年血管外科手術検査件数（2023 年 1 月～2023 年 12 月）

末梢血管手術	9 例
バスキュラーアクセス	213 例（PTA 134 例）
下肢静脈瘤	14 例
血管造影・血管内治療	3 例
血管エコー	1,649 例
血圧脈波（ABI）	247 例
皮膚灌流圧（SPP）	14 例

（文責 小島 淳夫）

乳腺外科

1. 概 要

乳癌検診から診断、手術、薬物療法、緩和ケアまで広い範囲の治療を提供しています。初期治療はもちろんのこと、転移再発患者に対する治療にも力を入れております。

2. スタッフ構成

日野 浩司

鎌田 順道

黒田 貴子（非常勤）

水野 万里（非常勤）

3. 活動内容

2019 年に現在の診療体制になり、5 年が経過しました。この間に乳癌患者の手術数、化学療法数は大幅に増やすことができ、また病院としても「神奈川県がん診療連携指定病院」の指定を受けることができました。関係している皆さんのご協力に感謝いたします。

2021 年から形成外科と協力してスタートさせた乳房 1 次再建手術は、トラブルなく手術数を増やしております。また近年、免疫チェックポイント阻害薬も併用した乳がんの化学療法を開始しました。思わぬ有害事象に遭遇しながらも、内科の先生のご協力もあって無事に治療を遂行できています。

乳がん治療はチーム医療が欠かせない分野です。当院は医師以外にもがん治療の知識をもったメディカルスタッフが多くおります。他職種との連携も重視しつつ診療に取り組んでまいります。

2023 年（1～12 月） 手術数 97 例

内訳 乳腺悪性腫瘍手術 90 例

乳腺良性腫瘍手術 6 例

その他 1 例

悪性腫瘍手術(91 乳房)のうち 乳房全切除 60 例

(うち 1 次再建を伴うもの 10 例)

乳房部分切除 31 例

(文責 鎌田 順道)

緩和ケア内科

1. 概 要

緩和ケアを必要とする患者さん、ご家族に対して、全人的な緩和ケアの提供

対応疾患

院内外より紹介された全てのがん

対応状況

- ・緩和ケア外来の運用
- ・緩和ケア病棟の運用、管理
- ・緊急外来対応
- ・訪問診療医及び訪問看護ステーションとの連携
- ・緩和ケアチーム活動
- ・緩和ケア研修会の開催（2023 年 12 月 2 日）

2. スタッフ構成

飯田 哲士（緩和医療認定医）

高瀬 由佳（がん性疼痛認定看護師・がん看護専門看護師）、

緩和ケアチーム：がん総合外来担当看護師、病棟看護師、在宅調整担当看護師、薬剤師、
ソーシャルワーカー、管理栄養士、リハビリ担当者、病院総務担当

3. 診療・活動内容

緩和ケア外来：毎週月・木曜日 9：00～16：00 飯田 哲士医師

- ・他医療機関からの紹介患者の受け入れ
- ・緩和ケア病棟入院へのリエゾン
- ・定期通院による症状緩和
- ・在宅療養のためのサービスの支援

緩和ケア病棟

- ・他院からの直接転院
- ・他医療機関からの紹介患者の入院対応
- ・レスパイト対応

緊急外来

- ・外来通院中・他院通院中の患者さんの状況悪化時の対応

訪問診療医及び訪問看護ステーションとの連携

緩和ケアチーム活動

- ・ 毎週木曜日に病棟ラウンド及び勉強会を開催
- ・ 主に、緩和ケアチーム依頼を受けた患者へ対応
- ・ がん性疼痛認定看護師・がん看護専門看護師によるカンファレンス
- ・ 緩和ケア内科入院患者カンファレンス

(文責 飯田 哲士)

形成外科

1. 概 要

形成外科では市内唯一の常勤体制の施設として地域医療に貢献するため、緊急手術や入院加療が必要な症例を積極的に受け入れています。疾患としては、顔面外傷(顔面骨骨折、眼瞼、鼻、耳、口唇の軟部組織損傷)、手足の外傷(切断指再接着、手指・足趾骨の骨折、腱・神経・血管損傷)の外傷による組織損傷、皮膚・皮下腫瘍、軟部腫瘍に対する外科的治療、副乳や耳瘻孔、耳介形成不全などの先天性疾患、褥瘡や糖尿病性足壊疽をはじめとする難治性皮膚潰瘍、乳癌などの悪性腫瘍切除後または外傷後の組織再建、それに付随するリンパ浮腫治療を扱っております。また、とうめい厚木クリニックにおいて2019年に再開した美容外科診療も引き続き行っています。

2. スタッフ構成

常勤医師 高梨 遼

竹江 雄貴

白水 夏実

非常勤医師 朝戸 裕貴

獨協医科大学医学部形成外科学講座教授

白石 知大

杏林大学医学部形成外科 助教

3. 活動内容

形成外科は、病院手術室では月・金曜日に、小規模な手術はクリニック手術室で月曜日から金曜日の午後に行っています。

① 外傷

救急外来の患者さんを積極的に受け入れています。切断指は周辺地域でも数少ない対応可能な施設として、遠方からの転院要請も多く、御殿場など県外の病院からの要請も受け入れ治療しています。また顔面骨骨折も多発骨折など難しい症例に対しても積極的に手術加療を行っています。上顎、下顎骨折ともに対応可能です。外傷後の外鼻変形に対する手術も行っております。

② 先天異常

小児科や小児麻酔の問題から症例は限られますが、成人の方や未成年でも局麻で対応可能の方は積極的に対応しています。

③ 腫瘍

例年、良性腫瘍・悪性腫瘍ともに多数の症例を治療しています。2021年度より乳房再建を開始しました。当院ではマイクロサージャリーによる遊離皮弁や、有茎皮弁を用い

た自家組織、インプラントともに可能です。選択肢としては大学病院にもひけをとらないと思います。お気軽にご相談下さい。

④ 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド

手術による瘢痕拘縮解除や術後放射線照射によるケロイド治療を行っています。
注射や貼付剤など手術以外の治療も行っています。

⑤ 難治性潰瘍

高齢化に伴い、症例は年々増加傾向にあります。当科では積極的に褥瘡の受け入れを行っており、県内でも屈指の手術症例数となっています。ただ褥瘡及び下肢潰瘍の治療に難渋し長期間の入院となる症例もあるため、他科医師だけでなく、コメディカルとも協力をしながら治療成績・入院期間の短縮を目指していきます。

⑥ 炎症・変性疾患

眼瞼下垂症の手術を積極的に行っています。また下眼瞼の内反症に対する手術も増加しております。他院での術後症例も含めて気軽にご相談下さい。こちらも高齢化の影響で引き続き増加することが予想されます。また、他院で顔面神経麻痺と診断された患者様の再建も行っております。マイクロサージャリーによる広背筋皮弁移植も可能です。ご相談下さい。

⑦ 美容

2019年からのほくろ、いぼに対するレーザー治療は継続的に行っております。2022年より、埋没法による二重術、下瞼のたるみに対する脂肪除去を開始し、多くの患者様が受診しておりますので、是非ご相談下さい。

(文責 高梨 遼)

泌尿器科

1. 概 要

平成 23 年より東名厚木病院の泌尿器科常勤医師が不在でしたが、平成 25 年 4 月より常勤医のほか、北里大学よりそれぞれの専門科の先生をお招きし、専門的治療ができるように設備を整えております。また、2016 年 4 月より常勤医が黒坂に代わり藤城が赴任し 7 年が経過いたしました。さらには 2019 年 11 月より北里大学より常勤医師を派遣いただき 2 人体制となっております。本年の 4 月より前任の大森医師に代わり羽田医師が着任となっております。

受け持つ疾患は、尿路悪性腫瘍（前立腺癌、腎癌、膀胱癌）および良性疾患（前立腺肥大症、尿路結石、過活動膀胱、神経因性膀胱、尿路感染症）を扱っております。

本年の新たな取り組みといたしましては、前立腺癌に対する放射線治療における直腸毒性の低減を目的とした経会陰的放射線治療材料注入術（space OAR®）を開始いたしました。

診断・治療・フォローアップいずれにつきましても、患者さん・ご家族様とのインフォームド・コンセントを大事に行ってまいりました。

2. スタッフ構成

常勤医師 藤城 貴教
羽田 理紗

非常勤医師 岩村 正嗣（火曜日午前）
松本 和将（金曜日午前）

3. 活動内容

2023 年の手術及び検査件数

経尿道的前立腺切除術	12 例
経尿道的膀胱腫瘍切除術	35 例
経尿道的尿管結石碎石術	45 例
体外衝撃波結石碎石術	66 例
腎尿管摘除術・膀胱部分切除術（腹腔鏡下）	2 例
逆行性腎盂造影検査（尿管ステント含む）	36 例
経皮的腎瘻造設術	1 例
前立腺針生検術	137 例
陰嚢水腫根治術	5 例
経会陰的放射線治療材料注入	7 例

（文責 藤城 貴教）

麻酔科

1. 概 要

麻酔科は手術室での全身麻酔、硬膜外・脊髄クモ膜下麻酔、神経ブロックなどの麻酔科管理症例を担当し、安全かつ迅速に手術が遂行できるような環境を提供しています。手術室麻酔以外にも、外来での術前診察、術後管理を含んだ総合診療、ペインクリニックも行っています。

2. スタッフ構成

岩倉 秀雅 （常勤：日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医）
福島 沙夜乃（非常勤：日本麻酔科学会認定麻酔科専門医）
樽本 義男 （非常勤：日本麻酔科学会認定麻酔科専門医）
岩岡 由紀子（非常勤：日本専門医機構認定麻酔科専門医）
吉岡 征夫 （非常勤：日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医）
中島 光 （非常勤：日本麻酔科学会認定麻酔科専門医）
金沢 幸雄 （非常勤：日本麻酔科学会認定麻酔科専門医）
柴田 衛 （非常勤：日本専門医機構認定麻酔科専門医）
河野 昌史 （麻酔科診療アドバイザー、とうめい厚木クリニック院長、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医）
その他、定期非常勤勤務医師 3 名

3. 活動内容

2023 年度は全身麻酔 1,508 例、硬膜外・脊髄クモ膜下・その他麻酔 10 例の計 1,518 例の麻酔管理をしました。近年、手術後速やかな麻酔鎮静作用の消失が可能となる超短時間作用型ベンゾジアゼピン系静脈麻酔薬 アネレムを最大限活用し、高齢者や循環動態の不安定な症例に対しても一層安全な麻酔管理を行えるようになりました。麻酔科は 24 時間、365 日緊急手術に対応しております。本年も 80 歳以上の高齢者の割合がさらに増加し麻酔管理は難度を高めておりますが、術後鎮痛、モニター管理を徹底し、術後合併症を併発することなく安全な周術期を経過できるよう努めております。

（文責 岩倉 秀雅）

放射線診断科

1. 概 要

画像診断（CT・MRI）

血管造影（TAE・消化管出血に対する動脈コイル塞栓術）

2. スタッフ構成

阿部 敦

吉川 渉

3. 活動内容

読影件数 2023 年 1 月－2023 年 12 月

CT 11,001 件

MRI 1,592 件

血管造影件数 2023 年 1 月－2023 年 12 月

TAE 5 件

消化管出血に対する動脈コイル塞栓術 1 件

（文責 阿部 敦）

放射線治療科

1. 概 要

放射線治療は2017年5月末より診療を開始し、7年目を迎えました。

院内、院外の各診療科の先生からご紹介頂き、悪性腫瘍と一部の良性疾患に対する根治的、緩和的放射線治療を行っています。

2. スタッフ構成

非常勤医：澤柳 昂、森島 康介

医学物理士：伊藤 拓也

診療放射線技師：杉田 浩章、高橋 雅代、橋本 智子、鶴田 飛悠吾、朝倉 祐太、
高橋 篤義、片岡 令安

看護師：橋本 彩加、勝部 富望子、鈴木 萌花

3. 活動内容

週5日の放射線治療を行っています。

年間照射人数(2023年)：249名。このうち、86名は院外からの紹介症例です。

最も多い疾患は乳癌、次いで肺癌、前立腺癌です。

年間照射人数は、218名(2020年)→233名(2021年)→231名(2022年)→249名(2023年)と、ご紹介元の先生方のお力添えで着実に増加しております。

引き続き、地域のがん医療が必要十分に行われるよう、そして迅速な対応ができるよう、スタッフ一同努めてまいります。

(文責 澤柳 昂)

臨床研修部

1. 概要

当院は基幹型および協力型初期臨床研修病院(東海大学医学部附属病院、富山大学附属病院、山梨大学医学部附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)です。臨床研修部は、指導医と協力して研修医が医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、頻繁に関わる疾患に対して、適切かつ効果的に診断治療できる能力を身に付けることを目標としています。

2. スタッフ構成

部長 小島 淳夫

副部長 鎌田 順道

(臨床研修担当 足立原 朋世、深谷 有美)

初期臨床研修医

臨床研修医(基幹型)

2年 青木 雄佑、安藤 武俊、大久保 絵子、上埜 秀治、森 健太郎

1年 渥美 優、門松 沙織里、椿野 瑞希、松岡 慶悟、山本 優輝、

臨床研修医(協力型)

富山大学たすき掛け：

2年 森田 和将 (2022.09.19～2023.03.31)

浦田 雄太朗 (2023.04.03～2023.09.17)

松井 晶 (2023.03.06～2023.08.20)

1年 浦 綾仁 (2023.09.18～2024.03.03)

山梨大学たすき掛け：

2年 阿久津 壮 (2022.04.01～2023.03.31)

1年 小河内 康弘 (2023.04.03～2024.03.31)

東海大学たすき掛け：

2年 関川 洋太郎 (2023.01.30～2023.03.26)

小沢 拓海 (2023.09.11～2023.11.05)

宮崎 紘慶 (2023.12.04～2024.01.31)

3. 活動内容

1) 臨床研修医への研修協力、生活支援

・ 協力型病院・施設での研修支援

海老名総合病院(産科・小児科研修)、愛光病院(精神科研修)、
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院(精神科以外)、北里大学病院(泌尿器科研修)、
南城つはこクリニック(地域医療研修)、日高德洲会病院(地域医療研修)の支援

・ 研修医会の開催(1回/月)

・ 個々の研修医の意見を尊重した個別のプログラム作成

・ 臨床研修部主催の定期的な勉強会の開催

・ 近隣病院と連携した研修医参加型のセミナーの開催(コロナ禍のため未実施)

2) 医学生のリクルート活動

・ 学生向けweb説明会、Instagramによる臨床研修部紹介、病院見学生募集など

3) 後期研修医・専攻医制度への参画準備

(文責 小島 淳夫、足立原 朋世)

救急部

1. 概 要

2003 年 4 月に救急外来部門として独立し、20 年目となりました。地域に信頼される病院・患者に愛される病院・誇りと責任を持てる病院の理念に基づき、地域に根付いた救急外来を目指しています。救急告知病院としても、24 時間 365 日救急車受け入れに力を入れています。2018 年 10 月よりトリアージ研修を受けた救急看護師により、安全で質の高い救急医療が提供できるよう院内トリアージを行っています。2021 年 8 月からは、夜間看護師による電話トリアージを開始し、体温や血圧等の数値のみならず患者さんの訴えに耳を傾け、数値に表れない情報を得られるようトリアージの質の向上にも取り組んでいます。また、地域医療支援病院の窓口として紹介外来を確立し、厚木市を中心とする近隣医療機関からの紹介患者さんへの対応を強化しています。救急担当医と救急外来看護師で的確な初期検査や治療を実践するとともに、各専門分野・診療科へ迅速に応援要請することが可能であり、患者さんにとってベストな医療・看護の提供が行えるように日々精進しています。受け入れ患者さんは、多岐にわたり上記の専門医の協力を得て治療を実施するとともに、更なる専門的治療や検査に至っては、手術室・臨床工学科・放射線科のスタッフが 24 時間オンコール体制で待機し、お互い連携を取りながら対応できるようにしています。

また、当院では、救急救命士教育研修の受け入れを行っています。また、2013 年 4 月よりワークステーションを 2 回/週（火・金）実施しています。実際に救急医が救急隊と共に出勤し、早期に的確な医療を提供できるように行っています。救急隊へ看護師の接遇や救急車受け入れに関してのアンケートも年 2 回実施し、救急車受け入れまでの短縮や救急隊と意見交換できるよう取り組んでいます。

更に、院内 BLS や ICLS 研修へインストラクターを派遣し、全職員がどのような状況でも BLS が実践できることを目指して活動しています。院外からの受講者も増加しています。

2. スタッフ構成

医師：4～5 名（救急専門医兼務 2 名・総合診療科 1 名・研修医 1～2 名）

看護師：31 名（ICLS・BLS インストラクター 3 名）

3. 活動内容

1) 2 次救急対象の救急医療及び時間外の急病や外傷患者の対応

（2023 年業務量は、部門別医療活動データ参照）

2) 救急救命士訓練

3) ワークステーションを 2 回/週（火・金）

4) BLS・ICLS 研修へインストラクター派遣

5) 紹介外来（月～土曜日）

6) 時間外におけるトリアージ

7) 看護師による電話トリアージ

8) 夜勤看護師による緊急検査・治療対応

（文責 安齋 明雅、安東 まみ）

ICU

1. 概 要

ICU は、ベッド数 8 床を有しています。一日平均患者数は 6 名を目標にしています。

2023 年度は一日平均患者数 5.5 名で在床数は月平均 160 床稼動となりました。月毎に入院人数や診療科人数の変動が見られます。基礎疾患があり侵襲の高い手術後や高齢者の全身麻酔手術の患者さん受け入れの他に、一般病棟での急変患者さんは医師及び病棟看護課長と連携し、速やかな受け入れを行うことができました。救急外来からは、心不全、心筋梗塞、くも膜下出血、脳梗塞、消化器外科の緊急手術など重症度が高く救命に関わる患者さんの受け入れをスムーズに行うなど、一般病棟及び救急外来と連携してベッドコントロールに努めました。人工呼吸器や、経皮的心肺補助法、大動脈バルーンポンピングの補助循環器装置、低体温療法などは、医師や臨床工学士、呼吸療法チームと協働することができました。早期リハビリは理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と連携し、薬剤に関する管理は、薬剤師と連携しています。また、退院後の生活を考え MSW・退院調整看護師との連携など多職種と協働することで、安心安全な治療・看護提供に努めました。新型コロナウイルス感染症に関連する面会制限継続中ですが、家族が面会することで患者さんや家族が安心できるよう取り組んでいます。

2. スタッフ構成

ICU 医師部長：1 名

医師：診療科毎の主治医体制

看護師：18 名（課長・副主任 3 名）

看護体制 4：1

3. 活動内容

- 1) 急性治療及び異常の早期発見・対応
- 2) 患者さんや家族に対し、病状説明における適切な情報提供と意思決定支援
- 3) 患者さんや家族に対して危機的状況を理解し心理的援助
- 4) 患者さんや家族の意向や状況に応じた緩和ケアを提供
- 5) 人工呼吸器離脱プロトコルの運用
- 6) 早期離床プロトコルの運用
- 7) 鎮痛・鎮静管理プロトコルの運用

（文責 平林 幸子）

内視鏡センター

1. 概 要

外来、病院の機能を統合し内視鏡センターとして効率的に検査、治療を行っています。上下部消化管内視鏡検査をはじめ、EMR、ESD、EIS、EVL、EUS、EUS-FNA、気管支鏡検査など多種多様な疾患に対応できる体制で臨んでいます。

2. スタッフ構成

常勤医師

非常勤医師

看護師

看護助手

臨床工学技士

3. 活動内容

- 1) 上下部消化管内視鏡検査
- 2) EMR、ESD、EIS、EVL、胃瘻造設、ステント留置、止血術、狭窄拡張、捻転解除、LECS
- 3) ERCP、EBS、EPS、EST、EPBD、EPLBD、ENBD、ENPD、ETGBD、結石破碎術
- 4) EUS、EUS 下ろう孔形成術
- 5) 気管支鏡検査

(文責 玉置 道生)

化学療法センター

1. 概 要

2023 年も入院、外来（とうめい厚木クリニックを除く）を合わせて 2,000 件を超える件数となっており、今後もますますの需要を見込まれます。免疫チェックポイント阻害薬を含む新規レジメンや新薬も増えてきており、免疫関連有害事象の対策も含め、最新の標準治療を安全、確実、かつ患者さんにとってできるだけ負担を少なく治療が行われるようしてまいります。月に 1 回、化学療法センター運営会議を開催し、化学療法センターの安全な運営に関してのみならず、院内における新規レジメンの承認、化学療法の運用に係わる提案、監査、問題点改善を行っております。

今後もより多くの患者さんに外来化学療法が提供できるよう、がん治療患者さんの交流の場となるよう、正しいがん治療の知識・情報が得られるような場を目指して行けたらと考えております。

2. スタッフ構成

医師 1 名（化学療法担当科の当番制）、看護師 3～4 名、薬剤師 1 名

3. 活動内容

1. 外来化学療法の施行（月曜日～金曜日）
2. 外来化学療法施行中の患者さんへの対応
（主に有害事象や予定変更に対する対応）
3. 医療用ウィッグ、リマンマ商品の展示、案内
4. 化学療法委員会の開催（1 回/月）

（文責 神山 公希）

放射線治療センター

1. 概 要

2022 年 4 月より放射線治療室は放射線治療センターとして運用を行っています。

センター化に伴い、運営会議を定期的に隔月、年 6 回行いました。

目 的

- ・放射線発生装置を安全に管理し、環境整備を整え、従業者の健康を守る。
- ・患者に対する放射線治療が適切かつ安全に行われているかを検討する。

運営会議ではこれらの目的に加えて、治療実績と問題点についての話し合いも継続して行いました。

2. スタッフ構成

医師 1 名、レントゲン技師 2 名、物理士 1 名、看護師 6 名、安全管理室 1 名、事務 1 名の計 12 名で構成されています。

3. 活動内容

前立腺癌に対する根治照射において、希望者にスペース OAR を注入(治療開始前に前もって直腸と前立腺の間にゲル状のスペーサーを注入)し、直腸への放射線の有害事象を減らす試みを開始し、定着させました。

放射線治療患者に発生する放射線宿酔や低栄養状態に対して、外来治療においても積極的に栄養士を介入させました。

年 2 回の防災訓練に参加し、地震等の発災時のマニュアル対応に沿った動きを確認しました。

最後に、2022 年の放射線治療センターの業績を添付します。根治、緩和、術前、術後など様々なフェーズで治療が行われています。詳細は資料でご確認いただければと思います。

(文責 山下 巖)

放射線治療 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
新患(月内の初回照射をカウント)	18	22	12	15	19	27	20	20	24	17	20	18	232	19.3
月内にシミュレータCTで計画した人数	17	20	11	16	19	23	17	20	27	16	21	25	232	19.3
月内に照射した人数	29	38	26	26	27	36	38	31	33	31	34	30	379	31.6
照射回数	357	363	303	205	318	281	387	276	232	352	245	279	3,598	299.8

照射目的別 統計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
緩和	3	10	5	4	7	8	7	9	13	8	10	9	93	7.75
根治	6	6	3	5	4	12	7	7	6	3	6	7	72	6
術前	1	0	0	4	1	0	1	0	0	1	0	0	8	0.7
術後	8	6	4	2	5	4	6	4	4	4	4	1	52	4.3
全体	18	22	12	15	17	24	21	20	23	16	20	17	225	18.75

紹介 院内比較 統計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
紹介	8	10	4	6	8	8	11	3	7	5	7	4	81	6.75
院内	10	12	7	9	9	16	9	17	16	11	13	14	143	11.9

手術室・中央材料室

1. 概 要

急性期病院での手術室の役割は、一人でも多くの命を助けることです。そのために、手術室は24時間手術を受け入れられる体制を整えています。

2023年度も、新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら、総手術件数は約2,100件、全身麻酔件数約1,500件と、多くの患者さんを受け入れることができました。また、がん診療連携指定病院として、がん手術を約230件実施することができました。

超高齢化社会を迎える中、安心して入院し手術が迎えられ治療から回復して地域へ戻れる支援と、チーム医療の実践と看護の質を高めた手術看護実践を行い、早期退院ができる支援を今後も行っていきたいと考えています。

中央材料室では、感染を起こさないための安全な器械提供と品質管理を行い、手術室チームの一員として一緒に働いています。

臨床工学技士は、手術や麻酔で使用する機械が安全に使用できるようメンテナンスを行い、日々点検を実施しています。また、手術室では器械出し業務も行っており、手術器械の使用方法や解剖生理、手術手順を覚え胸腔鏡・腹腔鏡などのカメラ操作を実施し、チーム医療を実践しています。また、放射線技師は、術中の放射線操作・術後レントゲンなどの撮影を行い、チームで連携を図り、安心・安全な医療を提供しています。

手術室チームでこれからも安全な医療、看護を提供し地域に信頼される病院、患者さんに愛される病院、誇りと責任の持てる病院に貢献していきたいと考えています。

2. スタッフ構成

手術室部長：岩倉 秀雅

麻酔科科長：岩倉 秀雅

看護師：19名

准看護師：1名

臨床工学技士：8名

ケアワーカー：4名

3. 活動内容

医療の質、看護の質を高めて地域の方に貢献できるように多職種連携を図り、医療・看護を提供しています。また、安全に手術ができるよう勉強会の実施や研修会に参加し、看護の質を高め多職種でカンファレンスを行い、安心して手術が受けられるようにしています。

麻酔科外来で術前評価、術後訪問で疼痛・看護の周術期看護を提供し評価を実施し、入院から退院まで周術期看護を提供し安心、安全な医療・看護を提供していきます。

(文責 大澤 直子)

看護部

1. 概要

2023年度看護部は4月に36名の看護職員を迎え、看護部常勤362名・非常勤15名の計377名でスタートしました。新型コロナウイルス感染症が5類に変更され、社会がウィズコロナの状況において、地域医療支援病院・神奈川県がん診療連携指定病院として、安全で質の高い看護の提供と働きやすい環境に向けて取り組みました。

2. 2023年度の目標

1) 財務の視点

- (1) With コロナにおける医療活動維持のため、急性期病棟・地域包括ケア病棟・緩和ケア病棟を効果的に運用する

2) 患者の視点

- (1) 患者の意思決定を支援し、生活の質向上に視点をあてた看護を提供する
- (2) 患者のニーズを捉え、患者・家族に信頼される看護を提供する

3) 業務プロセスの視点

- (1) タスクシフト・シェアを更に進め、安全で効率的な看護を提供する

4) 学習と成長の視点

- (1) PNSを推進し、個々の成長と看護に誇りとやりがいの持てる組織を作る

3. 活動内容

2023年度は、看護補助者とのタスクシフト・シェアを強化しました。看護師・看護補助者それぞれが役割を発揮できるよう、お互いの理解を深める研修を全看護職員に行いました。看護補助者の定着も安定し、今年度も引き続き、夜間急性期看護補助体制加算50対1を維持、夜間の看護体制を強化することができました。今後も、看護師、看護補助者がそれぞれの役割を理解するとともに、スタッフ同士が多様性を尊重し合う組織づくりを目指していきます。

人材育成については、引き続き感染症予防対策を行いながら、キャリアラダー研修を実施しました。院内研修参加者は延べ1,994名、院外研修参加者は延べ169名でした。スタッフが自ら考え、より良い臨床判断に繋げる看護が実践できるように、臨床推論を研修内容に取り入れました。当院が採用している看護提供方式であるパートナーシップ・ナーシング・システムに

より、OJT の教育に研修の成果が繋がっています。

将来を担う人材の育成については、学校側とタイムリーに調整しながら、延べ 2,148 名の実習を受け入れることができました。職場体験では、高校生を 39 名受け入れることができました。また、神奈川県立保健福祉大学実践センターの感染管理認定看護師教育課程の実習生も前年同様 2 名受け入れることができました。

今後、更なる高齢化に向けて、患者の意思決定支援、地域との連携、在宅・介護とのシームレスな関係を進めるため、看護の質向上に努めていきます。

(文責 伊藤 玲子)

2023 年 院内・本部・事業部研修 参加状況

I. 看護部教育委員会研修

1. 看護師研修

	研修名	月日	人数
ラ ダ ー I ① 段 階	フォローアップ研修⑦・医療安全	2023/1/6または20	38
	フォローアップ研修⑧	2023/2/3または7	38
	成果評価・看護観発表看護観発表	2023/3/2または8	38
	新入職者集合研修	2023/4/6～5/31	32
	新人看護師研修 6月	2023/6/12	32
	新人看護師研修 7月	2023/7/6	31
	新人看護師研修 8月	2023/8/14	30
	新人看護師研修 9月	2023/9/16	29
	BLS研修	2023/9/22または12/22	31
	新人看護師研修 10月	2023/10/12	31
	新人看護師研修 11月・認知行動療法	2023/11/17	30
	新人看護師研修 12月・認知行動療法	2022/11/18または25	30
ラ ダ ー I ② 段 階	看護過程④(成果発表)	2023/2/16または21	43
	スキルアップ研修①(講義・GW)	2023/6/8または13	38
	スキルアップ研修②(講義・GW)	2023/8/24または31	38
	スキルアップ研修③(講義・GW)	2023/11/14または20	38
ラ ダ ー II 段 階	フレッシュパートナー研修③(成果発表・ロールプレイ)	2023/1/13または19	33
	看護過程①-③(老年看護)(事例発表、まとめ)	2023/1/23	8
	看護過程研修②-③(慢性疾患看護)(成果発表)	2023/1/31	6
	パートナーシップ研修③(GW・成果発表)	2023/2/2	17
	フレッシュパートナー研修①(講義・GW)	2023/5/12または22	42
	パートナーシップ研修①(講義・GW)	2023/6/29	27
	看護過程研修①-①(老年看護)(講義・GW)	2023/7/13	14
	看護過程研修②-①(慢性疾患看護)(講義・GW)	2023/7/27	11
	フレッシュパートナー研修②(講義・GW)	2023/9/7 または12	41
	看護過程研修②-②(慢性疾患看護)(GW)	2023/10/2	9
	パートナーシップ研修②(講義・GW)	2023/10/13	26
	看護過程研修①-②(老年看護)(講義・GW)	2023/10/16	13
ラ ダ ー III 段 階	看護過程③-③(退院支援)(成果発表、まとめ)	2023/2/13	3
	中堅看護師研修③(成果発表・まとめ)	2023/2/15	3
	リーダー研修③(成果発表)	2023/3/13	8
	がん看護研修④(成果発表・GW)	2023/3/16	4
	がん看護研修①(講義・GW)	2023/6/26	10
	リーダー研修①(講義・GW)	2023/7/11	6
	看護過程研修③-①(退院支援)(講義・GW)	2023/8/8	4
	がん看護研修②(講義・GW)	2023/9/25	9
	リーダー研修②(講義・GW)	2023/11/9	6
	看護過程研修③-②(退院支援)(GW)	2023/11/13	4
	がん看護研修③(講義・GW)	2023/12/18	10

	研修名	月日	人数
ラ ダ ー Ⅲ Ⅳ 段 階	地域包括ケア研修②(成果発表)	2023/2/13	4
	中堅看護師ステップアップ研修③(成果発表)	2023/2/15	2
	キャリア開発ケア研修③(成果発表)	2023/2/17	3
	地域包括ケア研修①(講義・GW)	2023/8/29	1
	キャリア開発研修①(講義・GW)	2023/7/21	6
	キャリア開発研修②(講義・GW)	2023/10/20	6
ラ ダ ー Ⅳ 段 階	グループリーダー(副主任)ステップアップ研修③(成果発表)	2023/1/23または31	12
	グループリーダー研修③(成果発表)	2023/3/10	12
	グループリーダー(副主任)ステップアップ研修①(講義・GW)	2023/5/15	16
	グループリーダー研修①(講義・GW)	2023/6/9	8
	グループリーダー研修②(講義・GW)	2023/9/8	7
ラ ダ ー Ⅴ 段 階	主任・主任ステップアップ研修③(成果発表)	2023/2/13	3
	課長研修③(成果発表)	2023/3/15	3
	課長ステップアップ研修③(成果発表)	2023/2/10	8
	主任研修①(講義・GW)	2023/6/15	4
	主任研修②(講義・GW)	2023/9/20	4
看 護 研 究	研究計画書(外部講師面接指導)	2023/2/4	36
	データ分析と結果(外部講師面接指導)	2023/7/1	39
	論文作成(外部講師面接指導)	2023/10/7	35
	看護研究発表会	2023/12/16	43
ト ピ ッ ク ス 研 修	PNS基本研修⑤	2023/2/28	22
	意思決定支援④	2023/2/8	19
	実習指導者講習会 学びの会	2023/3/27	27
	看護補助者との連携研修①	2023/5/30	61
	PNS基本研修①	2023/6/27	59
	看護補助者との連携研修②	2023/7/25	63
	意思決定支援①	2023/8/16	19
	PNS基本研修②	2023/8/22	55
	看護補助者との連携研修③	2023/9/26	55
	意思決定支援②	2023/10/11	22
	PNS基本研修③	2023/10/24	56
	看護補助者との連携研修④	2023/11/21	40
	意思決定支援③	2023/12/20	14
	PNS基本研修④	2023/12/26	43
			1,668

2. ケアワーカー研修

	研修名	月日	人数
第 1 回	日常生活に関わる業務:医療安全・感染予防	2023/6/13	13
		2023/6/21	13
		2023/6/29	10
		2023/7/6	15
		2023/7/13	13
第 2 回	日常生活に関わる業務:医療安全・感染予防	2023/9/7	13
		2023/9/7	14
		2023/9/29	13
		2023/10/5	9
		2023/10/13	9
			122

Ⅱ. 本部研修

	研修名	月日	人数
本部 研 修	2023度新入職者オリエンテーション	2023/4/3～5	37
	昇級研修ガイダンス(5等級昇級候補者)	2023/4/6	8
	6等級昇級通信教育ガイダンス	2023/4/6	1
	昇級オリエンテーション(3等級昇級申請者)	2023/4/12または19	6
	昇級オリエンテーション(4等級昇級申請者)	2023/4/12または19	5
	昇級オリエンテーション(5等級昇級者)	2023/4/13	5
	中途採用者オリエンテーション	2023/4/13	5
	自己管理能力向上研修(1等級)	2023/5/18または25	36
	リーダーシップ 研修A(2等級の未受講者)	2023/6/15	10
	マネジメント基礎研修(5等級昇級者)	2023/6/27	4
	中途採用者オリエンテーション	2023/7/14	5
	リーダーシップ 研修B(3等級リーダーシップA受講済み)	2023/7/27	4
	管理基礎研修(5等昇級申請者)	2023/9/28	8
	人事考課訓練	2023/9/19～10/14	11
	医療接遇・コミュニケーション研修(新入職者)	2023/10/12	31
	クレーム対応基礎研修	2023/10/19	12
	リーダースキルアップ研修	2023/10/23	6
	経営基礎研修	2023/11/9/16/22	1
	中途採用者オリエンテーション	2023/11/10	2
	活動発表会	2023/11/11	7
			204

延べ人数合計	1,994
--------	-------

2023 年 院外研修・学会 参加状況

研修項目		受講期間	人数
教育研修（神奈川県看護協会）	1月開催	フィジカルアセスメント(基礎編)～根拠に基づく看護実践を目指して～②	4
		地域包括ケアシステムにつなげる入退院支援②	4
		感染リンクナースのための感染管理②	1
		主任看護師が取り組む問題解決②	1
	2月開催	高齢者支援と認知症患者の看護②	3
		チーム運営に必要なリーダーシップ②	1
		相手とわたしのためのアンガーマネジメント②	1
		リスクアセスメントを高める(応用編)～インシデント文責から安全策の提案まで～	2
		主任看護師に必要なマネジメントの基礎知識②	1
	6月開催	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修①	4
		看護記録の質向上を目指して～形式監査・質監査～	2
		フィジカルアセスメントを学ぼう～明日から実践できる気づき・技術とその根拠～①	7
		地域包括ケアにつなげる入退院支援～生活者としてその人を見る～①	6
		主任看護師が取り組み問題解決①	2
	7月開催	事例から学ぼう褥瘡予防とケアの実際①	2
		主任看護師に必要なマネジメントの基礎知識①	1
		看護補助者の活用推進のための看護管理者研修②	1
		看護補助者の活用推進のための看護管理者研修③	1
		看護の日常から倫理の扉を開く～対話から始まる看護倫理～	2
	8月開催	笑顔が増えれば職場が変わる！～相手とわたしのためのアンガーマネジメント①～	3
		認知症高齢者の看護実践に必要な知識①	1
	9月開催	リスク感染を磨こう！～明日から実践できるベッドサイドの安全対策～	2
		チームで働くために必要なコミュニケーション	2
		イキイキと働き続けるために～強みと引き出すアプローチ～①	1
		感染防止対策の基本～私ができる感染予防～	1
		認知症高齢者の看護実践に必要な知識②	5
		自部署の強みを引き出すデータ活用	1
		トラブルを防ぐストーマケア～漏れない！取れない！困らない！～	4
	10月開催	いま知っておきたい！がん看護の基本	1
		急変の前兆を見逃さない！先輩ナースのためのフィジカルアセスメント	4
		「食べる」を支える～摂食嚥下障害看護のエキスパートから学ぶ誤嚥性肺炎の予防～	3
		チーム運営に必要なリーダーシップ①	1
	11月開催	高齢者支援と認知症患者の看護①	4
		看護現場で役立つ小論文・レポート・報告書の書き方	2
		事例から学ぼう褥瘡予防とケアの実際②	1
		チームで取り組む倫理的課題～立ち止まり、語り合う倫理～	4

研修項目			受講期間	人数
教育研修 (神奈川県看護協会)	12月開催	高齢者の人生最終段階における意思決定支援～患者・家族のACP～	2023/12/7・8	4
		地域包括ケアにおける連携と協働～シンポジウムをとおして多施設・多職種との連携を考える～	2023/12/15	3
		もっと知りたい周術期管理～外来・病棟・手術室・地域まで～	2023/12/18	5
		慢性心不全患者の看護～疾患の理解からセルフケア支援まで～	2023/12/20	3
		糖尿病患者のフットケア	2023/12/21・25・26	1
	その他	地域連携のための相互研修会	2023/1/13・2/4・2/22	2
		高齢者看護「認知症ケア」：横浜西支部	2023/8/3	1
		第31回看護研究発表会：県央支部	2023/9/7	3
		新人フォローアップ研修「ケースレポートの書き方」：県央支部	2023/10/14	2
		2年目ナース交流会	2023/11/9	2
管理・指導者研修	北里大学看護学部：保健師助産師看護師実習指導者講習会		2023/8/20～2024/3/4	1
	神奈川県保健福祉大学実践教育センター：保健師助産師看護師実習指導者講習会		2023/7/5～9/16	1
	済生会横浜市東部病院：保健師助産師看護師実習指導者講習会		2023/6/7～11/30	1
	湘南医療大学：保健師助産師看護師実習指導者講習会		2023/7/7～11/24	1
	横浜国立大学：保健師助産師看護師実習指導者講習会		2023/8/1～11/24	1
	昭和大学保健医療学部：保健師助産師看護師実習指導者講習会		2023/8/23～12/18	1
	東海大学：保健師助産師看護師実習指導者講習会		2023/9/19～12/21	1
	ファーストレベル研修：神奈川県立保健福祉大学実践教育センター		2023/10～2024/3	1
	セカンドレベル研修：神奈川県立保健福祉大学実践教育センター		2023/5～2024/3	1
	医療安全管理者養成研修：神奈川県看護協会		2023/11/1～2/11	1
その他の研修	2022年度NST教育認定実地修練：日本臨床栄養代謝学会		2023/2/21～3/14	1
	第37回神奈川県ストーマリハビリテーション講習会：神奈川県ストーマ研究会		2023/3/4・5	1
	実践！早期離床～急性期から在宅まで一歩進んだ離床の考え方～：日本離床学会運営事務局		2023/6/17	1
	2023年度がん相談支援センター相談員基礎研修(1)(2)知識確認コース：国立がん研究センター		2023/7/14～10/9	1
	クリティカルケア領域での治療＆看護が見える薬剤知識：e-nusセミナー		2023/7/23	2
	2023年度がん相談支援センター相談員基礎研修(1)(2)知識確認コース：国立がん研究センター		2023/8/2～11/30	1
	内視鏡機器取り扱い講習会：日本消化器内視鏡学会関東支部		2023/8/6	1
	治療＆看護が見える重症患者の見方：e-nusセミナー		2023/9/23	2
	第37回神奈川県ストーマリハビリテーション講習会：神奈川県ストーマ研究会		2023/10/28～10/29	1
	公開がん看護専門コース「がん放射線療法看護」：国立がん研究センター中央病院看護部		2023/11/8・9	1
	おさえておきたい看護のポイント～整形外科疾患で高齢者が入院してきたら～：神奈川県リハビリテーション病院		2023/11/11	5
	対応が難しい場面での家族ケア：e-nusセミナー		2023/11/12	1
	新人看護職員のためのフィジカルアセスメント：県央地区看護部長会		2023/11/18	12
	トリアージに必要な知識と技術：mhank		2023/12/2	1

研修項目		受講期間	人数
学会参加	第3回日本フットケア・足病医学会念い学術集会	2023/2/11	1
	第40回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	2023/2/24・25	1
	第3・4回がん緩和ケアに関する国際会議	2023/4/27・28・29	1
	第8回日本血管看護研究会	2023/6/2	1
	第43回日本静脈学会総会	2023/7/7	1
	第32回日本創傷オストミー・失禁管理学会学術集会	2023/7/8・9	1
	第38回日本環境感染学会	2023/7/21・22	2
	第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会	2023/9/2・9/3	4
	第12回日本放射線看護学会学術集会	2023/9/9・10	1
	第4回日本緩和医療学会東北支部学術大会 第26回東北緩和医療研究会	2023/10/7	1
	第64回日本脈管学会学術集会	2023/10/26・27	1
	第23回日本クリニカルパス学会	2023/11/10・11	3
	第28回日本在宅ケア学会学術集会	2023/11/11・12	1
	日本認知症ケア学会 2023年度関東ブロック大会	2023/11/12	1
	第44回日本死の臨床研究会年次大会	2023/11/25・26	1
学会発表	弾性着衣の補助具「スリッパ・ゴム手袋」の種類における摩擦力和嗜好性の検討:第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	2023/2/11	
	全身性浮腫における下肢浮腫に対してリンパ管静脈吻合術(LVA)が行われた3症例:第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	2023/2/11	
	圧迫療法を中心とした血管看護における継続的な臨床と研究の構築:第8回日本血管看護研究会	2023/6/2	
	弾性着衣の摩擦力和物理的性質の関係に関する検討:第43回日本静脈学会総会	2023/7/7	
	直腸がん術前内服化学放射線療法の治療完遂に向けた支援の一考察:第12回日本放射線看護学会学術集会	2023/9/9・10	
	早期から緩和ケア提供を実現するための緩和ケアチームとしての取り組み:第4回日本緩和医療学会東北支部学術大会 第26回東北緩和医療研究会	2023/10/7	
	クリニカルパス委員メンバーの専門性を発揮したパス作成第23回:日本クリニカルパス学会	2023/11/10・11	
	緩和ケア病棟利用率から緩和ケア提供について考える:第28回日本在宅ケア学会学術集会	2023/11/11・12	
	自分が我慢すれば」と通院を自己中断した患者への関わりを通して:第44回日本死の臨床研究会年次大会	2023/11/25・26	

延べ人数合計	168
--------	-----

摂食嚥下療法科

1. 概 要

摂食嚥下療法科は、入院患者の「口から食べる事」全般を支援する専門部署です。入院と同時に他職種と連携したチームアプローチを積極的に行い、「口から食べて退院する医療」に取り組んでいます。また、口腔衛生にも力を入れており、歯科衛生士を中心に看護師と連携した口腔衛生管理を行っています。

2. スタッフ構成

課長 1 名（歯科衛生士）

常勤看護師 1 名

常勤歯科衛生士 2 名

3. 活動内容

- ・入院患者への摂食嚥下ケア・リハビリ
- ・短期嚥下訓練入院の受け入れ
- ・入院患者への口腔衛生・口腔機能管理
- ・周術期に関連する口腔管理、全身麻酔下手術前・がん治療前の口腔相談
- ・院内、院外への教育的啓発活動
- ・訪問歯科対応、地域歯科医院との連携

1) 入院患者の 3 食経口摂取移行に関する実績

2023 年の摂食機能療法介入者の総数は 1,018 名（前年 951 名）で、平均年齢は 79.5 歳（前年 78.6 歳）でした。介入患者 1,018 名のうち、外来患者、評価のみで終了した患者を除いた総数は 930 名で、3 食経口摂取へ移行した患者は 713 名（前年 641 名）、死亡退院 10 名を除く 3 食経口摂取移行率は 77.5%（前年 83.8%）でした。介入から 3 食経口摂取移行までの平均日数は 1.3 日（前年 1.7 日）、入院から 3 食経口移行までの平均日数は 3.7 日（前年 4.5 日）でした。摂食機能療法介入中の肺炎発症例は 9 件 0.9%（前年 0.8%）でした。

2) 摂食嚥下委員会

摂食嚥下委員会は、摂食嚥下チームで構成しています。構成メンバーは摂食嚥下療法科、各病棟（ICU 含む）、リハビリテーション科、栄養科、薬剤科、検査科、医療福祉相談室です。定期的な委員会開催のほか、毎週月曜日に各病棟の嚥下回診を行っています。また、研修会や講師派遣、院外からの嚥下相談対応など、広域的な活動を行っております。地域医療支援病院として摂食嚥下ケアの大切さを当院から発信することは、重要な役割と考えています。

（文責 西川 利恵）

臨床検査科

1. 概要

臨床検査科は地域医療に貢献するという三思会の基本理念にのっとり、24時間365日休まず検査を実施、結果を提供できる体制をとっています。今年は念願の病理検査室開設に着手しました。新たに病理専門医師1名と病理専任技士2名を迎え、4月から準備開始し12月より院内での検体処理が出来るところまでこぎ着けました。開設に携わっていただいた関係者様には厚く御礼申し上げます。臨床検査部門としては4月に新卒職員を迎え、検査技師は総勢で14名となり院内検査室のみならず、法人関連施設での出張業務も行うなど活動の場は広がっています。ハード面においては、生化学自動分析器、自動血球計数器、ヘモグロビンA1c測定装置を最新のものに更新しました。それに合わせて検体運用を再考し、より迅速な結果報告が行える体制をとることが出来ました。一年を振り返ると、スタッフが新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに重ねて罹患し大変な時期もありましたが、変化に富み充実した1年であったと思います。

2. スタッフ構成

- ・臨床検査技師 常勤技師14名（男性 6名 女性 8名） 他 アルバイト技師 1名
- ・各種認定取得者
緊急検査士 2名、 血管診療技師 1名、 細胞検査士 2名
超音波検査士（消化器領域 2名 循環器領域 2名 血管領域 1名 健診領域 1名）

3. 活動内容

- ・採血業務（病棟・外来）
朝6時より2名体制で入院中の患者さんの病室に伺い採血を行っています。また、紹介外来や化学療法外来の患者さんの採血も検査科採血カウンターにて実施しております。
- ・検体検査業務
生化学検査、血液学検査、免疫学検査、尿検査（試験紙法）においては自動分析器を導入し、検体提出から30分以内での報告を実現しています。また、細菌塗抹検査や輸血検査なども迅速に対応できる体制がとれています。
- ・生理学的検査
各種心電図検査、脈波検査、皮膚灌流圧測定、呼吸機能検査、脳波検査、各誘発電位検査

などを実施しています。

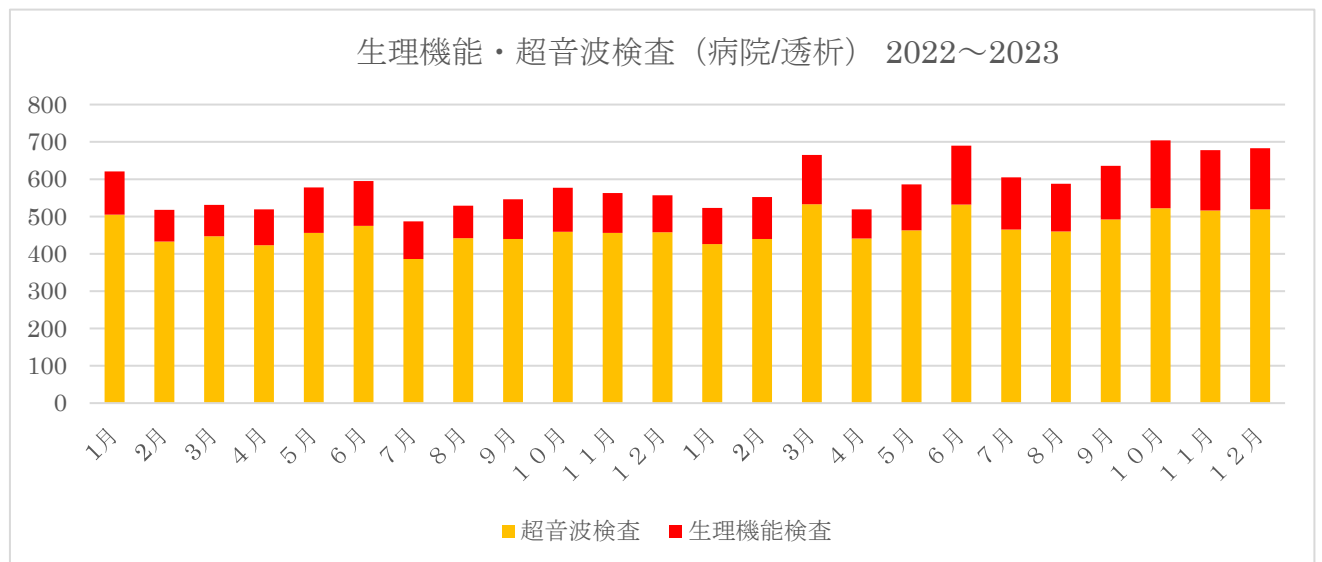
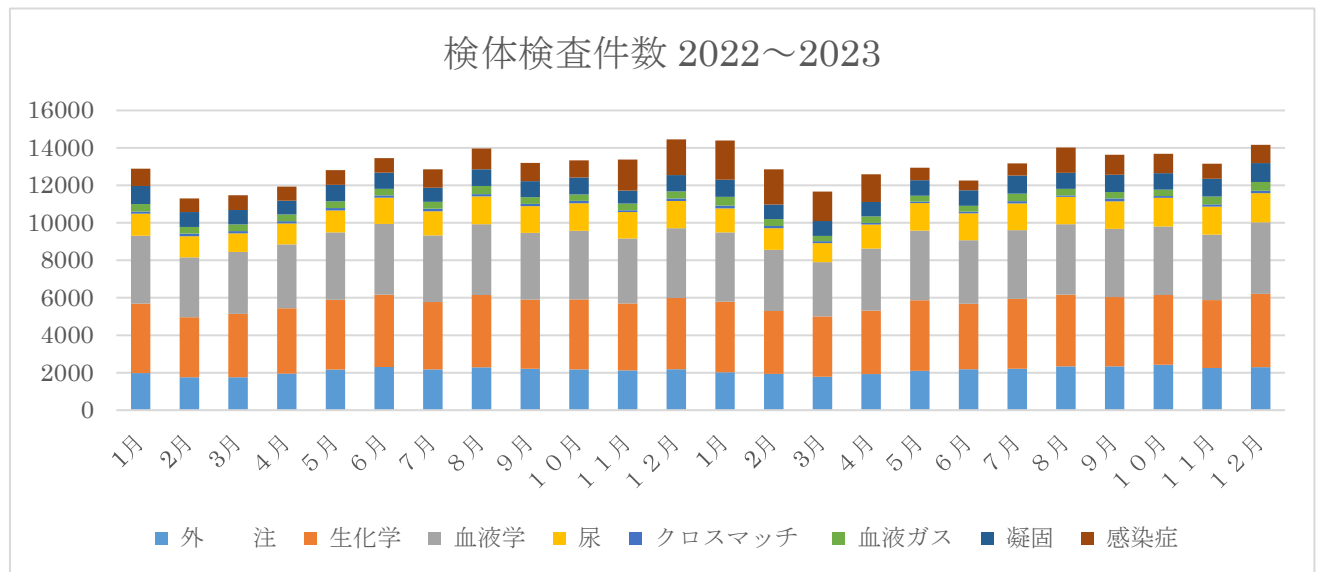
- ・超音波検査

心臓超音波、腹部超音波、体表超音波、血管超音波を実施しています。

- ・病理組織検査

標本作製、術中迅速診断、院内毒劇物管理 etc.

- 業務別件数の推移（病院・ドック・透析）



（文責 栗田 修）

薬剤科

1. 概 要

薬剤科では医薬品の安全使用のために主に①中央業務（医薬品管理・調剤・無菌調製・医薬品情報等）、②臨床業務（薬剤管理指導、病棟薬剤業務等）、③チーム医療（癌化学療法、緩和、ICT、AST、NST 等）、④治験事務局業務、その他多くの薬事に関する責務を担っております。

①中央業務

中央業務としては、主に入院患者に対する調剤業務（内服・注射）、製剤業務、無菌製剤処理業務（高カロリー輸液等）、医薬品管理供給業務、医薬品情報管理業務に加え職業曝露予防対策としても重要である陰圧アイソレーターを用いた抗がん剤の無菌調製も担っており入院及び外来のがん化学療法患者への安全な薬物治療へ貢献すべく試みております。

※夜間においても管理当直体制にも関わらず、入院患者様に対する臨時処方の調剤・鑑査対応率 100%を達成し、更に救急外来患者様の院内処方に対しても服薬説明を実施。

②臨床業務（臨床薬剤業務、薬剤管理指導業務）

- ・臨床業務としては、薬剤部門再建に伴い 2021 年 10 月より再開した病棟薬剤業務実施加算の算定を維持し臨床における医薬品の安全使用の質の維持に貢献しました。これに伴い 2023 年度のプレアボイド報告件数（2/6 現在で約 185 件）も増えその質も向上したため、他職種間での共有を目的に DI ニュースへの掲載を開始としました。これらは、医療安全の視点から見たクリニカルファーマシーへの貢献の成果として今後も力を注いで行かなければなりません。
- ・薬剤管理指導業務においては、2021 年度より本格的に再開し、概ね全ての入院患者へ関わる事が出来る事となりました。服薬支援件数も回復し、約 3,300 件（2020 年度）から 5,100 件（2021 年度）、5,000 件（2022 年度）、そして 2023 年度は既に 4,500 件（2024 年 1 月末まで）と目標を達成しました。

③チーム医療（委員会等）

安全管理委員会、化学療法委員会、感染対策委員会、手術室運営委員会、救急・ICU 委員会、NST 委員会、災害対策委員会、内視鏡センター運営会、緩和ケアチーム運営会議、せん妄・認知症ケアチーム運営委員会、DM チーム運営会議等に担当者を配置、会議やチームラウンドに参加し医薬品の適正管理及び適正使用推進に従事しました。

④治験事務局業務

治験の実施に際し、GCP 省令及びその関連通知に基づいて治験が適正かつ安全に実施されるために必要な業務を一部治験施設支援機関※に委託し遂行しました。

※治験施設支援機関（SMO：Site Management Organization）：IMS へ委託。

CRC は市川 隼（薬剤師）

事務局長：吉岡 我佳命（兼：記録保管責任者）

事務局員：清野 晃弘

：春原 悠希

：岸本 明希

治験薬管理責任者：清野 晃弘

⑤その他

・教育（臨床研修）

臨床教育の場の提供とする 2.5 ヶ月の薬学部病院実務実習においても、受け入れ人数を 8 名/年を維持し、明日の医療を担う後進の育成に貢献しました。

・薬事

薬事委員会事務局としては、“後発医薬品使用率” >90%を達成するため、院内採用薬の切り替えを積極的行いました。

※後発品導入率：96.7%（2022 年 12 月実績）

2. スタッフ構成

・薬剤師（※定数 病院：18.5 FTE、クリニック：1 FTE、さつきの里あつぎ：0.3 FTE）

常勤：17 名（※欠員 1 名）、非常勤：3 名（常勤換算 1.8）

・メディカルクラーク 5 名（※欠員 1 名）

3. 活動内容

（ア）実習生等受入状況

実習・研修区分	人数	期間	大学等
6 年制大学実務実習	5 名	11 週間	横浜薬科大学 4 名 昭和薬科大学 1 名

（イ）認定等の状況

実務実習指導薬剤師	吉岡・吉留・坂本	がん薬物療法認定薬剤師	松田
日本病院薬剤師会認定薬剤師	上野、亀川、武井	外来がん治療認定薬剤師	相場・松田
日本救急医学会認定 ICLS/BLS コースインストラクター	吉岡	急性期ケア専門士	吉岡

（文責 吉岡 我佳命）

リハビリテーション科

1. 概 要

リハビリテーション科は、チームアプローチによるゴール設定の下、PT・OT・STの専門性を活かし、急性期病棟では、発症直後から早期離床・短期集中・早期退院に向けて取り組み、地域包括ケア病棟では、自宅退院に向けたリハビリテーションを積極的に実施しています。また、患者様の安全を守るため、病棟と協働し、転倒転落予防への取り組みや、車椅子の定期的なメンテナンスを行っています。また、地域の皆様の健康増進を望み、地域活動にも積極的に参加しています。

2. スタッフ構成

理学療法士 18名 作業療法士 5名 言語聴覚士 3名

3. 活動内容

リハビリテーション科では、全診療科より依頼があり、医師の指示の下リハビリテーションを実施しています。脳血管・運動器・呼吸器・がんリハビリテーションのみならず、診療報酬算定出来ない疾患に対してもADL改善目的でリハビリテーション介入を行っています。専門資格では認定理学療法士（運動器・呼吸器）、三学会合同呼吸療法認定士、心不全療養指導士、日本摂食嚥下リハビリテーション指導士等を取得し、質の向上に努めています。また、院内業務として月1回車椅子メンテナンス、委員会活動、各診療科カンファレンス、臨床実習生指導を実施しています。院外業務では、東名厚木病院透析センター、とうめい綾瀬腎クリニック、愛川クリニックでの透析患者に対する運動指導、看護師・看護助手への基本動作・移乗動作介助指導を行っています。地域活動にも力を入れており、厚木市介護認定審査会委員、県央地区リハビリテーション連絡会役員、神奈川県理学療法士会役員、南毛利南地域福祉推進委員会役員として活動しています。今年度は科内の業務の見直しを行い、共通指針を作成するところから開始しました。Mission（科内理念）は、「医療－介護－地域の繋がりの中で地域の皆様が安心して生活できるよう支援します」、Vision（目標）は、「患者・家族の意思決定支援と専門性を持ったリハビリテーション介入によって、その人らしい生活の実現に貢献できる組織を目指します」、Value（行動指針）は、「①患者の気持ちに寄り添えるよう、コミュニケーション面と接遇面の向上に努めます②専門性と多様な視点を持ち、安全で質の高いリハビリテーションを実施します③地域活動に参画し、地域で暮らす人々の健康増進に寄与します④組織力・個人能力の向上のため、他者との意見交換を活発に行う事ができる、開かれた職場環境を作ります」に設定し、スタッフの意識統一を図り、業務を行いました。

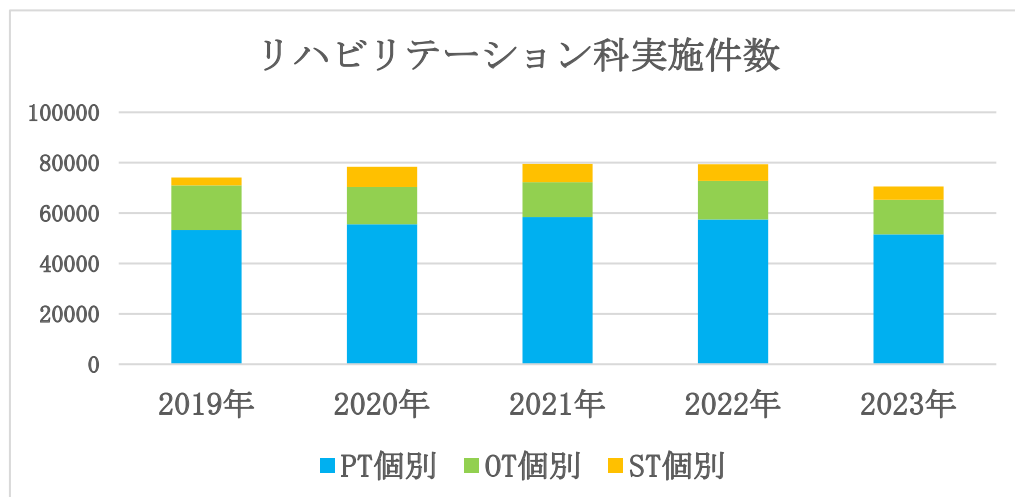
また、病院目標であるがん診療連携指定病院としての役割を果たすべく、がんリハビリテーション従事者養成に力を入れ、新たに4名の従事者を養成しました。がんリハビリテーションは、がんサロンでの講演を通して地域住民へ啓発を行いました。

以上、簡単ではございますが、リハビリテーション科の活動を報告させて頂きました。来年も地域に貢献できるよう、スタッフ一同、努力してまいります。

(文責 橋本 健太郎)

リハビリテーション科 実施件数 推移 (1/1～12/31)

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
PT 個別	53,250	55,564	58,437	57,469	51,528
OT 個別	17,754	14,773	13,800	15,300	13,751
ST 個別	3,129	8,040	7,300	6,622	5,298
総計	74,133	78,377	79,537	79,391	70,577



地域包括ケア病棟 2023 年実績

2023 年	患者数	総日数	総単位数	平均単位数	脳血管	廃用	運動器	呼吸器	ガン
R5 年 1 月	96	1,544	3,170	2.05	1,597	0	1,296	277	0
R5 年 2 月	93	1,396	3,012	2.16	1,217	0	1,554	241	0
R5 年 3 月	91	1,432	3,087	2.15	1,491	0	1,517	79	0
R5 年 4 月	87	997	2,707	2.73	1,202	0	1,298	163	44
R5 年 5 月	90	1,266	3,125	2.46	1,535	0	1,437	153	0
R5 年 6 月	71	1,025	2,835	2.76	1,423	0	1,219	193	0
R5 年 7 月	84	1,201	3,025	2.51	1,432	0	1,440	153	0
R5 年 8 月	85	1,166	2,717	2.33	1,368	0	1,175	159	15
R5 年 9 月	88	1,136	2,590	2.28	1,444	0	891	240	15
R5 年 10 月	71	923	2,126	2.30	885	0	996	245	0
R5 年 11 月	81	1,151	2,574	2.24	1,181	0	1,294	92	7
R5 年 12 月	88	1,074	2,468	2.30	1,217	0	1,159	92	51
月平均	85	1,193	2,786	2.36	1,333	0	1,273	174	11
前年度比	97%	91%	88%	97%	88%	0%	96%	98%	100%

放射線技術科

1. 概 要

主に病院・クリニック・健診センター の3ヶ所による放射線業務

病院での完全日当直制。夜間の緊急検査時の為、待機者 1 名。

放射線治療・治療計画用 CT の撮影

クリニック業務、健診センターの 1.5T MRI 検査

愛川クリニック・とうめい綾瀬腎クリニック・とうめい宮の里クリニック・

さがみ緑風園での X 線検査

主な設備：一般撮影 2 式（オール FPD）・80 列マルチ CT・3.0T MRI（健診：1.5T MRI）・

DR（X 線 TV 透視）・バイプレーン血管造影装置・バイプレーン心カテ装置

外科用イメージ 3 式・ポータブル撮影装置 3 台・結石破碎装置

放射線治療（リニアック）、治療計画 CT。

（マンモグラフィー、DEXA はクリニックが担当）。

2. 活動内容

医療法施行規則の改定に伴う放射線管理体制の強化を図るべく、水晶体被ばく測定の見点から対象者への不均等被ばくの追加をしました。さらに労働衛生委員会への参画を行い診療放射線業務に関わる職員への労働衛生環境の改善や、関係職員への教育講演などの対応を行いました。

また、引き続き、愛川・綾瀬・宮の里クリニック・緑風園などへの実質的な支援をしています。

科内の運営については、PACS 内の患者情報などの登録状況を把握し、不具合の訂正や登録時のルール化を周知して正確な画像情報の記録を行うべく尽力し、今後も継続していきます。

人事：本年度は 11 月に 1 名の退職者がありましたが、2024 年 1 月に新人 1 名を迎え入れ、その教育に尽力しています。

放射線治療：

昨年度より発足した放射線治療センターとして活動を行っており、主なものは以下の通りです。

- ・外来患者への栄養サポートの導入開始。
- ・前立腺照射に適用される Space OAR の運用開始 など。

装置面については、2023 年 12 月に MRI のバージョンアップを行いました。これにより検査内容の高精度化と検査時間の効率化が期待されます。現在放射線科医と磁気共鳴専門技術者によりプロトコル作成を行っています。

また、心臓カテーテル装置の更新を行うべく来年度の導入に向け申請・準備を行います。

認定等：2022 年度に合格した認定

- 1、日本磁気共鳴専門技術者認定機構 磁気共鳴専門技術者 合格 朝倉 祐太
- 2、放射線治療品質管理機構 放射線治療品質管理士 合格 伊藤 拓也（医学物理士）
- 3、日本乳がん検診精度管理中央機構 マンモグラフィ技術認定 合格 星野 茉保
- 4、日本 X 線 CT 専門技師認定 X 線 CT 認定技師 合格 小野沢 辰之

まとめ：

本年度は新型コロナウイルス感染症への対策対応も落ち着きを取り戻したかの様に思えますが、油断は出来ません。放射線安全管理について本年も様々な活動により、院内への啓蒙活動がよりスムーズに行えるようになりました。また、PACS 内のデータ管理も院内で理解され、各部署からも協力いただいています。今後も地域医療の為に貢献が出来る様に尽力いたします。

（文責 片岡 令安）

2023年 放射線科稼働状況（病院＋クリニックの総数）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般撮影	3,878	3,533	3,988	3,765	3,922	3,757	3,879	3,854	3,750	3,974	3,718	3,864	45,882	3,823.5
マンモグラフィ	172	173	88	74	70	108	154	151	161	189	172	161	1,673	139.4
骨塩量測定	106	110	133	135	136	164	120	122	148	124	115	128	1,541	128.4
X-TV	103	86	89	68	114	95	110	85	72	86	80	122	1,110	92.5
MRI	317	309	378	347	351	378	329	326	329	325	336	341	4,066	338.8
CT	1,635	1,465	1,627	1,617	1,720	1,648	1,779	1,680	1,670	1,665	1,617	1,723	19,846	1,653.8
血管造影	11	20	21	17	19	22	18	11	11	15	26	15	206	17.2
心カテ	25	34	31	39	29	35	39	37	45	36	40	39	429	35.8
結石破碎	3	4	7	1	2	5	9	4	4	7	13	8	67	5.6
(portable)	324	273	262	265	243	192	315	252	241	231	246	295	(3378)	(281.5)
総件数	6,250	5,734	6,362	6,063	6,363	6,212	6,437	6,270	6,190	6,421	6,117	6,401	74,820	6,235.0

放射線治療

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
新患人数	18	22	12	16	19	27	20	20	24	17	20	18	233	19
照射人数	29	38	26	26	27	36	38	31	33	31	34	25	374	31.2
照射件数	357	363	303	205	318	281	387	276	232	352	245	30	3,349	279.1

他施設依頼件数（オープン検査）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
MRI検査	53	57	67	43	31	38	38	39	35	41	53	47	542	45.2
CT検査	32	27	25	34	25	31	28	41	48	43	34	38	406	33.8
総件数	85	84	92	77	56	69	66	80	83	84	87	85	948	79.0

栄養科

1. 概 要

栄養科では、主に栄養管理業務と給食管理業務を担っています。栄養管理業務では、病棟担当の管理栄養士が入院患者さんの栄養状態を評価し、食事摂取量の少ない患者さんや低栄養の患者さんに対し、早期に介入することで改善に努めています。さらに医師の指示に基づき患者さん個々の病態や生活に合わせた栄養食事指導を実施しています。給食管理業務では、安全、かつ疾患ごとに適切で、さらに美味しい食事となるよう努めています。

2. スタッフ構成

常勤管理栄養士；5名 非常勤管理栄養士；1名
給食業務委託業者；日清医療食品株式会社 横浜支店

3. 活動内容

【栄養管理業務】

- ・栄養指導枠拡大、指導内容の拡充・拡大
 - ①入院患者さんへの介入拡大、クリニック・化学療法センターでの継続指導
 - ②新規、外来放射線治療センターでの介入、オープン検査患者さんへの介入
- ・栄養指導時に「栄養診断」を実施、記録・媒体の見直し
- ・病棟業務拡充・拡大
 - 入院前情報収集、入院時に加え再評価時にも患者訪問
- ・科内勉強会開催（1~2回/月）、院外研修会・学会参加多数
- ・マニュアル整備 食事基準各種マニュアルを三思会掲示板へアップし全職種と共有

【給食管理業務】

- ・インシデント対策 研修会（1回/月）、委託給食会社とのミーティング（1回/月）開催
- ・嚥下調整食基準に則った食事形態の見直し（随時）
 - 委託給食会社・摂食嚥下療法科との連携
- ・病院側発注・棚卸し方法の見直し
- ・食具（嚥下困難者用スプーン）の運用、経管用「濃厚流動食」の商品変更、一般食/流動食の間食廃止
- ・厨房改修工事計画 設備・設計・機器類の検討

次年度も、さらに栄養管理・給食管理の質の向上に努めてまいります。

（文責 田中 明美）

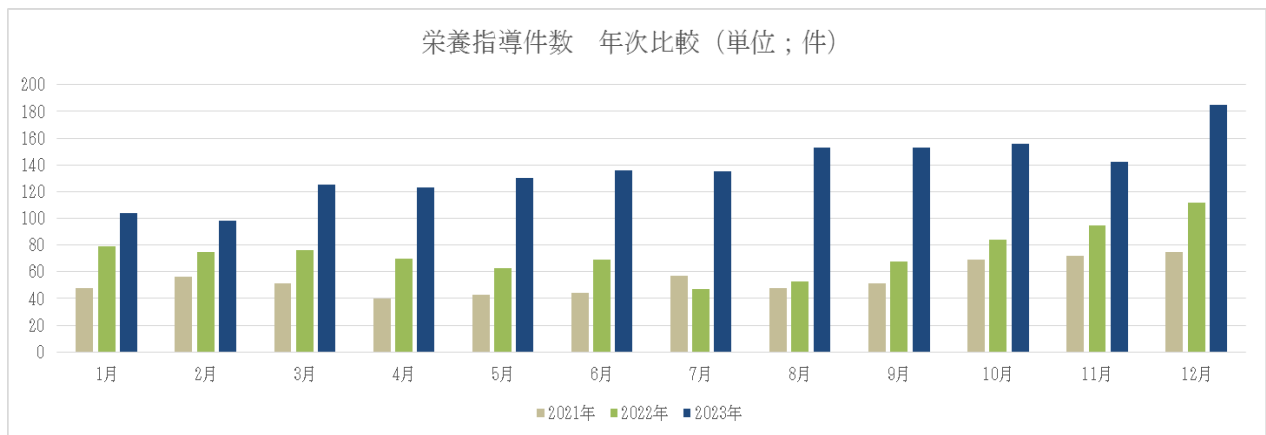
【認定等の状況】

認定資格	取得者
日本糖尿病学会認定 日本糖尿病療養指導士	山本
日本病態栄養学会認定 病態栄養認定管理栄養士	田中
日本病態栄養学会・日本栄養士会認定 がん病態栄養専門管理栄養士	田中
日本病態栄養学会・日本栄養士会認定 がん病態栄養専門管理栄養士研修指導師	田中
日本臨床栄養代謝学会認定 栄養サポートチーム（NST）専門療法士	田中

【活動実績】

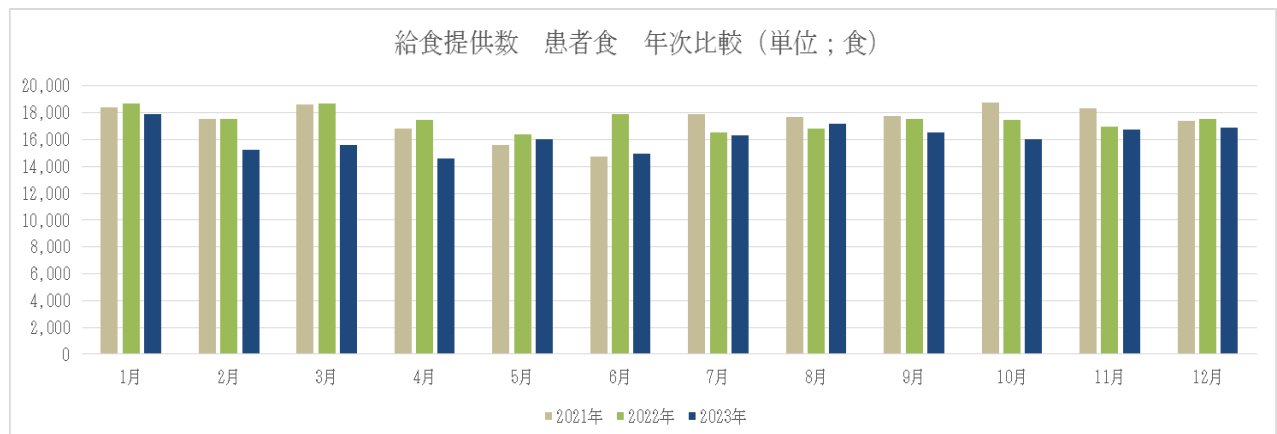
■栄養指導件数 3年比較（単位；件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2021年	48	56	51	40	43	44	57	48	51	69	72	75	654	54.5
2022年	79	75	76	70	63	69	47	53	68	84	95	112	891	74.3
2023年	104	98	125	123	130	136	135	153	153	156	142	185	1640	136.7



■給食提供数 患者食 3年比較（単位；食）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2021年	18,372	17,507	18,643	16,815	15,564	14,713	17,885	17,702	17,727	18,762	18,333	17,401	209,424	17,452.0
2022年	18,667	17,564	18,711	17,432	16,415	17,909	16,512	16,840	17,532	17,497	16,978	17,505	209,562	17,463.5
2023年	17,874	15,273	15,595	14,610	16,034	14,980	16,312	17,173	16,511	16,012	16,777	16,874	194,025	16,168.8



臨床工学科

1. 概 要

臨床工学科は、当院に於ける循環・呼吸・代謝業務に広く携わり、診療・治療の補助、および、生命維持装置の操作を行っています。また医療機器のスペシャリストとして当院が保有する医療機器の維持管理を行い、定期点検や使用前・使用中の点検を通じて安全使用と事故防止に努めています。さらに、機器の情報提供や安全使用教育なども積極的に行っています。また緊急の心臓カテーテル検査にも、24 時間オンコール体制で対応し、医療チームの一員として、適切な診断・治療がスムーズに行えるよう努めています。

2. スタッフ構成

臨床工学技士 9 名

* 不整脈治療専門臨床工学技士 1 名

* 手術関連専門臨床工学技士 1 名

3. 活動内容

・循環器業務

北野院長・石川（征）・石川（沙）・深井医師指導のもと、心臓カテーテル検査においては、心内圧測定・心拍出量測定・心内心電図測定などを行っています。PCI（経皮的冠動脈形成術）においては、心電図 12 誘導記録・IVUS（血管内超音波）を用いた血管径などの測定・記録をしています。その他、徐脈治療における体外式ペースメーカー、補助循環装置（IABP）等の操作、体内式ペースメーカー植込みの介助なども行っています。循環器外来においては、体内式ペースメーカーを植え込んだ患者さんに正しくペースメーカーが動作しているか検査するペースメーカーチェック。救急領域においては、心肺蘇生の手段として PCPS（経皮的心肺補助法）の操作も行い、更に頻脈の治療においてもアブレーション治療（心筋焼灼術）を行っています。

・高気圧酸素業務

高い気圧の下で酸素を吸入させることで、血液中の酸素を増やすのが高気圧酸素療法で、様々な疾患の治療に用いられます。当院には第 1 種高気圧酸素治療装置（1 人用）があり、主に脳塞栓症・ガス壊疽・網脈動脈閉塞症・突発性難聴などに多く適応され、これらの装置の操作、および点検を行っています。

・医療機器管理業務

患者さんの検査・治療にあたっては、医療機器が安全で正しく動作することが求められます。臨床工学科は 2003 年より、医療機器の保守管理を担当するようになりました。更に

平成 19 年度からは医療法の改正により、法的にも医療機器の整備が義務付けられました。これに伴い、今まで以上に知識の向上に努め、全ての医療機器が安全で性能が維持出来るように、保守・点検・管理・教育をし、効率的で適切な運用が出来るようにしています。

手術室においては、顕微鏡や内視鏡など多くの高度な医療機器があります。これらの使用・保守には多くの専門知識が必要で、手術が安全に効率よく進めていける環境の構築に貢献したいと考えています。

さらに、2015 年度より内視鏡室においても、機器管理業務を開始しています。

・手術室で行う鏡視下手術における内視鏡用ビデオカメラの保持及び操作

2021 年の法改正により、臨床工学技士の業務として追加されました。タスクシフトとして積極的に医療体制に貢献できる様に進めています。

4. 実施件数

循環器業務

心臓カテーテル検査	156 件	PCI	143 件
スワングアンツ	27 件	IABP	17 件
PCPS	10 件	アブレーション	80 件
EPS	8 件	ペースメーカー植込	17 件
ペースメーカー交換	10 件	ペースメーカークリニック	259 件

・高気圧酸素療法 354 回

院内勉強会

新入職者 ME 機器勉強会	2 回	人工呼吸器	2 回
血液浄化装置	1 回	輸液ポンプ	2 回
IABP	2 回	除細動器	1 回
PCPS	1 回	生体モニタ	1 回

(文責 中村 丈彦)

総務課

1. 概要

総務課の仕事は、いわゆる「縁の下力持ち」であり、主に組織全体に関する事務を取り扱っています。また、ユニフォームやロッカーの管理、寮の手配などを通じ、職員が働きやすい環境を整え、様々なサポートをしております。また、設備購入や建物管理、福利厚生制度の整備、院内制度の改善・推進、病院（法人）主催のイベント運営等も行っております。

2. スタッフ構成

課長：草山 竜二

主任：柏崎 康宏

課員：溝本 佑介 亀井 紘実 今田 みづほ 村尻 由利加

頼住 理沙 亀岡 美幸（医務部秘書） 東 もと子（図書室司書）

3. 活動内容

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、感染対策等において、緩和する部分と引き続き対策を継続する部分とが混在する、難しさをもった1年でした。

5類になったといっても、病院が安全に継続運営できるように院内感染対策の徹底する仕組みに変化はなく、その中で、面会緩和や必須の研修を集合開催やWEB開催で対応してきました。

職員においては昨年同様、ワクチン接種に加え、新型コロナウイルス感染症を疑う症状が発生した場合に、即時、検査を実施できる体制に協力しました。

施設におきましては、厨房改修工事が開始され、築40年以上の建物の改修工事の難しさを痛感致しました。改修部の過去の電気図面がないことや、その他の過去図面においても現状と相違があり、多くの課題によって、大きく計画期間がずれましたが、新厨房は3月を目途に稼働予定です。今後、1号館（事務室、医局）工事に入っていきます、

例年の行事は、全館停電検査（例年通り）、防災訓練（例年通り）、院内外研修会（集合研修、WEB研修）。その中でも、4年ぶりに納涼祭の開催ができ、久々に地域の方を含め、活気ある時間を持つことができました。

課業については、多種多様に対応できるようにマルチタスクとサポートスキルの向上を目標としています。今後も職員だけではなく院内で働くすべての人が働きやすく、患者さんにとっても心地よい入院生活が送れますよう、日々精進してまいります。

（文責 草山 竜二）

医事課

1. 概 要

医事課は、救急外来や内視鏡センター外来を担当する外来係と、入院会計を担当する入院係、病棟における事務全般を取り扱うクランクで構成されています。正確で質の高い診療報酬請求明細書を作成し、病院の収益に貢献できるよう業務を行うとともに、患者さんご家族のサポートもできるよう心がけております。

2. スタッフ構成

課 長：和田 博貴

主 任：井出 紀美子、佐伯 健太郎

外来係：林 美樹、高橋 未羽、石垣 みくみ、土井 陸斗、本間 郁江

入院係：田中 秀和、今屋 咲乃、金古 くるみ、田中 理菜

病院受付：上原 香絵（P）、斎藤 順子（P）

病棟クランク：島袋 夏実、河崎 朱音、旭 真奈、小林 あゆみ、戸村 早希、阿部 恵子

電話交換手：阿野 妙子（P）

医療コンシェルジュ：綾部 由美子、高木 三紗保（P）

3. 活動内容

- ◆ 受付・会計業務
- ◆ 病棟クランク
- ◆ 診療報酬請求業務
- ◆ 保険制度に係る申請
- ◆ 施設基準の届出及び管理
- ◆ DPC 分析
- ◆ テレフォンオペレーター
- ◆ 医療コンシェルジュ

（文責 和田 博貴）

地域連携室

1. 概 要

地域連携室は、主に「東名厚木病院」と「とうめい厚木クリニック」へのご紹介をお受けする部署です。看護師である受診コーディネーターをはじめとしたスタッフ一同が、患者さんの症状や緊急度により、最適な外来への予約・受診調整に努めています。

また、当院は神奈川県がん診療連携指定病院や地域医療支援病院の承認を受けており、その役割を果たすための活動や事務局を担当しています。

尚、放射線治療とオープン検査の患者さんに限らせていただいておりますが、個別の患者送迎も対応しておりますので是非ご利用ください。

ご紹介やオープン検査に関するご案内は、当院ホームページの「医療関係者の方」をご参照いただければ幸いです。紹介状などの各種書類のダウンロード、登録医マップ、紹介外来やオープン検査のご案内などを掲載しています。

2. スタッフ構成

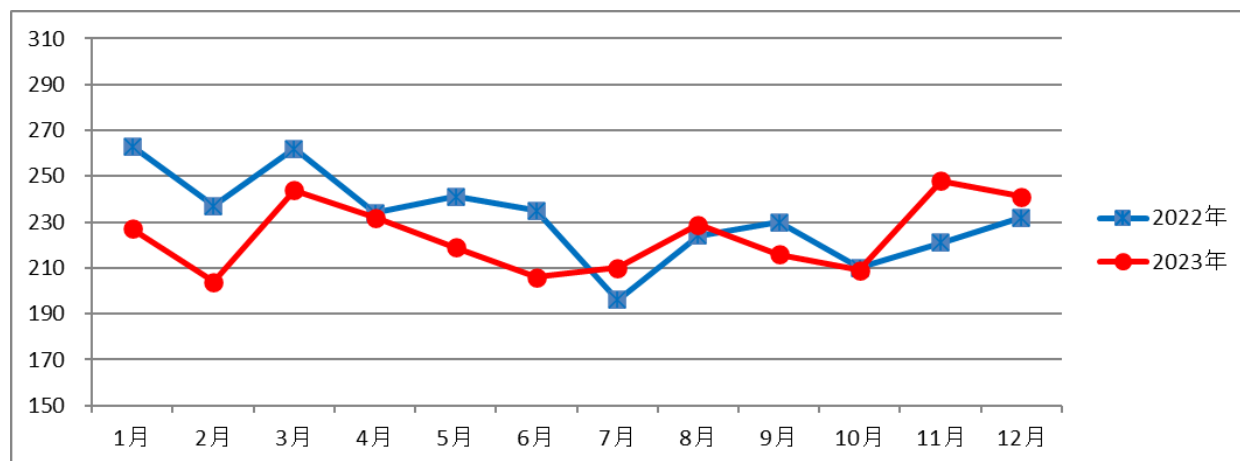
室 長（部 長）：	安西 秀聡	医師	管理・紹介外来・救急外来担当・総合診療科長
副 部 長：	平山 卓哉	事務	管理・渉外活動担当
マネージャー：	金丸 佐恵子	看護師	管理・受診コーディネーター
	： 小山 雅嗣	事務	渉外活動・連携調整担当
	： 木村 弘宗	事務	渉外活動・連携調整担当
	： 酒井 佐知子	事務	連携調整・報告書管理担当
	： 高橋 咲妃	事務	連携調整・報告書管理担当
	： 千村 優介	事務	報告書管理・送迎担当

3. 活動内容

- ・ご紹介・逆紹介に関する業務
- ・オープン検査に関する業務
- ・渉外活動
- ・紹介状や報告書の管理・配送
- ・送迎、車両管理
- ・神奈川県がん診療連携指定病院に関する事務業務
- ・地域医療支援病院に関する事務業務
- ・医療講座に関する業務
- ・厚木医師会の一部医会・部会に関する事務業務
- その他

紹介患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2022年	263	237	262	234	241	235	196	224	230	210	221	232	2,785
2023年	227	204	244	232	219	206	210	229	216	209	248	241	2,685



地域連携フォーラム（右写真）

4年ぶりに開催し、当院より3例の症例報告と、北里大学病院泌尿器科 主任教授・科長 岩村先生により「外科手術の発展と将来展望～ロボット支援手術がもたらす未来予想～」のご講演をいただきました。



かかりつけ医検索コーナー（左写真）

地域連携室前に「かかりつけ医検索コーナー」を設置しています。パソコンや地図、掲示しているリストから検索ができます。ご自由にお持ち帰りいただける登録医の紹介紙や登録医マップもご用意しています。検索のお手伝いなどもしています。

地域連携室（右写真）

総勢8名で構成されています。余談ですが、部署内にアクアテラリウム水槽が2本あります。癒し・加湿効果と植物による空気清浄効果に期待して徐々に増やしていきたいと考えています。



（文責 平山 卓哉）

患者総合支援センター（入退院支援／患者サポート／医療福祉相談・がん相談）

1. 概 要

患者総合支援センターには、入退院支援センター、医療福祉相談室、患者サポート窓口とがん相談支援センターの役割を担っています。

患者家族の総合的な相談室として機能を強化してきました。また、地域との連携を強化し地域包括ケアシステムづくりへ参画しております。今後も患者家族と地域に信頼されるよう努力して参ります。

2. スタッフ構成

センター長：安齋 明雅 補佐：高坂 佳宏・小田 和美

課長：福田 美香（社会福祉士）、高瀬 由佳・芝 由美子（看護師）

入退院支援看護師：8名、社会福祉士：6名、事務職：1名、ケアワーカー：1名

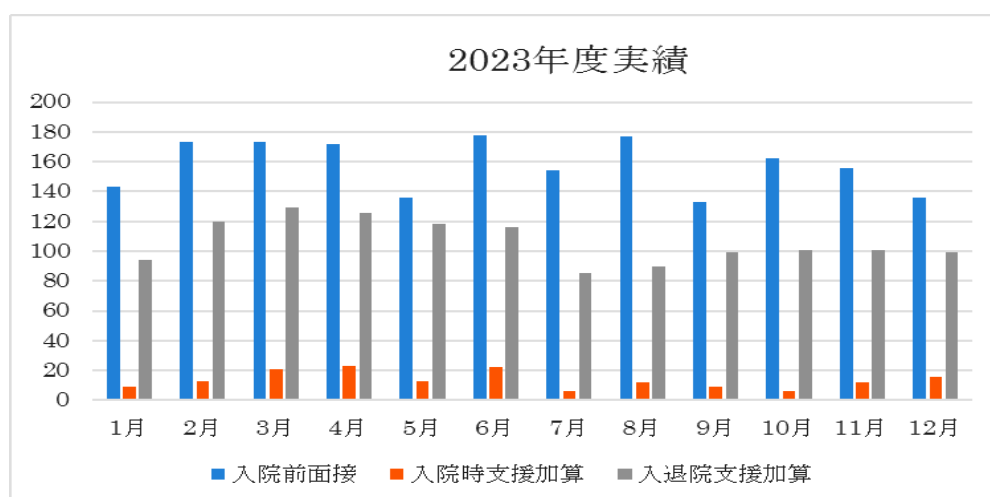
がん相談看護師：1名、社会福祉士：1名

3. 活動内容

1) 入退院支援センター

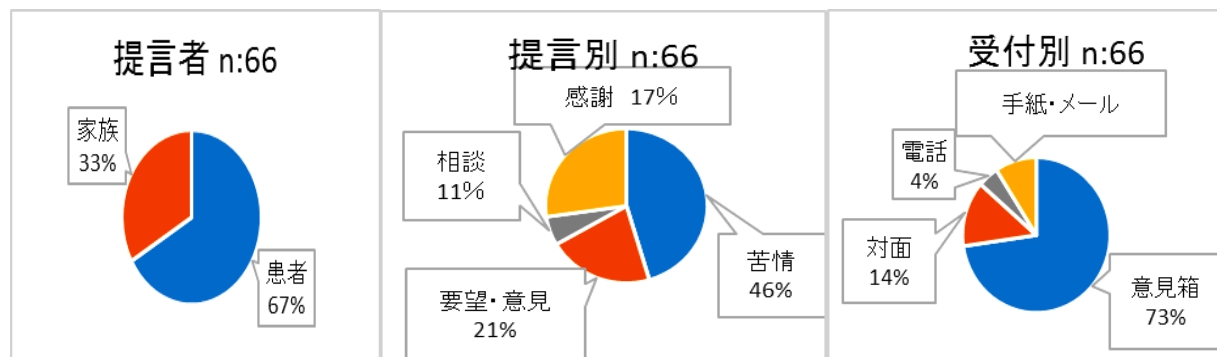
2023 年は、面会制限があるなか、入院中の患者さんの状態を電話や 10 分間の面会時などで家族や在宅チームと共有し、退院しても困らないよう支援を行いました。連携している病院や施設への訪問は、制限が緩和され、訪問して情報の共有を行いました。また、退院前・後訪問指導を積極的に実施し、退院前に生活の場を確認することで、必要な支援を具体化することにつなげました。退院後訪問指導では、退院調整の評価や病院では、見られなかった患者さんの笑顔を目のあたりにし、在宅療養の素晴らしさを実感することができました。また、退院調整の振り返りになりました。更によりよい退院支援につなげて行きたいと考えます。

入院前面接では、事務職やケアワーカーと協働することや他職種と連携し、安心して入院できる支援につなげました。



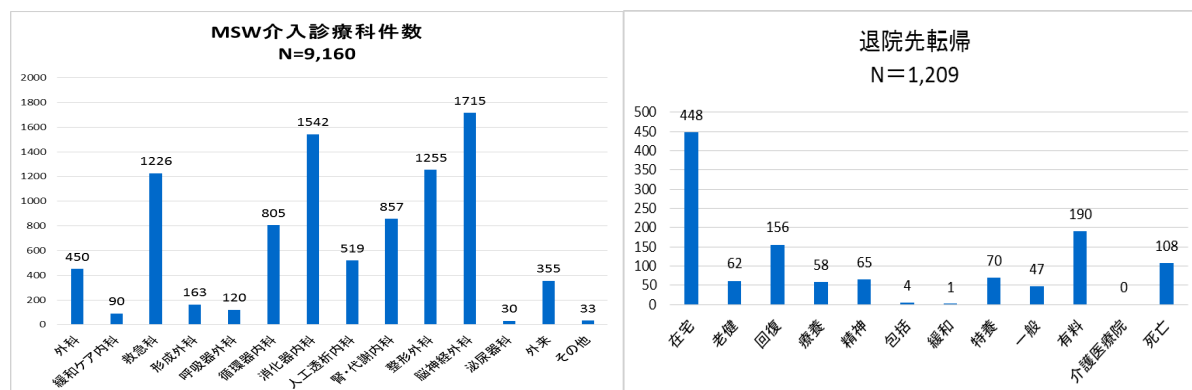
2) 患者サポート窓口

患者家族からの提言件数は以下グラフを参照ください。病棟や他部署からの相談では、延べ151件でした。面会制限も継続する中、患者家族に十分伝え切れていない面もあります。感謝の言葉も頂戴していますが、患者家族からの提言を踏まえ、職員の接遇改善に取り組んでまいります。



3) ソーシャルワーク業務

今年度はコロナ後で対面での活動も増えました。退院調整では、在宅への退院調整も増えており、有料施設等在宅療養の場の選択肢も増えています。また家族のかたちも変化しており、単身者や身寄りのない方が増えており、行政機関等含め地域での多職種他機関連携がかかせない症例が増えています。今年度はmedical B.I.G net®を活用したICTの連携も行政、在宅含めた取り組みを実施してきました。



4) がん相談支援センター業務

自院・他院からのがん相談件数では、121件、継続患者47件、延べ161件でした。今年度も引き続き、がん相談支援センターやがんに関わる情報を法人と共に病院や地域の広報誌を通じて定期的に発信してきました。広報を通じて当院の相談支援センターを知った患者さまやご家族さま等からご連絡を頂くことが出来ました。定期的ながんサロン・医療講座は今年度対面で実施することができました。より地域住民の皆様とお近くで交流することができ、次年度も引き続きがん患者さん及びご家族や関わられる方々の相談場所として周知啓蒙を行っていきます。

(文責 小田 和美、福田 美香)

診療支援部 医師事務支援室

1. 概 要

医師事務支援室では、診療支援部門として医師の事務作業負担軽減業務を担っています。医師に代わり事務作業を行うことで、医師の勤務時間の短縮及び、診療に専念することで質の高い医療技術が提供できる手助けとなるよう日々、業務を遂行しております。また、本年2月に診断書作成システム MEDI-Papyrus を導入いたしました。業務の質、効率を向上させることができいております。

2. スタッフ構成

部 長 : 田澤 賢一
課 長 : 金谷 渉 (診療情報管理士)
主 任 : 尾形 えみ (医師事務作業補助者・診療情報管理士)
スタッフ : 深谷 有美 (医師事務作業補助者)
村上 沙羅 (医師事務作業補助者)
足立原 朋世 (医師事務作業補助者)
日数谷 桃菜 (医師事務作業補助者)
川口 奈緒美 (窓口事務担当)
菅沼 由米 (窓口事務担当) (パート)

3. 活動内容

- ・ 公的保険及び民間保険の診断書等の代行作成
- ・ 電子カルテへ診療録の代行入力及び代行オーダー
- ・ 各種学会の手術症例の代行入力 (NCD/JND/JED/JOANR)
- ・ キャンサーボード開催の準備及び議事担当

(文責 尾形 えみ)

診療支援部 診療情報管理室

1. 概 要

診療情報管理室では、医療記録（診療録・診療（諸）記録）の監査及び保管管理や、記録に基づいた退院患者データベースを作成し、様々な医療統計を作成しております。また正確且つ、迅速なデータの抽出及び作成をし、健全な病院経営に貢献することを目指しています。

診療録及び診療（諸）記録の重要性及びリスクマネジメントについて、全職種に対しての正確な記録は医療者及び患者さんを守るという考え方を周知させ、保険診療や行政監査、情報開示請求及び訴訟等に耐えられる診療録記載の徹底を図っています。今後も、診療情報管理士の立場からチーム医療・地域医療の貢献にスタッフ一同邁進していく所存です。

2. スタッフ構成

部 長 : 田澤 賢一

課 長 : 金谷 渉（診療情報管理士）

スタッフ : 阿部 京子（診療情報管理士） 石川 舞（診療情報管理士）
柏崎 康宏（診療情報管理士） 幅 麗桜 佐藤 由紀（パート）

3. 活動内容

- ・ 疾病・処置・手術コーディング
- ・ 届出施設基準管理
- ・ 診療情報開示
- ・ 診療録及び診療（諸）記録監査
- ・ 手術記録記載管理
- ・ 同意書等スキャンニング
- ・ 院内がん登録（全国がん登録）
- ・ 各種 CQI（Clinical Quality Indicator）
- ・ 厚生労働省提出用 DPC データ作成（様式 1・3・4、D・EF・H・K ファイル）
- ・ 疾病統計（疾病別・年齢別・平均在院日数・死亡数等）
- ・ DPC データベンチマーク及び DPC データを用いた院内データ
- ・ 在宅復帰率データ/提出データ評価加算における未コード化傷病名使用率

※統計データは別頁を参照。

（文責 田澤 賢一、阿部 京子）

医療安全管理室

1. 概 要

医療安全管理室は、平成 15 年 7 月から「患者の安全を最優先に考える医療」を基本指針に活動しています。主な業務内容は、医療事故防止活動、医療事故対応活動を医療安全管理室、安全管理委員会、看護部セフティー委員会のメンバーと協働して実施しています。

2. スタッフ構成

医療安全管理室室長	中 正剛（医師）
医療安全管理室副室長	石川 征之（医師）
医療安全管理室副室長	小田 和美（看護師）
医療安全管理室	竹田 英子・蒲谷 朱希子（看護師）
医薬品安全管理者	吉岡 我佳命（薬剤師）
医療機器安全管理者	中村 丈彦（臨床工学士）
医療放射線安全管理者	阿部 敦（医師）
リハビリテーション科	橋本 健太郎（理学療法士）
総務課	溝本 佑介（事務職）

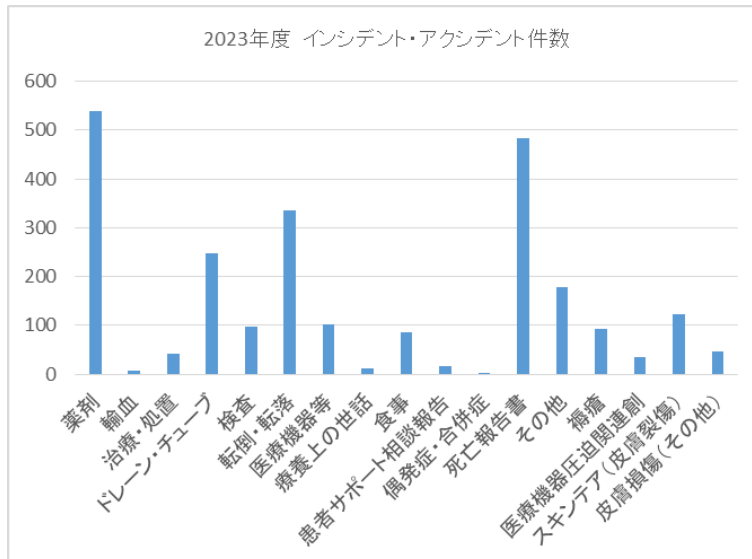
3. 活動内容

医療安全管理室では、院内各部署から報告されたインシデントレポートに対して週 1 回行われる医療安全カンファレンスで事例を報告し、患者安全を最優先に考えた再発防止策の検討を行っています。

薬剤関連で、更に安全な薬剤管理の視点から誰でも薬局内に出入りできるため、防犯カメラの設置を検討しました。また、薬局内に侵入防止のためカウンターを設置し払い出しもカウンターで行うようにしました。薬剤の運搬では、施錠管理できないカートで運搬しているため、施錠できるカートの検討を行い、試験運用を行いました。今後、更に検討を重ね安全な薬剤運搬に繋がっていきたいと考えます。薬剤の処方に関して、オーダー時に用紙が印刷される物と印刷されない物があり業務が複雑化しています。処方時の医師と看護師の画面の見え方が違うなど、職種別に見える画面が異なることから、スムーズな情報伝達ができないため情報システム科を含め検討しました。引き続き情報システム科と連携し情報伝達エラー防止に努めていきたいと考えます。

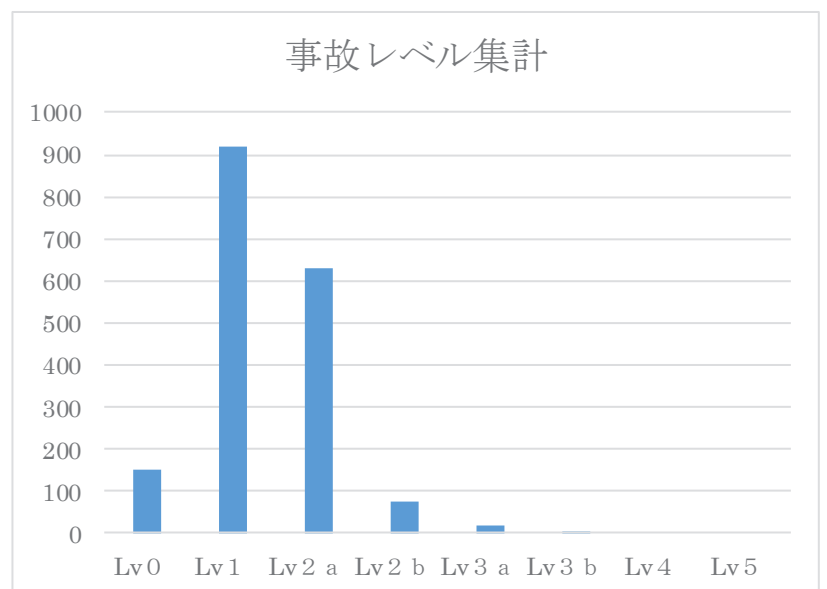
報告基準の中のレベル 3b 以上や麻薬に関する事故及び院内機器破損については行動レベルの決まりがあるが、警鐘事例などは基準が無く、安全管理室への報告が遅延することが散見され、事実確認が正しく行われず根本解決に繋がらなかった。そのためレベルに関わらず直ちに報告できる基準をマニュアルに追加した。また、全職員への研修を行い周知しました。

【2023 年 インシデント・アクシデント報告】 報告総数 2,021 件



概要	件数
薬剤	539
輸血	8
治療・処置	43
ドレーン・チューブ	248
検査	97
転倒・転落	335
医療機器等	103
療養上の世話	12
食事	86
患者サポート相談報告	16
偶発症・合併症	3
死亡報告書	483
その他	179
褥瘡	94
医療機器圧迫関連創	34
スキンケア(皮膚裂傷)	123
皮膚損傷(その他)	46
合計	2449

事故レベル区分	件数
Lv 0	152
Lv 1	918
Lv 2 a	632
Lv 2 b	74
Lv 3 a	20
Lv 3 b	6
Lv 4	0
Lv 5	0
合計	2,449



(文責 蒲谷 朱希子、竹田 英子)

院内感染対策室

1. 概 要

平成 22 年から「院内感染に対する総合的な予防、防止策の企画、立案に関わる部門」として、活動しています。

院内感染とは、「病院内で体に侵入した細菌やウイルスなどの病原体でおきる感染症のこと」と定義されています。病院に入院されている患者さんは、原疾患・手術・治療・高齢などのため体の抵抗力が低下されている方が多くなっており、通常では病気を起こさない微生物による感染症や抗生物質が効きにくい菌による感染症の危険性が増えているのが現状です。

入院によって新たな感染症に罹患することは、本来必要な治療以外の治療が必要になり、患者さんに大変な不利益をもたらします。また注射針などを刺してしまって、医療従事者が感染に罹患してしまうことも院内感染に含まれています。そのため、院内感染対策は病院における患者さんと職員を守る医療安全対策とも深く関連し、安全な医療の提供と信頼を確保するための重要なポイントとなります。

当院では、院内感染対策を決定する院内感染対策委員会を設置し、その実働組織として院内感染対策チーム、抗菌薬適性使用チーム（AST）、看護部リンクナース会を組織し、感染対策全般を総括していく役割の院内感染対策室が活動を行っています。

2. スタッフ構成

室 長：川井 貴美子（ICD: Infection Control Doctor）

補 佐：小島 淳夫（ICD: Infection Control Doctor）

専従業務：中嶋 君江（ICN: Infection Control Nurse）

3. 主な業務内容

1) 毎月 1 回、第 1 水曜日に委員会開催

2) 感染防止対策講演会開催

第 1 回「薬剤耐性菌について COVID-19 今時の情報」

講師：鶴巻温泉病院 感染対策室長 近藤成美先生

第 2 回「EBM に基づいた適正な抗菌化学療法～いまさら聞けないシリーズ～」

講師：薬剤科 吉岡課長

3) 業務内容

- (1) 毎月委員会の前に院内ラウンド実施、環境整備を ATP 測定して委員会で結果報告と現場へフィードバック
- (2) 週 1 回の感染対策チーム（ICT）ラウンドと部署へのフィードバック
- (3) 週 1 回の薬剤耐性菌発生状況と抗菌薬使用状況の把握と介入（AST 活動）
- (4) 感染対策標語・ポスターの募集、表彰、掲示

(5) 感染防止に必要な製品の見直しと新規導入の検討

- ① クロルヘキシジングルコン酸塩エタノール液 1%綿棒
- ② ディスポ吸引装置
- ③ 個人携帯手指消毒剤変更

(6) 院内感染対策マニュアル改訂

(7) 抗菌薬適正使用状況の把握

(8) 流行性疾患発生時の対策協議と院内への啓蒙活動

COVID-19・インフルエンザなど感染防止対策実施状況の確認と指導

(9) サーベイランス実施

- ① 手術部位感染サーベイランス実施（厚生労働省サーベイランス事業への報告）
- ② 検査部門サーベイランス実施（厚生労働省サーベイランス事業への報告）
- ③ 全入院患者部門サーベイランス実施（厚生労働省サーベイランス事業への報告）
- ④ 尿道留置カテーテルサーベイランス
- ⑤ 中心静脈カテーテルサーベイランス
- ⑥ 手指消毒剤使用量サーベイランス

(10) 職業感染対策

- ① 職員の流行性ウィルス抗体価確認とワクチン接種
- ② 針刺し・切創時の確認と対応

(11) 地域連携

- ① 感染対策向上加算 1 を算出した伊勢原協同病院、神奈川リハビリテーション病院と年 1 回相互評価
- ② 感染対策向上加算 2・3・外来を算出した、鶴巻温泉病院、近藤病院、とうめい厚木クリニック、関根医院と年 4 回合同カンファレンス
- ③ 伊勢原協同病院、神奈川リハビリテーション病院、東名厚木病院 3 施設合同（各連携施設含む）厚木保健福祉事務所・平塚保健所秦野センターからも参加いただき 16 施設で新興感染症想定訓練実施（開催場所：東名厚木病院）
- ④ 感染対策向上加算 2・3・外来施設への助言

(11) 所轄保健所との連携、報告実施

平成 31 年 4 月 1 日より、感染症発生動向調査事業における指定届出機関（擬似症定点）に指定されました

（文責 中嶋 君江）

院内定例会議及び委員会・医療チーム

1. 会 議

管理会議

役職会議

医務部科長会、医務部会

看護課長会議

法人本部主催会議

病院執行会議

2. 委 員 会

地域医療支援病院研修・地域連携推進委員会

医療従事者負担軽減及び処遇改善委員会

診療録委員会

手術室運営委員会

電子カルテ委員会

NST 委員会

臨床研修管理委員会

褥瘡対策委員会

職業倫理及び個人情報管理委員会

医療ガス安全管理委員会

救急・ICU 委員会

精度管理委員会

DPC 管理委員会

広報委員会

院内感染対策委員会

図書委員会

病床管理委員会

ボランティア委員会

クリニカルパス委員会

業務改善・患者満足度向上委員会

ICLS 委員会

職員満足度向上委員会

摂食嚥下委員会

災害対策委員会

栄養委員会

材料選定委員会（下部組織、材料委員会）

年報編集委員会

ホームページ委員会

安全管理委員会

臨床倫理委員会

治験審査委員会

事故対策委員会

薬事・輸血委員会

がん診療連携委員会

労働安全衛生委員会

3. 医療チーム

内視鏡センター運営会議

VTE 予防対策チーム運営会議

化学療法委員会

DM チーム運営会議

緩和ケアチーム運営会議

せん妄・認知症ケアチーム運営会議

呼吸療法チーム運営会議

放射線治療センター運営会議

2023年度 各種委員会

【◎＝委員長、○＝副委員長、△＝召集係】

2023/4/1

委員会		1		2		3		4		5		6	
地域医療支援病院研修 ・地域連携推進委員会		診療録委員会		電子カルテ委員会		臨床研修管理委員会		職業倫理及び個人情報管理委員会		救急・ICU委員会			
目 的	1.外部医療機関との連携に関すること 2.症例検討会開催についての調整 3.地域の医療従事者に対する生涯教育 および研修に関すること		診療録に関する業務の円滑な運営の為、記録・ 管理事項の検討及び討議		電子カルテシステムについての検討 (運用の検討は診療録委員会)		管理型臨床研修病院の役割を果たすこと 3月臨床研修終了式		患者さんご家族及び職員の個人情報の 保護、また利用に関すること ・倫理に関する講習会(職員)、個人情報 保護研修会の開催 ・職業倫理・教育に関すること		救急・ICUの運用に関すること		
	◎ 安西 秀聡 医務部 ○ 平山 卓哉 地域連携室 △ 木村 弘宗 地域連携室 鬼塚 圭一郎 医務部 吉川 涉 医務部 石川 沙羅 医務部 新井 圭一 医務部 成尾 宗浩 医務部 芝 由美子 看護部 安東 まみ 看護部 中尾 美幸 看護部 金丸 佐恵子 看護部 小山 雅嗣 地域連携室 片岡 令安 放射線技術科 栗田 修 臨床検査科 福田 美香 医療福祉相談室 今屋 咲乃 医事課 林田 朋子 CL医事課	◎ 田澤 賢一 医務部 ○ 金谷 涉 診療情報管理室 △ 阿部 京子 診療情報管理室 岩倉 秀雅 医務部 鬼塚 圭一郎 医務部 中 正剛 医務部 大久保 絵子 医務部(研修医) 瀧美 優 医務部(研修医) 安東 まみ 看護部 蒲谷 朱希子 看護部 竹田 英子 医務部 金谷 正人 放射線技術科 橋本 健太郎 医務部(研修医) 深井 杏実 医務部(研修医) 井出 紀美子 看護部 林田 朋子 CL医事課 中西 有紀子 CL看護部 中西 有紀子 CL看護部	◎ 中 正剛 情報システム課 ○ 藤元 秀浩 情報システム課 △ 久保田 祥平 情報システム課 岩倉 秀雅 医務部 鬼塚 圭一郎 医務部 田澤 賢一 医務部 大久保 絵子 医務部(研修医) 瀧美 優 診療情報管理室 金谷 涉 看護部 安東 まみ 看護部 蒲谷 朱希子 看護部 竹田 英子 医務部 金谷 正人 放射線技術科 橋本 健太郎 リハビリテーション科 矢島 和俊 臨床検査科 吉岡 我佳命 薬剤科 深井 杏実 医療福祉相談室 井出 紀美子 医事課 林田 朋子 CL医事課 中西 有紀子 CL看護部 小池 一彦 看護部 武尾 竜平 看護部 野澤 君洋 診療情報管理室 阿部 京子 情報システム課 有馬 義裕 情報システム課 水谷 裕介 情報システム課 村上 元紀 情報システム課	◎ 小島 淳夫 医務部 ○ 鎌田 順道 医務部 △ 深谷 有美 医師事務支援室 足立原 朋世 医師事務支援室 北野 義和 医務部 富田 公夫 医務部 山下 巖 医務部 鬼塚 圭一郎 医務部 中 正剛 医務部 玉置 道生 医務部 安西 秀聡 医務部 大山 聡子 医務部 堀 賢一郎 医務部 高梨 遼 医務部 藤城 貴教 医務部 田澤 賢一 医務部 竹内 真吾 医務部 阿部 敦 医務部 加藤 優子 医務部 岩倉 秀雅 健診センター 田中 浩史 愛川クリニック 村本 将俊 CL医務部 河野 昌史 CL医務部 森 健太郎 医務部(研修医) 山本 優輝 医務部(研修医) 下島 三千代 看護部 片岡 令安 放射線技術科 久木 光司 事務部 柏崎 康宏 総務課 その他外部委員	◎ 鬼塚 圭一郎 医務部 ○ 金谷 涉 診療情報管理室 △ 阿部 京子 診療情報管理室 中 正剛 医務部 岩倉 秀雅 医務部 田澤 賢一 医務部 大久保 絵子 医務部(研修医) 瀧美 優 医務部(研修医) 安東 まみ 看護部 蒲谷 朱希子 看護部 竹田 英子 医療安全管理室 金谷 正人 放射線技術科 深井 杏実 医療福祉相談室 井出 紀美子 医事課	◎ 安齋 明雅 医務部 ○ 山崎 友也 医務部 △ 林 美樹 医事課 深井 翼 医務部 安東 まみ 看護部 坂本 隆行 臨床工学科 矢島 和俊 臨床検査科 高橋 篤義 放射線技術科 平林 幸子 看護部 吉岡 我佳命 薬剤科							
構成員													
定期開催	1回/2ヶ月(第4火曜日)	1回/2ヶ月(第2火曜日)	1回/2ヶ月(第2火曜日)	1回/2ヶ月(第2火曜日)	1回/2ヶ月(第4火曜日)	1回/2ヶ月(第2火曜日)	1回/2ヶ月(第2火曜日)	随時/第2火曜日)	随時				

(敬省略)

委員会	7	8	9	10	11	12
	DPC管理委員会	院内感染対策委員会	病床管理委員会	クリニカルパス委員会	ICLS委員会	摂食嚥下委員会
目的	標準的な診断及び治療方法の周知を徹底して適切なコーディングを行う体制を維持すること	院内感染予防と発生時対応 7月11月院内感染対策に関する研修	適切な病床運営を図る	医療の内容を評価・改善して、チーム医療の向上の高い医療を提供する パス大会の運営	BLS・ICLS開催に関すること	摂食・嚥下障害患者の早期経口摂取再獲得およびQOL向上を目指した摂食・嚥下リハビリテーションを提供する
構成員	◎△金谷 渉 ○ 和田 博貴 医療部科長会メンバー 成田 千津 井出 紀美子	◎ 川井 貴美子 ○ 安齋 明雅 △ 中嶋 君江 北野 義和 中 正剛 小島 淳夫 中野 敦史 上 堇 松岡 慶悟 伊藤 玲子 小川 美津子 石田 尚明 大谷 路子 吉岡 我佳命 清野 晃弘 大石 啓太 栗田 修 雄井 志帆 水口 彩芽 小林 大輔 手塚 芳幸 久木田 光司 鳥袋 夏実 亀井 結実 廣田 菜穂子 鎌田 祐美	◎ 鬼塚 圭一郎 ○ 小田 和美 △ 河崎 朱音 中 正剛 玉置 道生 高坂 佳宏 伊藤 玲子 下島 三千代 信太 弥栄子 中尾 美幸 和田 淑乃 原山 里美 小川 美津子 芝 由美子 安東 まみ 大澤 直子 平林 幸子 福田 美香 和田 博貴 平山 卓哉 橋本 健太郎 山内 領紅	◎ 神山 公希 ○ 小田 和美 △ 田中 秀和 玉置 道生 中 正剛 山崎 友也 石川 沙羅 和田 淑乃 関口 美里 上村 和輝 岡本貴世江 阪本 佑果 芹田 勇人 紺野 清輝 服部 綾 相良 真美 小黒 美香 大槻 まゆみ 山本 佳奈 成田 千津 土方 麻衣 古屋 一樹 手塚 桜顔 石川 舞 有馬 義裕 水谷 裕介	◎ 山下 蔵 ○ 関口 美里 △ 林田 朋子 今村 圭史朗 清本 佑介 吉岡 我佳命	◎ 西川 利恵 ○ 本田 小百合 △ 金子 晶子 松浦 華月 新垣 葉乃 畑野 羽咲 浜林 寿希也 水島 紫野美 小西 葉奈 小林 大輔 八木 美香 青木 昭篤 水田 美里 山本 佳奈 大石 啓太 雄井 志帆 宮脇 美早恵
定期開催	4回／年	1回／月(第1水曜日)	1回／月(第3月曜日)	1回／2ヶ月(第3火曜日)	1回／月(第1金曜日)	1回／2ヶ月(第1火曜日)

(敬省略)

13	14	15	16	17	18	
委員会	栄養委員会	年報編集委員会	安全管理委員会	治験審査委員会	薬事・輸血委員会	労働安全衛生委員会
委員会 <						

(敬省略)

委員会	19	20	21	22	23	24
委員会 目的	医療従事者負担軽減 及び 処遇改善委員会 時間外労働の把握と対策	手術室運営委員会 手術室の運営全般協議	NST委員会 培養状態を判定し、最もふさわしい培養管理を指導・提言することにより培養状態の改善を通じて治癒に貢献すること	褥瘡対策委員会 院内の褥瘡発生率の情報共有・対策や管理方法の検討。 褥瘡に関する知識向上 (チーム医療を円滑に進めていくため)	医療ガス安全管理委員会 医療ガス設備の安全管理	精度管理委員会 臨床検査実施に伴う精度管理及び症例検討、業務を円滑に実施する為の具体的検討、立案、協議決定を行うこと
構成員	◎ 小島 淳夫 医療部 ○ 久木田 光司 事務部 △ 尾形 えみ 医師事務支援室 北野 義和 医療部 梶塚 圭一郎 医療部 小島 淳夫 医療部 田澤 賢一 医療部 神山 公希 医療部 高坂 佳宏 医療部 成尾 宗浩 医療部 中正剛 医療部 竹内 真吾 医療部 鎌田 順道 医療部 高梨 遠 医療部 藤城 貴教 医療部 笹生 一樹 看護部 金谷 正人 放射線技術科 中村 文彦 臨床工学科 久木田 光司 事務部 吉岡 我佳命 薬剤科	◎ 大山 聡子 医療部 ○ 田中 明美 栄養科 △ 山本 佳奈 栄養科 石川 征之 医療部 石川 沙羅 医療部 渥美 優 医療部(研修医) 山本 優輝 医療部(研修医) 松岡 慶悟 医療部(研修医) 榎野 瑞希 医療部(研修医) 門松 沙織里 医療部(研修医) 本田 小百合 看護部 金子 晶子 看護部 西川 利恵 看護部 嶋津 桃花 看護部 山本 里南 看護部 相原 圭佑 看護部 宮口 夕理 看護部 石川 亜莉未 看護部 清水 菜々子 看護部 蛭原 春菜 看護部 川口 峻 看護部 宇都宮 菜摘 リハビリテーション科 八本 春那 リハビリテーション科 赤星 咲子 リハビリテーション科 春原 悠希 臨床検査科 宮脇 美早恵 薬剤科 医療福祉相談室	◎ 高梨 遼 医療部 ○ 今村 圭史朗 看護部 下島 三千代 看護部 竹江 雄貴 看護部 白水 夏実 看護部 青木 雄佑 医療部(研修医) 門松 沙織里 医療部(研修医) 赤星 琴乃 看護部 山口 小苗 看護部 平間 希代子 看護部 丸山 まどか 看護部 石原 悠伎 看護部 高嶋 優未 看護部 車田 巧 看護部 今井 乃亜 看護部 横山 早希 看護部 佐藤 巧真 看護部 神保 捺未 リハビリテーション科 相原 健 リハビリテーション科 飯田 勇次郎 リハビリテーション科 岩田 亜恵 リハビリテーション科 矢部 綾子 栄養科 高梨 咲葉子 薬剤科	◎ 安齋 明雅 医療部 ○ 坂本 隆行 臨床工学科 △ 小泉 義春 管理部門 大澤 直子 看護部 亀川 美貴 薬剤科 亀井 紘実 総務課 梶星医療機器	◎ 富田 公夫 医療部 ○ 栗田 修 臨床検査科 △ 村尻 由利加 総務課 大澤 直子 看護部 一戸 裕貴 臨床工学科 川村 恵美 薬剤科	
定期開催	1回／3ヶ月	1回／2ヶ月(4月開催以降、奇数月)	1回／2ヶ月(第4月曜日)	1回／2ヶ月(最終月曜日)	不定期	3回／年(第3火曜日)

(敬省略)

委員会	広報委員会	図書委員会	ボランティア委員会	業務改善・患者満足度向上委員会	職員満足度向上委員会	病院災害対策委員会
目的	機関誌とうめいの発行として、医療に関する情報、企画行事による活動の掲載	1.図書購入の検討 2.図書室・図書スペースの整理	1.地域に開放された病院としてボランティアを受け入れ、地域住民と交流を図る 2.ボランティアがその活動を通して個人の能力を生かせるような環境を作る	・接遇に関すること ・業務改善に関すること ・11月患者満足度調査	職員の労働環境を整え、職員が働きやすくなり、いがいがが培える職場作りを行い、職員離職率を低下させることを目的とする 職員満足度調査の実施	1.災害マニュアルの見直し 2.実践的な防災訓練 3.トリアージ訓練の実施(年2回) 4.行政、医師会、病院協会との連携強化 5.法令の防災訓練実施
構成員	◎ 久木田 光司 ○△ 阿部 京子 芝 由美子 齊藤 祐奈 吉田 貴和子	◎ 小島 淳夫 ○ 亀岡 美幸 △ 村尻 由利加 中尾 美幸 朝倉 裕太 旭 真奈	◎ 久木田 光司 ○ 平林 幸子 △ 村尻 由利加 難波 紀子 田畑 かざり	◎ 中正剛 ○ 草山 竜二 △ 吉田 貴和子 竹田 英子 神保 悠未 植村 麻美 木田 健一 三澤 美咲 坂本 隆行 武田 英樹 今田 みづほ 蒲谷 矢希子	◎ 中正剛 ○ 秋田 泉 △ 草山 竜二 原山 里美 蜂須賀 和人 菊池 賢介 小池 一彦 佐藤 寛治 今田 みづほ	◎ 北野 義和 ○ 中正剛 △ 柏崎 康宏 下島 三千代 関口 美里 中橋 真弓 田中 明美 栗田 修 坂本 隆行 片岡 令安 古岡 我佳命 清家 慧 和田 博貴 藤元 秀治 興野 演 阿部 靖治
実施頻度	1回/3ヶ月(第3or4金曜日)	1回/3ヶ月(第3木)	1回/2ヶ月(第3木曜日)	1回/月(8.12月開催無し)	2回/年	1回/2ヶ月(第2木曜日)

(敬省略)

委員会	材料選定委員会	材料委員会	ホームページ委員会	内視鏡センター運営会議	化学療法委員会	緩和ケアチーム運営会議
目的	①経費の削減 ②医療材料、医療用器械備品の購入時 審査 ③購入後の評価	材料管理に関すること	法人および各事業所における窓口としてのホームページ機能強化	内視鏡センターの円滑な運用及び情報の共有	・安全な化学療法の施行 ・外来化学療法センターの運用 ・レジメンの審査及び管理	1がん患者、家族が抱える困難な問題に対し、医師・看護師など多職種で検討を促す 2在宅や施設等の支援者と連携を図り、院内だけでなく地域全体の緩和ケアに貢献すること 3がん患者及びそのご家族の身体的、精神的苦痛の緩和を図り、残された時間を有意義にかつ有効に過ごす 4緩和ケア研修会の企画・運営
構成員	◎ 久木田 光司 事務部 ○ 小島 淳夫 医療部 △ 八木 健太 管理部用度 石川 沙羅 医療部 和田 淑乃 看護部 大澤 直子 看護部 中村 文彦 管理部用度 興野 演 管理部用度	◎ 久木田 光司 事務部 ○ 小島 淳夫 医療部 △ 興野 演 管理部用度 伊藤 玲子 看護部 小田 和美 看護部 下島 三千代 看護部 信太 弥栄子 看護部 中尾 美幸 看護部 和田 淑乃 看護部 原山 里美 看護部 小川 美津子 看護部 芝 由美子 看護部 大澤 直子 看護部 平林 幸子 看護部 安東 まみ 看護部 中嶋 君江 院内感染対策室 中村 文彦 管理部用度 八木 健太 管理部用度 和田 博貴 医事課 株式会社ムトウ 2名	◎ 中正剛 医療部 ○ 吉田 貴和子 管理部 △ 今田 みづほ 総務課 田中 治 管理部 藤元 秀浩 情報システム課 前田 玲 第2事業部 菊池 賢介 第3事業部 星 信昭 第4事業部 佐藤 賢治 第5事業部 高瀬 由佳 看護部	◎ 玉置 進生 医療部 ○ 川井 貴美子 医療部 △ 林 美樹 医事課 中野 敦史 医療部 安西 秀聡 医療部 新井 圭一 医療部 田澤 賢一 医療部 原 真太郎 医療部 安東 まみ 看護部 和田 淑乃 看護部 岡本 貴世江 看護部 大盛 千香子 OL看護部 新藤 ちひろ OL医事課 成田 千津 薬剤科 坂本 隆行 臨床工学科 青柳 雄城 臨床検査科 柏崎 康宏 総務課	◎ 神山 公希 医務部 ○ 川井 貴美子 医務部 △ 柏崎 康宏 総務課 藤城 貴教 医務部 鎌田 順道 医務部 竹内 真吾 医務部 高瀬 由佳 看護部 信太 弥栄子 看護部 和田 淑乃 看護部 近藤 由香 看護部 古澤 綿菜 看護部 大槻 まゆみ 看護部 吉岡 我生 命 薬剤科 松田 亜莉沙 薬剤科	◎ 飯田 哲士 医療部 ○ 高瀬 由佳 看護部 △ 亀井 紘実 総務課 玉置 進生 医療部 信太 弥栄子 看護部 山田 恵梨奈 看護部 新澤 麗羅 看護部 福田 李織 看護部 松山 優佳 看護部 成田 千津 薬剤科 山田 咲良 薬剤科 土方 麻衣 リハビリテーション科 平尾 梓紗 リハビリテーション科 水田 美里 リハビリテーション科 日笠 優香 栄養科 深井 杏実 医療福祉相談室 楠村 麻美 医療福祉相談室 宮内 花奈 医療福祉相談室 とうめい 厚木クリニック その他訪問看護ステーション
定期開催	1回／月(第4火曜日)	1回／4ヶ月(第3水曜日)	1回／2ヶ月(最終週、水曜日)	1回／2ヶ月(火曜日)	1回／月(第4水曜日)	1回／月(第4木曜日)

(敬省略)

36	37	38	39	40
委員会	呼吸療法チーム運営会議	VTE予防対策チーム運営会議	DMチーム運営会議	せん妄・認知症ケアチーム運営委員会
呼吸療法チーム運営会議 ・人工呼吸器に関わる医療事故防止 ・呼吸器疾患及び呼吸療法に関する知識の向上 県緩和ケア部会に関すること	VTE予防対策とラウンド ・チーム医療を通じた糖尿病診療の質向上 ・地域糖尿病医療への貢献	DMチーム運営会議 ・チーム医療を通じた糖尿病診療の質向上 ・地域糖尿病医療への貢献	せん妄・認知症ケアチーム運営委員会 高齢者医療の支援・認知症ケア加算支援（週1回ラウンド）	放射線治療センター運営会議 ・放射線発生装置を安全に管理し、環境整備を整え、従事者の健康を守る。 ・患者に対する放射線治療が適切かつ安全に行われているか検討する。
目 的				
◎ 竹内 真吾 ○ 中尾 美幸 △ 坂本 隆行 渡邊 奈月 金城 広也 芹田 勇人 橋本 雄太郎 岩田 亜慧 中村 文彦	◎ 小島 淳夫 ○△ 大澤 直子 深井 翼 小島 衣佐子 高橋 萌 平田 彩 池谷 亜弓 錦郡 美実 立石 魁 田中 美哉 植田 華奈子 山岡 沙也佳 土方 麻衣 平尾 梓紗 手塚 桜順	◎ 堀 賢一郎 ○ 中尾 美幸 △ 黄金井 麻友美 野口 匡子 小川 美津子 生田 加那美 佐々木 真輔 鈴木 健斗 猪股 利彦 王 咲飛 吉原 香緒里 古賀 雄子 神保 裕未 飯田 勇次郎 矢部 縁子 春原 悠希 高梨 咲葉子 田中 翼 赤星 晴子 鈴木 博明 齊藤 裕奈 今田 みづほ 上杉 美樹 土田 佳子	◎ 岩元 誠 ○△ 中西 千夏 山崎 友也 今泉 愛 遠藤 音羽 古澤 麻美 濱野 麗 泉 博子 北野 令花 林 亜利沙 大畑 優美子 弦巻 孝一 小森 孝一 黄金井 麻友美 古屋 一樹 金沢 春香 鈴木 雪乃 齋藤 裕奈 上野 未樹 日笠 優香	◎ 山下 廣 ○ 片岡 令安 △ 高瀬 由佳 信太 弥栄子 大瀬 彩加 杉田 浩章 伊藤 拓也 和田 博貴 金丸 佐恵子 竹田 英子 関口 美里 中村 清美
構成員				
◎ 竹内 真吾 ○ 中尾 美幸 △ 坂本 隆行 渡邊 奈月 金城 広也 芹田 勇人 橋本 雄太郎 岩田 亜慧 中村 文彦	◎ 小島 淳夫 ○△ 大澤 直子 深井 翼 小島 衣佐子 高橋 萌 平田 彩 池谷 亜弓 錦郡 美実 立石 魁 田中 美哉 植田 華奈子 山岡 沙也佳 土方 麻衣 平尾 梓紗 手塚 桜順	◎ 堀 賢一郎 ○ 中尾 美幸 △ 黄金井 麻友美 野口 匡子 小川 美津子 生田 加那美 佐々木 真輔 鈴木 健斗 猪股 利彦 王 咲飛 吉原 香緒里 古賀 雄子 神保 裕未 飯田 勇次郎 矢部 縁子 春原 悠希 高梨 咲葉子 田中 翼 赤星 晴子 鈴木 博明 齊藤 裕奈 今田 みづほ 上杉 美樹 土田 佳子	◎ 岩元 誠 ○△ 中西 千夏 山崎 友也 今泉 愛 遠藤 音羽 古澤 麻美 濱野 麗 泉 博子 北野 令花 林 亜利沙 大畑 優美子 弦巻 孝一 小森 孝一 黄金井 麻友美 古屋 一樹 金沢 春香 鈴木 雪乃 齋藤 裕奈 上野 未樹 日笠 優香	◎ 山下 廣 ○ 片岡 令安 △ 高瀬 由佳 信太 弥栄子 大瀬 彩加 杉田 浩章 伊藤 拓也 和田 博貴 金丸 佐恵子 竹田 英子 関口 美里 中村 清美
定期開催	1回/2ヶ月(第2火曜日)	1回/2ヶ月(第3水曜日)	1回/月(第3木曜日)	1回/月(第1金曜日)

(敬省略)

委員会	臨床倫理委員会	事故対策委員会	がん診療連携委員会
目的	1.医療の現場における「医の倫理」の諸問題や「患者の権利」に関する課題の研究・検討 2.人間の生命尊厳上の倫理課題に関する研究・検討	院内の事故及び有害事象への対策・協議・立案	がん診療連携指定病院の運営全般 県がん診療連携協議会の動向確認 県地域連携クリティカルパス部会に関すること
構成員	◎ 北野 義和 医務部 ○ 鬼塚 圭一郎 医務部 ○ 中正剛 医務部 △ 亀井 紘実 総務課 小島 淳夫 医務部 伊藤 玲子 看護部 久木田 光司 事務部	◎ 北野 義和 医務部 ○ 鬼塚 圭一郎 医務部 ○ 中正剛 医務部 △ 草山 竜二 総務課 小島 淳夫 医務部 石川 征之 医務部 竹田 英子 医療安全管理室 蒲谷 朱希子 医療安全管理室 伊藤 玲子 看護部 小田 和美 看護部 久木田 光司 事務部	◎ 北野 義和 医務部 ○ 田澤 賢一 医務部 △ 木村 弘宗 地域連携室 中正剛 医務部 神山 公希 医務部 高坂 佳宏 医務部 鎌田 順道 医務部 竹内 真吾 医務部 川井 貴美子 医務部 玉置 道生 医務部 日野 浩司 医務部 山下 麻 医務部 伊藤 玲子 看護部 小田 和美 看護部 高瀬 由佳 看護部 信太 弥栄子 看護部 久木田 光司 事務部 金谷 涉 事務部 吉岡 我佳命 薬理科 福田 美香 医療福祉相談室 和田 博貴 医事課 金丸 佐恵子 地域連携室 柏崎 康宏 総務課 吉田 貴和子 管理部
定期開催	随時	随時	1回／月(第2水曜日)

(敬省略)

地域医療支援病院研修・地域連携推進委員会

2023 年は 2 ヶ月に 1 回、委員会を開催しました。

- ・紹介率、逆紹介率の把握、現状分析、検討
- ・紹介患者 受け入れ件数把握、現状分析、検討
- ・紹介患者 お断り症例の件数把握、現状分析、検討
- ・オープン検査 件数把握、現状分析、検討
- ・地域連携室のスタッフの業務内容報告
- ・対外営業活動の報告
- ・各種対外講演活動の調整（医療講座、フォーラムの開催準備）

今後も地域の住民の健康に寄り添い、かかりつけ医療機関から信頼され、地域で真っ先に紹介しようと考えてもらえる病院を目指し、そのために備えるべき事柄を議論し、職員に発信していきます。

（文責 安西 秀聡）

診療録委員会

- ・診療録の質的監査
- ・診療録保管用紙の新規申請及び内容修正
- ・診療録等開示の状況報告
- ・各種説明同意書の内容等見直し
- ・診療記録の入力
- ・入院診療計画書の書式統一

診療録は、法律で定められた診療の経過を記録したものです。診療に関する諸記録とともに保管も義務付けられています。質の高い安全・安心な診療情報提供のため、管理を行っていきます。

（文責 田澤 賢一、阿部 京子）

電子カルテ委員会

電子カルテのシステムに関する議題につき検討することを目的に2ヶ月に1回開催されます。基本的な考え方として、診療録に関する運用・ルール検討は、各現場および診療録委員会などで行われ、それを実装するためのシステム構築（マスタ作成・権限付与 等）に関する案件を議題としています。

（文責 中 正剛）

臨床研修管理委員会

臨床研修部をご参照ください

救急・ICU 委員会

救急総合診療部、ICU をご参照ください

DPC 管理委員会

◎適正なコーディングについて

- ・ 部位不明、詳細不明コード（傷病名）の使用率
- ・ 詳細不明コード（傷病名）の実例及び適正傷病名

◎アップコーディングによる返還となった事例の検討

今後も、標準的治療の選択及び医療の質を維持し、DPC 請求における適正なコーディング管理及びデータの作成を実施していく所存です。

（文責 金谷 渉）

院内感染対策委員会

- ・ 毎月 1 回第一水曜日に委員会開催
- ・ 全職員対象研修会の開催

第 1 回 講師：兵庫県立こども病院 感染症内科部長 笠井 正志

「予防接種の基本～定期接種から新型コロナワクチンまで～」

①ワクチンの重要性と有効性

②新型コロナワクチン

第 2 回 講師：兵庫県立こども病院 感染症内科部長 笠井 正志

「予防接種の基本～定期接種から新型コロナワクチンまで～」

① ワクチンの安全性とためらいへの理解

- ・ 毎月委員会の前に院内ラウンド実施、環境整備を ATP 測定して委員会で結果報告と現場へのフィードバック
- ・ 週 1 回の感染対策チームラウンドとフィードバック
- ・ 薬剤耐性菌の発生状況の把握と介入
- ・ 感染対策標語・ポスターの募集、表彰、掲示
- ・ 感染防止に必要な製品の見直しと新規導入の検討、備蓄
- ・ 院内感染対策マニュアル改訂
- ・ 抗菌薬適正使用チームの発足（週 1 回木曜日に開催）
- ・ 流行性疾患発生時の対策協議と院内への啓蒙活動
- ・ サーベイランス実施
 - ① 手術部位感染サーベイランス実施（厚生労働省サーベイランス事業への報告）
 - ② 検査部門サーベイランス実施（厚生労働省サーベイランス事業への報告）
 - ③ 全入院患者部門サーベイランス実施（厚生労働省サーベイランス事業への報告）

- ④ ICU 部門サーベイランス実施(厚生労働省サーベイランス事業への報告)
- ⑤ 尿道留置カテーテルサーベイランス実施(厚生労働省サーベイランス事業への報告)
- ⑥ 手指消毒剤使用量サーベイランス実施(厚生労働省サーベイランス事業への報告)

・地域における活動、連携医療施設との連携

感染対策向上加算 2 (湘南厚木病院)、感染対策向上加算 3 (鶴巻温泉病院、近藤病院) 外来感染対策向上加算 (関根医院、とうめい厚木クリニック) との合同カンファレンスや訓練の開催

・COVID-19 対応

- ① 月 1-2 回開催しているコロナ対策会議への参加
- ② 発熱患者・コロナ陽性患者の対応マニュアルの作成
- ③ 陰圧室の造設に伴いゾーニングの設定、ゾーニングに適した個人防護具の着脱指導

(文責 川井 貴美子)

病床管理委員会

ICU、7 対 1、地域包括ケア、緩和ケア各病棟の特徴、現状を把握しながら、適正な病床管理を目標にしています。新型コロナウイルス感染者受け入れのため、個室陰圧室 12 床が整備されました。また、各病棟における医療看護必要度を評価、維持できるよう検討しています。

各病棟における、転院困難事例を報告してもらい、検討しています。

(文責 鬼塚 圭一郎)

クリニカルパス委員会

昨年に引き続きパス活動日を設けフレキシブルパスの新規導入及び修正を行い、順次クリニカルパスの更新を行いました。今年も院内のクリニカルパス大会の開催はできませんでしたが、引き続きパス委員を中心に新たなクリニカルパスの作成・稼働を続け、また、稼働しているクリニカルパスの見直しを行い、よりよいクリニカルパスにしていくことで医療の標準化を目指します。本年は第 23 回日本クリニカルパス学会で学術集会にて学会発表も行いました。

(文責 神山 公希)

ICLS 委員会

救急部をご参照ください

摂食嚥下委員会

摂食嚥下療法科をご参照ください

栄養委員会

- ・インシデント対策
- ・電子カルテオーダー締め切り後の食事提供について

委託給食会社への電話連絡を徹底

- ・食具（嚥下困難者用スプーン）の運用について
全患者への「嚥下困難者用スプーン（高額）」提供から嚥下困難者のみの提供へ変更
標準的なスプーンは安価なものに変更
- ・経管用「濃厚流動食」の商品変更について
衛生面、災害時の運用を考慮して一部「紙パック」から「パック（ready to hang）」
タイプへ変更
- ・一般食/流動食の間食について
頻回食を必要としないため、3食のみで提供し間食は廃止
- ・食事オーダー 前回入院時の「嗜好」引き継ぎについて
管理栄養士は可能な限り訪問にて確認、
医師は必要に応じて「履歴」ボタンを活用し引き継ぐ

（文責 田中 明美）

安全管理委員会

安全管理委員会では、東名厚木病院における構造的なミスを防止するために、インシデント・アクシデント報告を通じて、安全管理に対する啓蒙と教育・システムの改善・対応を行なっています。委員会開催は、毎月第3月曜日とし、インシデント・アクシデント報告の中からレベル3b以上及び警鐘事例に対して、問題点の抽出と改善策を検討し医療事故防止に繋げています。委員会の開催前には、3チームに分かれて院内のラウンドを実施し、患者誤認防止策や転倒転落防止策などが遵守されているか確認し部署にフィードバックしています。

安全管理委員会を中心に院内専門職（リハビリテーション科・栄養科・臨床工学科・薬剤科・臨床検査科・放射線科・医務部・診療情報室・医療安全管理室）による医療安全研修を年9回実施しました。

<安全管理委員会の開催日・検討した事例内容>

- 1月16日 鎮痛剤使用時の同意書作成について
薬剤を処方する際、病名に基づいてアラートがかかる仕組みについて
- 2月20日 MRI装置にボールペンが吸い込まれた事例
インスリン処方の統一について・転院時の退院薬処方について
- 3月20日 同姓同名患者が入院している時の輸血製剤の払い出しについて
CVカテーテル（ポート）からの造影について
患者の危険物持ち込みについて
- 4月17日 医事課で受付け時の患者誤認防止の基本ルールの見直し、マニュアル修正について
- 5月15日 薬剤管理について
パニック値の報告について

6月19日 ノルアドレナリン γ 計算表更新

4号館霊安室横の通用口扉の夜の施錠について

7月12日 トイレ内の転倒・転落注意喚起について

8月21日 不審電話の転送方法について

9月13日 手術後の搬送について

患者用トイレの安全バーについて

10月16日 CVカテーテル（ポート）からの造影剤投与について

11月20日 インスリンシリンジの再検討

12月18日 インスリンシリンジ変更・保管場所の変更について

抗生剤2キット投与時の投薬忘れ予防について

（文責 蒲谷 朱希子、竹田 英子）

治験審査委員会

治験審査委員会とは治験の実施において、治験参加者さんの「人権」と「安全性」に問題がないかどうか、当該施設での治験実施が適切であるかどうか、を審査するための委員会です。当院では外部委員を3名加えた計9名で構成され、原則月1回開催されています。

東名厚木病院、とうめい厚木クリニック、近隣医院からの審議依頼に対応し、GCPに従い、治験実施の可否、治験継続の可否、等について審議しています。

（文責 吉岡 我佳命）

薬事・輸血委員会

薬事・輸血委員会は、①薬剤の効能効果、副作用、病院経済等を総合的に考慮し、医薬品の採用・削除品目を決定すること ②輸血療法に関し、適正使用を推進するための情報収集・院内の周知 を目的とした院長の諮問機関です。

委員会は月に1度、定例会が開催されているほか、必要に応じて随時開催。

委員会規定に基づき、主に①～⑤について実施した。

①採用医薬品の適正化のために新規採用及び中止品目の検討

②未承認薬の適正使用の評価と院内使用の審議を実施。

③後発品の推進の進捗状況の確認と新規切り替え品目の確認。

④院内副作用発生状況の確認

⑤血液製剤（輸血）の動向及び、副作用の発生状況・不良在庫の確認。

（文責 吉岡 我佳命）

労働安全衛生委員会

昨年度に続き、長時間労働の解消を達成すべく、部署別平均残業時間の把握だけでなく、職員個々の残業時間数を把握し各部署に指導することで、時間外労働削減の実現に取り組みまし

た。同時に、労災発生状況や休職状況においての把握についても取り組みました。

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行した後においても、職員が安全で健康に勤務し、仕事と家庭生活を両立すべく、安全な職場環境の確保と長時間労働の是正に努めました。

今年度は、新たに標榜された病理診断科において病理室の安全巡視を12月に実施致しました。

今後も労働安全衛生法に基づき、産業医・衛生管理者中心に職場の安全に関わることや、職員の健康障害の防止を図るため、質の高い統括管理を目指して活動していきます。

(文責 草山 竜二)

医療従事者負担軽減及び処遇改善委員会

当委員会は医師、看護師、薬剤師、医師事務作業補助者、医事課職員で構成され、各職種の負担軽減計画に基づいて業務内容を計画立案し、見直しを行っています。それぞれの職種が専門領域に専念できるよう、チーム医療推進に貢献できるよう活動しています。診療録の代行入力、本年導入した診断書作成システムMEDI-Papyrusを利用した診断書作成、外科系データベースの代行入力の充実にも努め、呼吸療法、栄養、摂食嚥下、がん医療など各種サポートチームの介入による専門的な業務分担を推進しています。短時間正規雇用の活用、夜間業務負担軽減など、処遇改善を進めることができました。

(文責 小島 淳夫)

手術室運営委員会

手術室運営委員会は、適正な運営及び安全な管理体制の確立を図るために、効率的な手術室の運用・手術が安全で円滑に実践できるための基準・手順の検討及び活用・必要診療材料、器材の確保・業務内容の共有について取り組んでいます。

主な討議事項について

- ・手術件数
- ・物品管理、器械の運用・購入
- ・手術室の業務改善・運用方法、マニュアル等の検討、見直し
- ・スタッフの育成状況と協力依頼
- ・安全対策（手術室インシデント報告、情報の共有）

(文責 大澤 直子)

NST 委員会

2006年4月にNSTを稼働しました。週1回の「NST回診・カンファレンス」では入院患者全体にスクリーニングを行い、栄養状態の悪い患者に対して具体的に栄養療法の提案を行っています。NST委員会の目標は、複数の職種の目線で栄養摂取量不良因子を早期発見し介入することで、治療中の病態が改善に向かうことをサポートすることです。結果として入院期間短縮が実現可能となります。

毎週行っている回診症例は、①食欲不振・嘔吐・下痢などの臨床的な問題が表面化しています。患者群 ②毎週 全入院患者を低 Alb 血症（Alb3.0mg/dl 以下）でスクリーニングにかけて抽出した患者群に分けられます。①については、「原因を見つけ出すための検査」や、「症状改善が見込める薬剤処方」などの具体的な対処の提案を行います。また、1 週間後に再度回診をすることで効果判定も行っています。②については、低 Alb 血症の原因が「1 日栄養摂取量が少ない」ことによるのか、「背景にある基本病態（肝不全、ネフローゼ症候群、炎症性疾患など）」によるのか鑑別を行っています。

加算専任メンバーの不足のために回診を行っても加算が取れない時期が続きました。2021 年 11 月より資格をもった専任メンバー（医師、看護師、管理栄養士、薬剤師）が揃った時には NST 加算を算定しており、新型コロナウイルス感染症の流行はラウンド件数に影響しています。

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
依頼件数	31 件	18 件	10 件	11 件
ラウンド件数	94 件	68 件	37 件	32 件
算定件数	算定なし	24 件	18 件	14 件

（文責 大山 聡子）

褥瘡対策委員会

2023 年の年間褥瘡推定発生率は 1.1%と例年の全国平均値、昨年度よりも高い数値でした。

院内発生褥瘡の深さは大半が d2（真皮までの損傷）であることから、治癒に至る症例が大半でした。しかし、院外発生褥瘡は、何らかの原因により長時間の除圧不足から発生した多発褥瘡や長期保存的治療のみでは治癒困難な症例などもありました。

褥瘡管理者は、院内の褥瘡保有月平均 16.3 個を把握し、形成外科医師との症例カンファレンスを毎週行っています。（毎週水曜日の褥瘡回診後に実施）

また、褥瘡発生要因である内的要因と外的要因について、褥瘡ケアチームでカンファレンスし、委員会で症例検討を実施しています。褥瘡治癒に向けた介入のみではなく、治癒後の再発防止や退院後の生活を見据えて、家族の方が実施可能なポジショニングや栄養管理についてなど継続的な介入もしています。

手術適応の症例においては、形成外科医師、皮膚・排泄ケア特定認定看護師、理学療法士など多角的な視点からチームで継続的な介入をしています。

皮膚・排泄ケア特定認定看護師が壊死組織の除去（特定行為）や病棟スタッフとの協働でのケア内容立案を行うことで早期治癒が望め、患者の QOL 向上に繋がるよう日々精進していく所存です。

2023 年 1 月～12 月の褥瘡推定発生率、院内褥瘡発生件数、院外褥瘡発生件数

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
褥瘡推定 発生率	1.1%	0.7%	1.1%	1.1%	1.2%	1.1%	1.2%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
院内件数	8 件	3 件	11 件	9 件	8 件	4 件	8 件	3 件	5 件	6 件	9 件	7 件
院外件数	6 件	8 件	4 件	4 件	14 件	3 件	10 件	11 件	12 件	9 件	17 件	7 件

(文責 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 今村 圭史朗)

医療ガス安全管理委員会

1. 酸素ボンベの保管管理について
酸素ボンベ取り扱いのマニュアル作成
酸素ボンベ保管・点検マニュアル作成
2. 酸素ガス配管・酸素流量計の定期点検実施
3. 医療ガスの取り扱いに関する勉強会実施
4. ケアワーカー委員会と連携して取り扱い認定試験の実施
5. 医療ガス安全管理委員会規程の改訂

(文責 坂本 隆行)

精度管理委員会

“臨床検査実施に伴う精度管理及び症例検討、業務を円滑に実施するための具体案の検討、立案、協議決定を委員会で行い、その決定における実施を推進する”という目的で同委員会
は活動しています。

日臨技臨床検査精度管理調査・日本医師会臨床検査精度管理調査の参加と結果について報告。
問題点の解決に向けて検査室の取り組みを報告。

- ・病理組織検査の院内実施に向けての準備を開始した。
- ・更新を控えた自動分析装置の機種選定など。

(文責 栗田 修)

広報委員会

昭和 56 年より、機関誌『とうめい』の企画・編集を中心に活動を続けています。

今年度も、がん診療に関連する内容など、年間を通し多方面からの連載として当院の医師による医療記事や登録医紹介、三思会関連施設の特集を各号に分けて掲載し、さまざまな報告や情報を発信することができました。長い連載を続けている「ペットのはなし」も毎号皆さんが楽しみにしています。今後も患者さんや地域の方々へ新しく豊かな情報の提供に取り組んでいきます。

2023 年度 機関誌『とうめい』196 号～199 号の内容紹介（抜粋）

〈医療記事〉 ・がん治療に「放射線治療」という選択肢を（後編）

・がん診療のいま

・がんで失われた乳房を再建するためには

〈登録医紹介〉・酒井医院

・妻田内科クリニック

・せりがの整形外科

・ほんあつ胃腸科・内科クリニック

（文責 阿部 京子）

図書委員会

全ての院内図書を検索システムに登録して内容の充実に努めています。年間購読雑誌や希望図書について、年度ごとに各部署からの要望をもとに委員会で検討しています。業務上使用する書籍については各部署で管理していますが、院内図書として検索システムに登録して他部署でも利用できるようにしています。院内にはない医学系論文の複写費用について図書費として補助する仕組みもあり、職員の自己研鑽に役立てています。

（文責 小島 淳夫）

ボランティア委員会

地域の有志の方々に様々なボランティア活動を行っていただいております。

しかし、今期も新型コロナウイルス感染症拡大を受け、院内に出入りをする方の制限を行った関係で、ほとんどのボランティア活動を休止せざるを得なく、ボランティアの方々には誠に心苦しい状況となっております。

ボランティアの方々の活動が患者さん及び当院を訪れる方の癒しとなる日々が戻ることを願っております。

（文責 久木田 光司）

業務改善・患者満足度向上委員会

本年も組織横断的課題について検討し、活動いたしました。

・入院案内改定、院内掲示物の改定

患者さんにとってわかりやすい内容となるよう改定を試み、実施に至っております。

・入院、外来患者アンケート実施

2023 年度は、前期は当院独自の調査方法にて、後期は病院機能評価機構の調査方法にてアンケートを実施しました。

（文責 中 正剛）

職員満足度向上委員会

2012 年度から活動を再開し、主に職員満足度アンケートを通して、職員が日頃抱いている職

場の勤務環境、組織体制から福利・厚生までの現状認識、要望を収集することに努めております。現在は、携帯電話やスマートフォンで回答できるシステムを取り入れています。回収したアンケート結果を分析後、内容を関係部署に配布し、解決策等の回答を含めて全職員に公表しています。

(文責 中 正剛)

災害対策委員会

災害対策を総合的に企画、運営、実施、評価し、三思会のみならず地域や行政など施設外との連携体制整備を目的に2ヶ月に1回活動しました。

1. 「災害対策マニュアル」改定

災害時の医薬品及び備蓄品の保管場所や被災想定人数を設定した今後の非常食入れ換えについて検討しました。また、非常用電源の使用を新たにルール化するため、各部署からプロット図の回収、停電時の使用電力等の確認を行い、更に全館停電検査時に非常用コンセントの確認作業を行いました。来年「停電対応マニュアル」を完成させ報告します。

2. 広域災害救急医療情報システム (EMIS)

災害時の医療情報伝達として使用する広域災害救急医療情報システム (EMIS) の基本情報の確認、修正作業を実施しました。また、定期的に実施している報告訓練へ参加し、実践に備えた教育としてデータ入力体験を行いました。

3. 避難・消火・通報訓練

年2回の法令で定められている避難・消火・通報訓練では、以前より課題としていた夜間休日想定での訓練シナリオで実施しました。普段当直する職員に参加頂き、役割を最少人数で訓練したため各部署における対応の確認が出来ました。

4. ALSOK 安否確認システム訓練

安否について気象庁と連携し、震度5強以上を観測した際、メールが職員及び委託業者に自動配信され安否及び参集情報が確認できる ALSOK 安否確認システム訓練を実施しました。

5. 災害用備品の整備

電気の年次点検や実際に起きた事案に基づき、暗闇でも患者及び職員が安全に避難する事、設備の早期確認のため設置型電灯及び懐中電灯、また、車両のエンジントラブル時やモバイルバッテリーとして使用する目的でジャンプスターターを購入しました。更に洪水浸水想定区域内の対象建物であり、河川の氾濫等による浸水被害から施設を守るため止水板の設置工事を行いました。

三思会グループによる病院としての役割を再確認し、引き続き、地域や行政等と連携して地域のために災害活動に取り組んでいきます。

(文責 北野 義和、柏崎 康宏)

材料選定委員会 (下部組織 材料委員会)

適正な医療材料の在庫管理及び経費削減を目的とし、効果的かつ効率的な SPD の運用について 3 ヶ月に 1 回検討をしています。2022 年 4 月より SPD 業者が変更となったことを期に、データに基づき、定数品目の適正量の見直しや定数カードの回転状況の確認を行いました。また、SPD 業者のプライベートブランドの採用も積極的に行い、コスト削減に繋げて参りました。

(文責 久木田 光司)

ホームページ委員会

ホームページの内容充実を目的に、2 ヶ月に 1 回開催されます。

基本的な検討事項としては、①内容の監査、②更新改訂、③新規作成についてとなります。Google analytics にて状況を分析し、法人内外からのアクセス件数の増加を目指しています。

(文責 中 正剛)

内視鏡センター運営会議

消化器内科及び内視鏡センターをご参照ください

化学療法委員会

化学療法センターをご参照ください

緩和ケアチーム運営会議

緩和ケア内科をご参照ください

呼吸療法チーム運営会議

呼吸療法チームは、呼吸器疾患及び人工呼吸器に関する知識の向上、呼吸療法認定士の育成を目的とし、2005 年 7 月に発足しました。

「安全で効果的な呼吸療法を支援する」ことを目的に、多職種チームで人工呼吸管理中の患者を主な対象とし、院内ラウンドを 1 回/週行っています。

対象となる患者へ定期的に関わり、人工呼吸管理中の体位管理や観察ポイント、酸素投与デバイスの選択等について助言・提案を行っています。また人工呼吸器離脱に向けての介入や離脱計画立案を行い、チームとしての提言を行っています。

1) 部署別介入数 (単位: 人)

部署	ICU	2-4	3-3	3-4	4-3	4-4	計
患者数(累計)	118	35	22	10	12	11	208

2) 月別介入数 (単位: 人)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
患者数(累計)	26	14	8	28	24	15	13	27	13	10	11	19	208

3) 離脱試験加算 算定患者数 (単位: 人)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
患者数(累計)	0	0	3	4	0	0	0	2	0	1	1	2	13

(文責 中尾 美幸)

VTE 予防対策チーム運営会議

VTE 予防対策について情報を共有して知識の向上を図り、実践促進を目的に活動しています。「入院患者における VTE 予防調査表」が適切に運用されるようマニュアルを改定し、手術例と非手術例に分けて VTE 予防が実践できるよう、勉強会などを通して知識を深めています。また、患者さんが安心して入院生活を送ることができるように日々観察を行い、VTE 予防対策を実践しています。委員会内の症例検討会では VTE の予防や看護が適切に行われているか確認し、看護計画と経過記録が適切であるか監査を行い、多職種が連携して VTE の予防対策を行っています。

(文責 小島 淳夫、大澤 直子)

DM チーム運営会議

糖尿病内科をご参照ください

せん妄・認知症ケアチーム運営会議

厚生労働省から人権擁護や高齢者の QOL の維持のため、「身体抑制ゼロ作戦」が出されています。急性期機能を持つ当院では「治療や安全を優先する上でやむを得ない」と拘束を行っている現状があります。そこで認知症患者さんや環境の変化等によるせん妄状態にある患者さんに対して質の高い急性期の医療サービスを提供するために、せん妄・認知症ケアチームは活動を行っています。

毎月第 3 水曜日に定期のケアチーム会議と毎週水曜日せん妄ラウンドを行い、2023 年度は延べ 81 名のラウンドを行いました。ラウンドでは医師やコメディカルが病棟訪問し、様々な視点からせん妄を引き起こす原因について検討し、必要に応じ薬物調整やケアへの助言をしています。

ケアチーム会議では認知症ケアの質の向上のため、ひもときシートを使用した事例検討を行

い、患者さん視点の課題解決を行いました。せん妄・認知症の理解のために勉強会の実施、三思会掲示板への動画を作成しました。また、認知症高齢者日常生活自立度の正しい評価の監査、マニュアル・看護計画の見直しを行い、認知症ケア加算につながるよう働きかけています。

今後は身体抑制三原則の理解を深め、患者さんの安全と医療の質向上を目指していきます。

(文責 中西 千夏)

放射線治療センター運営会議

放射線治療センターをご参照ください

がん診療連携委員会

がん診療連携委員会は、東名厚木病院が神奈川県地域がん診療連携指定病院の指定を受けるために発足しました。定期的ながん診断および治療に関わってくれている多職種が集まり、指定病院としての現状報告、地域医療機関等との連携報告、現状の問題点、さらには将来に向けての計画対策等を話し合っています。具体的には化学療法、クリニカルパス、緩和ケア、患者総合支援、放射線治療の5部門の活動報告、目標報告が行われ、さらには地域へのがんの啓発活動や講習会の開催等も計画しています。昨年も地域に呼びかけ、積極的な活動を行ってきました。今後もさらに、神奈川県がん診療連携指定病院としての責任ある活動を継続していきたいと思います。

現在の超高齢社会におけるがん対策は、単に手術治療を行うだけではなく、様々な手段をもって患者さまの人生を支えることであり、また若いがん患者さんにおいては、仕事の継続を考慮した治療方法、妊娠や出産を支えることなども可能であり、全人的な生活や人生を支えるものであると考えます。がんによって制限される人生にあらゆる面からアプローチし、そして、できる限り開放していくことが当病院の役割であると思っています。

(文責 北野 義和)

院外活動（2023 年 1 月～2023 年 12 月）

2023 年次の各医師の発表論文・学会発表などの活動を下記に報告いたします。

1. 著書

該当なし

2. 論文

- 1) 小田 虎賢，成尾 宗浩，岡崎 賢
アキレス腱断裂患者における踵骨隆起後上方部での骨構造的変化の解析
東日本整形災害外科学会雑誌；35(3)：p262：2023. 8
- 2) 馬場 逸人，小檜山 亮介，神山 公希，高坂 佳宏
穿孔性腹膜炎における播種性血管内凝固(DIC)の病態意義
日本腹部救急医学会雑誌；43(2)：p383：2023. 2
- 3) 小檜山 亮介，馬場 逸人，神山 公希，高坂 佳宏
急性胆嚢炎に対する PTGBD 治療後の自然死と待機的胆嚢摘出の治療成績
日本腹部救急医学会雑誌；43(2)：p541383：2023. 2
- 4) 鎌田 順道，日野 浩司，神山 公希，高坂 佳宏，馬場 逸人，小檜山 亮介，
渡邊 奈月，島多 勝夫，山下 巖
脳転移を伴った転移再発乳癌症例の検討
日本乳癌学会総会プログラム抄録集 31 回；p417：2023. 6
- 5) 小檜山 亮介，馬場 逸人，高坂 佳宏，神山 公希
穿孔性腹膜炎手術におけるサルコペニアが及ぼす影響の検討
日本消化器外科学会総会 78 回；p59：2023. 7

- 6) 馬場 逸人, 小檜山 亮介, 神山 公希, 高坂 佳宏
穿孔性腹膜炎における播種性血管内凝固(DIC)の病態意義
日本消化器外科学会総会 78 回 ; p59 : 2023. 7
- 7) 青木 雄佑, 安藤 武俊, 成尾 宗浩
膝関節複合靱帯損傷に合併した後内側角断裂 3 例の治療
東日本整形災害外科学会雑誌 ; 35(3) : p353 : 2023. 8
- 8) 成尾 宗浩
「特徴を知ってケアにいかす！肩・肘・股・膝 イチからわかる人工関節置換術」
2. 解剖学的人工関節置換術(TSA) 3. リバース型人工肩関節置換術(TSA)
4. 術後ケアのポイント
整形外科看護 ; 28 : p815-834 : 2023. 9
- 9) Naohisa Tomosugi, Yoshitaka Koshino, Chie Ogawa, Kunimi Maeda, Noriaki Shimada,
Kimio Tomita et.al.
Oral Iron Absorption of Ferric Citrate Hydrate and Heparin-25 in Hemodialysis
Patients : A Prospective, Multicenter, Observational Riona-Oral Iron Absorption
Trial
Int. J. Mol.Sci ; 24:p13779 : 2023.12

3. 学会発表

- 1) 深井 翼
当院で経験した急性肺血栓塞栓症の症例について
PH NETWORK semianr ～神奈川県 西部～ ; Web : 2023. 2. 3
- 2) 大森 朱和乃, 藤城 貴教, 溝口 秀之, 松本 和将, 岩村 正嗣
前立腺癌オリゴ転移に対し局所放射線照射が奏功した一例
第 66 回日本泌尿器科学会神奈川地方会;横浜市 : 2023. 2. 9
- 3) 馬場 逸人
穿孔性腹膜炎における播種性血管内凝固 (DIC) の病態意義
第 59 回日本腹部救急医学会総会 ; 宜野湾市 : 2023. 3. 9
- 4) 小檜山 亮介, 馬場 逸人, 神山 公希, 高坂 佳宏
急性胆嚢炎に対する PTGBD 治療後の自然死と待機的胆嚢摘出の治療成績

第 59 回日本腹部救急医学会総会；宜野湾市：2023. 3. 9

- 5) 上埜 秀治, 河野 昌史, 鴨田 隆史, 岩倉 秀雅, 樽本 義男, 福島 沙夜乃,
金沢 幸雄, 王子 盛嘉
フルマゼニル投与後に過換気症候群を引き起こした 1 症例
神奈川麻酔科医会 第 54 回学術集会;川崎市：2023. 3. 11
- 6) 山崎 友也, 鬼塚 圭一郎
当初診断がつかなかった嚢胞性病変症例について
第 36 回厚木脳神経外科カンファレンス；厚木市：2023. 4. 19
- 7) 田澤 賢一, 荒木 幸紀, 福田 裕顕, 澤田 成朗, 山岸 文範, 藤井 努
外科でも使える“五苓散”の魅力
第 21 回日本ヘルニア学会学術集会；大阪市：2023. 5. 26
- 8) 田澤 賢一,
JSES 技術認定合格を目指す小規模 Online Surgical Video Discussion (c-OSVD)
の試み
第 21 回日本ヘルニア学会学術集会；大阪市：2023. 5. 26
- 9) 田澤 賢一, 荒木 幸紀, 福田 裕顕, 澤田 成朗, 山岸 文範, 藤井 努
鼠径部ヘルニアに対する膨潤 TAPP 法の術後長期的フォローアップ
第 21 回日本ヘルニア学会学術集会；大阪市：2023. 5. 27
- 10) 福田 裕顕, 田澤 賢一, 荒木 幸紀, 澤田 成朗, 山岸 文範, 藤井 努
術前診断に記呂下傍上行結腸窩ヘルニアの 1 例
第 21 回日本ヘルニア学会学術集会；大阪市：2023. 5. 27
- 11) 田澤 賢一, 中島 香凜, 荒木 幸紀, 福田 裕顕, 澤田 成朗, 山岸 文範,
藤井 努
穿刺吸引細胞診併用による腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア閉鎖術（LPEC）を行った
成人女性 Nuck 管水腫を伴う鼠径ヘルニアの 1 例
第 22 回日本 LPEC 研究会；大阪市：2023. 5. 28
- 12) 富田 公夫
浮腫：利尿薬の up to date

横浜北部地区 CKD 病態栄養懇話会；横浜市：2023. 6. 1

- 13) 浦田 雄太朗, 伊藤 芳章, 平岩 利仁, 川口 善治, 青木 雅人, 御旅屋 宏史
急速破壊型股関節症の様相を呈したアルカプトン尿症性股関節症の 1 例
第 223 回北陸整形外科集談会；富山市：2023. 6. 10
- 14) 大山 聡子
当院における多発性のう胞腎の診療状況
東富士腎セミナー；厚木市：2023. 6. 15
- 15) 鎌田 順道, 日野 浩司, 神山 公希, 高坂 佳宏, 馬場 逸人, 小檜山 亮介,
渡邊 奈月, 島多 勝夫, 山下 巖
脳転移を伴った転移再発乳癌症例の検討
第 31 回日本乳癌学会学術総会；横浜市：2023. 7. 1
- 16) 田澤 賢一, 荒木 幸紀, 福田 裕顕, 澤田 成朗, 山岸 文範, 鎌田 順道,
日野 浩司, 関根 慎一, 松井 恒志, 長田 拓哉, 濱島 丈, 藤井 努
乳腺 Intraductal papilloma に DCIS を合併した 1 例
第 31 回日本乳癌学会学術総会；横浜市：2023. 7. 1
- 17) 竹内 真吾
術後 11 年を経て再発した胸腺癌に対しレンバチニブを投与した 1 例
第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会；新潟市：2023. 7. 14
- 18) 山崎 友也
当院でのエンレストの処方状況からの考察
脳領域高血圧 Symposium ～循環器病対策推進計画を考える～；厚木市：
2023. 8. 26
- 19) 田澤 賢一, 荒木 幸紀, 森 康介, 東海 龍太郎, 澤田 成朗, 神山 公希,
高坂 佳宏, 濱島 丈, 笹原 正清, 山岸 文範, 藤井 努
Double protectors 法で単孔胃内手術を施行した胃食道接合部近傍の胃穹窿部
内腔発育型 GIST の 1 例
10th Reduced Port Surgery Forum in Kitakyushu
第 15 回単孔式内視鏡手術研究会
第 24 回 Needlescopic Surgery Meeting；北九州市：2023. 8. 19

- 20) 田澤 賢一, 澤田 成朗, 山岸 文範, 櫻井 太郎, 山野 格寿, 神山 公希,
高坂 佳宏, 藤井 努
SES 技術認定 (ヘルニア領域) 合格を目指した Compact Online Surgical Video
Discussion (c-OSVD) の試み
第 278 回北陸外科学会 ; 金沢市 : 2023. 9. 2
- 21) 大久保 絵子, 堀 賢一郎, 齋藤 快児, 大山 聡子, 田村 博之, 富田 公夫
肺出血から 10 ヶ月後に抗 GMB 抗体型 RPGN を発症した 1 例
第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 ; 仙台市 : 2023. 9. 15
- 22) 田澤 賢一, 櫻井 太郎, 山野 格寿, 神山 公希, 高坂 佳宏, 澤田 成朗,
山岸 文範, 藤井 努
TAPP 技術習得における腹膜牽引の言語化
第 60 回北陸内視鏡外科研究会 ; 金沢市 : 2023. 9. 16
- 23) 青木 雄佑, 安藤 武俊, 成尾 宗浩
膝関節複合靱帯損傷に合併した後内側角断裂 3 例の治療
第 72 回東日本整形災害外科学会 ; 旭川市 : 2023. 9. 22
- 24) 小田 虎賢, 成尾 宗浩, 岡崎 賢
アキレス腱断裂患者における踵骨隆起後上方部での骨構造的変化の解析
第 72 回東日本整形災害外科学会 ; 旭川市 : 2023. 9. 23
- 25) 椿野 瑞希, 田澤 賢一, 山野 格寿, 櫻井 太郎, 神山 公希, 高坂 佳宏
高度貧血、消化管出血を認めた von Recklinghausen 病に合併した小腸腫瘍の
1 例
第 159 回神奈川県臨床外科医学会集談会 ; 横浜市 : 2023. 9. 30
- 26) 羽田 理紗, 藤城 貴教, 大森 朱和乃, 池田 勝臣, 松本 和将, 岩村 正嗣
腎原発孤発性繊維性腫瘍の一例
第 88 回日本泌尿器科学会東部総会 ; 札幌市 : 2023. 10. 6
- 27) 田澤 賢一
変わりゆく消化器癌治療 ～地方出身の外科医が都会にきてできること～
第 10 回厚木臨床外科医会講演会 ; Web : 2023. 10. 19

- 28) 山崎 友也, 鬼塚 圭一郎, 西尾 陽一
嚢胞性病変に対し初回手術で診断がつかず再発後に診断がついたグリオーマー
の一例
日本脳神経外科学会第 82 回学術集会 ; 横浜市 : 20023. 10. 27
- 29) 浦 綾仁, 山本 修輔, 柏崎 大奈, 堀 恵美子, 秋岡 直樹, 黒田 敏
もやもや病に対する複合血行再建術の脳底動脈径への縮小効果
第 66 回日本脳循環代謝学会学術集会 ; 福岡市 : 2023. 11. 10
- 30) 鎌田 順道, 日野 浩司, 神山 公希, 高坂 佳宏, 田澤 賢一, 小島 淳夫,
島多 勝夫, 山下 巖
腋窩に発生した HER2 陽性皮膚アポクリン癌の 1 例
第 85 回日本臨床外科学会総会 ; 岡山市 : 2023. 11. 16
- 31) 田澤 賢一, 櫻井 太郎, 山野 格寿, 神山 公希, 高坂 佳宏, 鎌田 順道,
日野 浩司, 藤井 努
片側の膀胱と小腸の同時嵌頓、用手的整復後に膨潤 TAPP 法で修復した両側内
鼠径ヘルニアの 1 例
第 85 回日本臨床外科学会総会 ; 岡山市 : 2023. 11. 17
- 32) 田澤 賢一, 櫻井 太郎, 山野 格寿, 神山 公希, 高坂 佳宏, 澤田 成朗,
藤井 努
目指せ、100 点 TAPP !
ー理論化と言語化による実臨床と JSES 技術認定試験の基準統合ー
第 14 回神奈川ヘルニア研究会 ; 川崎市 : 2023. 12. 2
- 33) 田澤 賢一, 櫻井 太郎, 山野 格寿, 神山 公希, 高坂 佳宏, 藤井 努
成人鼠径ヘルニアに対する TAPP 術中所見から考える LPEC の適応拡大
第 56 回日本小児科学会東海北陸地方会 ; 金沢市 : 2023. 12. 3
- 34) 田澤 賢一, 櫻井 太郎, 福田 裕顕, 神山 公希, 澤田 成朗, 藤井 努
JSES 技術認定 (ヘルニア領域) 合格を目指した Compact Online Surgical Video
Discussion (c-OSVD) の試み
第 36 回日本内視鏡外科学会総会 JSES 2023 ; 横浜市 : 2023. 12. 8

4. 講演

- 1) 藤城 貴教
講師：過活動膀胱治療における診断と薬物治療について
杏林製薬株式会社 社内勉強会；厚木市：2023. 1. 10
- 2) 堀 賢一郎
講師：社内研修会
住友ファーマ株式会社 糖尿病領域社内研修；厚木市：2023. 1. 26
- 3) 石川 沙羅
講師 SGLT 阻害薬について
興和株式会社社内研修会；厚木市：2023. 3. 15
- 4) 鎌田 順道
講師 社内研修会
大鵬薬品工業株式会社 社内研修会；厚木市：2023. 5. 18
- 5) 田澤 賢一
講師 鼠径ヘルニア手術手技
これが答えだ！“安全”、“簡単”で目指す TAPP 技術認定合格への道!!
技術認定医から学ぶ TAPP セミナー 2023；Web：2023. 6. 22
- 6) 飯田 哲士
講師 がん患者の呼吸器症状に対する薬物／非薬物療法による対応
緩和ケア地域連携講演会 in 厚木；厚木市：2023. 7. 11
- 7) 田澤 賢一
講師 あなたも知りたい消化器疾患
伊勢原経営研究会 桔梗の会；厚木市：2023. 7. 14
- 8) 大山 聡子
講師
県央ダーブロック Web セミナー；Web：2023. 7. 19

- 9) 藤城 貴教
講師 当院の前立腺がん放射線治療における取り組み
県央ウロロジーセミナー；海老名市：2023. 7. 25
- 10) 田澤 賢一
講師 安全(Safe)安定(stable)簡便(simple)な TAPP で目指す技術認定合格
第1回メディコン ビデオクリニック；Web：2023. 7. 28
- 11) 田澤 賢一
講師 安全(Safe)安定(stable)簡便(simple)な TAPP で目指す技術認定合格
第2回メディコン ビデオクリニック；Web：2023. 8. 22
- 12) 田澤 賢一
講師 鼠径部ヘルニア手術手技
鼠径ヘルニア手術手技セミナー；Web：2023. 8. 22
- 13) 田澤 賢一
講師 日本の外科の現状と今我々にできること
東名厚木病院 地域医療支援委員会；厚木市：2023. 8. 28
- 14) 沼口 大輔
講師 社内研修会
科研製薬株式会社 社内研修会；厚木市：2023. 9. 20
- 15) 田澤 賢一
講師 社内研修会
科研製薬株式会社 社内研修会；厚木市：2023. 9. 26
- 16) 石川 沙羅
講師 社内研修会
大正製薬株式会社 社内研修会；相模原市：2023. 9. 29
- 17) 田澤 賢一
講師 変わりゆく消化器癌治療 ～地方出身の外科医が都会にきてできること～
第10回厚木市臨床外科医会；Web：2023. 10. 19

- 18) 深井 翼
講師 社内研修会
興和株式会社 社内研修会；厚木市：2023.12.7
- 19) 大山 聡子
講師 社内研修会
興和株式会社 社内研修会；厚木市：2023.12.11
- 20) 田澤 賢一
講師 2023 年ガイドラインの改訂から考える便秘診療の今
Viatrix 社内勉強会；Web：2023.12.21

5. その他

- 1) 鎌田 順道
オープニングリマークス
Brest Cancer agora In 県央；Web 配信：2023.1.17
- 2) 中野 敦史
座長
Atsugi GI Conference；厚木市；Web 配信：2023.1.24
- 3) 日野 浩司
Closing Remarks
Pain Live Symposium；Web 配信：2023.2.16
- 4) 大山 聡子
Opening Remarks（開会の辞）
CKD-MBD Web Conference；厚木市：2022.4.8
- 5) 石川 征之
症例検討の助言 「救急隊の前で VF を発症し ROSC した症例」
湘南地区メディカルコントロール協議会生涯教育講座(救急セミナー)；Web:2023.3.17
- 6) 竹内 真吾
座長
Respiratory Expert Meeting；Web 配信：2023.4.14

- 7) 田澤 賢一
司会
第 21 回日本ヘルニア学会学術集会；大阪市：2023. 5. 26～27
- 8) 富田 公夫
座長
東富士腎セミナー；厚木市：2023. 6. 15
- 9) 田澤 賢一
司会
第 22 回日本 LPEC 研究会；大阪市：2023. 6. 26
- 10) 鬼塚 圭一郎
座長
脳領域高血圧 Symposium ～循環器病対策推進計画を考える～；厚木市：2023. 7. 26
- 11) 堀 賢一郎
座長
Diabetes Online Seminar －世界初の GIP/GLP-1 受容体作動薬の可能性－；厚木市：
2023. 8. 3
- 12) 竹内 真吾
パネリスト
厚木市 心不全×間質性肺疾患 講演会；厚木市：2023. 8. 30
- 13) 鎌田 順道
座長
～HER2 治療&Once-Cardiology～ Breast Cancer agora In 県央；厚木市：2023. 10. 17
- 14) 日野 浩司
座長
第 10 回厚木臨床外科医会講演会；Web：2023. 10. 19
- 15) 玉置 道生
司会
第 2 回神奈川湘南・県央胆膵懇話会；藤沢市：2023. 10. 20

- 16) 田澤 賢一
司会
第7回ラパヘル エキスパートミーティング ～Agenda～；長崎市：2023.10.28
- 17) 北野 義和
座長
第16回厚木心臓・血圧研究会；Web：2023.11.8
- 18) 大山 聡子
座長
Diabetes Online Conference；厚木市：2023.11.22
- 19) 田澤 賢一
座長
第14回神奈川ヘルニア研究会；川崎市：2023.12.2
- 20) 石川 沙羅
座長
心肺連関セミナー；Web：2023.12.12
- 21) 中野 敦史
Opening Remarks
肝・胆 Up Date セミナー；Web：2023.12.13

看護部

牛山 浅美

「弾性着衣の補助具「スリッパ・ゴム手袋」の種類における摩擦力と嗜好性の検討」
第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会；奈良県：2023. 2. 11

牛山 浅美

「全身性浮腫における下肢浮腫に対してリンパ管静脈吻合術（LVA）が行われた3症例」
第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会；奈良県：2023. 2. 11

牛山 浅美

「圧迫療法を中心とした血管看護における継続的な臨床と研究の構築」

第8回日本血管看護研究会；東京都：2023.6.2

牛山 浅美

「弾性着衣の摩擦力と物理的性質の関係に関する検討」

第43回日本静脈学会総会；愛媛県：2023.7.7

牛山 浅美

「圧迫療法における臨床と研究の振り返りと今後の課題～副次的効果に着目して～」

第43回日本静脈学会総会；愛媛県：2023.7.7

橋本 彩加

「直腸がん術前内服化学放射線療法の治療完遂に向けた支援の一考察」

第12回日本放射線看護学会学術集；長崎県：2023.9.9・10

高瀬 由佳

「早期から緩和ケア提供を実現するための緩和ケアチームとしての取り組み」

第4回日本緩和医療学会東北支部学術大会 第26回東北緩和医療研究会；宮城県：2023.10.7

小田 和美

「クリニカルパス委員メンバーの専門性を発揮したパス作成」

第23回日本クリニカルパス学会；埼玉県：2023.11.10・11

高瀬 由佳

「緩和ケア病棟利用率から緩和ケア提供について考える」

第28回日本在宅ケア学会学術集会；大阪府：2023.11.11・12

高瀬 由佳

「自分が我慢すれば」と通院を自己中断した患者への関わりを通して」

第44回日本死の臨床研究会年次大会；愛媛県：2023.11.25・26

リハビリテーション科

1. 学会発表

相原 健

「直腸がん術後再発後の多発脳・肺転移患者に対する終末期理学療法の一例
～主訴の変化に着目して～」

神奈川県理学療法士会 新人教育部 第3回症例発表会；オンライン：2024.1.21

成田 萌

「左被殻出血により重度運動麻痺. 重度感覚障害を呈した症例
～障害受容の過程と起居動作の変化に着目して～」

県央地区リハビリテーション連絡会主催 第13回症例検討会；オンライン：2024.1.28

西田 貴亮

「左片麻痺・感覚障害を呈し、早期荷重訓練にて歩行改善した症例」

県央地区リハビリテーション連絡会主催 第13回症例検討会；オンライン：2024.1.28

古屋 一樹

「今、両手でスマホ使いました？ ～日常生活からのヒントが左手の使用改善へと繋がった右
ACA 領域脳梗塞の一例～」

県央地区リハビリテーション連絡会主催 第13回症例検討会；オンライン：2024.1.28

2. 講師

古屋 一樹

臨床実習セミナー

横浜リハビリテーション専門学校；横浜市：2023.6.13

土方 麻衣

がんサロン 「がんに関わる運動のいろは」

アミューあつぎ；厚木市：2023.8.26

小森 孝一、宇都宮 菜摘、岩田 亜慧、古屋 一樹、神保 捺未

2023年度福祉用具専門相談員講習会

IMS 本社；厚木市：2023.6.13～16

土方 麻衣、橋本 健太郎

厚木市南毛利南地区地域福祉推進委員会 健康づくり部健康講座

「ココロもカラダも整えよう！～ヨガの動きを取り入れた椅子エクササイズとからだチェック～」

愛甲公民館；厚木市：2024. 2. 14

橋本 健太郎

神奈川県理学療法士会 新人教育部 第1回症例発表会 ファシリテーター

オンライン；2023. 11. 19

小林 大輔、飯田 勇次郎、橋本 健太郎、川口 峻

とうめい綾瀬腎クリニック 介助法指導

綾瀬市；2023. 10. 24、2023. 12. 20

橋本 健太郎

神奈川県理学療法士会 新人教育部 第3回症例発表会 座長

オンライン；2024. 1. 21

医療福祉相談室

1. 学会発表

金子 千晶

「ICFを活用したMSWによる就労支援の効果の一考察」

第68回日本透析医学界学術集会；神戸市：2023. 6. 17

福田 美香、田村 博之

「透析患者における終末期医療・介護とAdvanced Care 透析患者のPlanning」

「患者主体の在宅と医療機関との連続したACP連携を行って」

第68回日本透析医学界学術集会 シンポジウム19；神戸市：2023. 6. 17

管理部財務課

村越 怜

タイトル：Excel・VBAを用いた仕訳チェックプログラムの開発・経理業務の効率化

第73回日本病院学会；宮城県仙台市：2023年9月22日

野球部

今年のジャパンメディカルリーグは開催地が遠方であったため、地元の企業との練習試合や合同練習を重点的に行ってまいりました。来年は社会人リーグへの登録を予定しております。より多くの方にご参加いただけるよう、試合やリーグ参加の機会を多く設けたいと考えております。経験者、未経験者問わず部員募集しておりますので、興味のある方は是非ご連絡ください。

(文責 八木 健太)

陸上競技部

1. 概要

三思会陸上部は1999年創立と法人の部活の中では比較的長い歴史を持つ部活となります。近隣で開催される駅伝大会に年1回程度参加し、何回か入賞歴があります。

2. 活動内容及び記録

2023年は駅伝等のグループでの大会参加はありませんでしたが、個人にて陸上大会に出場し、活躍する職員がおりました。医務部の小田医師は下記の通り、アジアマスターズに参加し結果を残してきました。2024年はグループとして大会に出場出来れば、と考えています。

主な結果

2023年8月27日 2023年度第1回厚木市陸上競技記録会 男子100m 11.23秒(小田)

2023年11月8日～12日 第22回アジアマスターズ選手権(フィリピン)(小田)

・100m個人 8位 ・400mリレー 優勝 ・1600mリレー 優勝

(文責 村越 怜)

よろず音楽隊

1. 概要

部長：石綿 祐樹(マザーホーム戸室、厚木市南毛利地域包括支援センター)

副部長：山下 源(老健なでしこの里リハビリひらつか)

部員：20名

2. 活動内容及び記録(2006年活動開始)

主に高齢者向けに地域に出かけて、演奏をしております。地域の方へ歌を通してふれあいの場を得、顔

の見える活動をしております。また、東名厚木病院、介護老人保健施設さつきの里あつぎ等、法人のイベントにあわせて、演奏しております。聞いて、歌ってくださる方の歌声・喜びが、よろず音楽隊のパワーの源になっております。

3. 今年のトピックス

新型コロナウイルス感染症が5類になるまでは、出番が少なかったもので、今年の春は、楽器庫の大掃除をしました。5月過ぎてからは徐々に依頼が増えてきました。

本年の出前演奏

5月 恩名ミニデイ 7月 毛利台憩いのカフェ
10月 毛利台憩いのカフェ 11月 毛利公民館 と 愛甲公民館
12月 愛名と戸室 クリスマス会

これからも地域に出かけて、出前演奏していきます。

(文責 石綿 祐樹)



写真部

1. 概要

病院内に写真を展示、またイベント等で写真係として活動しています。

2. 活動内容及び記録

今年度は、休部しています。

(文責 杉田 章)

アクアリウム

1. 概要

来院される方々や職員に癒しをあたえることを目的とし、各施設へアクアリウム設置推進活動や設置後の管理を中心に活動しています。また、生物採集を通して職員同士の親睦を深める活動も行っています。

部長：野村 直樹（三思会理事長）
副部長：杉山 秀（なでしこの里リハビリひらつか）
会計：有馬 義裕（三思会管理部）
部員：他 18 名

2. 活動内容及び記録

2023 年 3 月に八王子の某所で、昨年も採集した国内外来種であるオヤニラミを採集することができました。11 月にはチョウチョウウオ採集を行い、たくさんの南方系の魚を採集することができました。来年も癒しを求めて活動していきます。

2023 年 03 月 生物採集（八王子）

2023 年 11 月 生物採集（鎌倉）

（文責 有馬 義裕）

フットサル

1. 概要

部長：佐伯 健太郎（東名厚木病院）
副部長：草山 竜二（管理部兼東名厚木病院）
会計：橋本 健太郎（東名厚木病院）

2. 活動内容及び記録（2023 年活動開始）

月に 1 回市内のフットサル場にて、各事業部の職員が集いゲーム形式で活動しております。9 月には市内の他病院と練習試合を行いました。

また、9 月、12 月と F チャンネル主催のソサイチ大会に出場し優勝、準優勝という成果をあげることができました。

2023 年 4 月、5 月、6 月、7 月、10 月 紅白戦（市内フットサル場）

2024 年 1 月、2 月 紅白戦（市内フットサル場）

2023 年 9 月 練習試合 vs 市内病院

2023 年 9 月 F チャンネル主催ソサイチ大会（相模原） 優勝

2023 年 12 月 F チャンネル主催ソサイチ大会（町田） 準優勝

（文責 佐伯 健太郎）



ねいちゃー

1. 概要

自然を楽しみながら心身の健康を保つことを目的として活動しています。具体的には、キャンプや魚釣り、トレッキング、沢登りなどをしながら、毎回ではありませんが美化活動なども実施しています。また山菜や野草の採取および、釣りや罟、網などで捕獲した魚介類などを調理し、食べる会を実施しています。

※漁業権が設定されている河川では遊漁券を購入し、海では漁業権を遵守した範囲で採取しています。

部 長：平山 卓哉（管理部）

副部長：木村 弘宗（管理部）

会 計：千村 優介（管理部）

部 員：ほか 12 名

2. 活動内容及び記録

活動 毎月 1 回以上実施

場所 相模川、中津川、七沢川、小鮎川、谷太郎川、大山、鐘が嶽、白山
二宮海岸、根府川、湯河原海浜公園など

効果 以下参加者の意見

- ・森林浴、川や滝からのマイナスイオンを感じて良い息抜きになった
- ・落ち着いて会話ができ、いろいろな人と仲良くなれた
- ・厚木市の自然に触れ、厚木市がより好きになった
- ・食べられる魚や野草、山菜を知り、災害時に役に立つと思った
- ・魚を捌けるようになった、料理が出来るようになった
- ・体力がついた、体調が良くなった、ストレスが軽減された など



(文責 平山 卓哉)

介護老人保健施設さつきの里あつぎ

1. 概 要

介護老人保健施設さつきの里あつぎは、高齢者を含む地域住民が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けられる社会の構築を実現します。医学的管理のもと、多職種が連携しながらリハビリテーションや介護ケアを提供し、利用者の在宅復帰を支援しています。身体拘束廃止推進モデル事業の施設として身体拘束適正化、認知症ケアにも取り組んでいます。また利用者やその家族とニーズを共有し、ターミナルケアも実践しています。

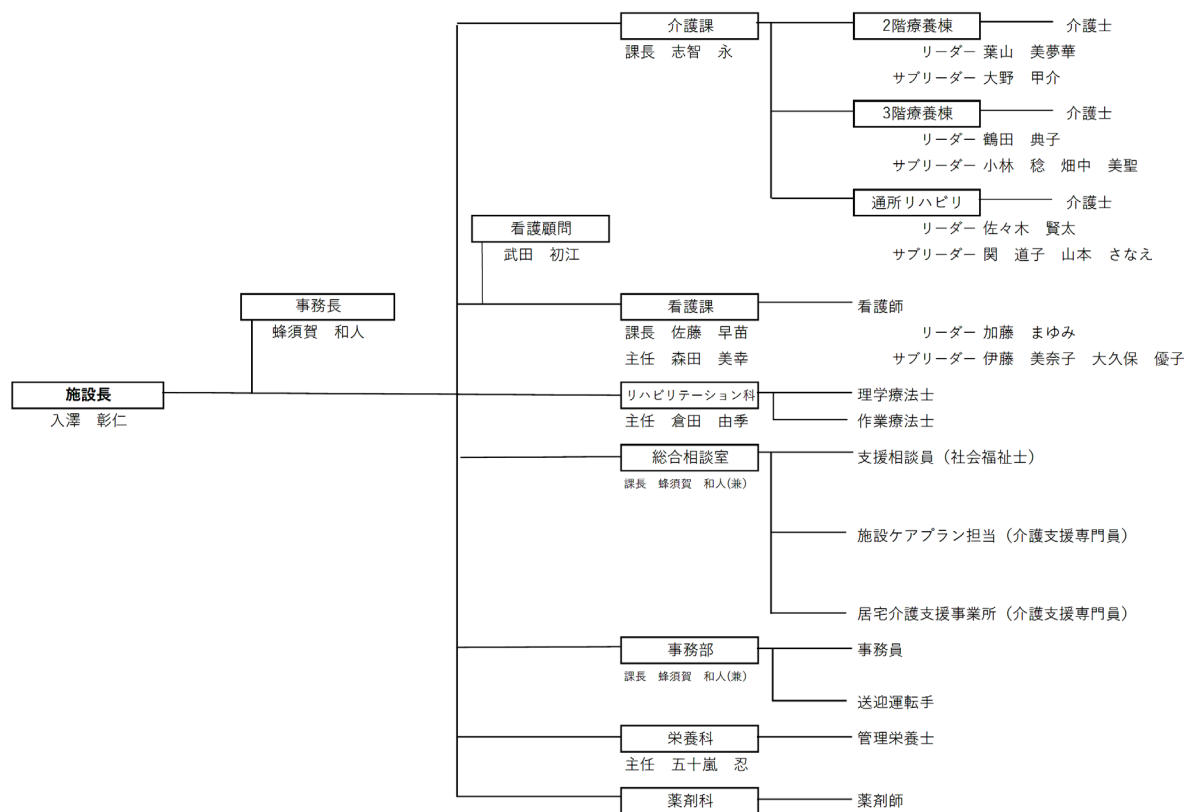
事業内容は、①入所(2階一般棟 55名 3階認知症専門棟 45名)②短期入所療養介護 ③通所リハビリテーション(定員60名)④予防通所リハビリテーション(定員15名) ⑤居宅介護支援 ⑥訪問リハビリテーションです。2023年6月をもって、さがみ介護ロボット開発支援センターは休止となりました。

(文責 蜂須賀 和人)

2. スタッフ構成

施設長	:	入澤 彰仁
事務長	:	蜂須賀 和人
医師	:	1名(常勤)
看護職	:	22名(常勤10名 嘱託5名 非常勤7名)
歯科衛生士	:	1名(非常勤)
介護職 療養棟	:	40名(常勤36名 嘱託4名)
通所	:	12名(常勤10名 非常勤2名)
リハビリテーション職	:	13名(理学療法士8名 作業療法士3名 非常勤2名)
支援相談員	:	3名(常勤)
施設ケアプラン担当	:	1名(常勤)
管理栄養士	:	1名(常勤)
薬剤師	:	2名(非常勤)
事務	:	5名(常勤4名 非常勤1名)
運転手	:	4名(非常勤)
居宅介護支援	:	4名(介護支援専門員 常勤3名 非常勤1名)
訪問リハビリテーション	:	兼務1名(理学療法士1名)

3. 組織図



4. 年間行事

2023 年 療養棟 年間行事

開催月	内容
1 月	
2 月	節分（鬼退治）
3 月	のど自慢大会 風船バレー大会
4 月	
5 月	運動会
6 月	
7 月	スイカ割り&フルーツポンチ作り
8 月	
9 月	さつき祭り
10 月	
11 月	ハロウィン喫茶
12 月	クリスマスバイキング

2023 年 通所リハビリテーション 年間行事

開催月	内容
1 月	
2 月	節分（鬼退治）
3 月	
4 月	
5 月	収穫祭
6 月	
7 月	
8 月	
9 月	秋祭り
10 月	ハロウィン
11 月	芋煮会
12 月	クリスマスバイキング ハンドベル

5. 施設外活動

【学会発表・講演】

学 会 名	発表者	テーマ
第34回全国老人保健施設大会 宮城	大野 甲介	特殊浴槽入浴者の増加に伴う業務改善から得られたこと

【講師】

項 目	
福祉用具専門相談員指定講習会	イノベーションオブメディカルサービス
介護職員初任者研修	各講座研修講師（会場：さつきの里あつぎ）
介護福祉士施設実習	西部総合職業技術校

【実習受入】

項 目	
看護師臨床実習	松陰大学 神奈川工科大学 厚木看護専門学校
介護福祉士等施設実習	町田福祉保育専門学校 YMCA健康福祉専門学校 西部総合職業技術校
教員免許取得介護等体験	東京農業大学
社会福祉士ソーシャルワーク実習	神奈川県立保健福祉大学 上智大学
作業療法士臨床実習	横浜リハビリテーション専門学校 国際医療福祉大学 北里大学
理学療法士臨床実習	横浜リハビリテーション専門学校 国際医療福祉大学
職場体験学習	神奈川県保険医協会 玉川中学校 伊勢原支援学校

【地域事業】

項 目	時 期	テーマ
いきいき教室【情報誌 vol9】	3月	いつまでもおいしく食べるために～食事の姿勢、介助のポイント～
いきいき教室【情報誌 vol10】	8月	認知症になっても、その人らしく暮らすために～認知症とは～
いきいき教室【情報誌 vol11】	11月	認知症になっても、その人らしく暮らすために～認知症ケア～
船子老人会 きずなクラブ	7月	いきいき健康体操
南毛利 シニアフェスティバル	11月	健康相談 栄養相談
南毛利健康フェスティバル 南毛利地域包括支援センター主催	12月	よろず相談所〈介護相談、福祉施設相談〉

【役員等】

項 目	内 容
神奈川県老人保健施設協会 事務部会	ブロック長（県央・県西）
神奈川県老人保健施設協会 介護部会	副部会長 ブロック長（県央）
神奈川県老人保健施設協会 支援相談員部会	ブロック長（県央、湘南東、湘南西）

6. 事業別実績データ

2023年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
入所サービス	入所平均ベッド数	86.2	90.7	93.0	88.5	84.5	85.6	86.8	84.6	84.3	90.6	92.3	94.1	88.4
	入所者平均要介護度	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	3.22
	在宅復帰率（前6ヶ月）	65.9%	65.9%	67.5%	63.4%	63.4%	63.4%	63.2%	60.0%	60.0%	61.5%	53.5%	50.0%	61.3%
	ベッド回転率（前3ヵ月）	8.8%	8.3%	9.7%	10.4%	9.6%	9.1%	8.6%	9.1%	10.3%	10.6%	11.4%	11.7%	9.8%
	在宅復帰等評価指標	71	71	71	81	71	71	71	71	81	81	81	81	75点
在宅サービス	通所利用者延べ回数	731	726	838	801	880	882	889	938	897	895	891	865	852.8
	予防通所利用者数	13	14	14	13	14	15	15	14	12	14	16	15	14.1
	訪問リハビリ利用単位数	206	219	237	134	141	153	128	165	158	176	155	187	171.6
	居宅介護支援件数	95	94	100	100	110	107	106	106	107	106	104	106	103.4

南毛利地域包括支援センター（介護保険法に基づく厚木市の委託業務）

1. 概 要

「障がい者を含む地域の子どもからお年寄りまで」に対する地域の総合相談窓口としての役割を担うため、介護保険法等に規定される専門職が集まり、温水西に事務所を構え、業務を展開しています。

地域包括ケア社会を目指す上での重要な役割として、従来からの高齢者に対する個別支援だけでなく、地域課題を発見・共有するための地域ケア会議の開催や、地域の生活支援体制整備業務として第２層の協議体の事務局を担うなど、地域の各種社会資源と協力しながら地域支援に重点を置いた業務を展開していくことが求められています。

担当地域は、南毛利公民館区の戸室・恩名・長谷・温水（一部地域を除く）・温水西・毛利台・愛名地区で、地区人口 38,355 人、高齢者人口も 9,084 人（2024.1.1 現在）と、市内最大の地域包括支援センターとなりました。

2. スタッフ構成 9 人

センター長、社会福祉士：2 名、主任介護支援専門員：3 名、保健師：1 名、看護師 1 名
事務：1 名

3. 活動内容

- 1) 包括的支援事業（総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援）
- 2) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築
- 3) 地域ケア会議の開催
- 4) 生活支援体制整備（生活支援コーディネーターとの連携、第２層の協議体の設置・運営）
- 5) 指定介護予防支援
- 6) 一般介護予防事業（介護予防普及啓発、地域介護予防活動支援）

（文責 石綿 祐樹）

居宅介護支援センター

1. 概 要

当センターは、介護保険制度創設と共に設立され 24 年を迎えました。開設以来の理念「地域に出て在宅での生活を支える」を大切に、社会に貢献できるよう活動しています。

業務内容は、要介護状態となられた方の在宅生活を支えるため、介護、医療、保健、福祉をコーディネートしたケアプランを作成します。利用者の意向に沿った相談援助を中心に、介護保険サービスの調整、必要に合わせた介護保険外の制度活用、市町村に対する申請書類の申請代行等を行っています。また、厚木市より介護保険認定調査の委託を受けております。事業所としては最も専門性の高い「特定事業所加算（Ⅰ）」を継続すると共に、がん末期の方を在宅で支える「特定事業所医療介護連携加算」を取得しています。地域、行政、医療、保健サービス機関との連携により、利用者本位で中立公正なケアプラン作成を目指しています。

2. スタッフ構成

ケアマネジャー（介護支援専門員）7 名および事務員 1 名の事業所です。特定事業所加算Ⅰには幾つかの要件がありますが、算定要件である「主任介護支援専門員数 2 名以上」について 7 名中 4 名で運営するなど質の確保に努めています。

「基礎資格」：社会福祉士 2 名 介護福祉士 4 名 看護師 1 名

3. 2023 年の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症が落ち着き、ケアマネジャーとして通常の支援が可能となりました。しかしながら、利用者宅への訪問相談では引き続き感染予防に努めながら支援にあたって参りました。

今年は、がん末期によるターミナル期の相談支援を評価するターミナルケアマネジメント加算算定が年 9 回と過去最高となりました。この他、算定要件に満たさないターミナル期の利用者も多く受け入れており、人生の最期を自宅で過ごすという望みを叶えられたと実感しております。また、地域包括や法人内外のケアマネ事業所との合同勉強会も対面で開催し、専門職としての支援交流やスキルアップに貢献しました。

2024 年度は介護報酬改定を控えており、「地域包括ケアの深化・推進」が基本的な視点の一つとして示されております。多様化・複雑化する課題に対するための取り組み、看取りへの対応強化などが改正内容としてあり、当事業所が運営してきた取り組みが評価される改定と予測されます。今後も専門職として自己研鑽に努め『支える～その人らしく生活すること』を胸に日々取り組んでいきます。

（文責 三橋 悟）

居宅介護支援センター 2022 年「月報集計表」

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間計	月平均
登録利用者数合計	157	156	153	155	158	168	176	181	189	189	188	196	2,066	172
給付管理数合計	154	152	149	152	155	164	165	179	185	186	185	190	2,016	168
内														
事業対象	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	2	2	12	1
要支援1	0	0	0	1	1	3	4	9	9	8	9	8	52	4
要支援2	3	3	2	2	2	7	8	14	14	14	14	13	96	8
要介護1	24	23	21	24	25	25	27	26	26	29	26	28	304	25
要介護2	46	46	47	49	51	56	57	57	56	57	59	61	642	54
要介護3	31	31	32	31	27	27	26	27	29	26	27	28	342	29
要介護4	22	24	24	26	29	28	25	26	31	36	35	33	339	28
要介護5	28	25	23	19	20	17	17	18	18	14	13	17	229	19
初回加算	2	4	2	8	4	4	2	3	5	3	4	3	44	4
入院時情報連携加算Ⅰ	2	2	2	0	2	2	3	2	1	4	2	5	27	2
入院時情報連携加算Ⅱ	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	4	0
退院・退所加算ⅠⅠ	2	1	2	0	2	2	2	4	3	2	0	1	21	2
退院・退所加算ⅠⅡ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	4	0
退院・退所加算ⅡⅠ	1	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	3	9	1
退院・退所加算ⅡⅡ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0
退院・退所加算Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
ターミナルケアマネジメント加算	1	0	0	2	1	1	0	0	2	1	0	1	9	1
小規模多機能型居宅連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通院時情報連携加算	0	0	1	0	0	1	2	0	2	0	0	1	7	1
処遇困難ケース	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	4	4	33	3
重度者割合 (要介護3, 4, 5/困難ケースを含む)	53.6%	53.7%	53.7%	51.0%	50.0%	47.1%	44.7%	46.1%	48.8%	46.9%	46.9%	46.7%		51.0%

相談延べ件数	1,351	1,133	1,062	1,065	1,130	1,089	1,134	1,134	1,184	1,297	1,276	1,220	14,075	1,173
業														
申請代行	15	10	8	14	8	4	6	11	9	7	6	4	102	9
契約関係	4	3	16	19	16	20	16	11	13	16	7	8	149	12
内容説明	10	4	10	12	14	10	17	29	10	17	17	10	160	13
モニタリング	344	289	289	264	282	280	294	286	289	305	310	293	3,525	294
務														
サービス調整	236	196	167	208	198	204	190	192	215	223	208	183	2,420	202
苦情処理	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
受診・入院相談	28	36	38	42	44	23	28	28	21	29	35	41	393	33
分														
入所相談	10	18	9	4	10	9	3	15	5	4	15	15	117	10
療養上の問題	265	223	234	237	236	249	254	250	276	299	284	275	3,082	257
心理・情緒問題	113	74	70	21	48	31	35	35	48	61	64	59	659	55
類														
日常生活の問題	260	200	181	191	207	218	228	231	247	277	269	245	2,754	230
家族・人間関係問題	21	38	19	28	41	16	33	29	27	38	32	39	361	30
経済問題	6	4	1	1	4	3	1	1	4	3	3	7	38	3
制度・社会資源	39	38	20	23	22	22	29	16	20	18	26	41	314	26
方														
面接	193	197	201	201	229	233	231	222	222	235	229	223	2,616	218
電話	495	433	339	369	371	347	381	503	456	418	402	357	4,871	406
法														
合同	50	29	43	58	68	51	45	43	52	53	48	71	611	51
その他	41	39	23	29	35	25	30	29	16	25	18	28	338	28
訪														
訪問合計	186	179	194	192	264	221	275	223	223	286	232	238	2,713	226
家庭	170	165	169	170	186	199	195	185	200	197	210	201	2,247	187
問														
その他	16	14	25	22	78	22	80	38	23	89	22	37	466	39

認定調査件数	3	4	4	3	3	3	3	0	4	4	4	4	39	3
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

新規総数	0	5	6	12	13	5	10	12	9	13	11	6	102	9
法人内	0	4	4	6	7	3	8	10	5	10	5	4	66	6
法人外	0	1	2	6	6	2	2	2	4	3	6	2	36	3
契約	3	1	4	4	9	9	11	7	8	7	4	8	75	6
終了	4	3	5	2	6	5	3	3	5	4	5	5	50	4

2023 年 紹介経路

紹介元集計	合計	合計
集計期間： 2023年01月01日～2023年12月31日	件数	%
総合計	90	100%
法人内	66	73.3%
南毛利地域包括	42	46.7%
東名厚木病院	14	15.6%
訪看さつき	4	4.4%
老健さつきの里	3	3.3%
はなの家とむろ	2	2.2%
訪看もみじ	1	1.1%
法人外	24	26.7%
本人	3	3.3%
家族	8	8.9%
神奈川リハビリテーション病院	3	3.3%
厚木市立病院	1	1.1%
湘南厚木病院	1	1.1%
伊勢原北部地域包括	2	2.2%
厚木地域包括	2	2.2%
厚木南地域包括	1	1.1%
依知地域包括	1	1.1%
荻野地域包括	1	1.1%
小鮎・緑ヶ丘地域包括	2	2.2%
玉川・森の里地域包括	1	1.1%
相川・南毛利南地域包括	1	1.1%
愛川町地域包括	7	7.8%
きずな	2	2.2%

訪問看護ステーションさつき

1. 概要

平成 7 年 4 月 7 日に県央地区で最初に開所して、25 年目を迎えます。

平成 29 年 5 月 15 日に愛川町に『サテライト愛川』を開設して、3 年目を迎えました。サテライト開設と同時に、訪問エリアを 7 地域として厚木市、愛川町、清川村、海老名市、伊勢原市の全域と、平塚市と相模原市の一部までに拡大、現在は相模原市以外の 6 地域に訪問しています。

訪問看護ステーションさつきの特色は機能強化型訪問看護ステーションとして、生後数か月の小児から 100 歳近い高齢者と幅広い年齢層、がん末期、特定疾患、障害、精神疾患や認知症、医療依存度の高い利用者様からご依頼をいただき、“安心なのは当たり前の日常生活”をモットーに家族状況や家庭環境、ニーズに合わせてサービスを提供しています。在宅看取りも積極的に関わらせていただいています。また併設事業所として「東名厚木病院居宅介護支援センター」と共に困難事例や医療依存度の高い利用者様により良いサービス提供を行うよう協働・連携しています。多くの医療機関や地域包括支援センターから新規依頼を受け、タイムリーな相談援助と医療系サービス提供に対応し、今後も地域の期待に貢献できるよう努めます。

地域で『顔の見える関係』を意識して、多くの医療・介護・福祉、時には民間の事業にかかわる方々と積極的に関わり、連携・協働に努めて『たまに入院、ほぼ在宅』を支える在宅サービスが可能となるように、スタッフ一同“いのち・くらし・尊厳を守り支える看護・リハビリ”を継続していききたいと思います。

2. スタッフ構成

管理者	田中 和子				
看護職	山口 あゆみ	奥村 多香恵	對馬 央恵	佐藤 真美	
	鮭川 美優	新澤 麗羅	兼澤 みき（非常勤）		
	和田 美香（非常勤）				
理学療法士	須貝 香保里	柳川 大征			
事務職	石井 幸江				

3. 活動内容

- ・医師の指示による訪問看護（介護・医療）、予防訪問看護、リハビリ訪問（介護・医療）
- ・指示書発行医療機関：約 45 か所
- ・訪問看護実習、研修受け入れ：厚木看護専門学校、湘南平塚看護学校、
神奈川工科大学、松陰大学、神奈川県看護協会訪問看護実習など

- ・ 研 修：訪問看護ステーション管理者研修、在宅小児重度心身障害養成研修、
精神科訪問看護研修、地域リハビリテーション研修、神経難病研修会
厚愛訪問看護部会研修、厚愛多職種研修、他多数
- ・ 所外活動：東名厚木病院居宅介護支援センターや訪問診療医等と協働で勉強会開催
厚木市広報にインタビュー掲載など
- ・ 委員会活動：厚愛医療介護連携会議委員、厚木医療福祉連絡会委員、
厚愛訪問看護部会委員など

(文責 田中 和子)

サービス付き高齢者向け住宅 マザーホーム戸室

1. 概 要

平成28年4月1日、厚木市戸室に建設された複合型施設 マザーホーム戸室の3階・4階部分がサービス付き高齢者向け住宅 マザーホーム戸室です。

原則60歳以上の方にご入居いただけます。定員は24名（1人部屋16室、2人部屋4室の計20室）で、お一人やご夫婦だけの時間を過ごすことはもちろん、3階のラウンジや1階の地域交流スペース「戸室のひろば」で、入居者同士や地域の方との交流を図ることもできます。

また、施設のすぐ隣にはスーパーやホームセンターなどがあるため、お買い物にも不自由はなく、一番近い医療機関は、徒歩2～3分の距離にあります。なお、施設の玄関前は、とうめい厚木クリニック行きの無料送迎バスの発着場所となっており、平日の午前中に地域の方を含め、お住まいの皆さんにご利用いただいています。

職員による1日3回の安否確認や生活相談サービスに加え、建物内に併設されている訪問看護や看護小規模多機能型居宅介護事業などを利用しながら、または、外部のサービスを自由に取り入れていただきながら、支援や介護が必要となっても、ご自身の生活を自由に組み立て、安心して住み続けることができます。

2. スタッフ構成

施設長 1名

事務員 4名

3. 活動内容

現在は、全室満室となっております。

行事等は、1月 ピニャータ作り 2月 節分 3月 桃の節句のお茶会

4月 お花見 5月 田園散策 6月 あじさい音楽会

7月 屋台風やきそば 8月 夢未市買い物 9月 夏祭り

10月 運動会 11月 南毛利シニアフェスティバル参加

12月 年越しそば を開催しました。

ご家族やヘルパーさんなどの出入がありますが、十分な感染対策を実施し、活気やふれあいが図れるようつとめております。

（文責 石綿 祐樹）

看護小規模多機能型居宅介護事業いわしぐも

1. 概要

看護小規模多機能型居宅介護事業（以下、看多機）として、2016年にマザーホーム戸室内に開所。利用者の心身の状況に合わせ、「訪問看護」、「訪問介護」、「通い」、「泊まり」の4つのサービスを柔軟に組み合わせたサービスの提供をすることで、利用者の在宅生活の継続を目指しています。現在の登録者は17名、平均介護度平均は、要介護3.9で推移しています。

同施設内にある訪問看護ステーションと一体型で運営しており、看護師と介護職で協働しながら、医療ケアを必要とする方の積極的な受け入れや訪問サービスの充実をはかっています。緊急時体制も整えていて、終末期や看取りを希望される利用者にも柔軟な対応が可能となっています。

介護職員の喀痰吸引1号資格取得に向けて実地研修を事業所で行っており、3名が修了し2名が受講中です。他の施設では受け入れが困難である医療ニーズの高い方や、基準該当事業所として障害児者の受け入れを積極的に実施していく体制づくりを行なっています。

2. スタッフ構成

管理者…1名（看護師業務兼務）

介護支援専門員…2名（看護師業務兼務2名）

看護師…（訪問看護ステーションもみじ兼務）

介護福祉士…10名 実務者研修修了者…4名

調理員2名、運転手1名

3. 活動内容

（1）業務改善の取り組み

介護職員の必要人員確保、定着に向けた取り組みを継続しています。各々が看多機の役割、訪問看護ステーションとの一体型の優位さ、複合型施設での役割を理解し、今後の方向性を共有した上で、各職種の専門性を活かし協同していくことを大切にしています。

①複合型施設における看多機の役割の共通認識、支援提供の実現

複合型施設におけるいわしぐも介護職は、看多機従来の業務に加え、同一敷地内にあるサービス高齢者向け住宅の夜間帯の安否確認、ナースコールにも対応しています。

一般的な介護施設等の働き方とは異なり、在宅生活を支援する考え方を柱としたケアが大切になります。カンファレンスの実施や多職種との連携を通じ、多職種が協同して支援を考えていくこと、また、個別の支援計画に沿った支援内容を検討すること、利用者や家族とのつながりを大切にするを日々考え実践できるようにしています。第2事業部の介護課長の助言を頂きながら、職員の定着とサービス提供の質の確保に向けた勉強会や業務改善の取り組みを、職員が中心となり実施しています。

②訪問介護の強化

看多機本来の役割である、住み慣れた自宅での生活の継続を支援するため、訪問介護の強化を継続して行なっています。事業所職員での、在宅生活を支援する共通認識が出来ています。

③事業所間と多職種連携

訪問看護ステーションもみじと一体型の運営により、訪問看護や訪問リハビリとの協働が定着しています。利用者個々のニーズとありたい姿に合わせ、それぞれの専門的な視点からの助言・提案・知識技術がお互いの成長を促しています。

(2) 喀痰吸引 1 号実地研修

介護福祉士 3 名の実地研修が修了し、実務し、2 名が追加で研修を行っています。訪問看護ステーションもみじに指導看護師が 5 名在籍し、安全な環境を整備し介護職の資格取得に向けて協力体制を整えています。今後も資格取得の介護職員の増員を目指しています。

(3) 運営推進会議を軸とした、満足度調査及び事業所評価

運営推進会議とは、利用者家族代表、地域住民の代表者等に対し、提供しているサービス内容等を明らかにし、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質を確保することを目的に開催しています。2 か月に 1 回対面および WEB にて会議を開催しています。

同施設内事業所間、職種間での連携やサービス提供内容に関して、一定の評価をいただいています。職員間のコミュニケーションや、職場環境の改善、ケアの質の確保に向けた研修体制の強化や風土作りを強化していく予定です。

(4) 研修・実習受け入れ、院内外研修

認定看護管理者教育課程セカンドレベル実習

厚木看護専門学校地域・在宅看護論Ⅰ実習 湘南平塚看護専門学校在宅看護論実習Ⅰ

認知症実践者研修 2 名修了、認知症介護実践リーダー研修 1 名修了

医療的ケア教員講習会 1 名修了、不適切ケアと虐待防止セミナー参加 等

(文責 徳原 春香)

多機能型事業所にじいろ

1. 概 要

多機能型事業所にじいろは、主に医療ケアが必要な重症心身障がい児者を対象とした「児童発達支援」、「放課後等デイサービス」、「生活介護」の3つの通所サービスを2016年に開始しました。また、2022年から、重度の障がい等により外出が著しく困難な障がい児の居宅を訪問して発達支援を行う「居宅訪問型児童発達支援」のサービス提供も行っています。

訪問看護ステーションもみじと一体となって支援することで、在宅生活の流れや状況を共有し、細やかなケアを継続しながら、安心して通える場を提供しています。

2. スタッフ構成

- 管理者 1名（サービス管理責任者・児童発達管理責任者を兼任）
- 看護師 2名（サービス提供時間中の看護師加配体制として、もみじ看護師が兼任）
- 保育士 3名（常勤1名、非常勤3名（内1名 いわしぐも兼任））
- 理学療法士 1名（訪問看護ステーションもみじ理学療法士が兼任）
- 運転手 1名（放課後等デイサービス送迎時には、いわしぐもより運転手1名応援あり）
- 嘱託医 1名（とうめい厚木クリニック 小児科より）

3. 活動内容

にじいろでは、以下のような目標を掲げて支援を行っています。

それぞれの職種が専門性を活かし、「医療的なケア」・「生活行為の支援」・「機能訓練」・「環境づくり」により心身の状態を整え、「療育活動」に参加・体験することで成長発達を支援しています。

また、在宅生活における医療ケアや療育、リハビリ、環境の整え方などの相談とともに、地域の関係機関とのつながり作りなど、ご家族が安心して生活できる支援、住みやすい地域となるための支援も行っています。

近年、医療的ケア児を受け入れる体制づくりが近隣の保育所でも検討され始めており、当事業所の保育士を講師派遣も行っています。

目指したいにじいろ	● 経験を通じ、心身の育み・生きる力を養う支援 ● 家族の想いに寄り添い心身共に支援 ● ガイドライン等を基準にした運営体制や基準の整備 ● 障がい児者と家族の住みやすい地域づくり ● 各専門分野の研鑽と協働力を高めよう ● 利用者支援を支える職員層の育成 ● 地域での情報共有と地域の支援力を高める
-----------	--

4. 活動実績

- 登録者（2023 年 12 月 31 日現在）

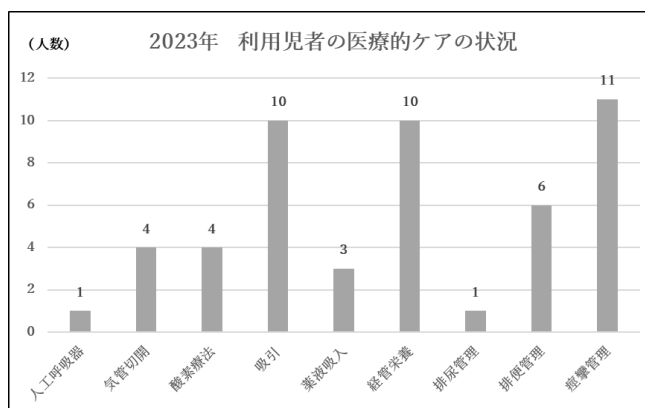
【通所】児童発達支援 8 名

放課後等デイサービス 10 名

生活介護 4 名

【訪問】居宅訪問型児童発達支援 2 名

※右図は、通所及び訪問利用登録児者における医療的ケアの割合を示す。



- 2023 年 延べ利用人数

	2023 年	2022 年
通所	987 人（月平均 82.3 人）	1,027 人（月平均 85.6 人）
訪問	49 人（月平均 4.1 人）	利用 46 人（月平均 4.9 人）

5. 2023 年の取り組み

①ご利用される方、ご家族への支援の充実

新型コロナウイルス感染症の蔓延後、昨年再開した家族会を 12 月に開催しました。参加人数は少なかったものの、今回は対面と web での 2 通りの参加方法を提示しました。家族会での意見は、地域で開催される関係機関会議などでも報告しています。また、生活介護では、ご家族参加型の活動イベントも行いました。

年度内には利用される方々が 1 年間を通じて製作した作品を展示して、ご家族をお呼びする「展示会」の開催を予定しています。これは、日々お子さま方の活動を通じて、ご家族と一緒に成長を確認しあいたいという趣旨です。

②医療的ケア指示書（多機能型指示書）の運用開始。

令和 3 年に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が制定され、障害児通所事業所では安全な受け入れをおこなうための手引きが示されました。それに伴い、利用される方々の主治医（医療機関）との連携を充実させるために、医療的ケア指示書（多機能型指示書）の運用をはじめました。

③人材育成

より充実した医療的ケア体制の充実のために、認定特定行為業務従事者の育成のため、喀痰吸引研修を受講しています。また、厚木地域においては認定特定行為業務従事者の実地研修をおこなえる施設がないため、年度内には地域人材育成のために訪問介護事業所職員を対象とした実施研修をおこなう予定です。

今年度も、湘南平塚看護専門学校、厚木看護専門学校等から看護実習生の受け入れをおこなうとともに、神奈川県障害福祉事業所インターンシップの受け入れにも参加しました。

（文責 兼子 健）

訪問看護ステーションもみじ

1. 概 要

1999年3月16日に法人の第2番目の訪問看護ステーションとして発足し、2016年度より地域包括ケア社会の構築に向けて、複合型施設マザーホーム戸室へ移転しました。

訪問看護ステーションもみじでは、ご自宅での療養生活を支援するため、お住まいに訪問し、小児・精神・難病・ターミナルなど幅広い疾患や年齢層を対象とした看護を提供しています。

24時間体制により、夜間や休日の緊急対応や、かかりつけ医師と連携することで、医療ケアが必要な方やご自宅での看取りまで対応可能です。厚木市より学校等訪問看護支援事業を受託し、小学校等へ医療的ケアの介入をしています。

県央地区の医療的ケア児等の相談業務を今年度担い、ご利用者、その家族、地域の支援者の声に耳を傾け、地域の課題に対し、今出来ることを常に考えながら地域ニーズに柔軟に対応をしていけるステーションを目指しています。

複合型施設の訪問看護ステーションとして、もみじ・看護小規模多機能型居宅介護事業いわしぐも（以下、いわしぐも）登録利用者の訪問看護以外に、いわしぐもや多機能型事業所にじいろ（以下、にじいろ）の通い時の看護ケアやリハビリ、サービス高齢者住宅にお住まいの体調変化時の相談等、マザーホーム内事業所を横断しながら看護ケアに当たり、複合型施設としての訪問看護の役割を担っています。また、介護職の1号喀痰吸引等研修の現地研修に取り組み、医療依存度の高い利用者や障害児者への受け入れが可能な新たな体制を整えています。

訪問看護とリハビリ職種が介護職種と協働し、地域の関係機関と連携に努めながら利用者やその家族を対象とした暮らし・生活を支える支援をしています。

2. スタッフ構成

管理者 1名（看護師業務兼務）	看護職 11名
理学療法士・作業療法士 3名	

3. 活動内容

(1) 医療的ケア児に向けた事業展開

訪問看護ステーションもみじでは、医療保険と介護保険は同等の割合で、看護とリハビリ職種ともに他のステーションよりも医療保険の割合が高いステーションといえます。以前より、厚木市内での医療的ケア児等の受け皿としての役割を担えるよう尽力してきました。

厚木市より学校等訪問看護支援事業を受託し、日常的に医療的ケアが必要な児童への学校への訪問看護を実施しています。さらに今年度は、厚木市障がい者基幹相談支援センターより相談事業を受託し、県央地区の医療的ケア児等の地域支援者育成活動や市内保育園の視察やアドバイザーとして介入していききました。また、介護職員等喀痰吸引等業務の指導看護師として、同一敷地内の介護職員、地域の介護職員への現地指導の依頼に対して対応し、地域

の支援者を支援していく活動もしながら、地域の困りごとにひとつひとつに対応できるよう努めています。

(2) 労働環境の改善の継続的な取り組み

複合型施設の訪問看護ステーションとして 24 時間体制やマザーホーム内事業所への看護師配置等複合型訪問看護ステーションの役割を担いつつ、地域活動も行っているため、看護師の負担や業務量の増加、煩雑化からの疲弊感は継続的な課題となっています。

標準業務のマニュアルの見直し、公休の取り方の工夫、夜間対応した場合の翌日の業務内容の軽減に努め、多職種で協働し、ICT 導入により業務の効率化を図っています。

(3) 教育システムを構築し、訪問看護の質の確保をする

訪問看護は、職員の今までのすべての経験が活かせる場所であり、ステップアップシートを活用することで職員一人一人の目標と課題を明確にしています。

昨年度同様、職員からの日々の疑問等に沿って希望を聴取しながら勉強会の開催をしています。

(4) 訪問看護実習・研修の受け入れ：湘南平塚看護専門学校、神奈川工科大学看護科

神奈川県看護協会訪問看護養成講習実習

小児訪問看護・重症心身障がい児者看護研修

・院外研修：医療的ケア教員講習会

・所外活動：厚愛訪問看護ステーション会/県央地区訪問看護ステーション会

厚愛地区小児等在宅医療連絡会/県央地区訪問リハビリテーション連絡会

訪問看護推進委員会

多職種連携研修企画委員会

一貫した療育プロジェクト会議

障害者自立支援会議

・地域支援者育成活動：医療的ケア児等県央ランチ相談業務

神奈川県医療的ケア児等の会議参加

海老名市 2 箇所の保育所視察とその後の継続的な介入

医療的ケア児等コーディネーター養成研修講師

初任者研修講師協力

介護職員等の喀痰吸引等のための看護師指導者伝達講習会講師

県央ランチ研修会保育所での医療的ケア児に対する支援の講師

支援学校向け小児看護ステップアップ研修講師

児童相談所向け「医療的ケア児への支援」講師

地域事業所への 3 号介護職等喀痰吸引等業務の実地指導

地域事業所への 1 号介護職等喀痰吸引等業務の実地指導

(文責 今堀 亜紀)

介護老人保健施設 なでしこの里 リハビリひらつか

1. 概 要

2023 年の幕開けは入所施設のコロナクラスターで始まり、感染対策に追われる日々でした。この状況を職員一丸となり乗り切りました。入所については年度目標で「在宅強化型」を掲げました。在宅復帰調整、そのための多職種による自宅訪問等が実り、6 月に強化型を取得することができました。在宅復帰者が増えたことと、入所者の病状不安定による入院が重なり、ベッド稼働が落ちましたが、入所単価を上げることができました。今後は強化型を維持しつつベッド稼働を上げることが当面の課題となります。

通所リハビリテーションは、前年度よりも利用延べ回数を増やすことができました。平塚市という未開の地で、地域のケアマネジャーから認知され、紹介につながるまで時間がかかることを痛感いたしました。訪問リハビリテーションも地域のニーズに応え、徐々に利用者を増やしています。次年度はリハビリスタッフを増員し、更に地域ニーズに貢献して行く計画です。居宅介護支援は 2 名体制となり、1 年かけ順調に利用者を増やし、本体老健の在宅復帰者を受け入れるなど役割を果たしています。

地域活動についてはみずほ会への出張講座を 3 回、地元自治会との共同防災訓練に参加、平塚市からの委託事業である家族介護者教室の開催等地域事業の展開を図りました。次年度も新たな地域事業を計画し、地域の皆様に信頼される施設になるべく邁進してまいります。

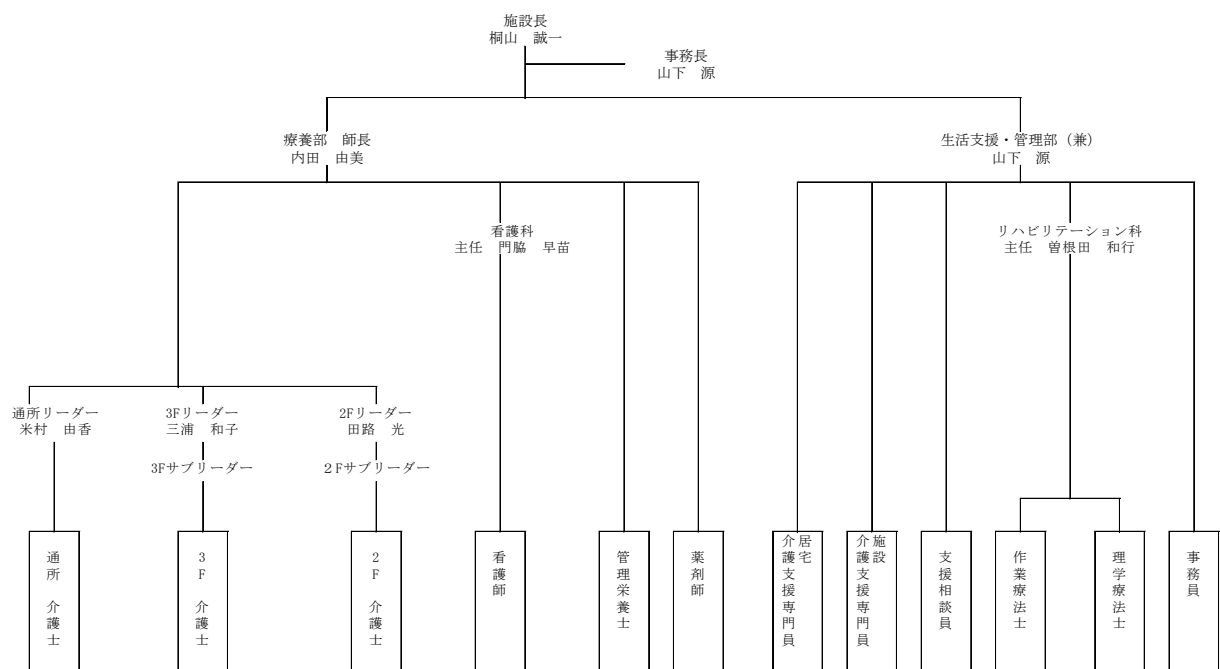
(文責 山下 源)

2. スタッフ構成

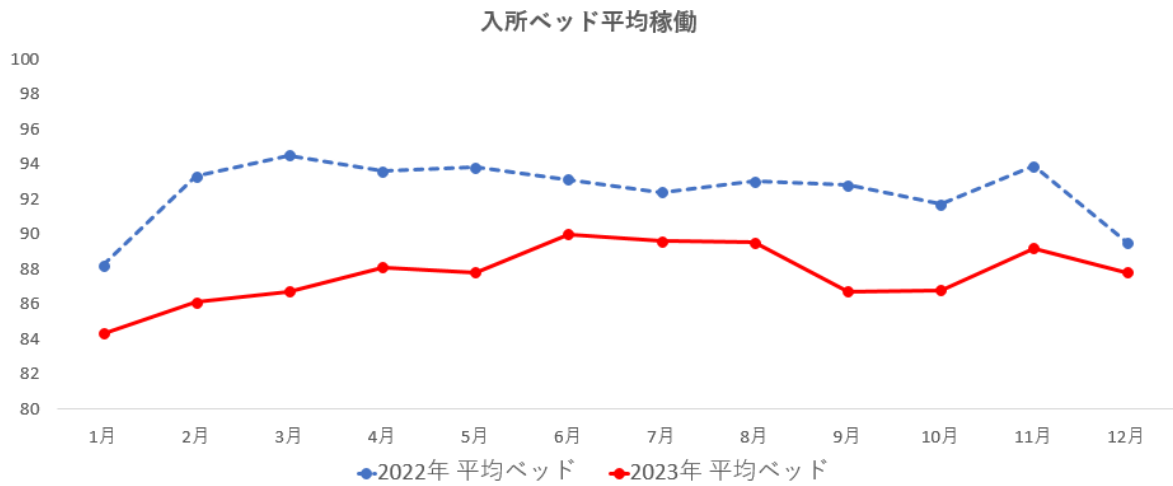
施設長	桐山 誠一
事務長	山下 源
看護師長	内田 由美

医師	1 名
看護師	16 名 (内パート 5 名)
管理栄養士	1 名
入所介護職	36 名 (一般等 18 名 認知症専門棟 18 名) (パート 3 名)
通所介護職	8 名 (内パート 2 名)
リハビリ職	10 名 (理学療法士 6 名 作業療法士 4 名)
支援相談員	1 名
施設ケアマネジャー	2 名
事務員	4 名
運転手	4 名 (パート)

3. 組織図

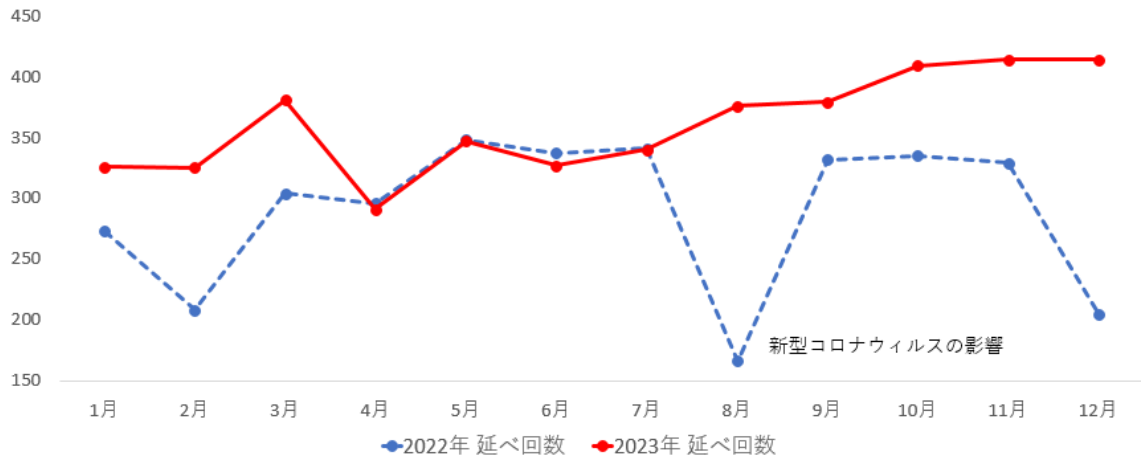


4. 事業別実績データ



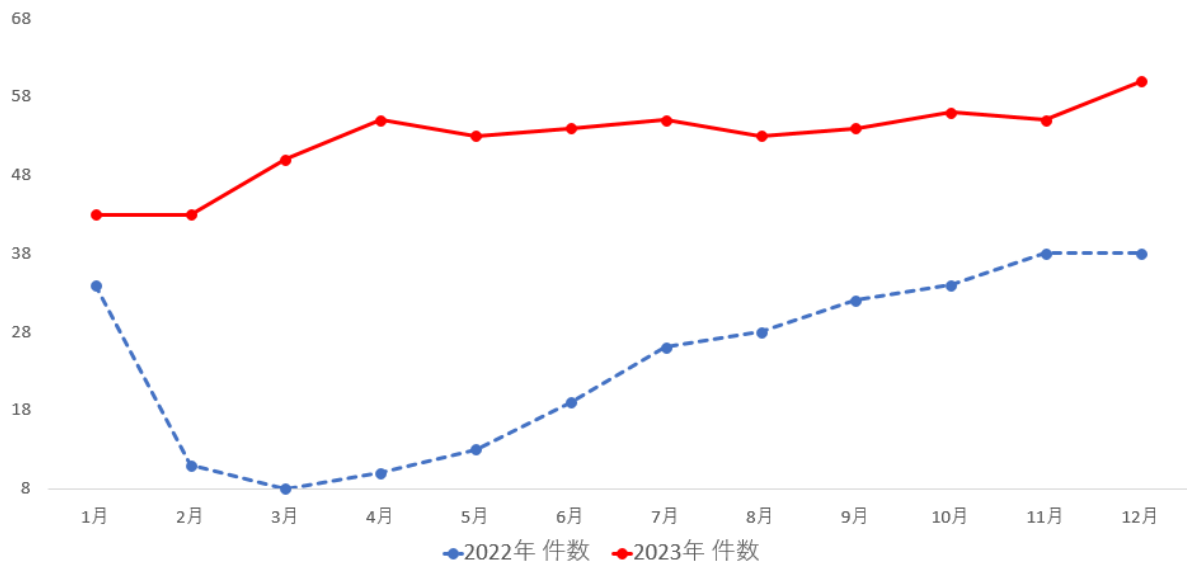
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	平均ベッド	88.2	93.3	94.5	93.6	93.8	93.1	92.4	93.0	92.8	91.7	93.9	89.5
2023年	平均ベッド	84.3	86.1	86.7	88.1	87.8	90.0	89.6	89.5	86.7	86.8	89.2	87.8

通所延べ回数



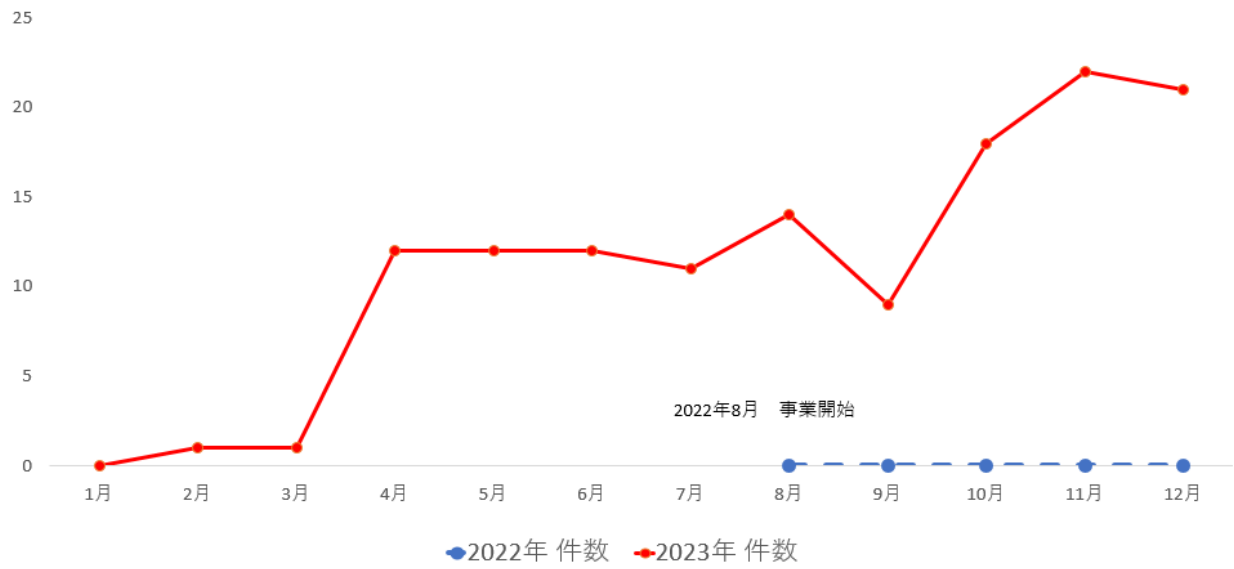
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	延べ回数	273	208	304	296	348	337	341	166	332	335	329	204
2023年	延べ回数	326	325	381	291	347	327	340	376	379	409	414	414

居宅件数



		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	件数	34	11	8	10	13	19	26	28	32	34	38	38
2023年	件数	43	43	50	55	53	54	55	53	54	56	55	60

訪問リハビリテーション 利用者件数



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年 件数								0	0	0	0	0
2023年 件数	0	1	1	12	12	12	11	14	9	18	22	21

東名厚木メディカルサテライトクリニック 総合健診センター

1. 概 要

東名厚木メディカルサテライトクリニックは、2022 年 6 月に開設 30 周年を迎えました。開設当時、健診に注力する病院は少なく、予防医療の重要性を先読みしての開設でした。現在は人間ドック、企業健診、住民健診、各種がん検診、出張健診など厚木市をはじめ様々な市町村在住の受診者約 70,000 人に達し、これも 30 年という歴史の積み重ね故だと思います。

1992 年に開設当初、現所在地に東名厚木メディカルサテライト総合健診センター・透析センターとしてスタート。2001 年に 3 号館 1 階へ移転、2008 年に開設当初の建物を増築して移転、現在に至っています。2005 年には日本人間ドック学会の機能評価認定施設となりました。これは、人間ドックを実施する施設の中で、運営のための基本的体制・受診者の満足と安心・健診の質の確保・運営の合理性に関して、およそ 100 を超える項目について、複数のサーベヤー（評価基準に基づいて適切に評価できるよう養成された専門審査員）による、訪問審査を受審し、その項目一つ一つの基準を満たした評価点に達していることで、認定が認められるもので、全国に数多くある健診施設の中で、日本国内で 435 施設、神奈川県内では 24 施設だけが認定を現在受けております。認定施設として恥じぬよう、多様化したニーズに応えるべくサービス提供をできるようスタッフ一同努力しております。

新型コロナウイルス感染症の収束は、もう少し先ではありますが、保健事業（健診）は不要不急ではありません。ひとりでも多くの受診者様の健康管理の責務を担い、精確な健診業務を、『お客様目線』に立ったサービス提供を使命に、引き続き TAMS 職員一同取り組んで参ります。

2. スタッフ構成

院長 田中 浩史

職員	医 師	68 名	（常勤 3 名、非常勤 65 名）
	看護師	15 名	（常勤 10 名、非常勤 5 名）
	保健師	3 名	（常勤 1 名、非常勤 2 名）
	放射線技師	8 名	（常勤 4 名、非常勤 4 名）
	臨床検査技師	10 名	（常勤 7 名、非常勤 3 名）
	事務（クランク含む）	49 名	（常勤 21 名、非常勤 27 名）

（文責 菊池 賢介）

1. 2023 年月別受診者実績表

	人間ドック	院内健診	出張健診	合計
1 月	901	2, 208	299	3, 408
2 月	911	2, 381	1, 141	4, 433
3 月	697	2, 088	1, 091	3, 876
4 月	954	2, 274	5, 514	8, 742
5 月	1, 105	2, 038	2, 309	5, 452
6 月	1, 122	2, 883	1, 434	5, 439
7 月	1, 109	2, 736	2, 009	5, 854
8 月	1, 206	2, 083	3, 229	6, 518
9 月	1, 147	2, 510	1, 061	4, 718
10 月	1, 209	3, 822	2, 721	7, 752
11 月	1, 173	3, 277	4, 819	9, 269
12 月	1, 164	2, 654	1, 484	5, 302
合計	12, 698	30, 954	27, 111	70, 763

2. 年間総受診者数

10 年間の推移

	2013 平成25年	2014 平成26年	2015 平成27年	2016 平成28年	2017 平成29年	2018 平成30年	2019 令和元年	2020 令和2年	2021 令和3年	2022 令和4年	2023 令和5年
人間ドック	11, 504	10, 523	11, 215	11, 133	12, 131	12, 228	12, 641	10, 115	13, 049	12, 423	12, 698
院内健診	25, 247	21, 744	22, 869	21, 715	26, 309	31, 291	30, 547	25, 416	31, 111	29, 853	30, 954
出張健診	14, 336	14, 840	15, 869	14, 959	14, 231	23, 689	24, 676	22, 349	24, 774	27, 179	27, 111
合計	51, 087	47, 107	49, 953	47, 807	52, 671	67, 208	67, 864	57, 880	68, 934	69, 455	70, 763

3. 人間ドック男女別受診者数

10年間の推移

	2013 平成25年	2014 平成26年	2015 平成27年	2016 平成28年	2017 平成29年	2018 平成30年	2019 令和元年	2020 令和2年	2021 令和3年	2022 令和4年	2023 令和5年
男性	7,577	6,886	7,095	7,039	7,176	7,321	7,317	6,521	8,300	7,951	8,015
女性	3,927	3,637	3,911	4,094	4,071	4,120	4,255	3,594	4,750	4,484	4,683
合計	11,504	10,523	11,006	11,133	11,247	11,441	11,572	10,115	13,050	12,435	12,698

4. 厚木市住民がん検診受診者数

7年間の推移

	2017 平成29年	2018 平成30年	2019 令和元年	2020 令和2年	2021 令和3年	2022 令和4年	2023 令和5年
肺がん	1,696	1,720	1,710	1,561	1,606	1,448	1,445
大腸がん	1,516	1,542	1,488	1,433	1,432	1,293	1,316
前立腺がん	898	941	969	844	1,128	872	900
胃がん	301	277	230	198	262	202	221
乳がん	318	342	417	300	395	323	399
合計	4,729	4,822	4,814	4,336	4,823	4,138	4,281

新横浜メディカルサテライト

1. 概要

2015年12月11日東名厚木に続き新横浜駅前に健診センターを開院し8年が経過しました。契約健康保険組合や事業所の増加に伴い受診者も増えてきました。横浜市がん検診、近隣事業所など地域の皆様に安心と快適な健診をご提供して参りたいと考えております。

新横浜について

新横浜駅は1964年東海道新幹線開業に伴いJR横浜線との交点に開業された駅です。

「港町・横浜市の新幹線における玄関口となる駅」というのが一番有名かもしれません。その後1985年横浜市営地下鉄（ブルーライン）の開業、2008年に地上19階・地下4階の駅ビル（キュービックプラザ新横浜）が完成し発展してきました。2019年には横浜国際総合競技場（日産スタジアム）でラグビーワールドカップ決勝戦が開催、その他エンターテインメントイベントなどで賑わう場となっております。また横浜アリーナでは、二十歳の集い（約2万人参加）が行われました。国内最大級の集いとあり、三回に分けて行われました。スーツ姿、振袖姿の新成人たちの晴れ晴れした姿が印象に残りました。その他ラーメン博物館はすでに広く知れ渡るところです。

近年では2019年にJR線と相鉄線の相互乗入れが開始。新設の羽沢横浜国大駅では、上りは新宿方面へと繋がりました。2023年3月には相鉄東急新横浜線、相鉄・東急相互乗入れが開始され、神奈川県央部および横浜市西部と東京都心部が直結、新幹線へのアクセスが向上し、新横浜の益々な発展に期待が膨らみます。

又、前述の通り受診者増加に伴い受診者の受入れが困難になった為、2024年5月に同ビル3階フロアにて業務を拡大致します。

2. スタッフ構成

院長 蔵本 博行

医師 常勤1名 非常勤15名

職員 看護師10名（常勤5名、非常勤5名） 保健師1名（常勤1名）

放射線技師8名（常勤1名、非常勤7名） 臨床検査技師8名（常勤3名、非常勤5名）

事務31名（常勤8名、非常勤23名）

主な設備検査機器

胃部X線装置	2台	上部内視鏡	1台
胸部X線装置	1台	超音波（腹・乳）	3台
骨塩定量検査	1台	超音波（経膈）	1台
ヘリカルCT	1台	マンモグラフィ	1台

（文責 酒井 法史）

Yangon Japan Medical Centre

1. 概要

2019年2月1日、三思会初の海外拠点としてミャンマー連邦共和国ヤンゴン市に開院したヤンゴン・ジャパン・メディカルセンターは5周年を迎えました。当法人の健診事業としては、東名厚木メディカルサテライトクリニック、新横浜メディカルサテライトに続き、三番目の健診センターとなります。

日本式の外来診療と健診サービスをミャンマーにお住いの全ての方へ提供すべく、一般外来、健康診断、予防接種、内視鏡等のサービスを提供し利用者数も着実に伸びて来た中、新型コロナウイルス感染症が流行。ミャンマーの政情不安も続き在留邦人数が大幅に減少し、2021年5月より一年間ほど休診を余儀なくされました。

ミャンマーの医療環境が脆弱さを増す中、三思会の医師も参画して2021年秋に実施された日本からのオンライン医療相談を通じて、在留邦人からクリニック再開を希望する声が聞かれ、2022年8月より正式に再開いたしました。現在は、受付から会計まで日本語・英語・ミャンマー語の三か国語で受診できる保険キャッシュレスの外来診療サービスに加え、新たにオンライン医療相談も開始しています。

日本で活躍する技能実習生の派遣前健診の受診先としても、日本語学校や送り出し機関から集団健診の依頼が増えています。また院内に薬局と検査室が併設されていることにより迅速な結果フォローや、健診後の薬の処方、治療も行うことで、ミャンマーの若い世代のプライマリケアに貢献しています。

今後は、日本入国前の結核スクリーニング指定機関として水際対策の一助となれるよう努めてまいります。三思会の地域医療を展開する海外拠点として、更なるサービスの拡充を図ってまいります。

● ミャンマーについて

東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国。人口は5,142万人（2014年）。国土面積は日本のおよそ1.8倍で熱帯気候の国。ミャンマーには135以上の民族が暮らしており、公用語はミャンマー語（ビルマ語）。1989年に国名をビルマからミャンマーへと変更。2006年に首都をヤンゴンからネピドーに遷都しました。文法が似ていることもあり現在、世界で最も日本語が学ばれている国です。

2. スタッフ構成

（院長 中川 望）

職員 医師	5名（ミャンマー人 常勤1名、非常勤4名）
看護師	3名（ミャンマー人 非常勤3名）
ヘルスケア・アテンダント	2名（ミャンマー人 常勤2名）
薬剤師	3名（ミャンマー人 常勤1名、非常勤2名）
放射線技師	2名（ミャンマー人 常勤2名）
臨床検査技師	2名（ミャンマー人 常勤2名）
事務	5名（日本人1名、ミャンマー人常勤4名）

3. 主な設備検査機器

一般撮影 X 線装置	1 台	上部下部内視鏡装置	1 台
胸部 X 線装置	1 台	超音波（腹部・乳線）装置	1 台

2023 年月別受診者実績表

	外来	健診	日本人	ミャンマー人	第三国	合計（人）
1 月	85	443	33	494	1	528
2 月	81	463	30	482	32	544
3 月	96	457	36	511	6	553
4 月	52	435	22	465	0	487
5 月	113	514	63	563	1	627
6 月	90	527	50	563	4	617
7 月	95	647	39	703	0	742
8 月	103	603	50	654	2	706
9 月	158	678	21	812	3	836
10 月	148	730	57	815	6	878
11 月	134	739	56	816	1	873
12 月	169	822	3	988	0	991
合計	1,324	7,058	460	7,866	56	8,382
割合	16%	84%	5%	94%	0.7%	100%

（文責 廣瀬 さやか）

透析センター

1. 概 要

主要設備

透析装置・ベッド 57 台（外来 52 床、入院 5 床）

超音波診断装置

透析情報管理システム 等

2. スタッフ構成

センター長 大山 聡子（入院担当）、外来透析室長 平出 聡

医師 非常勤医師 3 名

職員 看護師 （常勤 15 名、非常勤 2 名）

ケアワーカー （常勤 5 名）

臨床工学士 （常勤 10 名）

事務 （常勤 3 名、非常勤 1 名）

管理栄養士 （兼務 1 名）

3. 活動内容

2023年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平 均
外来透析回数	1,732	1,397	1,629	1,596	1,679	1,633	1,766	1,890	1,852	1,681	1,765	1,781	20,401	1,700
入院透析回数	147	162	186	168	157	155	165	166	162	161	104	100	1,833	153
合 計	1,879	1,559	1,815	1,764	1,836	1,788	1,931	2,056	2,014	1,842	1,869	1,881	22,234	1,853

保存期～導入～維持まで、患者さんのライフスタイルに合わせた腎代替療法ができるようにスタッフ一同連携を図りながら透析業務を行い、地域における透析医療に貢献できるよう日々奮闘しています。

（文責 鈴木 禎見）

愛川クリニック

1. 概 要

主要設備

透析装置・ベッド 39 台

エックス線撮影室

超音波診断装置（心臓・胸腹部・頸部・シャント）ABI

電子カルテシステム

透析情報管理システム 等

2. スタッフ構成

院長 村本 将俊（人工透析科）、常勤 1 名（小児科）、非常勤 13 名

職員 看護師（常勤 12 名）

ケアワーカー（常勤 5 名）

臨床工学士（常勤 5 名）

事務（常勤 4 名）

ソーシャルワーカー（兼務 1 名）

管理栄養士（兼務 1 名）

3. 活動内容

愛川町には透析施設が無かったことから、2013 年 1 月 7 日に開院し 11 年が経ちました。地域医療に貢献し、信頼される医療機関を目指し人工透析と小児科を実施しています。透析患者も年々増加し今年度は 102 名の患者さんが外来透析を実施しています。また、小児科は愛川町には少なく、年々受診される患者数が増えています。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で 3 分の 2 まで患者数が激減しましたが、5 類に分類されてからは患者数も徐々に戻ってきています。乳児検診や予防接種も積極的に受け入れており、透析と共に今後も愛川町を中心に地域医療に努めてまいります。

（文責 松本 由美）

とうめい綾瀬腎クリニック

1. 概 要

主要設備

透析装置・ベッド 35 台

エックス線撮影室

超音波診断装置（心臓・腹部）

電子カルテシステム（23 年 3 月更新）

透析情報管理システム

患者送迎車 4 台 等

2. スタッフ構成

院長 田村 博之

医師 非常勤 1 名

職員 看護師 （常勤 8 名、非常勤 1 名）

助手 （常勤 5 名）

臨床工学士 （常勤 6 名、非常勤 1 名）

事務 （常勤 4 名、嘱託 1 名）

管理栄養士 （常勤 1 名・三施設兼務）

ドライバー （非常勤 3 名）

3. 活動内容

綾瀬市や透析患者会の強い要望があり、2017 年 3 月 1 日に綾瀬市に初の人工透析施設としてスタートしました。当初は 1 部のみで行っていましたが、2022 年 1 月より全ての曜日で 2 部透析を開始しました。その後、綾瀬市をはじめ藤沢市、海老名市、座間市大和市などから順調に患者さんは増え、現在では約 90 名の透析患者が当院を利用しています。また、近隣のお住まいの外来患者も増えてきている状況です。

今後も綾瀬市を中心に地域医療に努めてまいります。

（文責 末永 孝司）

とうめい厚木クリニック

1. 概 要

2023 年はコロナ禍の 4 年目となり、また夏から収束を迎えないインフルエンザの早期流行などもあり、1 年中発熱外来対応にも追われる 1 年となりました。地域医療を担う責任医療機関として一般診療も同時に行う多忙な 1 年ではありました。コロナウィルスの正体、性質もかなり明白になってきており、2023 年 5 月から 5 類に移行され、対策薬も少しずつ登場してきましたので、発熱外来の在り方を再構築しました。ただ年末から、再度第 10 波と言えるような罹患患者の増加、重症患者の増加を認め、今後も油断はできないと考えております。

患者数は増加の一途で、地域から信頼される高度医療クリニックならびにかかりつけクリニックとして認知されてきています。法人の入口部門として東名厚木病院へ入院数も着実に増加しており、今年は 4 月以降も目標の月間 260 名を大きく上回る患者数を確保できました。病院の入院経路としてはクリニック経由が 50%を上回り、まずは最低限の目標は達成できたと思っています。

がん検診は、2022 年から肺がん検診を採用し、伊勢原市の乳がん、子宮がん検診の受け入れも行い、すべてのがん検診が可能となりました。今年も胃がんを除き、過去最高数の受検数を確保できました。今後は当院で一括して受診できる体制があることを多くの患者さんに案内周知するとともに、かかりつけ患者さんには、特定検診をどう誘導していくかが課題と考えています。

2023 年は DX 化を進めた年でもありました。WEB 予約を一般化し、予防接種や検診などは WEB からの予約数が大幅に増加しました。今後は、オンライン資格確認やマイナ保険証、さらにはオンライン処方箋なども国の施策として急速に進めて来ており、当院としても迅速に対応していく必要があります。

また医療の高度化、高い医療水準に沿った標準治療を行うことも必須のことであり、各診療科の専門性と質向上に努め、各種検査機化の更新、新規導入なども行っていました。今後も、幅広い専門診療科とかかりつけ医機能を備えた地域密着型クリニックを目指し、精進していきたいと思っています。

(文責 河野 昌史)

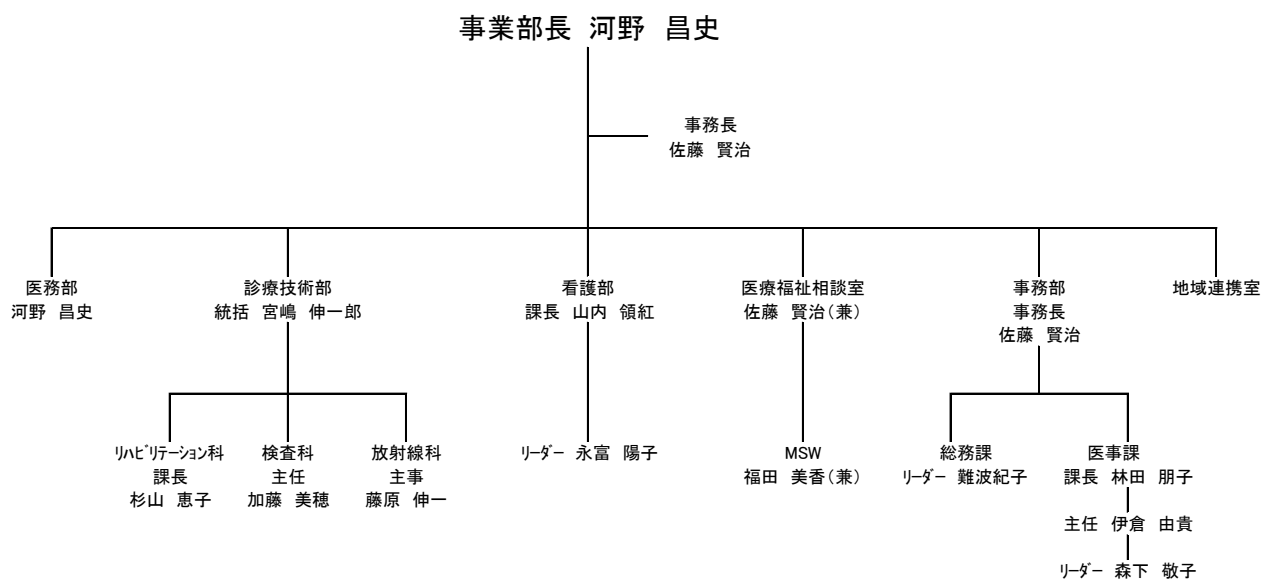
2. スタッフ構成

院長	河野 昌史	
事務長	佐藤 賢治	
看護部課長	山内 領紅	
リハビリテーション科課長	杉山 恵子	
医事課課長	林田 朋子	
医師	常勤 4 名（嘱託医含む）	非常勤医師 71 名

保健師	常勤	1名		
看護師	常勤	14名	非常勤	13名
准看護師	常勤	3名	非常勤	2名
看護助手	常勤	2名		
放射線技師	常勤	1名		
臨床検査技師	常勤	7名	非常勤	6名
理学療法士	常勤	2名		
作業療法士	常勤	1名		
リハビリ科助手	常勤	2名	非常勤	1名
ソーシャルワーカー	常勤	1名		
医事課	常勤	23名	非常勤	24名（委託含む）
総務課	常勤	6名		
送迎バス運転士	非常勤	12名（委託含む）		

3. 組織図

2023年度 とうめい厚木クリニック組織図



4. 業務実績

検査科 活動実績（採血件数、生理検査件数）

採血件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	3,723	3,472	3,826	3,612	3,425	3,862	3,626	3,528	3,688	3,687	3,478	3,662
2023年	3,703	3,363	3,882	3,657	3,715	3,882	3,790	3,613	3,940	3,942	3,628	3,908

生理検査件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	1,388	1,422	1,650	1,474	1,472	1,669	1,446	1,421	1,600	1,538	1,486	1,558
2023年	1,559	1,496	1,696	1,469	1,583	1,691	1,545	1,567	1,673	1,827	1,634	1,649

リハビリテーション科 疾患別リハビリ・物理療法及び消炎鎮痛件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
疾患別	2022年	714	764	961	951	885	993	872	839	841	845	832	753
	2023年	703	691	810	682	716	744	730	749	628	672	633	643
消炎鎮痛	2022年	416	408	425	418	396	411	312	273	324	376	373	337
	2023年	291	275	395	401	390	434	394	374	314	326	356	347

医療福祉相談室 相談内容・件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	集計
件数	新規	25	36	37	23	30	34	19	20	29	33	33	37	356
	総件数	101	99	127	99	119	108	78	109	86	99	95	101	1,221
診療科目別件数	総合診療科・内科	3	13	26	19	14	11	5	7	4	10	4	8	124
	消化器科	10	8	9	14	14	17	4	6	1	9	11	4	107
	呼吸器科	5	5	3	6	9	7	10	6	6	4	10	2	73
	糖尿病・内分泌科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎・糖尿病科	11	16	15	11	16	12	5	10	7	8	8	8	127
	循環器科	7	1	8	7	8	4	8	13	4	3	2	13	78
	神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器科	0	3	8	5	5	7	1	3	1	4	2	9	48
	心身内科	0	1	0	1	1	1	1	3	0	2	1	0	11
	婦人科	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	整形外科	14	10	24	13	19	14	13	11	6	8	6	9	147
	外科	2	1	2	3	6	8	2	2	5	6	2	1	40
	乳腺外科	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	1	0	6
	脳神経外科	10	6	8	10	12	8	10	14	7	13	4	3	105
	血管外科	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	0	1	9
	形成外科	6	3	5	4	2	4	7	7	1	1	3	0	43
	眼科	5	3	1	0	4	1	0	0	0	0	0	3	17
	皮膚科	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	5
	耳鼻咽喉科	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	5
	救急科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	緩和ケア内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	紹介外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	訪問診療	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
	その他	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
業務集計分類	心理・社会的問題	52	55	54	49	72	67	49	56	25	42	38	41	600
	受診・受療	61	44	87	68	66	66	51	74	38	60	43	52	710
	経済的問題	5	5	4	12	16	12	7	0	2	1	4	3	71
	家族への支援	2	4	5	5	4	2	1	0	1	0	4	4	32
	社会復帰支援	0	0	0	2	4	3	3	1	0	1	0	0	14

放射線科

活動実績（各種撮影件数）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般撮影	1,774	1,683	1,935	1,757	1,911	1,886	1,814	1,850	1,845	1,909	1,665	1,733	21,762	1,814
TV室（骨塩含）	81	80	96	91	90	119	89	86	100	101	78	89	1,100	92
マンモ	172	172	106	74	69	109	154	152	162	190	174	162	1,696	141
MRI	183	179	232	223	217	245	225	218	219	208	206	222	2,577	215
CT	632	633	754	699	704	720	751	709	666	727	660	670	8,325	694
心臓CT（内訳）	17	20	26	30	33	29	26	26	19	33	21	22	302	25
総件数	2,842	2,747	3,123	2,844	2,991	3,079	3,033	3,015	2,992	3,135	2,783	2,876	35,460	2,955
総患者数	2,592	1,910	2,841	2,585	2,687	2,820	2,802	2,718	2,731	2,893	2,567	2,662	31,808	2,651

5. 委員会

委員会	医療安全リスクマネジメント委員会	院内感染対策委員会	衛生委員会	編集委員会
目的	・現場から提出されるインシデントレポートについて検討を行う ・インシデントに対してとられた対策を有する ・患者のクレーム、意見についての対応	・感染防止対策の実 ・感染症の発生状況、抗菌薬の使用状況等についての報告を行う	・職員の安全衛生について法令順守なされているかの視点で話し合いを行う ・現場の巡視点検を行う	・毎月のとうめいニュースの発行に関することを企画し完成させる ・とうめいニュース送達業 ・病院とうめい号の年1回の記事担当
◎委員長 △招集係 構成員	◎ 河野 昌史 院長 山内 領紅 看護部 小林 美紀 看護部 杉野森 奈未 検査科 香川 菜央子 医事課 四宮 明宏 リハビリテーション科	◎ 河野 昌史 医務部 菊池 良太 リハビリテーション科 廣田 菜穂子 看護部 △ 伊倉 由貴 医事課 山中 雄太 検査科	◎ 河野 昌史 院長 佐藤 賢治 事務長 杉山 恵子 リハビリテーション科 加藤 美穂 検査科 土田 佳子 看護部 林田 朋子 医事課 △ 倉島 秀太 総務課 （日野 浩（産業）	◎ 杉山 恵子 リハビリテーション科 有崎 美由紀 検査科 谷口 奈津 看護部 工藤 史夏 医事課 斎藤 みどり 総務課
定期開催	1回／月（第2水 16:00～）	1回／月（第1月もしくは第2月 13:15～）	1回／月（第3木 16:30～）	1回／月（最終金 15:30～）
委員会	精度管理委員会	防災委員会		
目的	・臨床検査実施に伴う精度管理及び症例検討、業務を円滑に実施する為の具体案の検討、立案、協議決定を行うこと	・年2回の避難訓練・防災訓練を実施する ・災害対策、防災対策		
◎委員長 △招集係 構成員	◎ 加藤 美穂 検査科 佐口 武史 医務部 長坂 愛子 看護部 △ 山下 未菜美 医事課	◎ 河野 昌史 院長 佐藤 賢治 事務長 四宮 明宏 リハビリテーション科 後藤 陽子 看護部 高橋 純子 検査科 安藤 真依子 医事課 宇田川 尚美 医事課 △ 倉島 秀太 総務課		
定期開催	年3回（6/21、10/26、2024/2月予定）	1回／月（第4木 16:00～）		

6. 協力大学医局（50 音順）

- ・ 北里大学眼科
- ・ 北里大学産婦人科
- ・ 北里大学精神科
- ・ 北里大学脳神経内科
- ・ 北里大学泌尿器科
- ・ 北里大学皮膚科
- ・ 杏林大学形成外科
- ・ 聖マリアンナ医科大学病院呼吸器科
- ・ 聖マリアンナ医科大学病院代謝・内分泌科
- ・ 聖マリアンナ医科大学病院乳腺外科
- ・ 聖マリアンナ医科大学病院脳神経内科
- ・ 東海大学呼吸器内科
- ・ 東海大学産婦人科
- ・ 東海大学耳鼻咽喉科
- ・ 東海大学循環器内科
- ・ 東海大学消化器内科
- ・ 東海大学乳腺外科
- ・ 東京医科大学呼吸器内科
- ・ 東京女子医科大学整形外科
- ・ 富山大学第 1 外科
- ・ 富山大学第 2 外科
- ・ 富山大学脳神経外科

（文責 倉島 秀太）

とうめい宮の里クリニック

1. 概 要

とうめい宮の里クリニックは、2022 年 11 月 1 日に厚木市宮の里に開院致しました。

2020 年 3 月まで同所にあった旧クリニックが閉院したことから、地域住民よりクリニック再開の強いご要望を受け、三思会が厚木市の生活利便施設立地促進補助金第一号としてこの地に開院することになりました。

東名厚木病院、とうめい厚木クリニックと情報を共有し、連携することで地域の皆様へ質の高い医療を提供しています。また、福祉施設や他医療機関等と連携することで、幅広いサポートができるよう取り組んでいます。

当院では、放射線装置を設置しており一般撮影の検査ができます。200 種程度の薬は院内処方し、それ以外は院外処方を行います。検体検査は東名厚木病院にて検査を行い翌日以降に検査結果の説明を行います。

●宮の里地区について

所在地：厚木市宮の里 1-2-9

厚木市の北西部に位置し、東側の荻野運動公園・厚木国際 CC と西側の飯山白山森林公園の間に挟まれた地区です。公共のバスでは本厚木駅より乗車時間 30 分強の場所です。宮の里は人口 2,126 人 862 世帯（2021 年 3 月時点）が暮らす地域です。

2. スタッフ構成

院長 中野 敦史

医師 5 名（非常勤医師含む）

看護師 3 名（非常勤看護師含む）

事務 3 名（常勤）

3. 活動内容

一般撮影 X 線装置 1 台

超音波（腹部・乳線）装置 1 台

眼底写真撮影装置 1 台

心電計 1 台

視力検査機器 1 台

聴力検査機器 1 台

眼底写真撮影装置 1 台

（文責 榎内 直美）

編集後記

3月WBC、日本が14年ぶり優勝しました。5月新型コロナウイルス感染症が「5類」に引き下げられました。8月夏の甲子園で神奈川代表慶応高校が107年ぶりに優勝しました。また同月福島第一原子力発電所の処理水の海洋放出を開始しました。10月米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手が44本塁打で日本人初の本塁打王に輝きました。また同月将棋の王座戦五番勝負で藤井聡太竜王がタイトルを奪取し、史上初の八冠独占を成し遂げました。11月プロ野球日本シリーズで阪神タイガースがオリックス・バファローズを破って38年ぶり2度目の日本一に輝きました。

三思会の皆様、この1年お疲れ様でした。年報のタイトルは「東名厚木病院」ですが、「三思会」としての年報を意識しています。各施設各部署よりこの1年の活動報告がされています。これを一つの区切りとしてさらなる成長、発展を祈願します。

編集委員

委員長	鬼塚 圭一郎	(医務部)
委員	橋本 健太郎	(リハビリテーション科)
	柏崎 康宏	(総務課)
	中尾 美幸	(看護部)
	阿部 京子	(診療情報管理室)
	高橋 咲妃	(地域連携室)
	武尾 竜平	(管理部)
	柳瀬 光弥	(管理部)

東名厚木病院 年報 第29号 (2023)

2024年6月1日 発行

